給與品

品目	箇數	保存期限	給與期日
夏服	二著	二年	四月一日
略帽	一箇	二年	
日覆	二枚	一年	
冬服	一著	二年	十一月一日
帽	一箇	二年	
外套	一著	二年	
雨覆	一枚	二年	

貸與品

品目	箇數	保存期限
スナイドル銃劍	一箇	無期限
同附屬品	一箇	
帽章	一箇	

●税關監吏被服屬具支給規則

明治四十一年三月
臺灣總督府訓令第四十三號

税關

税關監吏被服屬具支給規則左ノ通相定ム

税關監吏被服屬具支給規則

第一條 税關監吏ニハ此ノ規則ニ依リ被服及屬具ヲ支給ス

第二條 支給品ヲ分テ給與品及貸與品ノ二種トス

第三條 支給品ノ品目、箇數、保存期限支給期日左ノ如シ

給與品

品目	箇數	保存期限	支給期日
夏服	一組	一箇年	四月一日
帽	一箇	二箇年	四月一日
多服	一組	二箇年	十一月一日
外套	一組	二箇年	十一月一日
雨覆	一組	二箇年	十一月一日

貸與品

品目	箇數
劍	一箇
同附屬品	一組
肩章	一組

第四條 新任者及貸與品又ハ保存期限内ノ給與品ヲ毀損紛失シタル者ニハ前條ノ期日ニ拘ラス支給スヘシ

第五條 貸與品又ハ保存期限内ノ給與品ヲ過失怠慢ニ因リ毀損紛失シタル者アルトキハ辨償ノ責ニ任セシムヘシ

第六條 轉免、休職若ハ死亡ノ際ハ貸與品及保存期限内ノ給與品ハ速ニ之ヲ還納セシムヘシ

第七條 給與品ノ修補ハ自辨トス

第八條 税關監吏補ニ被服屬具品ヲ支給スルノ要アルトキハ豫算定額内ニ於テ此ノ規則ニ準シ支給スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年十月訓令第百三十號臺灣總督府税關監吏補被服屬具支給規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行前ニ於ケル支給品ニシテ本令施行以後繼續シテ支給スルモノニ關シテハ本令ヲ適用ス

●臺灣總督府米穀檢査員被服貸與規則

昭和二年七月十五日
臺灣總督府訓令第三十九號

臺灣總督府

臺灣總督府米穀檢査員被服貸與規則左ノ通相定ム

臺灣總督府米穀檢査員被服貸與規則

第一條 米穀檢査員ニハ本令ニ依リ被服ヲ貸與ス

第二條 貸與品ノ品目、箇數、供用期限及貸與期日左ノ如シ

品目	箇數	供用期限	貸與期日
夏服	二組	二年	四月一日
冬服	一組	二年	十一月一日
帽	一箇	三年	四月一日

新任者又ハ貸與品ヲ毀損亡失シタル者ニ對シテハ其ノ都度之ヲ貸與ス

前項ノ場合ニ於テハ第四條ノ返納品ヲ貸與スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ適宜供用期限ヲ定メ期限滿了シタルトキハ其ノ都度之ヲ貸與ス

第三條 過失又ハ怠慢ニ因リ貸與品ヲ毀損又ハ亡失シタル者ハ其ノ價額ヲ賠償スヘシ

第四條 貸與品ハ退職、休職、轉職及供用期限滿了ノ場合ハ本人ヨリ、死亡ノ場合ハ相續人又ハ之ニ準スヘキ者ヨリ返納スヘシ

第五條 貸與品ノ保存及手入ハ本人ノ自辨トス

第六條 貸與品ノ出納及檢査ニ付テハ臺灣總督府物品出納規程ヲ準用ス

附則

本令ハ昭和二年八月二十日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府船員其ノ他被服貸與及給與規則

明治四十三年二月
臺灣總督府訓令第十一號

臺灣總督府 法院 檢察局 州 廳
臺灣總督府所屬官廳

改正 大正一一年訓令第四八號

臺灣總督府船員其ノ他被服貸與及給與規則左ノ通相定ム

臺灣總督府船員其ノ他被服貸與及給與規則

第一條 臺灣總督府船舶乘組員、守衞、給仕、小使、諸職工（女工ヲ除ク）常傭夫ニシテ被服ノ貸與及給與ヲ要スルモノハ本令ニ依ルヘシ

第二條 貸與及給與スヘキ被服ノ名稱、員數、使用期限、貸給與ノ月日、地質及製式左ノ如シ

職名	貸與品						給與品			
	名稱	員數	使用期限	貸給與月日	地質	製式	名稱	員數	使用期限	給貸與月日
船長 機關士 運轉士	帽	一箇	一箇年	四月一日	紺羅紗	海軍形				
	帽日覆	一枚	一箇年	四月一日	白金巾	｜				
	夏服	二組	一箇年	四月一日	紺ヘル	詰襟背廣形				
	冬服	一組	二箇年	十一月一日	紺羅紗又ハ紺ヘル	同				
	外套雨覆附	一枚	二箇年	四月一日	紺羅紗	製造適宜				
水夫長 火夫長	帽	一箇	一箇年	四月一日	紺羅紗	海軍形				
	帽日覆	一枚	一箇年	四月一日	白金巾	｜				
	夏服	二組	一箇年	四月一日	白小倉織	詰襟背廣形				
	冬服	一組	一箇年	十一月一日	紺小倉織					
	外套雨覆附	一枚	二箇年	四月一日	紺小倉織	製法適宜				
水夫 火夫	帽	一箇	一箇年	四月一日	紺羅紗	海軍形				
	帽日覆	一枚	一箇年	四月一日	白金巾	｜				
	夏服	一組	一箇年	四月一日	白小倉織	水兵ノジャケツト型				
	冬服	一組	一箇年	十一月一日	紺小倉織	同				
	雨具	一枚	無期	｜	雲齊油引	製法適宜				
守衛	帽	一箇	一箇年	四月一日	紺羅紗	海軍形	短靴	二足	一箇年	四月一日 十月一日
	帽日覆	一枚	一箇年	四月一日	｜	白金巾	｜			
	夏服	二組	一箇年	四月一日	白小倉	詰襟背廣形				
	冬服	一組	一箇年	十一月一日	紺セル	同				
	外套雨覆附	一枚	三箇年	四月一日	紺羅紗	製法適宜				
給仕	帽	一箇	一箇年	四月一日	同	海軍形	短靴	二足	一箇年	四月一日 十一月一日
	帽日覆	一枚	一箇年	四月一日	白金巾	｜				
	夏服	二組	一箇年	四月一日	白小倉	詰襟背廣形				
	冬服	一組	一箇年	十一月一日	紺小倉	同				
小使 諸職工 常備夫	笠又ハ帽	一箇	一箇年	四月一日	竹製金巾張紺羅紗	饅頭形海軍形				
	夏服	一組	一箇年	四月一日	目倉縞	法被股引				
	冬服	一組	一箇年	十一月一日	同	同裏附				
	雨具	一枚	二箇年	四月一日	桐油	製法適宜				
	帽	一箇	一箇年	四月一日	紺羅紗	海軍形	足袋	渡船ニ應ヒ之ヲ給ス		
車夫	帽日覆	一枚	一箇年	四月一日	白金巾					
	夏服	一組	一箇年	四月一日	目倉縞	法被股引				
	冬服	一組	一箇年	十一月一日	同	同裏附				
	雨具	一枚	二箇年	四月一日	桐油	製法適宜				

貸與品又ハ給與品ハ所屬長官ニ於テ適宜員數ヲ減少シ若ハ之ヲ給セサルコトヲ得

貸與品又ハ給與品ニシテ土地ノ狀況其ノ他ノ事情ニ依リ本令ニ依リ難キモノハ所屬長官之ヲ定ムルコトヲ得

帽章其ノ他ノ徽章ハ所屬長官適宜之ヲ定ム

第三條　被服ノ著用期間ハ左ノ區別ニ依ルヘシ但シ寒暖ノ狀況ニ依リ所屬長官之ヲ伸縮スルコトヲ得

夏服　四月一日ヨリ十月三十一日迄

多服　十一月一日ヨリ三月三十一日迄

第四條　使用滿期ノ貸與品又ハ給與品ハ之ヲ本人ニ給與スルコトヲ得

貸與品、給與品ノ澣濯及修補ハ總テ自辨トス

第五條　解職者又ハ死亡者ノ貸與品若ハ給與品ニシテ使用期限內ニ係ルモノハ速ニ之ヲ返納セシムヘシ

第六條　新ニ就職シタル者又ハ使用期限內ノ貸與品若ハ給與品ヲ毀損亡失シタル者ニハ第二條ノ期日ニ拘ラス之ヲ交付スヘシ

前項ノ貸與品又ハ給與品ハ成ルヘク返納品ヲ襲用セシムヘシ

第七條　故意怠慢ニ因リ使用期限內ノ貸與品又ハ給與品ヲ毀損亡失シタル者アルトキハ辨償ノ責ニ任セシムヘシ

第八條　本令ニ規定セサル雇員、傭員ニ被服ヲ支給スルノ必要アルトキハ所屬長官之ヲ定ム

附　則

本令施行ノ際現ニ使用期限中ニ係ル被服ハ尙其ノ期限內之ヲ襲用セシムヘシ

稅關監吏補、【海港檢疫所船員】、專賣局食鹽監視員及監視員補、廷丁、警察警邏船員、警察專用電話職員、隘勇、女監取締、押丁、監獄授業手、通信工手、通信工手見習、通信工夫、通信工夫見習、郵便局現業傭員（船員ヲ除ク）ニハ當分ノ內本令ヲ適用セス

●巡查給與品及貸與品規則

大正九年十二月十日
臺灣總督府訓令第二百九十六號

改正　大正一二年訓令第一七號、一三年第八六號、昭和元年第二號

臺灣總督府　警察官及司獄官練習所　州　廳

巡查給與品及貸與品規則左ノ通定ム

巡查給與品及貸與品規則

第一條　巡查給與品ノ品目、員數及使用期限ハ別表第一號表ニ依ル

第二條　巡查貸與品ノ品目ハ別表第二號表ニ依ル但シ知事又ハ廳長ハ適宜其ノ一部ヲ貸與セサルコトヲ得

常時制服著用ヲ要セサル特別勤務者ニハ手帳、捕繩及警笛ノミヲ貸與ス

水上、交通整理及消防勤務者ニハ別表第二號表ノ外短刀及短刀帶ヲ貸與ス

第三條　知事又ハ廳長ニ於テ必要ト認ムル蕃地ニ勤務スル者ノ給與品ハ平地勤務者ノ例ニ依ルコトヲ得

第四條　給與品ハ現品ヲ以テ支給スヘシ但シ左ノ物品ハ代料ヲ以テ支給スルコトヲ得

下襟、下袖、手套、夏肌著、冬肌著、靴下、長靴、短靴、脚絆、紺足袋

常時制服著用ヲ必要トセサル特別勤務ニ服スル巡査ニハ前項ニ依ラス總テ代料ヲ以テ支給スルコトヲ得

第五條　前條ニ依ル代料ノ給與ハ別ニ定ムル價格ニ依リ月割ヲ以テ毎月二十一日之ヲ支給ス但シ新任又ハ復職ノ場合ニ在リテハ發令ノ翌日ヨリ、退職、休職、轉職又ハ死亡ノ場合ニ在リテハ其ノ發令又ハ死亡ノ當日迄日割ヲ以テ之ヲ支給ス

代料ノ支給日カ休日ニ當ルトキハ之ヲ繰下ク

第六條　全部代料ヲ以テ支給スルモノト雖儀式其ノ他特別ノ事情ニ依リ必要アルトキハ服裝上必要ナル被服及帶具ヲ臨時貸與スルコトヲ得

第七條　被服著用期間ハ左ノ區別ニ依ルヘシ但シ寒暖ノ狀況ニ依リ知事又ハ廳長之ヲ伸縮スルコトヲ得

夏衣　自三月十六日　至十一月十五日
冬衣　自十一月十六日　至三月十五日

略帽ハ夏服著用期間中晴天ノ際使用スルモノトス

第八條　帽、日覆、夏衣、冬衣、袴、短袴、外套、防水布及外套ハ使用期限滿了後尚一箇年間之ヲ保存セシムヘシ

第九條　貸與品及使用期限內ノ給與品ノ修理及洗濯ハ自辨トス

第十條　貸與品ハ退職、休職、轉職又ハ死亡等ノ場合ニハ之ヲ返納セシムヘシ使用期限ノ滿了セサル給與品ニ付亦同シ

第十一條　貸與品又ハ使用期限ノ滿了セサル給與品ヲ毀損又ハ亡失シタルトキハ代品ヲ貸與又ハ給與ス但シ其ノ毀損、亡失カ過失又ハ怠慢ニ因リタルトキハ之ヲ辨償セシム

第十二條　新任ノ際又ハ毀損、亡失ノ代品トシテ給與品ヲ交付スル場合ニ於テハ適宜使用期限ヲ定メ第十條ノ返納品ヲ襲用セシムルヲ例トス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年訓令第百七十號ハ之ヲ廢止ス

附　則（昭和元年訓令第二號）

從前ノ規定ニ依ル冬短袴ハ當分ノ內仍之ヲ支給スルコトヲ得

大正十年訓令第百九號ハ之ヲ廢止ス

第一號表

給與品

區分	平地勤務者		蕃地勤務者	
	員數	使用期間	員數	使用期間
帽	一箇	二年	一箇	二年
日覆	一枚	二年	一枚	二年
冬衣	一枚	三年	一枚	三年
冬袴	一枚	三年	一枚	三年
夏衣	二枚	二年	一枚	二年
夏袴	二枚	二年	一枚	二年
夏短袴	一枚	二年	二枚	二年
甲種外套	一枚	四年	一枚	四年
防水布外套	｜	｜	一枚	一年
下襟	五枚	一年	三枚	一年
下袖	三組	一年	二組	一年
手套	三組	一年	二組	一年
夏肌著	三組	二年	三組	二年
冬肌著	二組	三年	二組	二年
靴下	五足	一年	三足	一年
長靴	一足	五年	一足	六年
短靴	二足	三年	一足	二年
脚絆	二足	六年	二足	四年
紺足袋	三足	一年	六足	一年

備考

一　給與品ハ必要ニ依リ其ノ員數ヲ增減シ又ハ其ノ使用期間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

二　平地勤務者ニシテ蕃地ニ亙リ受持區域ヲ有スル者ニハ防水布外套ヲ給與スルコトヲ得但シ使用期間ハ二年トス

第二號表

貸與品

徽章及釦類
略帽
乙種外套
肩章
刀
刀帶
刀緒
手帳
外套締革
捕繩
警笛

●巡査、警手給與品及貸與品取扱規程

大正十五年一月二十三日
臺灣總督府訓令第十一號

臺灣總督府　警察官及司獄官練習所　州　廳

巡査、警手給與品及貸與品取扱規程左ノ通相定ム

巡査、警手給與品及貸與品取扱規程

第一條　巡査、警手ノ給與品及貸與品ノ取扱ニ付テハ別ニ規定アルモノノ外本令ニ依リ取扱フヘシ

第二條　給與品及貸與品ハ臺灣總督府（以下單ニ總督府ト稱ス）ニ於テ調製シ臺灣總督府警察官及司獄官練習所（以下單ニ練習所ト稱ス）、州及廳ニ配付ス

第三條　知事又ハ廳長ハ毎年四月十日迄ニ別記第一號樣式ニ依リ當該年度ニ於ケル給與品及貸與品ノ所要豫定數調書ヲ作成シ警務局長ニ提出スヘシ

臺灣總督府警察官及司獄官練習所長（以下單ニ練習所長ト稱ス）ハ前項ニ準シ給與品及貸與品ノ所要豫定數調書ヲ作成シ警務局長ニ提出スヘシ

第四條　知事又ハ廳長ハ左ノ區別ニ從ヒ給與品及貸與品ノ各期所要數ヲ調査シ第二號樣式ニ依リ警務局長ニ請求スヘシ但シ定員增加其ノ他臨時必要ヲ生シタルトキハ其ノ都度事情ヲ具シ請求スルコトヲ得

第一期（夏服著用期自三月十六日至十一月十五日間）所要數　前年十一月十五日迄

第二期（多服著用期自十一月十六日至翌年三月十五日間）所要數　八月十五日迄

練習所長ハ前項ニ準シ給與品及貸與品ノ各期所要數ヲ警務局長ニ請求スヘシ

第五條　給與品及貸與品ハ就職ノ際之ヲ交付シ使用期間滿了ニ依リ交付スヘキモノハ夏服ニ在リテハ三月十五日多服ニ在リテハ十一月十五日其ノ他ノ被服類ニ在リテハ三月十五日又ハ十一月十五日之ヲ交付ス但シ特別ノ事由アルトキ又ハ特ニ使用期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條　新任者及轉勤者ニ新ニ交付ヲ爲ス給與品又ハ第十七條ニ依リ引換交付又ハ再交付ヲ爲ス給與品ハ巡査給與品及貸與品規則第十二條ニ依ル古品ヲ給與スルヲ例トシ其ノ使用期間ハ練習所長、州若ハ廳ノ警務課長、警察課長、支廳長又ハ警察署長ニ於テ前條ノ使用期間滿了ニ依ル交付日ノ例ニ倣ヒ査定スヘシ

【臺警】

第七條　州又ハ廳ニ於テハ其ノ州、廳ニ於ケル巡査定員ヲ通シ、練習所ニ於テハ總督府巡査ノ全員ヲ通シ給貸與品番號簿ヲ備フヘシ郡又ハ支廳ニ於テハ其ノ郡、支廳ニ於ケル警手定員ヲ通シ貸與品番號簿ヲ備フヘシ

同一人ノ給、貸與品ハ總テ同一番號トシ缺番ヲ生シタルトキハ充員ノ際之ヲ襲用スヘシ

第八條　給與品及貸與品中ノ被服類ニハ別記第一號雛形ノ片布ヲ縫著シ給、貸與年月及番號ヲ記入シ之ヲ交付スヘシ

手帳ニハ別記第二號雛形ニ依リ官職、氏名、貸與年月日及番號ヲ記入シ練習所、州又ハ廳ノ官印ヲ押捺シ之ヲ交付スヘシ

第九條　給與品及貸與品ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲メ練習所、州、廳、郡、支廳及警察署ニ物品取扱主任ヲ置ク但シ必要ナシト認ムルトキハ物品取扱主任ヲ置カス物品會計官吏直接之ヲ取扱フコトヲ得

前項ノ外警察課分室其ノ他必要ト認ムル箇所ニ物品取扱主任ヲ置クコトヲ得

第十條　物品取扱主任及前條第一項但書ノ物品會計官吏ハ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

給與品臺帳　（第三號樣式）

貸與品臺帳　（第四號樣式）

給貸與品受拂簿（物品會計官吏ハ之ヲ除ク）（第五號樣式）

第十一條　新任者ノ給與品臺帳及貸與品臺帳ハ練習所、州又ハ廳ノ物品會計官吏ニ於テ作成シ物品取扱主任又ハ第九條第一項但書ノ物品會計官吏ニ交付スヘシ

【臺警】

第十二條　巡査、警手ニ轉勤者アリタルトキハ當該給、貸與品（臺帳添附）ハ左ノ各號ニ依リ取扱フヘシ

一　同一物品會計官吏ノ所管內轉勤ノ場合ハ當該物品取扱主任ハ轉勤先ノ物品取扱主任ニ引繼クヘシ

二　他ノ物品會計官吏ノ所管ニ轉勤ノ場合ハ物品取扱主任ハ所屬物品會計官吏ニ返納スヘシ

三　物品會計官吏ハ返納品アリタルトキハ轉勤先ノ物品會計官吏ニ保管轉換ヲ爲スヘシ

給與品及貸與品ハ給、貸與ヲ爲シタル儘赴任セシムルヲ例トス

第十三條　退職、休職、轉職又ハ死亡シタル者ノ貸與品及使用期間ノ滿了セサル給與品ハ返納書ヲ添ヘ本人又ハ遺族ヲシテ返納セシムヘシ

本人又ハ遺族ノ返納書ヲ徵スルコト能ハサルトキハ代理人ヲシテ前項ノ手續ヲ爲サシムルコトヲ得

返納トナリタル給與品及貸與品ニハ給、貸與年月、番號及本人ノ返納年月日ヲ記シタル小札ヲ附スヘシ

第十四條　給與品及貸與品中不用トナリタルモノハ郡、支廳、警察署ニ於テハ州、廳ニ州及廳ニ於テハ總督府ニ之ヲ引繼ヘシ但シ再給シ能ハサルモノハ州又ハ廳ニ於テ適宜ノ措置ヲ爲スヘシ

練習所ニ於ケル不用トナリタル給與品及貸與品ハ總督府ニ之ヲ引繼ヘシ

第十五條　物品取扱主任ハ毎月一回給、貸與品ノ受拂狀況ヲ物品會計官吏ニ報告スヘシ

第十六條　物品會計官吏ヲ置ク郡、支廳又ハ警察署ノ長ハ毎年二回給、貸與品ノ出納及給、貸與ノ狀況ヲ知事又ハ廳長ニ報告スヘシ

第十七條　給、貸與中ノ給與品及貸與品ヲ毀損又ハ亡失シタル者アルトキハ練習所ノ上席舍監、州若ハ廳ノ警務課長、警察課長、支廳長又ハ警察署長ハ其ノ事實ヲ調査シ引換交付若ハ再交付ヲ爲スヘシ書盡シタル手帳ノ引換交付ニ付亦同シ但シ手帳用紙ハ印章ノ部分ヲ除キ本人ニ給與スルコトヲ得

前項ノ場合故意又ハ過失ニ因リ毀損又ハ亡失シタルモノト認ムルトキハ本人ノ始末書ヲ徵シ意見ヲ附シ練習所長、知事又ハ廳長ニ具申スヘシ

第十八條　練習所長、知事又ハ廳長ハ前條第二項ニ依リ具申アリタル場合ハ其ノ事實ヲ調査シ故意又ハ過失ニ因ルモノナルトキハ左ノ區分ニ依リ賠償ヲ命スヘシ

一　給與品ハ原價ノ月割ヲ以テ使用期間ノ殘月數ニ相當スル金額

二　貸與品ハ原價ヲ標準トセル毀損又ハ亡失當時ノ評價格又ハ補修ニ要シタル費用

第十九條　給與品及貸與品ノ出納及保管ハ新品ト古品ヲ區分整理スヘシ

第二十條　給與品及貸與品ニ關スル書類ハ左ノ區分ニ依リ編纂スヘシ

給貸與品關係例規編

給貸與品受入證憑書類編

給貸與品拂出證憑書類編

給貸與品關係往復書類編

給貸與品關係雜書編

第二十一條　練習所長、知事又ハ廳長ハ官吏ヲ指定シ毎年一回以上給與

品及貸與品ノ出納及保管ノ適否ヲ檢査セシメ其ノ狀況ヲ臺灣總督ニ報告スヘシ

第二十二條　臨時又ハ短期間採用スル警手ノ貸與品ニシテ本令ニ依リ難キモノハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ知事又ハ廳長ニ於テ別ニ取扱方ヲ規定スルコトヲ得

第二十三條　本令施行ニ關シ必要ナル細則ハ知事又ハ廳長之ヲ定メ臺灣總督ニ報告スヘシ

第二十四條　本令ハ他ノ警察費所屬ノ給與品及貸與品ノ取扱ニ之ヲ準用ス

附則

大正十年訓令第五十號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ給與中ノ給與品ノ使用期間ハ第五條ニ依リ適宜之ヲ更正スヘシ

（第一號様式）（用紙美濃）

大正　年度給與品所要豫定數調書　月　日調査（何）（州）廳

品目／別	所要豫定數				在庫數			差引所要數	內譯（寸法區分）	摘要
	滿期交付	引換交付	新任交付	計	年度繰越	再給不能	計			

記載例

【空欄】

一　本調書ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル滿一箇年間ノ數ヲ計上スルモノトス

二　所要豫定數ノ新任交付ハ練習所ヨリ出向スルモノハ之ヲ含マサルモノトス

三　在庫數中年度繰越ニハ物品會計官吏ノ在庫數及物品取扱主任ノ在庫數ヲ計上スルモノトス

四　在庫數中再給不能ハ年度繰越ノ數中再給不能ノ見込數ヲ朱書スルモノトス

五　在庫數ノ計ハ年度繰越ヨリ再給不能ヲ控除シタル數トス

六　本表ニハ算出ノ基ク所ヲ示ス爲メ別記様式ノ給貸與品出納調査表ヲ附表トシテ添附スルモノトス

（第一號様式附表）（用紙美濃）

給貸與品出納調査表

大正　年三月三十一日現在（何）（州）廳

品目／別	受入					拂出					差引在庫				供用	破損引換	摘要
	年度繰越	保管轉換	返納	其ノ他	計	交付	保管轉換	賣却	其ノ他	計	新品	古品		計			
												再給可能	再給不能				

記載例

一　本表ハ前年四月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル滿一箇年間ノ受拂數、破損引換數及年度末ノ在庫數、供用數ヲ計上スルモノトス

二 受入ノ年度繰越ニハ物品會計官吏ノ在庫數及物品取扱主任ノ前年度繰越在庫數ヲ計上スルモノトス

三 保管轉換ハ總督府、練習所及他州、廳ト受拂シタル數ヲ計上スルモノトス

四 拂出ノ交付ニハ給與又ハ貸與シタル數其ノ他ニハ棄却、亡失再交付等ノ處分シタル數ヲ計上シ摘要ニ其ノ事由ヲ摘記スルモノトス

五 供用ニハ現ニ被給貸與者ニ給、貸與中ノ數ノミ（物品取扱主任ノ在庫ヲ含マス）ヲ計上スルモノトス

（第二號樣式） （用紙美濃）

大正　年度第　期給貸與品請求書

（何）　（州）廳

別 品目	所要豫定數				在庫數				請求數	内譯（寸法區分）						摘要
	滿期	引換	新任	計	新品	古品		計								
						再給可能	再給不能									

右請求ス

大正　年　月　日　（何）　（州知事）廳長

警務局長宛

記載例

一 在庫數ニハ第一期ノ場合ハ十月末日第二期ノ場合ハ七月末日ニ於ケル物品會計官吏及物品取扱主任ノ在庫ノ各數ヲ計上スルモノトス

二 在庫數中再給不能ニハ其ノ數ヲ朱書スルモノトス

三 在庫數ノ計ハ新品ト古品（再給可能）ノ合計（再給不能ノ古品ヲ含マス）ヲ計上スルモノトス

〔臺灣〕

四 請求數ハ所要豫定數ヨリ在庫數ヲ控除シタル數ヲ基準トシ實際配付ヲ要スル數ヲ計上スルモノトス

（第三號樣式） （用紙ロール引美濃）

第　號	拜命大正　年　月　日 退職大正　年　月　日	給與別		職氏名								
寸法區分	品目	使用期間	員數	給與年月 滿期年月	員數	給與年月 滿期年月	員數	給與年月 滿期年月	員數	給與年月 滿期年月	員數	給與年月 滿期年月
備考												

給與品臺帳

記載例

一 給與別ハ蕃地又ハ平地ニ區分スルモノトス但シ例外ノ給與ヲ爲スモノハ備考ニ其ノ要領ヲ摘記スルモノトス

二 亡失再交付、破損引換交付ノ場合ハ備考ニ事由ヲ摘記スルモノトス

三 古品給與ノ場合ハ員數ニ古品ノ記號ヲ爲スモノトス

（第四號樣式） （用紙ロール引美濃）

第　號	拜命大正　年　月　日 退職大正　年　月　日	貸與別		職氏名	

寸法區分	品目	員數	貸與年月返納（亡失）年月	貸與年月返納（亡失）年月	貸與年月返納（亡失）年月	貸與年月返納（亡失）年月	貸與年月返納（亡失）年月	貸與年月返納（亡失）年月

備考

貸與品臺帳

記載例

一　貸與別ハ蕃地又ハ平地ニ區分スルモノトス但シ例外ノ貸與ヲ爲スモノハ備考ニ其ノ要領ヲ摘記スルモノトス

二　亡失又ハ返納ノ事由ニシテ必要ト認ムル事項ハ備考ニ摘記スルモノトス

三　古品貸與ノ場合ハ貸與年月ニ古品ノ記號ヲ爲スモノトス

四　刀緒、外套締皮、手帳、捕繩及警笛ノ引換交付ハ臺帳ノ整理ヲ省略スルコトヲ得

（第五號樣式）（用紙ロール引美濃）

【臺紙】

【臺紙】

年月日	受	拂	殘				證憑番號	摘要
			供用	在庫		計		
				新品	古品			

給貸與品受拂簿

年月日	受	拂	殘				證憑番號	摘要
			供用	在庫		計		
				新品	古品			

記載例

一　本簿ハ品目別ニ口座ヲ設ケ區分整理スルモノトス

二　刀緒、外套締皮、手帳、捕繩及警笛ノ引換交付ノ場合ハ證憑番號欄ニ本人ノ受領證印ヲ徵シ證憑書類ニ代フルコトヲ得

三　釣革、手帳用紙、釦及線類ハ消耗品扱トシ交付ノ場合ハ證憑番號欄ニ本人ノ受領證印ヲ徵シ證憑書類ニ代フルコトヲ得

（第一號雛形）

二寸四分

第　號 （何） 大正　年　月交付	第　號 （何） 大正　年　月交付	第　號 （何） 大正　年　月交付

二寸

（第二號雛形）

第　號

職　氏　名

大正　年　月　日交付

練習所、州、廳印

〔臺轄〕

●臺灣總督府州、廳警部補ニ被服支給ノ件

大正十一年五月六日
臺灣總督府令第百十三號

臺灣總督府州、廳警部補ニハ被服ヲ支給ス但シ必要アル場合ハ其ノ全部又ハ一部ヲ代料ヲ以テ支給スルコトヲ得

前項給與ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

附則

本令ハ大正十一年度ヨリ之ヲ適用ス

●臺灣總督府州、廳警部補被服給與規程

大正十一年五月六日
臺灣總督府訓令第九十五號
州廳
改正　大正一三年訓令第七一號

臺灣總督府州、廳警部補被服給與規程左ノ通相定ム

臺灣總督府州、廳警部補被服給與規程

第一條　臺灣總督府州、廳警部補ノ被服ハ全部代料ヲ以テ之ヲ支給ス

被服代料ハ月額五圓トス

第二條　被服代料ハ新任又ハ復職ノ場合ニ在リテハ發令ノ翌日ヨリ退官、休職、轉任又ハ死亡ノ場合ニ在リテハ其ノ發令又ハ死亡ノ當日迄日割ヲ以テ之ヲ支給ス

第三條　被服代料ハ毎月二十一日之ヲ支給ス但シ休日ニ當ルトキハ繰下トス

退官、休職、轉任又ハ死亡ノ場合ニ於ケル被服代料ハ其ノ都度之ヲ支給ス

附則

本令ハ大正十一年度ヨリ之ヲ適用ス

●臺灣總督府看守給與品及貸與品規則

明治四十三年七月
臺灣總督府訓令第百四十三號
刑務所
改正　大正八年訓令第一六〇號、一二年府令第八七號

看守給與品及貸與品規則左ノ通相定ム

臺灣總督府看守給與品及貸與品規則

第一條　臺灣總督府看守ノ給與品及貸與品ニ關スル事項ハ本令ニ規定スルモノノ外明治三十一年勅令第三百三十二號看守給與品及貸與品規則ニ準據スヘシ

第二條　臺灣總督府看守ニ防水布外套ヲ貸與ス

第三條　炎暑ノ際屋外勤務者其ノ他必要ト認ムル者ニ對シテハ鼠色麻布ノ夏服及「ヘルメツト」形帽ヲ貸與スルコトヲ得

前項ノ外必要アル場合ハ短袴ヲ貸與ス

第四條　給與品ハ現品ヲ以テ之ヲ給ス其ノ供用期限左ノ如シ

多服	一組	二年
夏服（白色）	二組	一年
甲種外套（雨覆附）	一箇	五年
乙種外套（雨覆附）	一箇	五年
帽	一箇	一年
日覆	一箇	一年
長靴	一組	三年
短靴	二組	一年
下襟	二箇	四箇月
下袖	二箇	一年
手套（白色又ハ鼠色）	二組	一年
靴下	三組	二箇月
多襦袢袴下	二組	一年
夏襦袢袴下	二組	一年

〔臺轄〕

第五條　甲種外套ノ給與ヲ受クル者ニハ乙種外套ヲ給セス其ノ區別ハ別ニ之ヲ定ム

第六條　鼠色麻布ノ夏服ヲ貸與シタルトキハ他ノ夏服ノ供用期限ヲ、防水布外套ヲ貸與シタルトキハ他ノ外套ノ供用期限ヲ、「ヘルメツト」形帽ヲ貸與シタルトキハ他ノ帽ノ供用期限ヲ孰レモ刑務所長ニ於テ適宜延長スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十三年勅令第二百六十號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス本令施行ノ際既ニ給與シタル現品ニハ之ヲ適用セス

本令施行前既ニ給與シタル甲種外套及乙種外套ノ保存期限中更ニ防水布外套ヲ給與シタルトキハ監獄長ニ於テ甲種外套及乙種外套ノ保存期限ヲ一年以內ノ範圍ニ於テ適宜延長スルコトヲ得

附　則（大正八年訓令第百六十號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

乙種外套ノ制ニ準スル防水布外套ハ本令施行ノ際現存ノモノニ限リ之ヲ貸與スルコトヲ得

●看守給與品及貸與品規則

明治三十一年十一月三十日
勅令第三百三十二號

（改正　明治三六年勅令第九七號、四二年第一七二號、昭和三年第二〇號）

朕看守給與品及貸與品規則ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

　看守給與品及貸與品規則

第一條　看守ニ給與スヘキ品目左ノ如シ

一冬服
一夏服
一甲種外套（雨覆付）
一乙種外套（肩掛）
一帽
一日覆
一長靴
一短靴
一下襟（白）
一手套（白）
一靴下

【臺報】

一襦袢袴下

前項ノ外土地ノ狀況ニ依リ司法大臣ハ防寒具、脚絆又ハ「ゲートル」ヲ給與スルコトヲ得

第二條　看守ニ貸與スヘキ品目左ノ如シ

一刀
一刀緒
一刀帶
一帽章
一肩章
一外套緒革
一手帖
一捕繩
一呼子笛
一釦及櫻花章

前項ノ外必要ナル場合ニハ拍車又ハ短袴ヲ貸與ス

第三條　給與品ハ現品ヲ以テ給ス其ノ供用期限ハ左ノ如ク之ヲ定ム但シ已ヲ得サル事情アルトキハ監獄ノ長ニ於テ本條ノ供用期限ヲ變更スルコトヲ得

一冬服	二組	三年

但シ初年一組ヲ給シ滿一年ヲ經テ尙一組ヲ給ス

一夏服	二組	八箇月

但シ本令施行ノ際給與スル者竝新任ノ者ニハ二組ヲ給シ次年以降ハ毎年一組ヲ給ス

【臺報】

一甲種外套雨覆付	一箇	三年
一乙種外套	一箇（肩掛）	二年
一帽	一箇	一年
一日覆	一箇	四箇月
一長靴	一組	一年
一短靴	二組	一年
一下襟	一箇	二箇月
一手套	二組	六箇月
一靴下	二組	一箇月
一冬襦袢袴下	二組	八箇月
一夏襦袢袴下	二組	四箇月

前項但書ニ依リ給與品ノ供用期限ヲ變更シタルトキハ其ノ品目、供用期限及變更ノ事由ヲ司法大臣ニ申報スヘシ

第四條　長靴、短靴、下襟、手套、靴下、襦袢、袴下ニ限リ代料ヲ以テ給與スルコトヲ得

第五條　免職、休職、轉職若ハ死亡ノ際ハ其ノ貸與品ハ速ニ之ヲ還納セシムヘシ供用期限內ニ在ル給與品亦同シ但シ給與品中代料ヲ以テ給與シタルモノハ供用殘期ニ相當スル金額ヲ返納セシムヘシ

第六條　貸與品又ハ供用期限內ノ給與品ヲ毀損紛失シタル者アルトキハ代品ヲ給與又ハ貸與ス但シ其ノ毀損紛失過失怠慢ニ出テタルモノナルトキハ其ノ代料辨償ノ責ニ任セシムヘシ

第七條　給與品ノ修補ハ總テ自辨トス

附　則

第八條　本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス但シ本令施行ノ際既ニ給與シタル現品ニハ之ヲ適用セス

●看守夏服日覆等供用期限

明治三十二年五月
臺灣總督府訓令第百三十九號

【[illegible]】【[illegible]】

明治三十一年勅令第三百三十二號看守給與品及貸與品規則第三條中夏服、日覆、夏襦袢袴下、冬襦袢袴下ノ供用期限ヲ各一年ト定ム

●押丁給與品及貸與品規程

明治三十二年五月
臺灣總督府訓令第百四十八號

【[illegible]】【[illegible]】

明治三十年五月訓令第五十五號監獄署押丁給與品及貸與品規程左ノ通改正ス

　押丁給與品及貸與品規程

第一條　押丁ニ給與スヘキ品目左ノ如シ

一冬服	小倉紺		但看守ノ制ニ依リ袖無章釦角
一夏服	小倉白		但看守ノ制ニ依リ袖無章釦角
一外套	紺	絨	但シ看守乙種ノ制ニ依リ長サ手背ニ達スルヲ度トス
一帽	紺	絨	但看守ノ制ニ依リ横章ヲ除ク
一日覆	白		但看守ノ制ニ依ル

一靴
一ゲートル
一下襟 白
一靴下
一襦袢袴下

第二條 押丁ニ給與スヘキ品目左ノ如シ

一帽章 但眞鍮丸ニ監ノ一字ヲ付ス徑一寸
一外套締革
一手帖
一捕繩
一呼子笛
一防水布外套 鼠色 但シ看守乙種ノ制ニ依リ長サ手背ニ達スルヲ度トス

炎暑ノ際外役其他常ニ屋外勤務ノ者ニハ「ヘルメツト」形帽ヲ貸與スルコトヲ得

第三條 押丁ノ給與品ハ現品ヲ以テ給ス其ノ供用期限左ノ如シ

多服	二組	三年
夏衣	二組	一年
外套（雨覆附）	一箇	四年
帽	一箇	一年
日覆	一箇	一年
靴	二組	一年
下襟	二箇	四箇月
靴下	三組	二箇月
ゲートル	一組	二年
多襦袢袴下	二組	一年
夏襦袢袴下	二組	一年

【臺訓】

第四條 靴、下襟、靴下、襦袢袴下ニ限リ代料ヲ以テ給與スルコトヲ得

第五條 免職、死亡等ノ際ハ其貸與品ハ速ニ之ヲ還納セシムヘシ其供用期限內ニ在ル給與品亦同シ但給與品中代料ヲ以テ給與シタルモノハ供用殘期ニ相當スル金額ヲ返納セシムヘシ

第六條 貸與品又ハ供用期限內ノ給與品ヲ毀損紛失シタル者アルトキハ代品ヲ給與又ハ貸與ス但其毀損、紛失、過失、怠慢ニ出テタルモノナルトキハ其代料辨償ノ責ニ任セシムヘシ

第七條 給與品ノ修補ハ總テ自辨トス

附則

第八條 本令ハ明治三十二年六月一日ヨリ施行ス

附則（大正二年訓令第七十七號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前既ニ給與シタル現品ニ付テハ其ノ保存期限ヲ一年以內ノ範圍ニ於テ監獄長限リ適宜延長スルコトヲ得

附則（大正四年訓令第十七號）

本令ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前既ニ給與シタル防水布外套ニシテ供用期限中ノモノニ付テハ監獄長限リ其ノ供用期限ヲ二年內適宜延長スルコトヲ得

本令施行前既ニ給與シタル多服ニ付テハ本令ヲ適用セス

【臺訓】

附則（大正七年訓令第五十二號）

本令ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前給與シタル外套ノ供用期限ハ監獄長ニ於テ適宜之ヲ延長スルコトヲ得

●看守押丁給與品中代料渡方

明治三十三年二月
臺灣總督府訓令第三十五號
【縣】【廳】

明治三十一年勅令第三百三十二號看守給與品及貸與品規則及明治三十二年五月訓令第百四十八號押丁給與品及貸與品規程中代料ヲ以テ給與スルモノハ其年度豫算ノ價格ニ依リ月割ヲ以テ每月之ヲ支給スヘシ但新任、退職、休職、轉職、死亡等ノ場合ハ其月ノ現日數ニ依リ日割ヲ以テ之ヲ支給スヘシ

●刑務所看守、女監取締及押丁給與品中代料渡價格

大正九年五月九日
臺灣總督府訓令第七十號
刑務所

改正 大正一二年府令第八七號

刑務所看守、女監取締及押丁給與品中代料渡ニ係ルモノハ別記價格ニ依リ之ヲ支給スヘシ

本令ハ大正九年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

大正七年三月訓令第五十三號ハ之ヲ廢止ス

（別記）

品目	看守			女監取締			押丁		
	數量	單價	年額	數量	單價	年額	數量	單價	年額
		圓	圓		圓	圓		圓	圓
長靴	一	一〇、八〇〇	三、六〇〇	—	—	—	—	—	—
短靴	二	五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一	五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二	四、九〇〇	九、八〇〇
下襟	六	〇、〇八〇	〇、四八〇	—	—	—	六	〇、〇八〇	〇、四八〇
下袖	二	〇、二三〇	〇、四六〇	—	—	—	—	—	—
手套	二	〇、二五〇	〇、五〇〇	二	〇、二五〇	〇、五〇〇	—	—	—
靴下	一八	〇、一七〇	三、〇六〇	一八	〇、一七〇	三、〇六〇	一八	〇、一七〇	三、〇六〇

冬襦袢袴下	二	一、七五〇	三、五〇〇	三	一、四八〇	四、四四〇	二	一、七三〇	三、四六〇
夏襦袢袴下	二	一、二〇〇	二、四〇〇				二	一、二〇〇	二、四〇〇
計	—	—	二四、〇〇〇	—	—	一八、〇〇〇	—	—	一九、二〇〇
月割額	—	—	二、〇〇〇	—	—	一、五〇〇	—	—	一、六〇〇

●女監取締給與品及貸與品規程

明治三十四年九月
臺灣總督府訓令第三百九號

監獄

女監取締給與品及貸與品規程左ノ通相定ム

女監取締給與品及貸與品規程

第一條　女監取締ニ給與スヘキ品目左ノ如シ

一多衣
一夏衣
一袴
一甲種外套
一乙種外套（雨覆附）
一帽
一靴
一靴下
一手套（白）
一襦袢袴下

【臺轄】

第二條　女監取締ニ貸與スヘキ品目左ノ如シ

一手帖
一捕繩
一呼子笛
一防水布外套（雨覆附）　鼠色

但シ乙種外套ノ制ニ依リ長サ手背ニ達スルヲ度トス

第三條　給與品ハ現品ヲ以テスヘシ但シ靴、靴下及手套ニ限リ代料渡ト爲スコトヲ得

第四條　給與品ノ員數及供用期限左ノ如シ但シ已ムヲ得サル事情アルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ經テ本條ノ供用期限ヲ變更スルコトヲ得

多衣	一組	一年
夏衣	二組	一年
袴	一箇	一年
甲種外套（雨覆附）	一箇	五年
乙種外套（雨覆附）	一箇	五年
帽	一箇	一年
靴	二組	一年
靴下	三組	一箇月
手套	二組	一年
襦袢袴下	三組	一年

【臺轄】

第四條ノ二　甲種外套ノ給與ヲ受クル者ニハ乙種外套ヲ給セス其ノ區別ハ別ニ之ヲ定ム

第五條　被服著用ノ時期ハ寒暖ノ狀況ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第六條　給與品ヲ代料渡ト爲ストキハ毎年度豫算ノ價格ニ依リ月割ヲ以テ毎月之ヲ給與スヘシ但シ採用、解職、死亡等ノ場合ハ其ノ月ノ現日數ニ依リ日割ヲ以テ之ヲ支給スルモノトス

第七條　貸與品ハ解職、死亡等ノ際ハ之ヲ返納セシムヘシ供用期限ノ終ラサル給與品亦同シ

第八條　貸與品又ハ供用期限ノ終ラサル給與品ヲ毀損紛失シ代品ヲ交付スル場合ニ於テ其ノ毀損紛失ノ過失怠慢ニ出テタルモノナルトキハ辨償ノ責ニ任セシムヘシ

第九條　採用ノ際又ハ毀損紛失ノ代品トシテ給與品ヲ交付スル場合ニ於テハ第七條ノ返納品ヲ以テ適宜供用期限ヲ定メ之ヲ變用セシムルコトヲ得

第十條　給與品ノ修補ハ總テ自辨トス

附　則

第十一條　此ノ規程ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令發布以前ニ給與シタル夏衣ニ付テハ從前ノ供用期限ニ依ル

附　則　（大正四年訓令第十八號）

本令ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前既ニ給與シタル甲種外套及乙種外套ニシテ供用期限中ノモノニ付テハ監獄長限リ其ノ供用期限ヲ適宜延長スルコトヲ得

附　則　（大正七年訓令第五十一號）

本令ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前給與シタル外套ノ供用期限ハ監獄長ニ於テ適宜之ヲ延長スルコトヲ得

●臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生被服支給規則

明治三十一年七月二十五日
臺灣總督府令第六十五號

臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生被服支給規則左ノ通相定ム

臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生被服支給規則

第一條　現官現職者ニアラサル臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生ニハ一定ノ被服ヲ給ス

第二條　前條施行ニ關スル細則ハ臺灣總督府警察官及司獄官練習所長之ヲ定ム

●臺灣總督府警察警邏船員制服貸與規則

明治三十六年三月
臺灣總督府訓令第二十九號

臺灣總督府警察警邏船員制服貸與規則左ノ通相定ム 【民政部】廢

臺灣總督府警察警邏船員制服貸與規則

第一條 臺灣總督府警察警邏船員ニハ此ノ規則ニ依リ制服ヲ貸與ス其ノ形質及製式ハ別表ニ依ルヘシ但シ總噸數二百噸以上ノ船員ニハ第一種ノ制服ヲ二百噸以下ノ船員ニハ第二種ノ制服ヲ貸與ス

第二條 貸與スヘキ制服ノ品目、員數及使用期限左ノ如シ

品目	船長、機關長 運轉士、機關士		水、火夫長		其他	
帽	一箇	一年	一箇	一年	一箇	一年
夏服	二着	二年	二着	一年	一着	一年
日覆	一枚	一年	一枚	一年	一枚	一年
冬服	一着	二年	二着	二年	一着	二年
外套雨覆附	一着	二年	一着	二年		
雨具					一着	無期

前項ノ外機關長及機關士ニハ一着水、火夫長及水、火夫ニハ二着ノ作業衣（淺黄色）ヲ給スルコトヲ得

第三條 制服著用ノ期限ハ左ノ區別ニ依ルヘシ但シ寒暖ノ狀況ニ依リ警察本署長又ハ廳長適宜之ヲ著用セシムルコトヲ得

夏期 四月一日ヨリ十月三十一日ニ至ル

多期 十一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第四條 使用期限ヲ經過シタル制服ハ一年以上勤續ノ者ニ限リ其ノ徽章ヲ除キ本人ニ給與スルコトヲ得

第五條 死者又ハ解職者ノ制服ニシテ使用期限ヲ經過セサルモノハ之ヲ返納セシムヘシ

第六條 使用期限ノ經過セサル制服ヲ毀損紛失シタル場合ニ於テ其ノ所爲ノ過失怠慢ニ出テタルモノナルトキハ相當價格ヲ辨償セシムヘシ

第七條 新ニ乘組ヲ命シタルトキ若ハ毀損紛失セシ代品トシテ制服ヲ貸與スルニ當リ第四條ノ返納品アルトキハ適宜使用期限ヲ定メ之ヲ襲用セシムヘシ

第八條 給與品ノ補修ハ自辨トス

附則

第九條 此ノ規則施行ノ際現ニ使用期限中ノ制服ハ尚其ノ期限間之ヲ用セシムルコトヲ得

第十條 此ノ規則ニ牴觸スル從前ノ規則ハ廢止ス

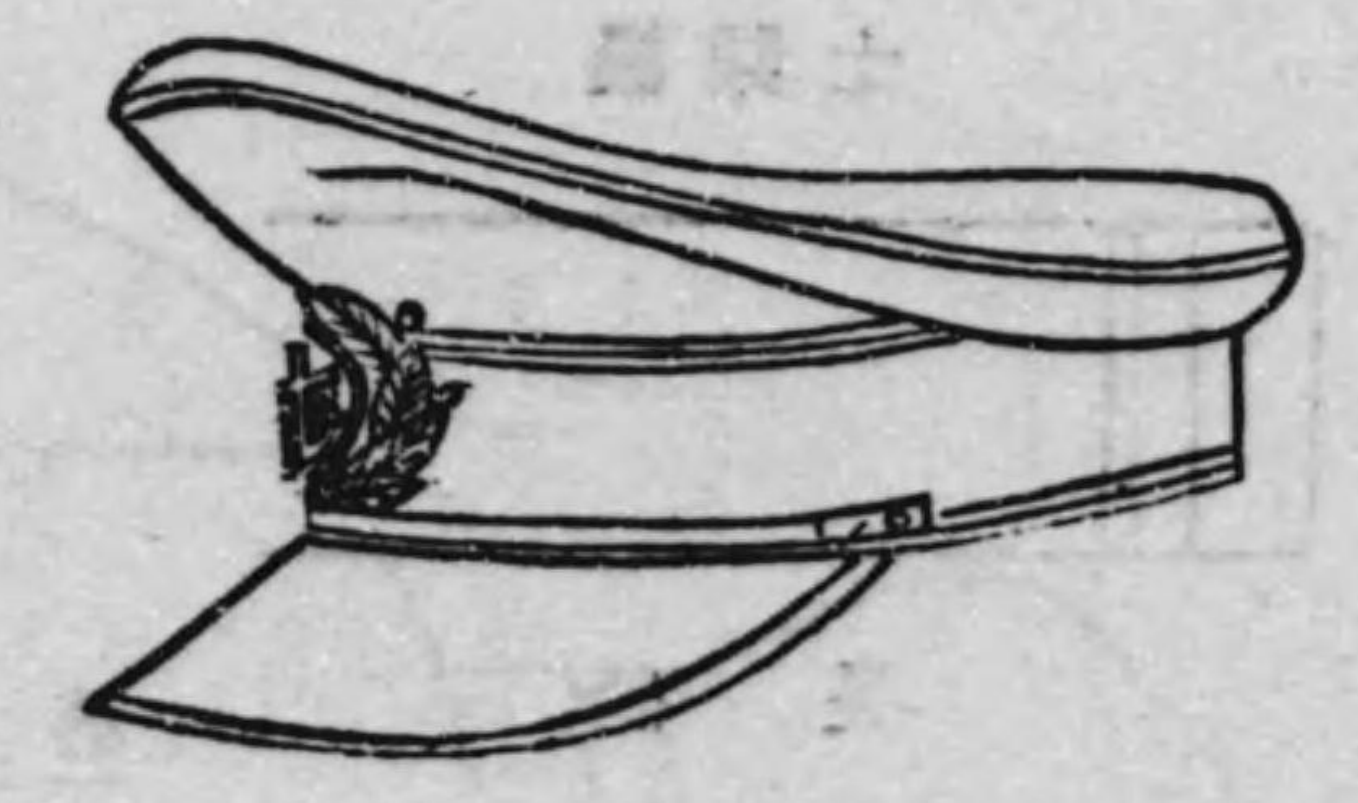
（別表）

區分		夏服						冬衣						
		上衣				袴		上衣				袴		
		地質	制式	袖章	鈕釦	地質	制式	地質	制式	袖章	鈕釦	地質	制式	地質
第一種	船長	紺ヘル	背廣製竪襟胸一重領部ニ金色略日章二個ヲ附ス圖ノ如シ	左腕ニ黄絨ノ錨ニ紺絨ノ警察徽章ヲ抱カシメタルヲ附シ左右ノ袖口ヨリ上部二寸五分ニ幅四分ノ金線二條ヲ附ス圖ノ如シ	金色日章胸部一行五箇圖ノ如シ	紺ヘル	長サ靴踵ノ上ニ止ル物入兩側ニ各一箇ヲ附ス圖ノ如シ	紺羅紗	夏衣ニ同シ	夏衣ニ同シ	夏衣ニ同シ	紺羅紗	夏袴ニ同シ	紺羅紗
	機關長	同上	同上	同上 幅四分金線二條ノ上部ニ幅一分ノ紫絨線ヲ附ス圖ノ如シ	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
	運轉士	同上	同上	同上 幅四分金線一條ヲ附ス	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
	機關士	同上	同上	同上 幅四分金線一條ノ上部ニ幅一分ノ紫絨線ヲ附ス	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
第二種	船長	同上	同上	同上 幅四分ノ黄絨線二條ヲ附ス	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
	機關士	同上	同上	同上 幅四分黄絨線二條ノ上部ニ幅一分ノ紫絨線一條ヲ附ス	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
	運轉士	同上	同上	同上 幅四分ノ黄絨線一條ヲ附ス	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
水夫長 火夫長 （一等油差）		白小倉織	同上 領章ヲ附セス		同上	白小倉織	同上	紺小倉織	同上	同上	同上	紺小倉織	同上	同上
其他		同上	同上		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

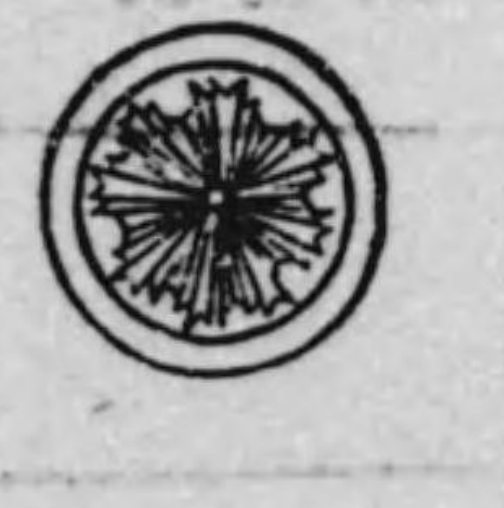
帽		外套			雨具		
制式	徽章	地質	制式	袖章	地質	制式	鈕釦
圓形ニシテ黒革ノ眼庇及支革ヲ附シ其ノ兩端各一箇ノ金色日章鈕釦ヲ以テ止ム圖ノ如シ	前章ハ金色櫻葉六枚銀色蕾三箇ヲ抱キ合セ中ニ錨索ヲ繞ラシタル橢圓形ノ絨ノ凸面ヲ出シ警察旗及金色錨ヲ附ス旗竿竝ニ錨鎧ハ打出旗面ハ白絹櫻葉蕾旗邊及錨索ハ總テモール繡トス橫章ハ幅一寸ノ黑色蛇腹ヲ附ス圖ノ如シ	紺羅紗	折襟胸二重圖ノ如シ	幅四分ノ黄絨線二條ヲ附ス圖ノ如シ			
同上	同上幅一寸黑色蛇腹ノ下部ニ幅一分ノ紫絨線一條ヲ附ス	同上	同上	幅四分ノ黄絨線及同幅ノ紫絨線各一條ヲ附ス			
同上	船長ニ同シ	同上	同上	幅四分ノ黄絨線及幅二分ノ黄絨線各一條ヲ附ス			
同上	機關長ニ同シ	同上	同上	幅四分ノ黄絨線及幅二分ノ紫絨線各二條ヲ附ス			
同上	船長ニ同シ	同上	同上	幅四分ノ黄絨線一條ヲ附ス			
同上	機關長ニ同シ	同上	同上	幅四分ノ紫絨線一條ヲ附ス			
同上	船長ニ同シ	同上	同上	幅二分ノ黄絨線一條ヲ附ス			
同上	同上櫻葉櫻蕾及蛇腹ヲ附セス	同上	同上				
同上眼庇ヲ附セス	眞鍮ノ警察徽章ヲ附ス圖ノ如シ	同上	同上		雲齊布油引	竪襟胸飾革ヲ附シ肩及肱ヲ二重トス圖ノ如シ	黑圓形二行一行五箇圖ノ如シ

船長 機關長 運轉士 機關士

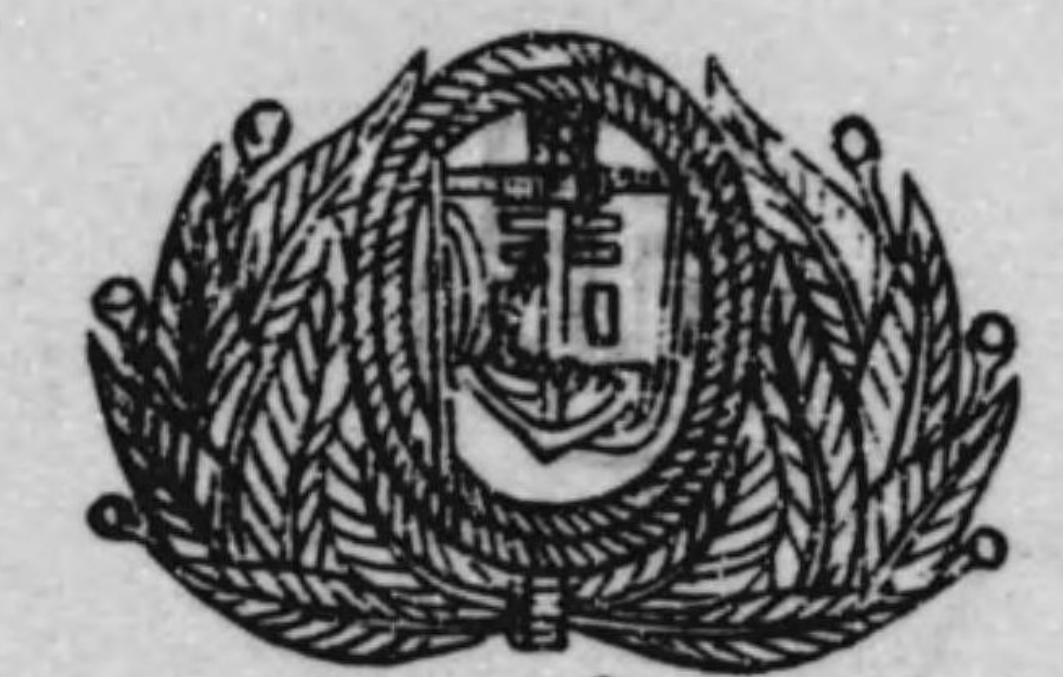
帽



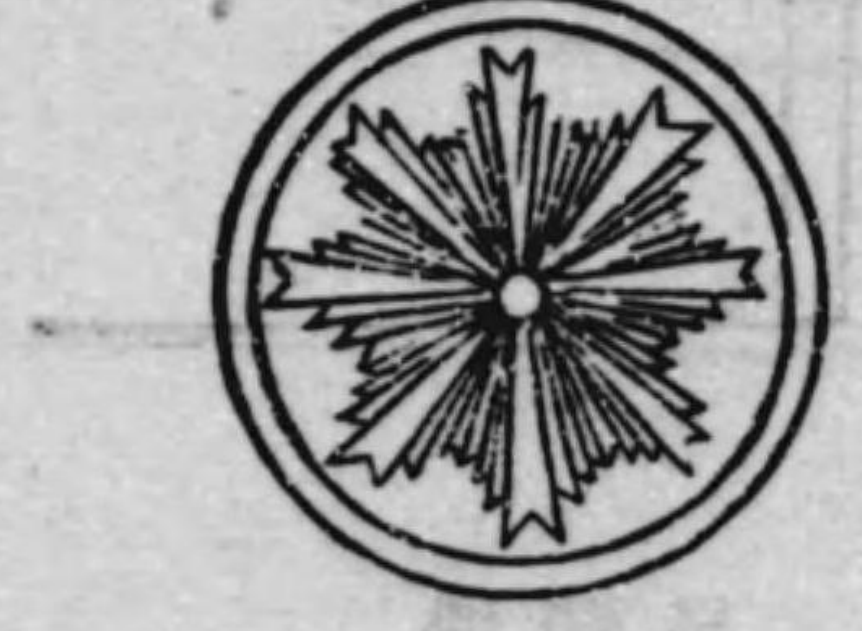
鈕釦



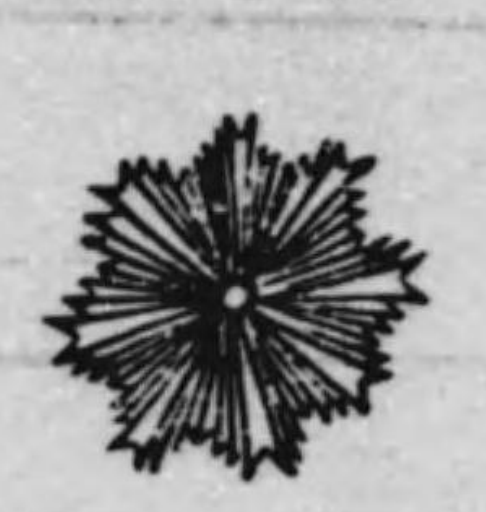
帽徽章



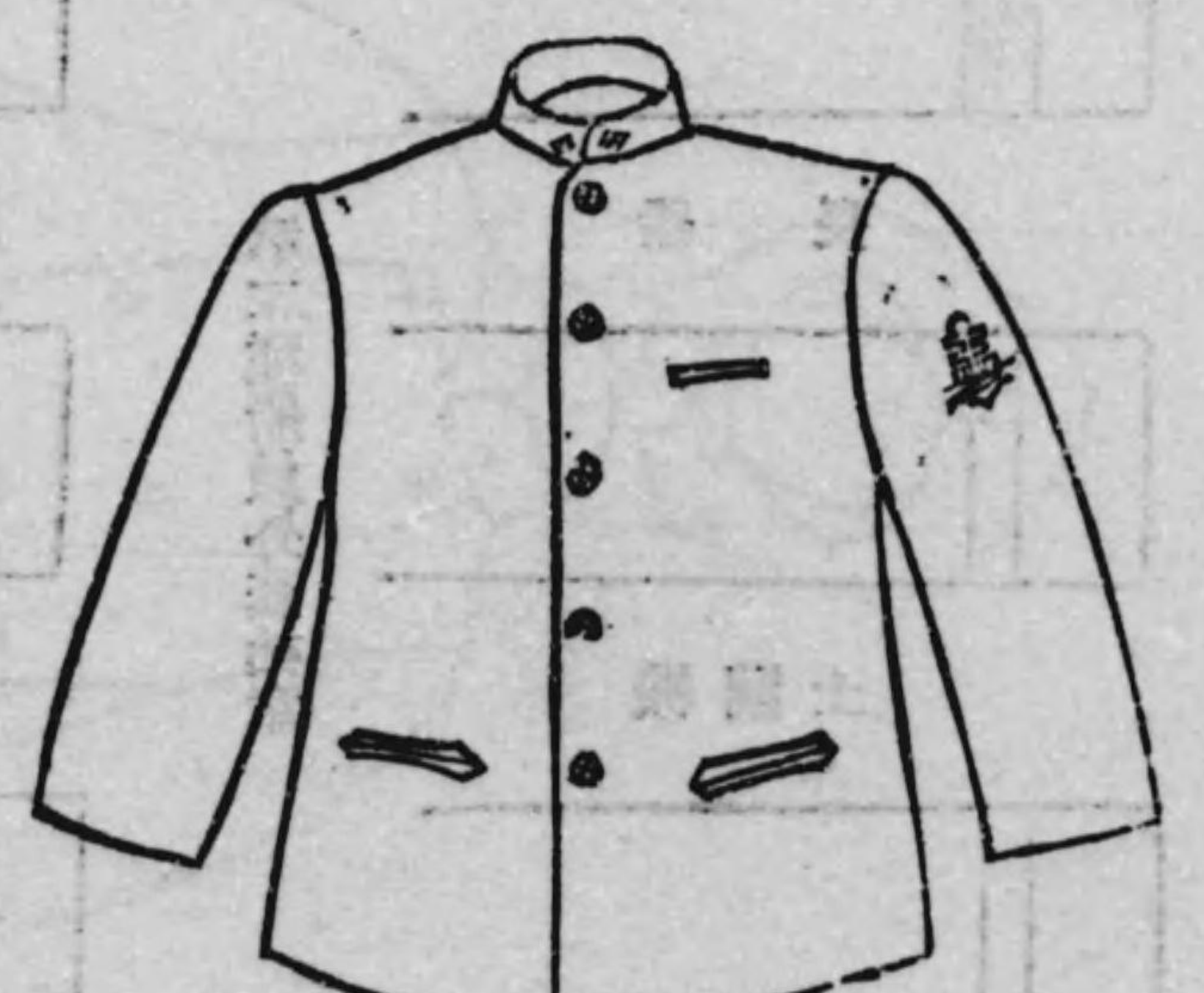
胸釦



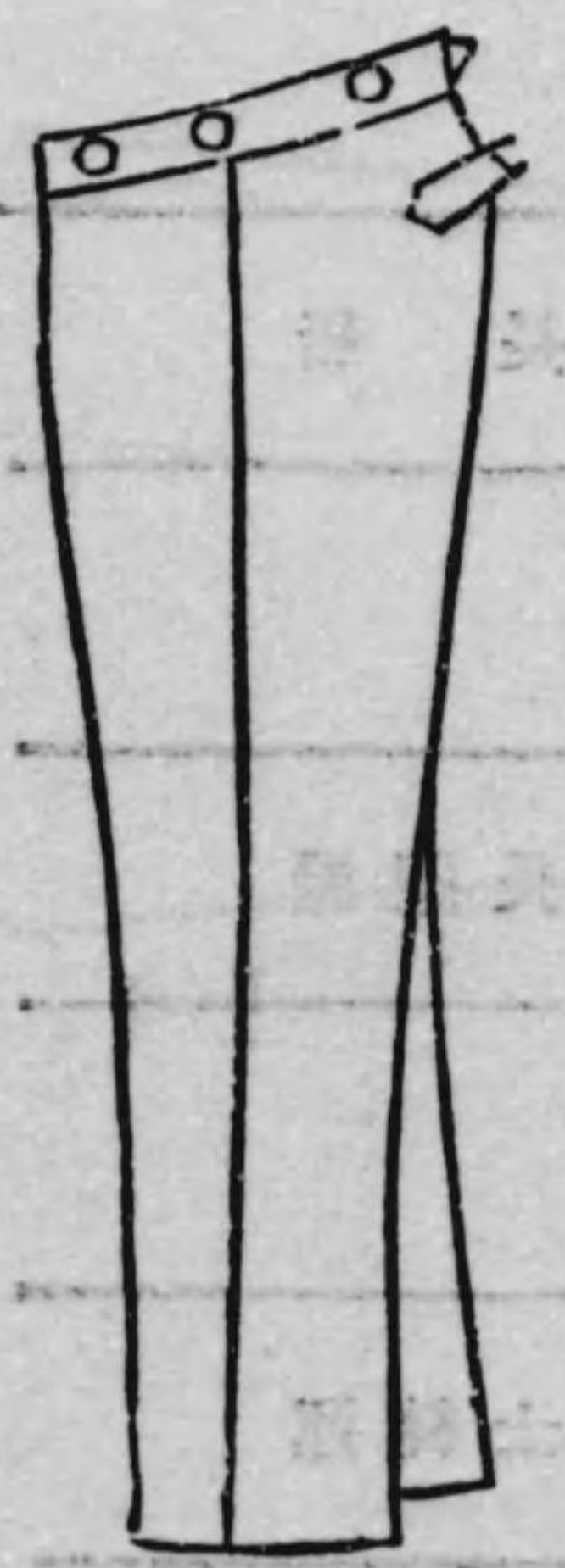
領章釦

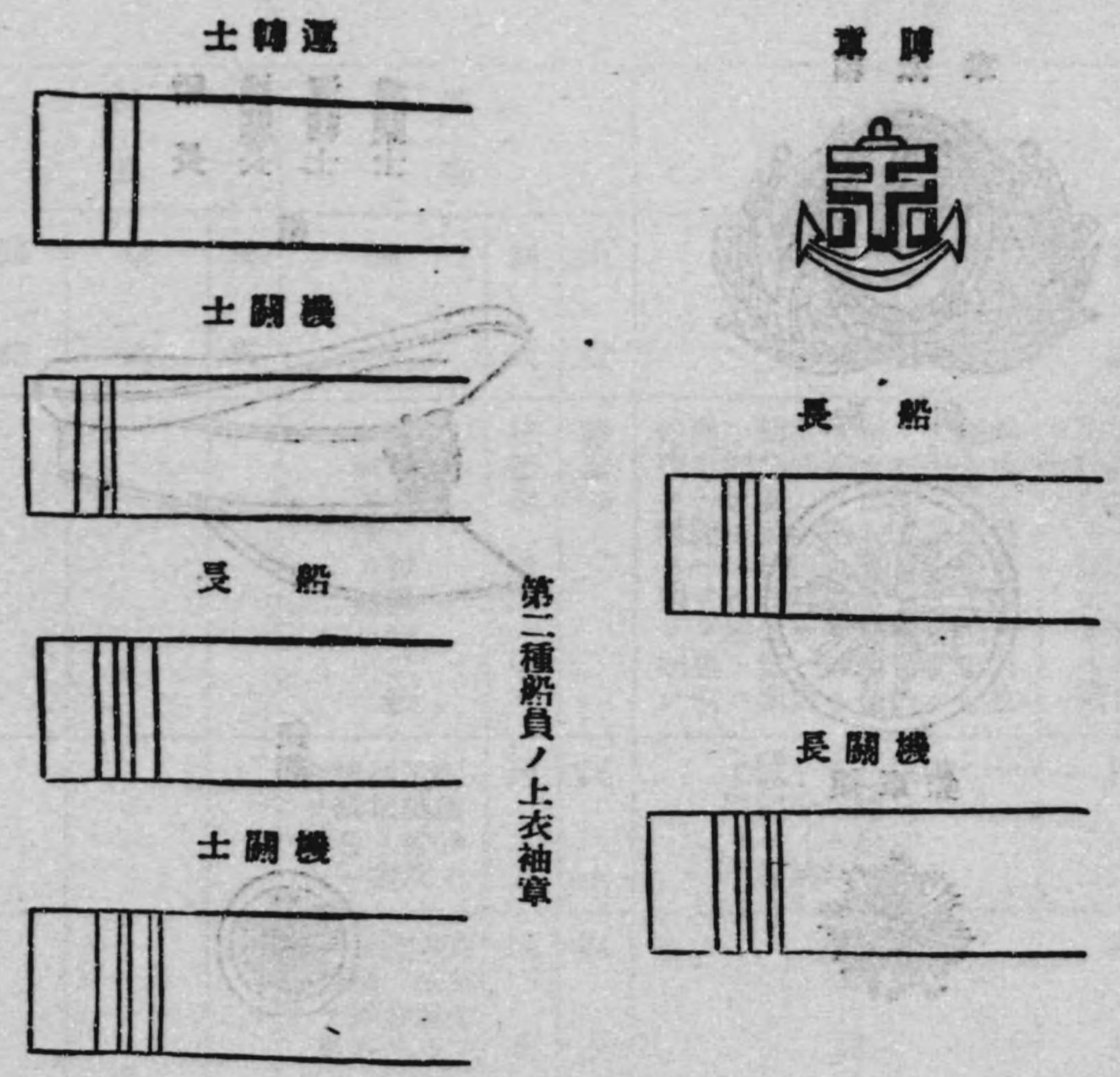


上衣



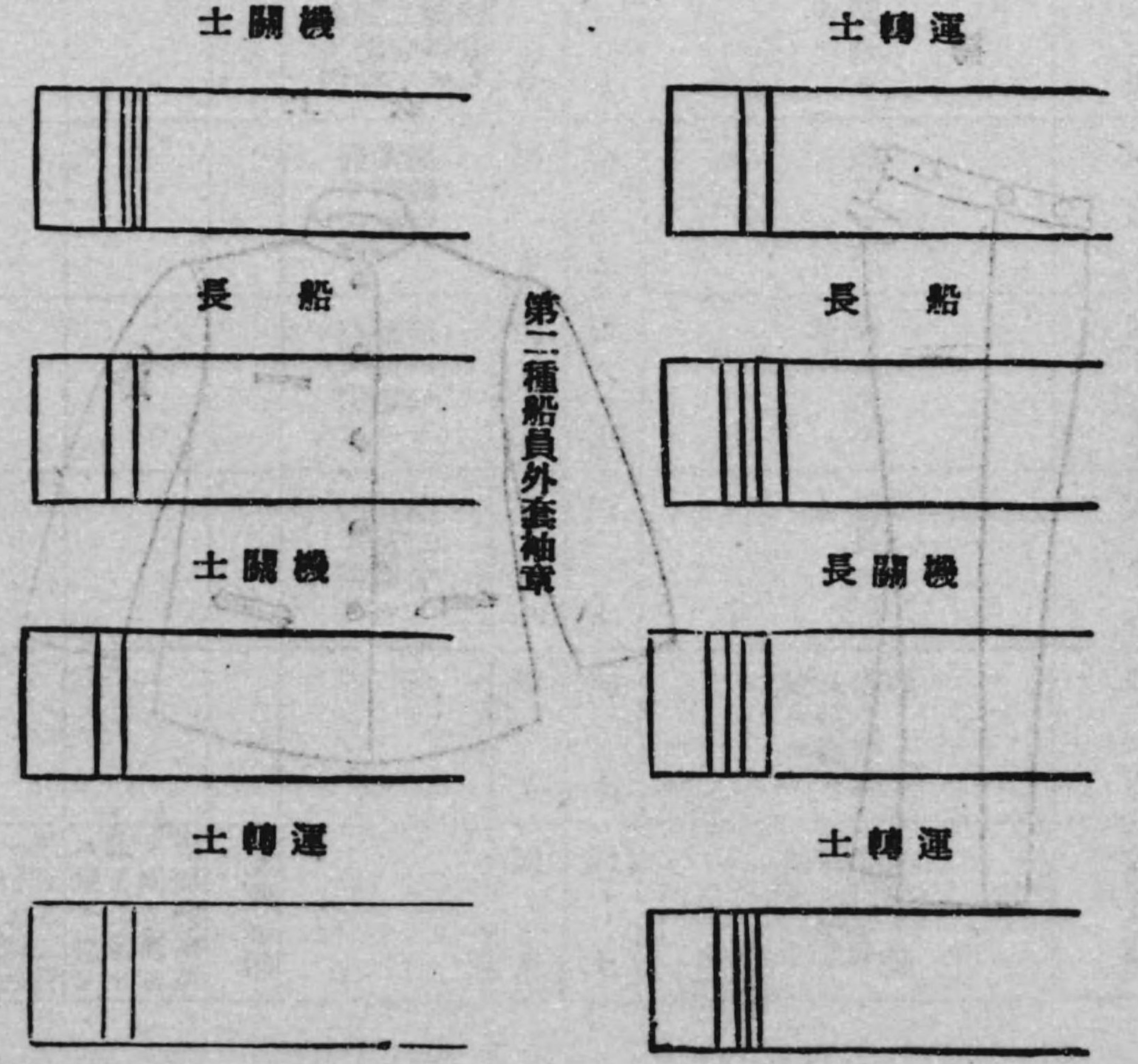
袴




第一種船員ノ上衣袖章

第二種船員ノ上衣袖章

帽章
船長
機關長
運轉士
機關士
船長
機關士

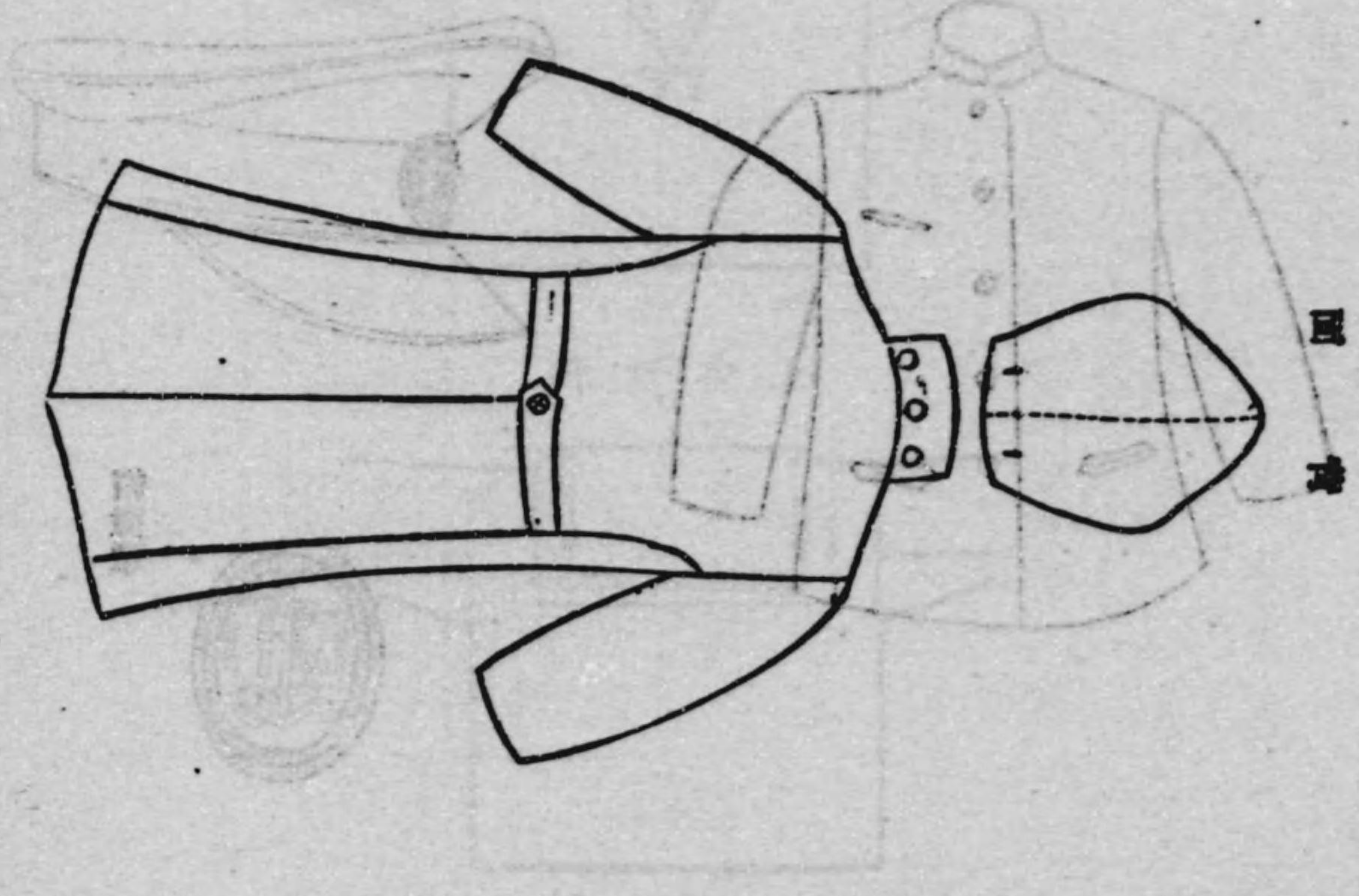

第一種船員外套袖章

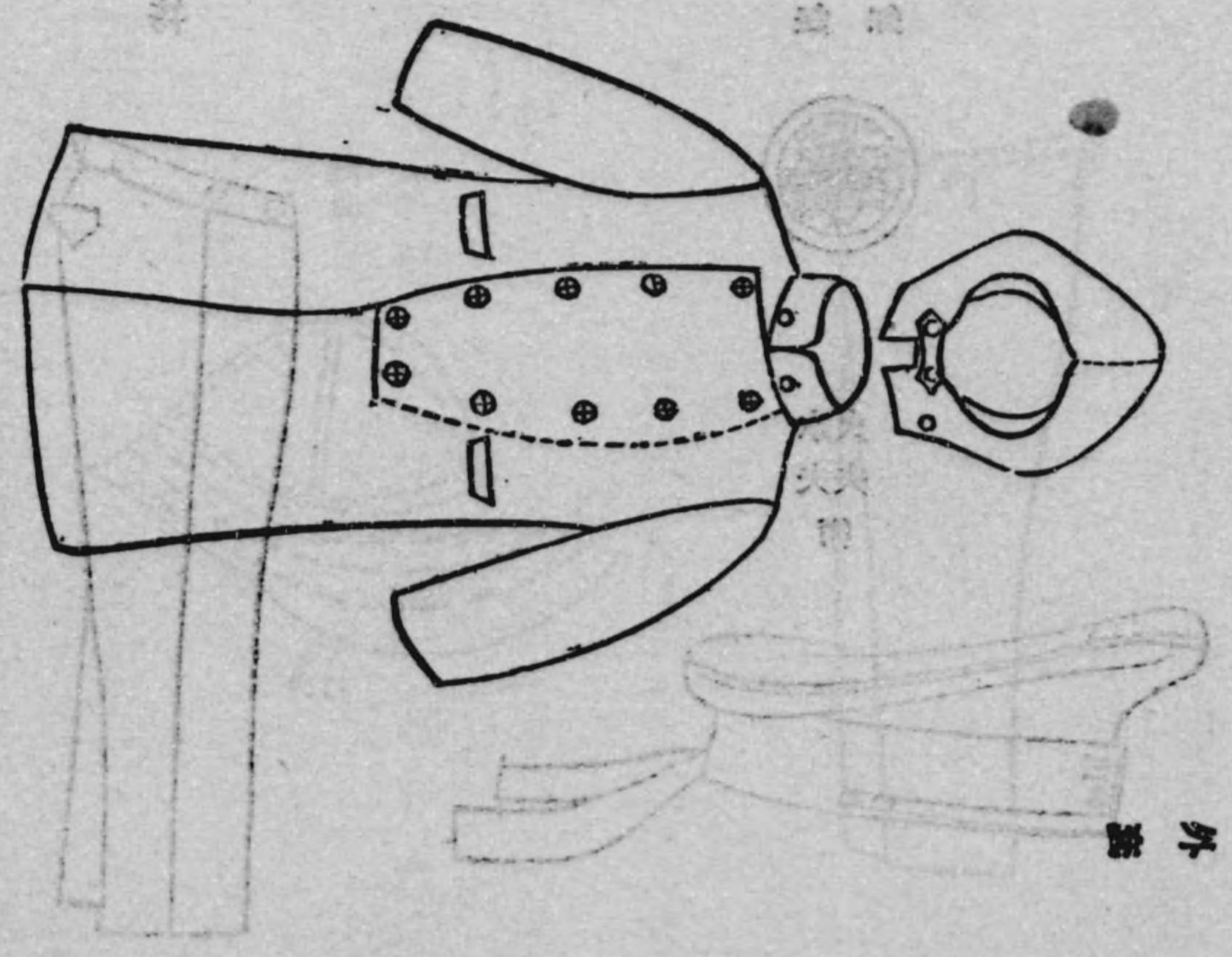
第二種船員外套袖章

運轉士
船長
機關長
運轉士
機關士
船長
機關士
運轉士

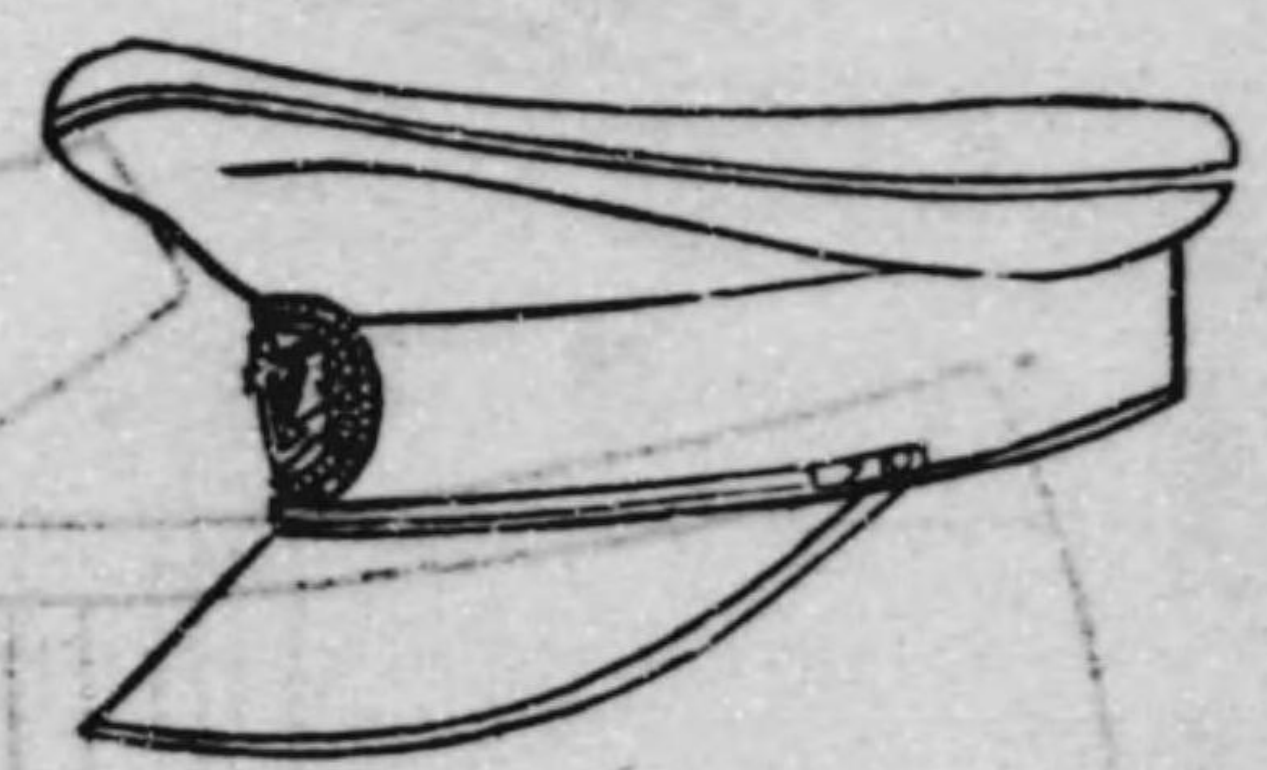
參照〕

〔參照〕

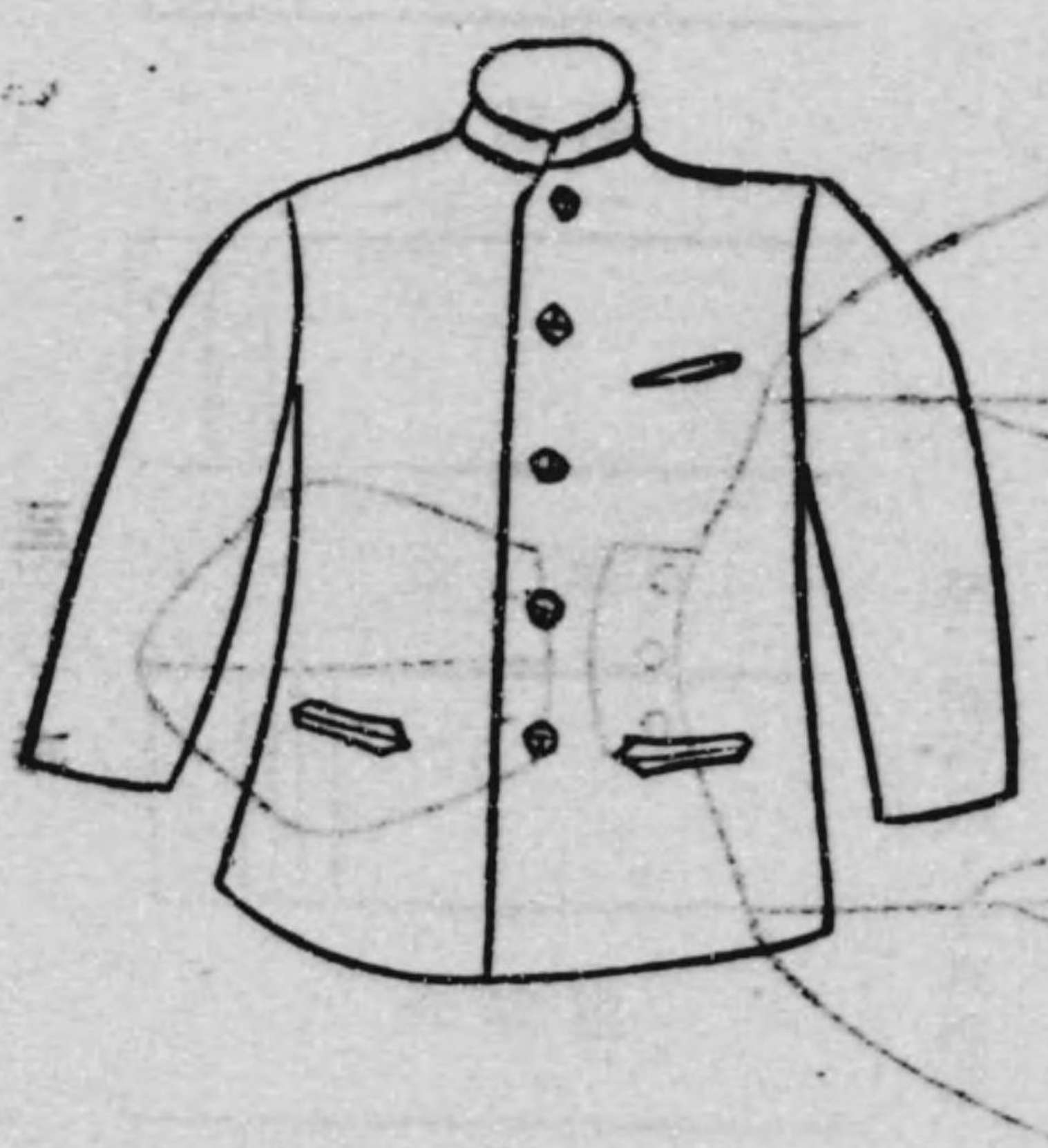

背面


前面

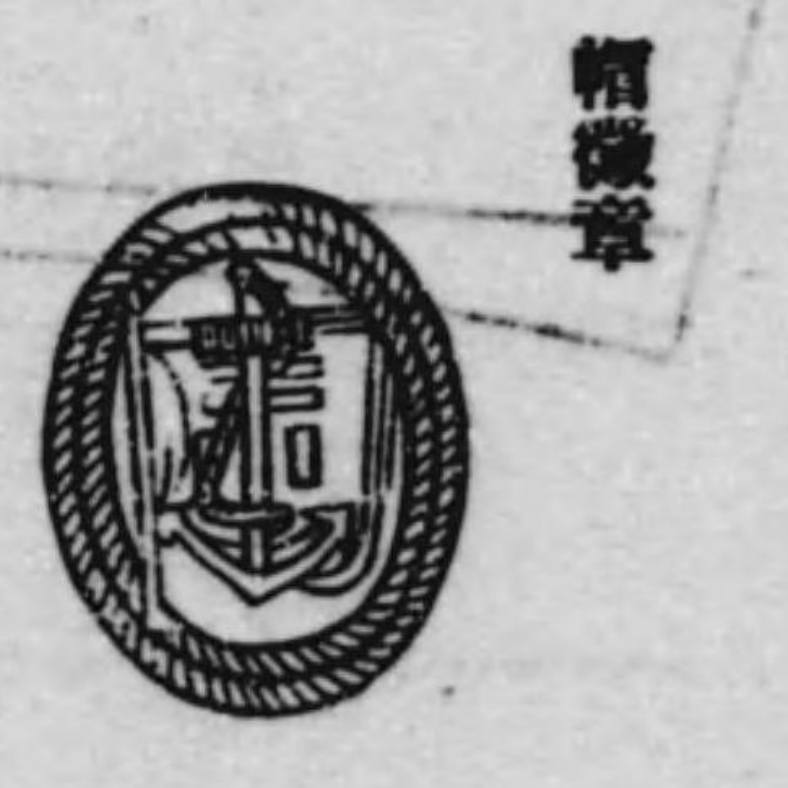
外套



水夫長 火夫長 帽（一等油差）

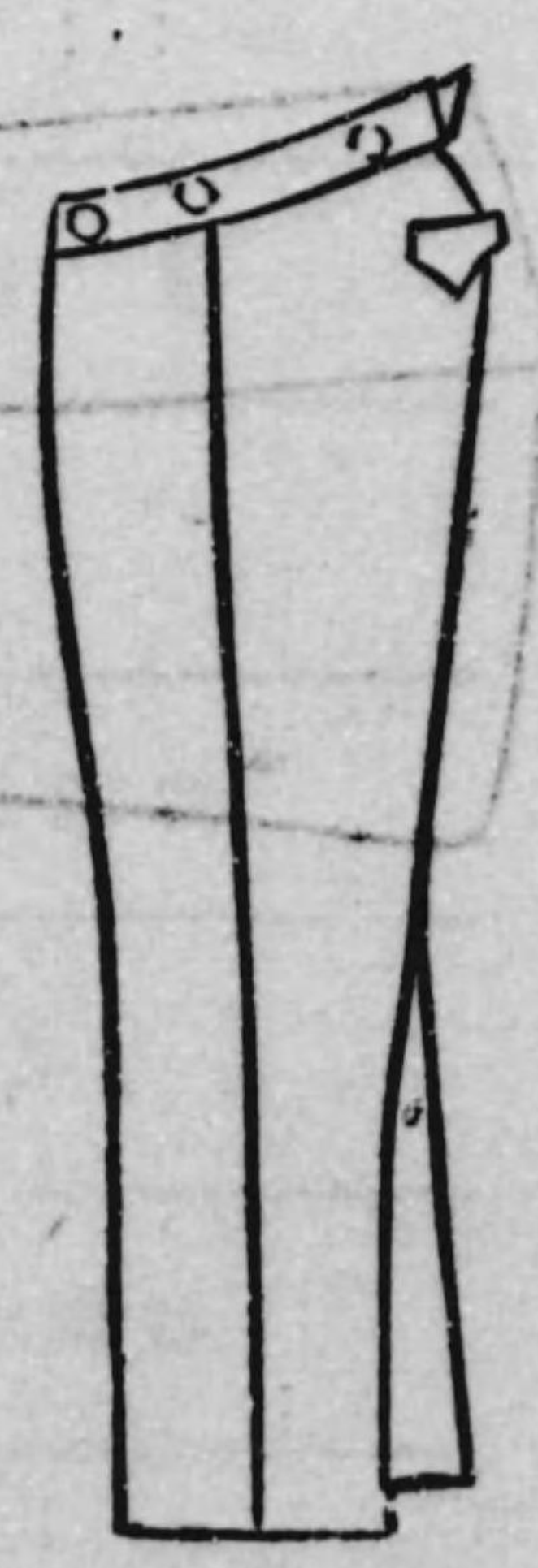


上衣

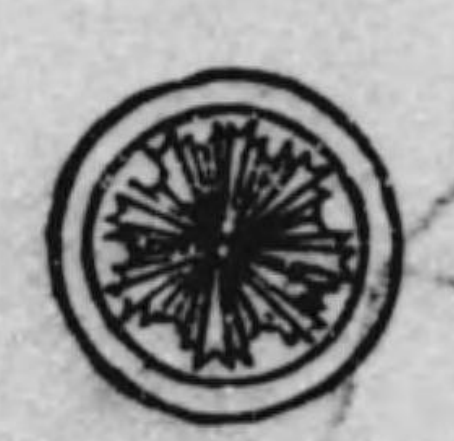


帽徽章

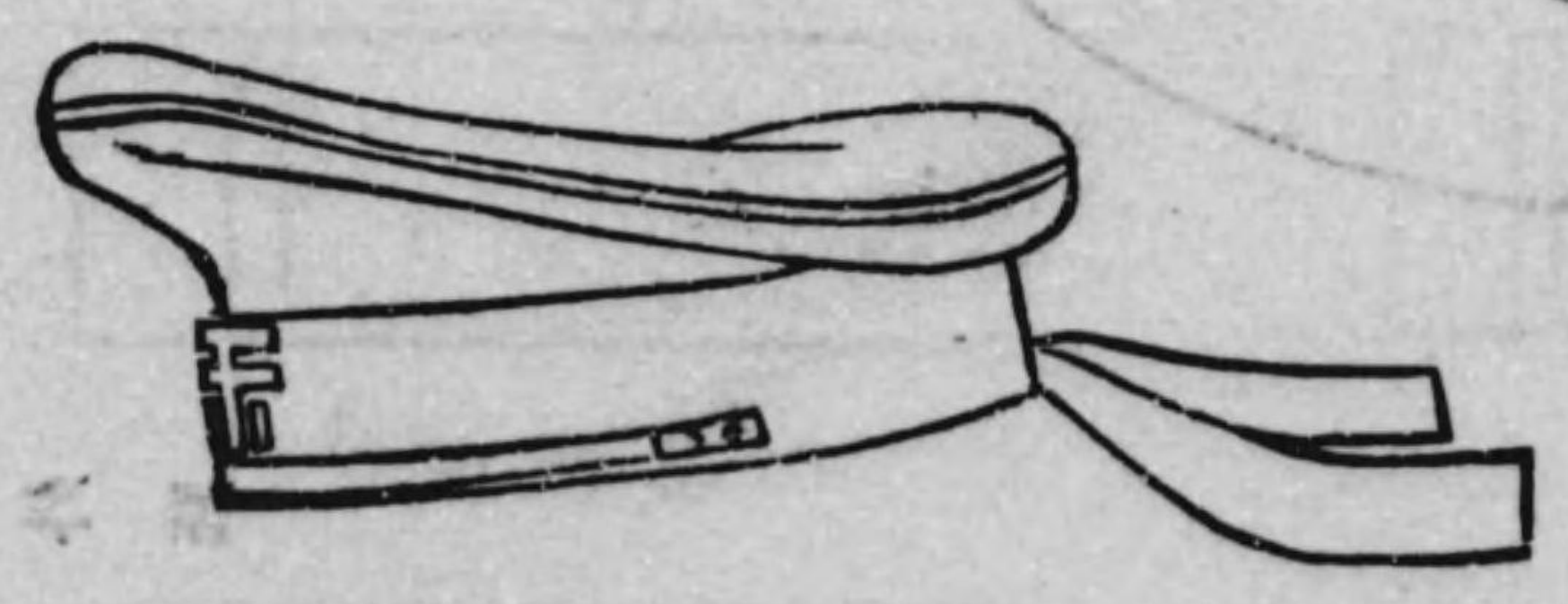
〔參考〕



袴



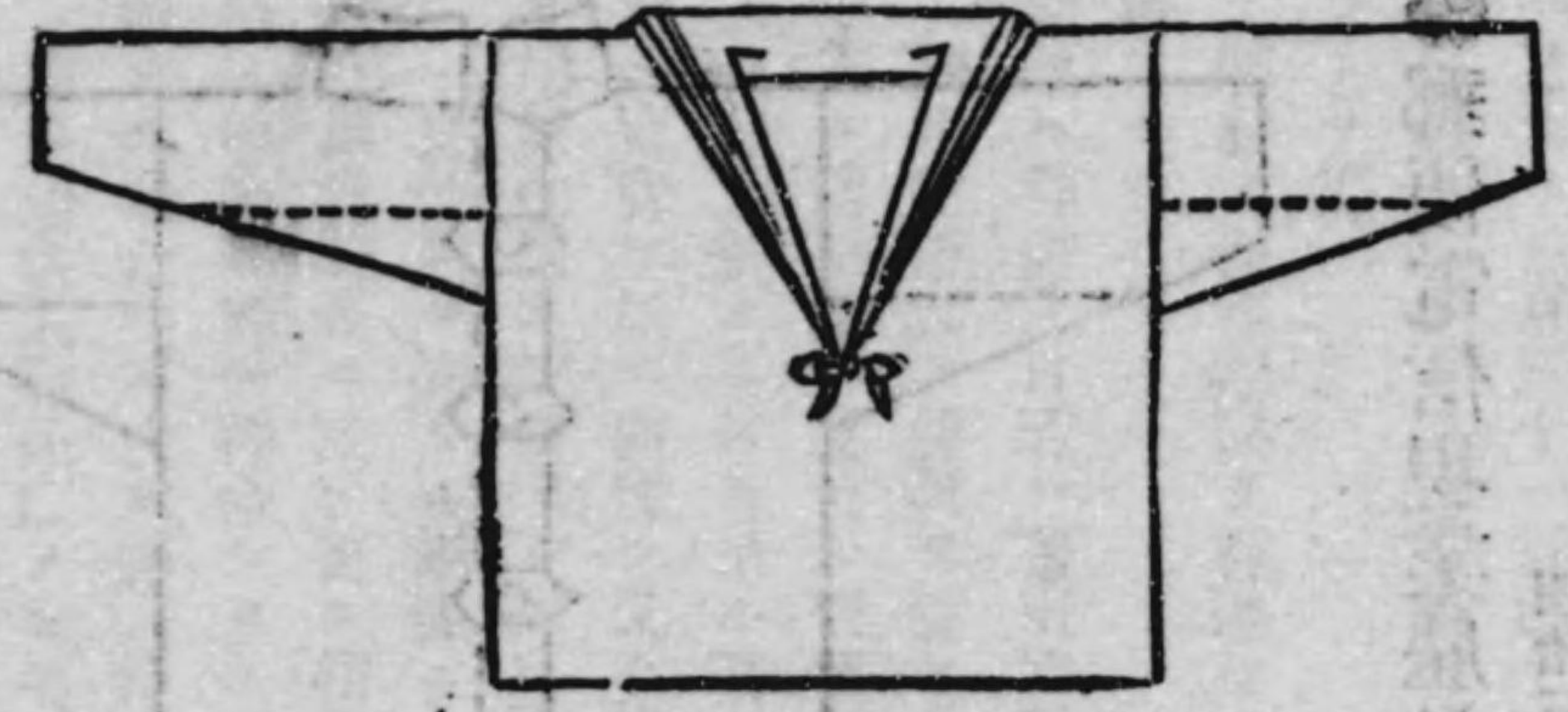
釦鈕



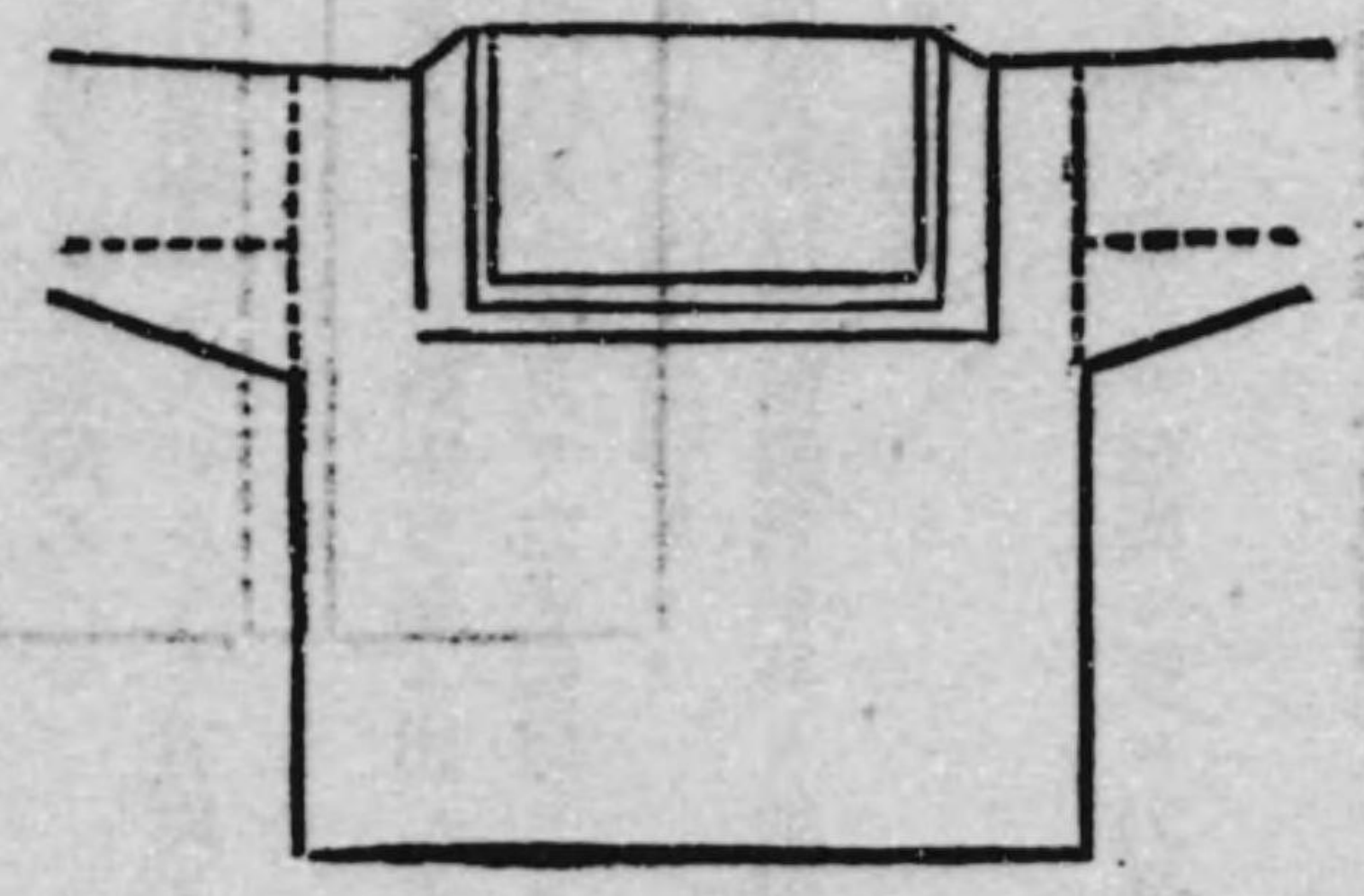
水夫 火夫 帽

〔參考〕

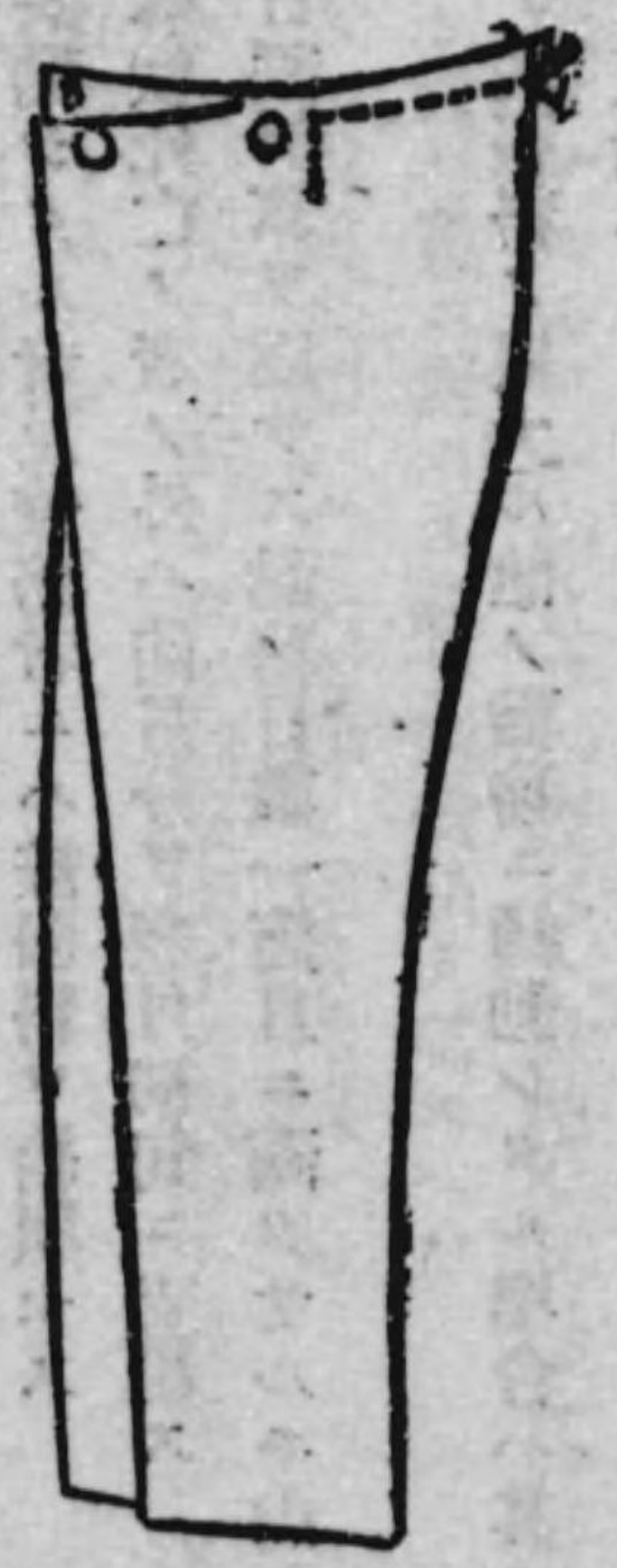
上衣前面



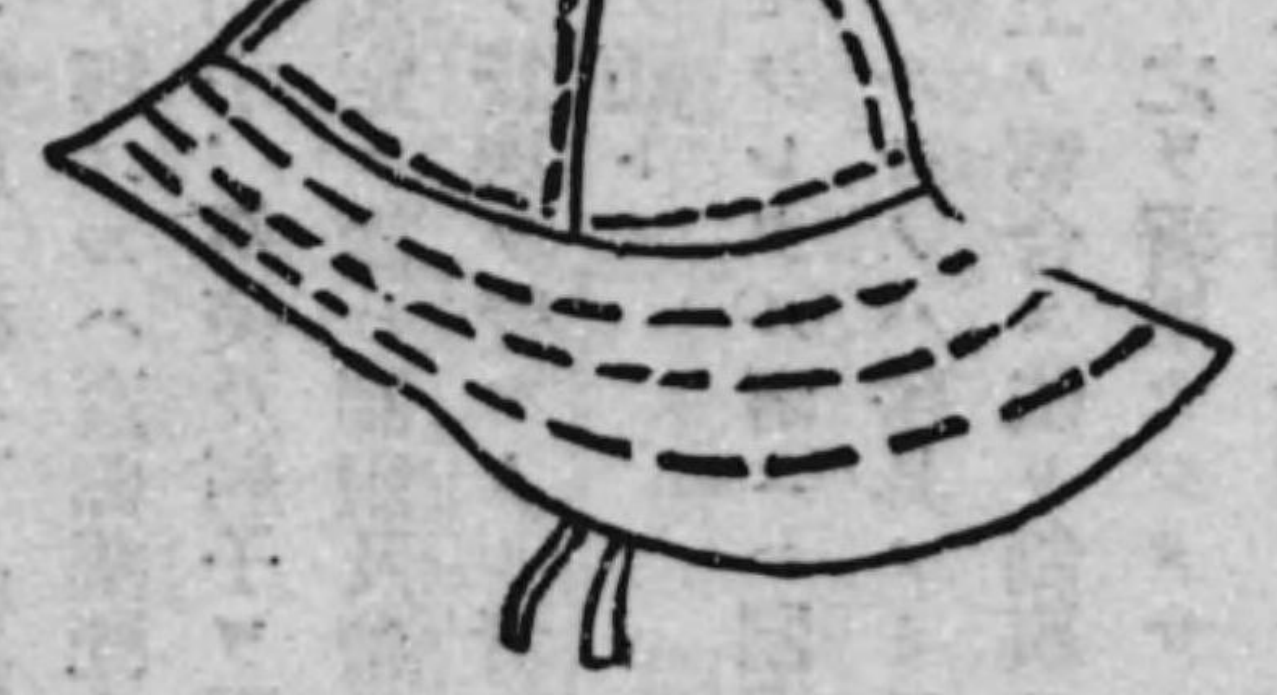
上衣背面

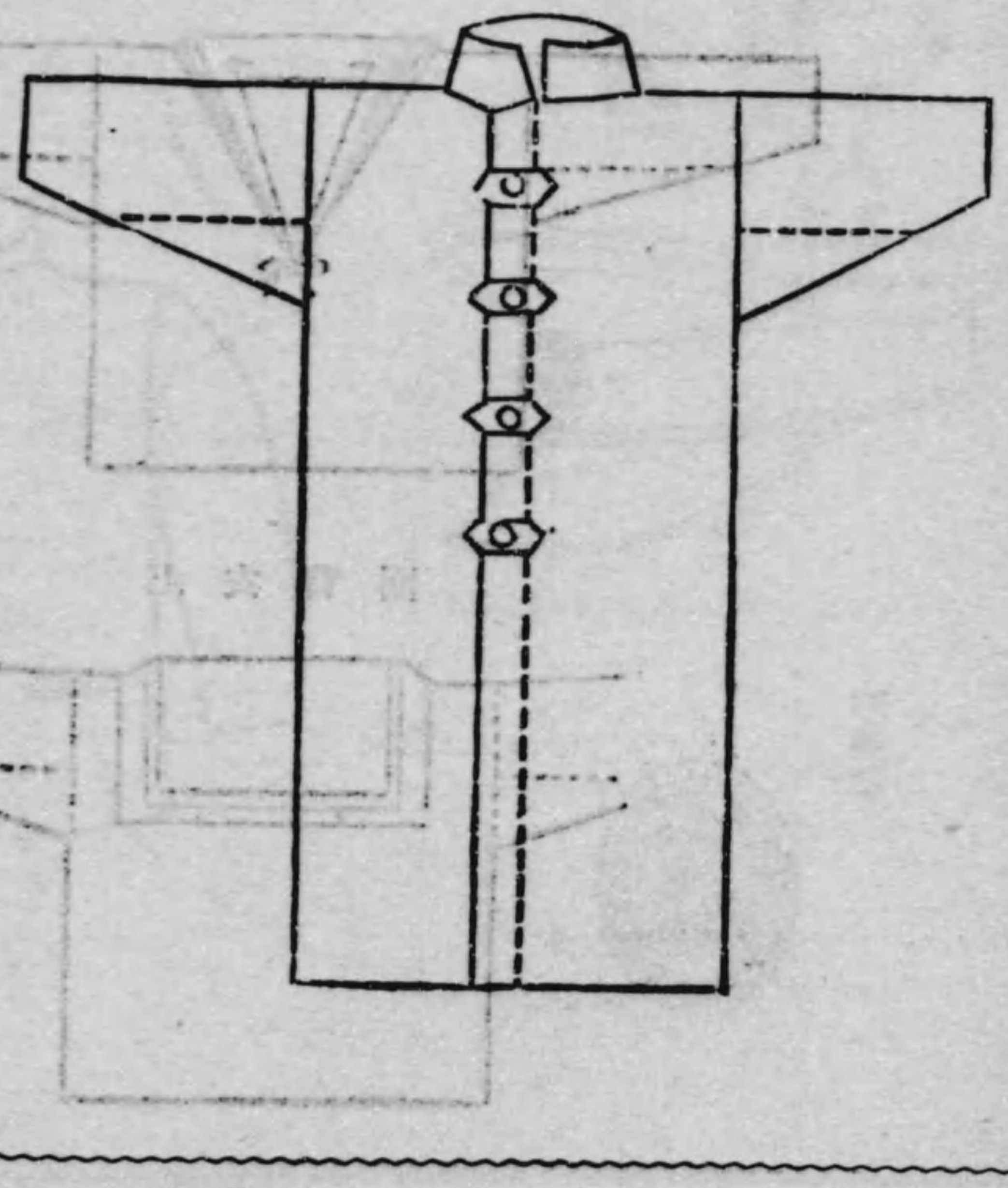


袴



雨具





●郵便電信現業雇員傭員制服帶具規則

明治三十五年十二月
臺灣總督府訓令第三百十七號

改正 大正八年訓令第七八號、九年第二五一號、昭和二年第二二二號

交通局 臺灣總督府各郵便局

郵便電信現業雇員傭員制服帶具規則左ノ通相定ム

〔參照〕

郵便電信現業雇員傭員制服帶具規則

第一條 本令ニ於テ現業雇員ト稱スルハ鐵道郵便係員、船舶受渡郵便係員、船内郵便係員（以下單ニ係員ト稱ス）、監視員（三等局監視員ヲ除ク）及通信工手ヲ、現業傭員ト稱スルハ直傭集配人、遞送人、郵便夫、通信工夫、通信職工、原動助手、信使及舸子ヲ謂フ

現業雇員傭員ニハ第三條ノ規定ニ從ヒ制服及帶具ヲ貸與スヘキニ依リ服務中ハ制服ヲ著シ尚帶具ノ貸與ヲ受ケタル者ハ其ノ帶具ヲ携帶スヘシ制服ノ圖式ハ別記第一號ノ通トス

係員監視員ノ臨時補充ヲ命セラレタル者ニハ制服ヲ交付セサルコトアルヘシ但シ帶具貸與ノ規定アルモノハ帶具ノミヲ貸與スヘシ

監視員ハ服務中ト雖モ視察上ノ都合ニ依リ制服ヲ著用セサルヲ便宜ト認ムルトキハ所屬局長ニ於テ之ヲ著用セシメサルコトヲ得

第二條 現業雇員傭員ニハ靴又ハ草鞋ノ費用トシテ別記第二號ニ從ヒ被服料ヲ給與スヘキニ依リ制服ヲ著用シタルトキハ著用種別ニ從ヒ靴若ハ草鞋ヲ穿ツヘシ但シ普通三等局現業傭員竝臨時補充ヲ命セラレタル者、全月缺勤シタル者及兼務者ニハ被服料ヲ給與セス

被服料ハ解職死亡ノ者ノ外ハ前月分ヲ翌月初旬ニ支給ス

被服料ハ日割計算ヲ爲サス勤務日數一箇月ニ滿タサルモ尚全部ヲ支給ス

月半ニシテ被服料ノ異ナル他ノ職務ニ轉勤シタル場合ハ其ノ月ニ限リ高額ノ分ヲ支給ス

第三條 貸與スヘキ制服帶具ノ種類員數及保存期限ハ特ニ指定スル局ヲ除クノ外ハ別記第三號ノ通トス但シ帶具ハ保存期限ヲ設ケス使用ニ堪ヘサルニ至リタル場合ニ於テ交換貸與ス

第四條 現業雇員傭員ハ制服ヲ著用シタルトキハ職務上必要ナラサル物品ヲ携帶シ又ハ私ニ其ノ制服帶具ヲ交換貸與スルコトヲ得ス

第五條 制服ノ著用期限ハ夏服ハ四月一日ヨリ十月三十一日迄多服ハ十一月一日ヨリ三月三十一日迄トス但シ氣候ノ寒暖ニ依リ所屬局長ニ於テ適宜伸縮スルコトヲ得又帽二箇ノ交付ヲ受クルモノハ相互混用セシムルコトヲ得

第六條 制服ノ保存期限ヲ經過シタルモノハ其ノ本人ニ給與シ更ニ代品ヲ貸與スヘシ

保存期限ハ拜命ノ日若ハ著用當期ノ初日ヨリ起算ス

第七條 制服竝帶具ノ貸與ヲ受ケタル者ハ自費ヲ以テ補綴洗淨其ノ他相當ノ手入ヲ爲シ最善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ之ヲ保管スヘシ

職務ノ執行上避クヘカラサル事由ニ依リ制服又ハ帶具ヲ亡失毀損シタルトキハ官費ヲ以テ修理シ又ハ代品ヲ貸與スヘシ其疎慮怠慢ニ出ツルモノハ相當代價ヲ辨償セシムヘシ

第八條 一旦使用ヲ經タル制服ニシテ尚保存期限内ニアルモノヲ貸與スル場合ハ當該局長ニ於テ更ニ相當ノ保存期限ヲ定メ貸與スヘシ

著用期ノ中途ニ於テ拜命シタル者ニ貸與シ及第七條第二項ニ依リ代品ヲ貸與スル場合ハ可成本條ノ特定保存期限ノモノヲ貸與スヘシ

第九條 雇員傭員退職死亡ノトキハ保存期限ヲ經過セサル制服竝帶具ヲ速ニ返納セシムヘシ

（別表）

第一號

第十條 第七條第二項末段ニ於ケル辨償金額ハ原價ノ月割計算ニ依リ厘以下ヲ切捨ツヘシ

辨償金ノ月割計算ハ暦ヲ以テ之ヲ爲シ（例之ハ一月十五日貸與ノモノハ翌月十四日ニ至リ一箇月ト見做スノ類）一箇月ニ滿タサルモノハ尚之ヲ一箇月ト見做シ其保存期限ヨリ經過月數ヲ控除シ殘月數ニ對スル額ヲ辨償額ト爲スヘシ

第十一條 所屬局長ハ貸與シタル制服保存ノ適否ヲ檢査シ又ハ局員ヲシテ之ヲ檢査セシムヘシ

第十一條ノ二 此ノ規則ニ依ル能ハサル事情アルトキハ特ニ指定シタル局ニ限リ別ニ定ムル所ニ依ルコトヲ得

第十二條 此ノ規則施行前調製シタル制服ハ當分ノ内取交セ使用セシムルコトヲ得

附則

本令ハ明治三十六年一月一日ヨリ施行ス

明治二十九年十一月民訓第四十七號、同第四十八號、同第六十號、明治三十年十二月訓令第百七十六號、同第百七十七號、明治三十一年二月訓令第二十九號、明治三十二年七月訓令第百九十四號、同第百九十五號、明治三十三年十二月訓令第三百五十四號、明治三十四年七月訓令第二百三十九號、同年九月訓令第三百二號ハ廢止ス

別表樣式改正前文但書（昭和二年訓令第二十二號）但シ當分ノ内從前ノ規定ニ依ル制服帶具ヲ併用スルコトヲ得

郵便電信現業雇員傭員制服帶具圖例

種別	上衣					袴		鈕釦	
	地質	製式	徽章			地質	製式	鈕	釦
鐵道郵便係員 監視員	夏ハ紺又ハ鼠セル冬ハ紺ヘル又ハ黑絨	立襟前面鈕釦五個一列夏ハ單冬ハ毛繻子裏付樣式如圖	胸章縱十八耗横二十一耗	櫻花輪廓ハ銀色花瓣ハ綠色	樣式如圖	上衣ニ同ジ	製式如圖	徑十八耗	金鍍金石目艶消平打トス
船内郵便係員 船舶受渡郵便係員	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
通信工手	同上	同上	同上	櫻花輪廓銀花瓣白色	同上	同上	同上	同上	同上
集配人	夏ハ鼠セル色小倉又ハ鼠色交織麻布冬ハ黑ヘル又ハ紺小倉	立襟前面鈕釦五個一列夏ハ單冬ハ白雲齋裏付樣式如圖	襟章OP交叉	徑十八耗輪廓銀色トシ他ハ紅色七寶燒トス	同上	同上	同上	同上	銀鍍金石目艶消平打トス
遞送人	同上	同上	同上 同上	白色	同上	同上	同上	同上	同上
郵便夫	同上	同上	同上 同上	青色	同上	同上	同上	同上	同上
通信工夫	同上	同上	同上	徑十八耗輪廓工字銅色生地ハ白色七寶燒	同上	同上	同上	同上	同上
信使	同上	同上	同上	徑十五耗金屬製鍍銀	同上	同上	同上	同上	同上
原簿助手	同上	同上	同上 同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
舸子	同上	海軍水兵型樣式如圖				同上	同上		
通信職工	同上	作業上衣樣式如圖				同上	同上	同上	同上

〔差替〕

〔差替〕

種別	帽					雨具		雨笠	
	地質	製式	徽章			地質	製式	地質	製式
鐵道郵便係員 監視員	冬帽ハ黑絨夏帽ハヘルメツト形表鼠色麻布裏麻布	冬帽前庇表黑革裏付トシ支革黑塗支革兩端ニ金鍍金鈕釦徑九耗ノ革留ヲ附ス	前章	縱三十耗横三十六耗櫻花及蕾ハ銀モール其他ハ金モールトス	樣式如圖				
船内郵便係員 船舶受渡郵便係員	同上	同上	同上	同上	同上				
通信工手	同上	同上	同上	同上	同上				
集配人	同上	同上	同上	徑三十三耗金屬製鍍銀打出	同上	黑防水布鈕釦上衣ニ同シ	赤丁字縱四十九耗横六十二耗太サ十二耗横二線ノ明キ七耗樣式如圖		
遞送人	同上	同上	同上	同上	同上	同上（鈕釦ナシ）	赤丁字縱百二耗横九十三耗太サ二十四耗横二線ノ明キ十二耗樣式如圖		
郵便夫	同上	同上	同上	同上	同上				
通信工夫	同上	同上	同上	同上	同上	同上 同上			
信使	同上	同上	同上	同上	同上				
原簿助手	同上	同上	同上	同上	同上				
舸子	同上	水兵型樣式如圖	局名ハ金文字トス		同上	雲齋油引鈕釦集配人雨具ニ同ジ	赤縱二十四耗横三十一耗太サ六耗横二線ノ明キ三分	「サウエスター」	赤縱三十一耗横三十六耗太サ六耗横二線ノ明キ三耗
通信職工									

外套 地質	外套 製式	脚絆 地質	脚絆 製式	長靴下 地質	長靴下 製式
黒絨裏毛繻子袖章幅十五粍黒毛織	様式如圖				
同上	同上				
同上	同上				
		紺木綿裏浅黄木綿コハセ止	様式如圖	木綿製トス	
		同上	同上		
同上	同上	同上	同上		
同上	同上	同上	同上		

備考
一長靴下ハ市内電報配達集配人ニ限リ支給ス
一取締役ハ上衣第二鈕釦併行左方胸部ニ取締役牌ヲ附著スルモノトス
一集配人雨具ハ二種何レヲ使用セシムルモ任意トス

第二號

被服料及著用種別

係員	一箇月	金七拾五銭	靴
監視員	同	金壹圓五拾銭	靴
通信工手	同	金壹圓	靴
通信工夫	同	金壹圓	草鞋
遞送人集配人	同	金七拾五銭	靴又ハ草鞋
[illegible]子	同	金四拾五銭	靴又ハ草鞋
郵便夫	同（内勤） （外勤）	金四拾銭 金七拾五銭	靴又ハ草鞋
原簿助手及信使	同	金四拾銭	鞜

【[illegible]輯】

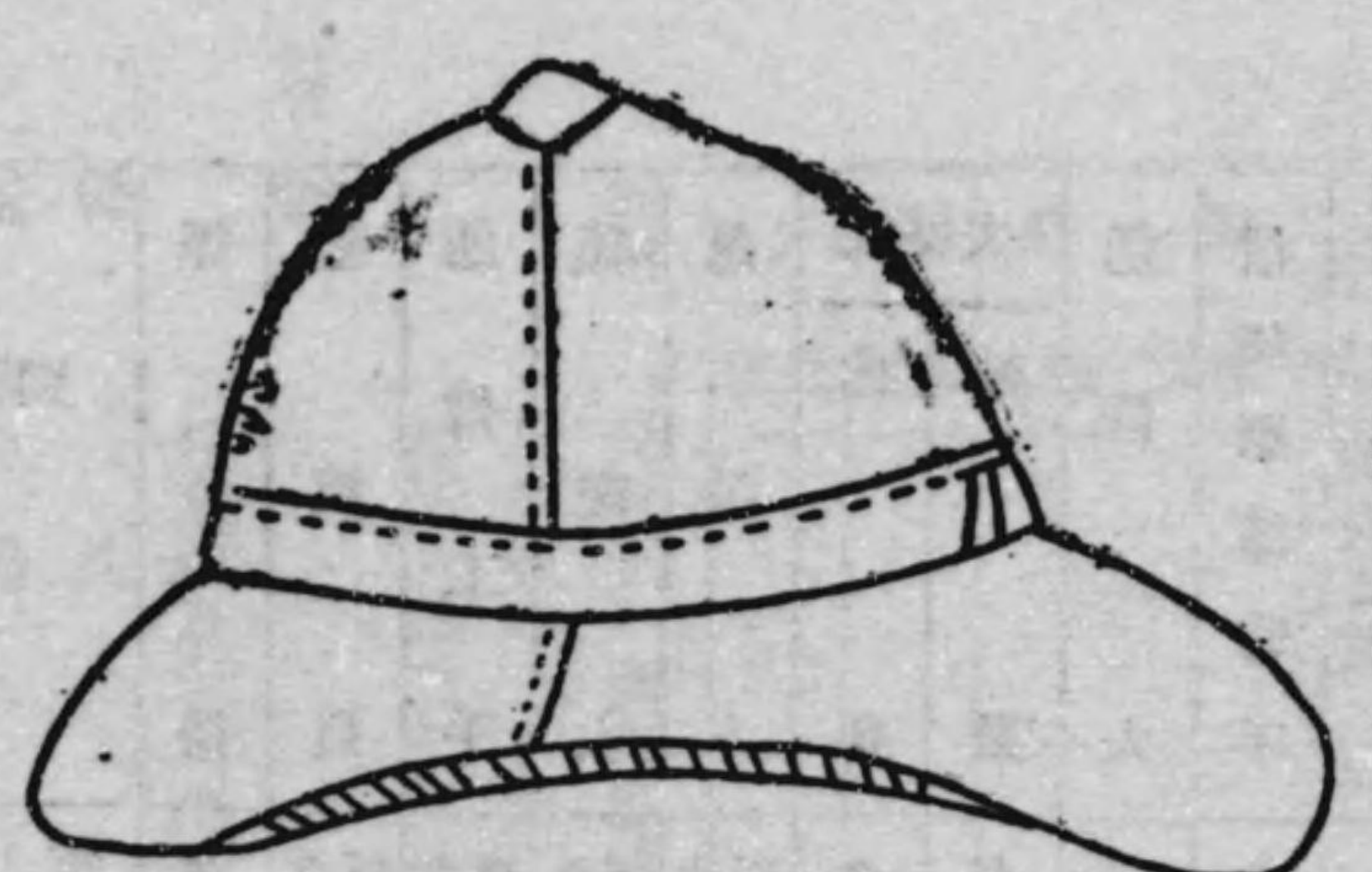
【[illegible]輯】

第三號

品名＼種別	係員	監視員	通信工手	集配人	遞送人	郵便夫 内勤	郵便夫 外勤	通信工夫	信使原簿助手	[illegible]子
制服 帽 箇數	冬一	冬一 夏一	冬一 夏一	冬一 夏一	冬一 夏一	冬一	冬一	一	冬一	一
制服 帽 日覆箇數	一					一	一	一	一	一
制服 帽 期限	一年	二年 一年	二年 一年	二年 一年	二年 一年	二年	一年	一年	一年	一年
制服 夏服 箇數	一	一	一	二	二	二	二	二	二	二
制服 夏服 期限	一年	一年	一年	一年	一年	一年	一年	一年	一年	一年
制服 冬服 箇數	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
制服 冬服 期限	二年	二年	二年	一年	一年	一年	一年	一年	一年	一年
制服 外套 箇數	一	一	一				一	一		一
制服 外套 期限	二年	二年	二年				二年	二年		二年
制服 雨具雨笠 箇數				一	一			一		一
制服 雨具雨笠 期限				一年	一年			二年		一年
制服 脚絆長靴下 箇數				二 二	二		一	三		
制服 脚絆長靴下 期限				一年 一年	一年		一年	一年		
帯具 時計 箇數	一	一					一			
帯具 時計 鎖箇數	一	一					一			
帯具 鞄 箇數	一	一					一			

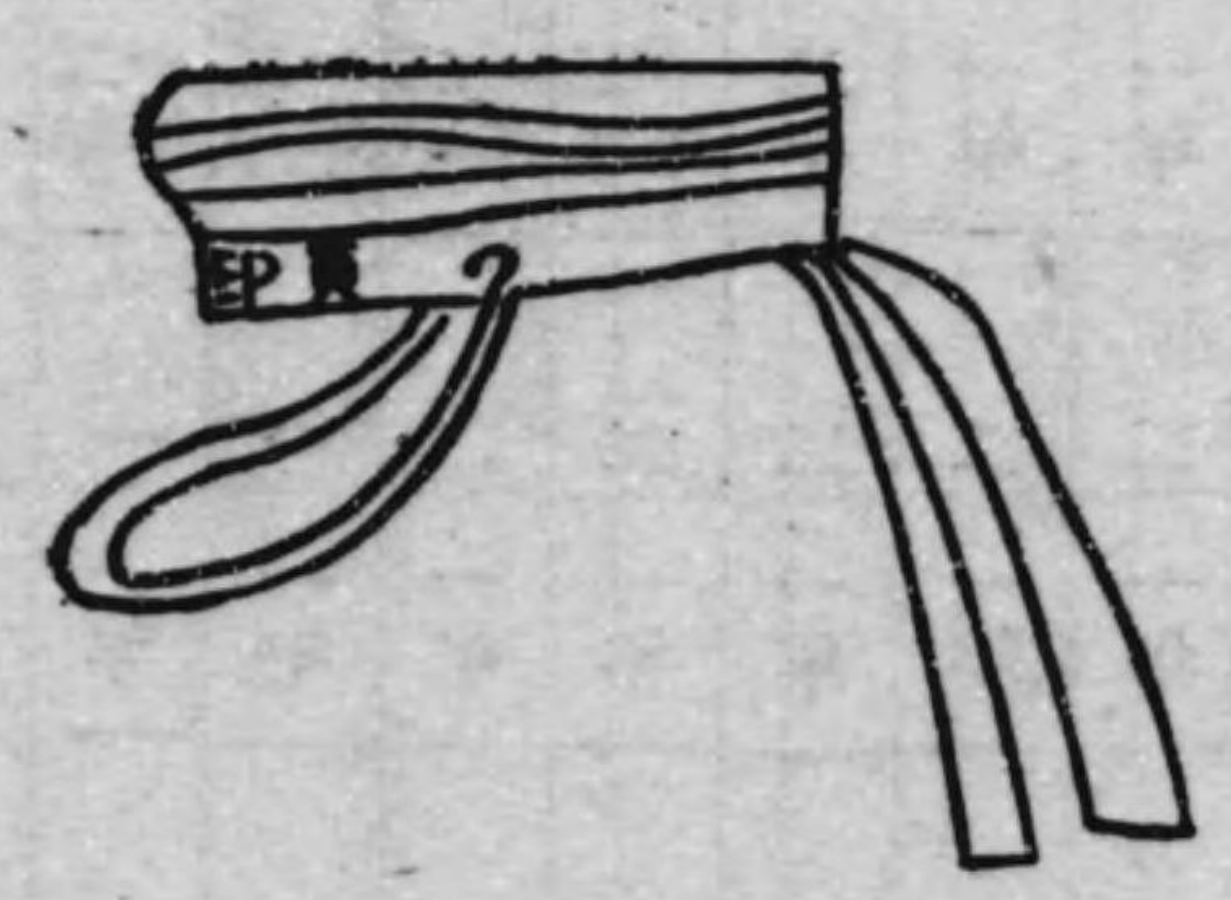
通信職工作業服ハ二著一箇年トス

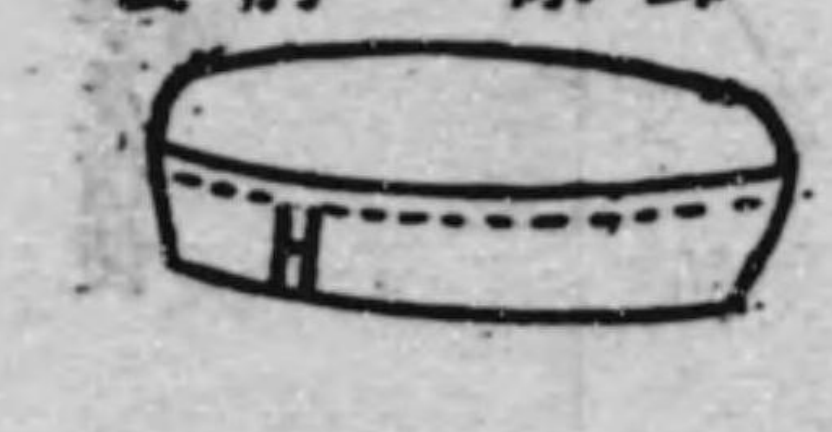
郵便電信現業傭員制服帶具圖



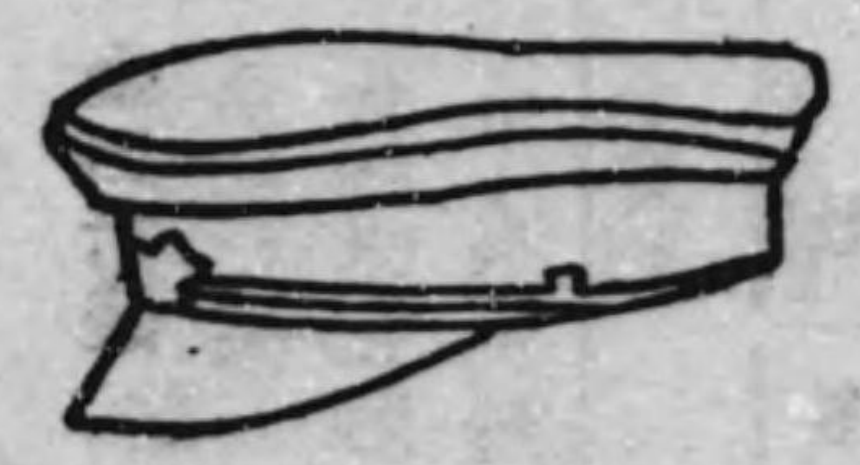
監視員　通信工手
集配人　遞送人夏帽

絅子帽





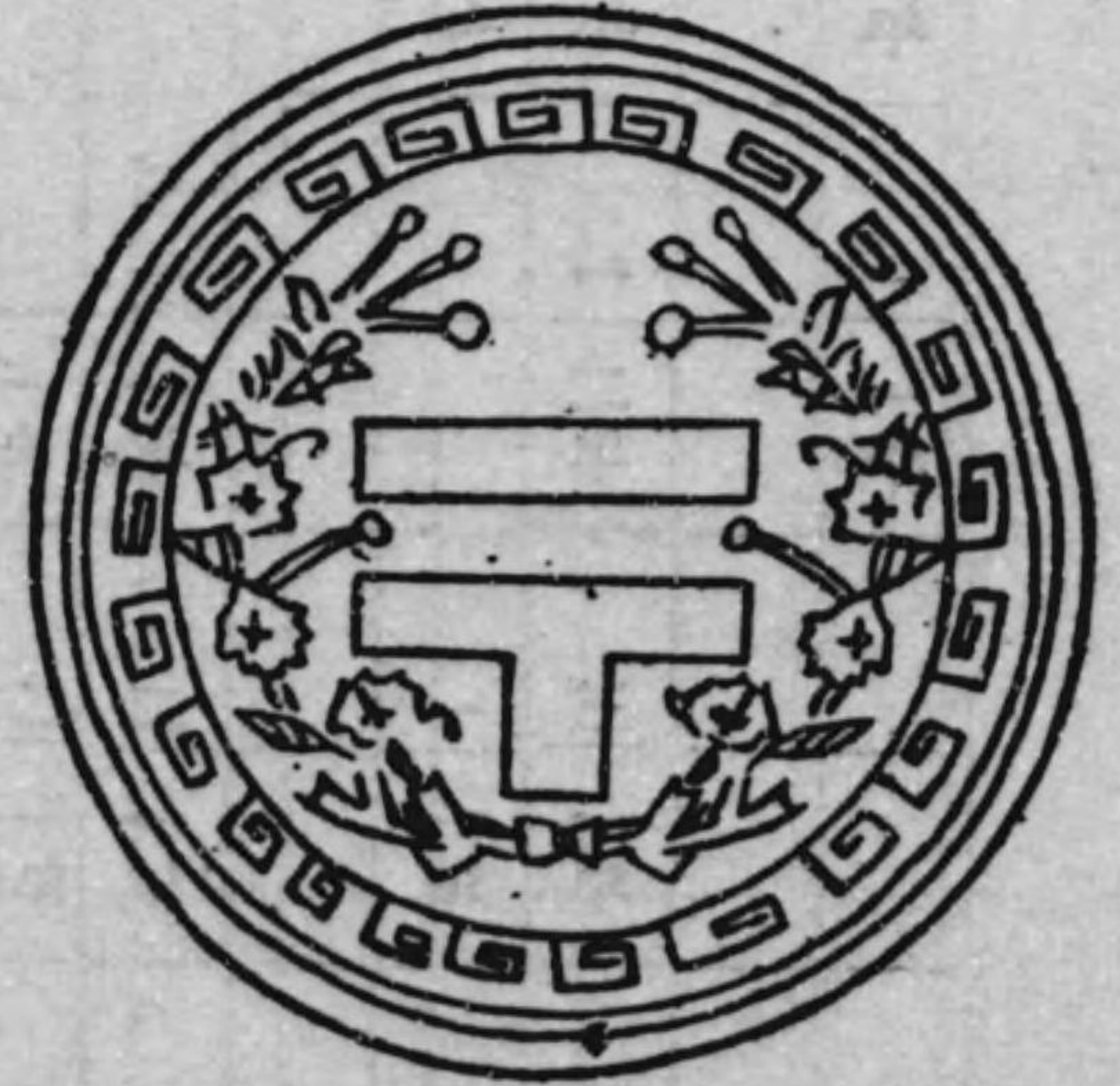
係員、郵便夫、原簿助手、信使、絅子帽日覆



係員、監視員、通信工手、集配人、遞送人、郵便夫、通信工夫、信使、原簿助手帽（通信工夫帽ニハ等級ニ應シ線條ヲ附ス）

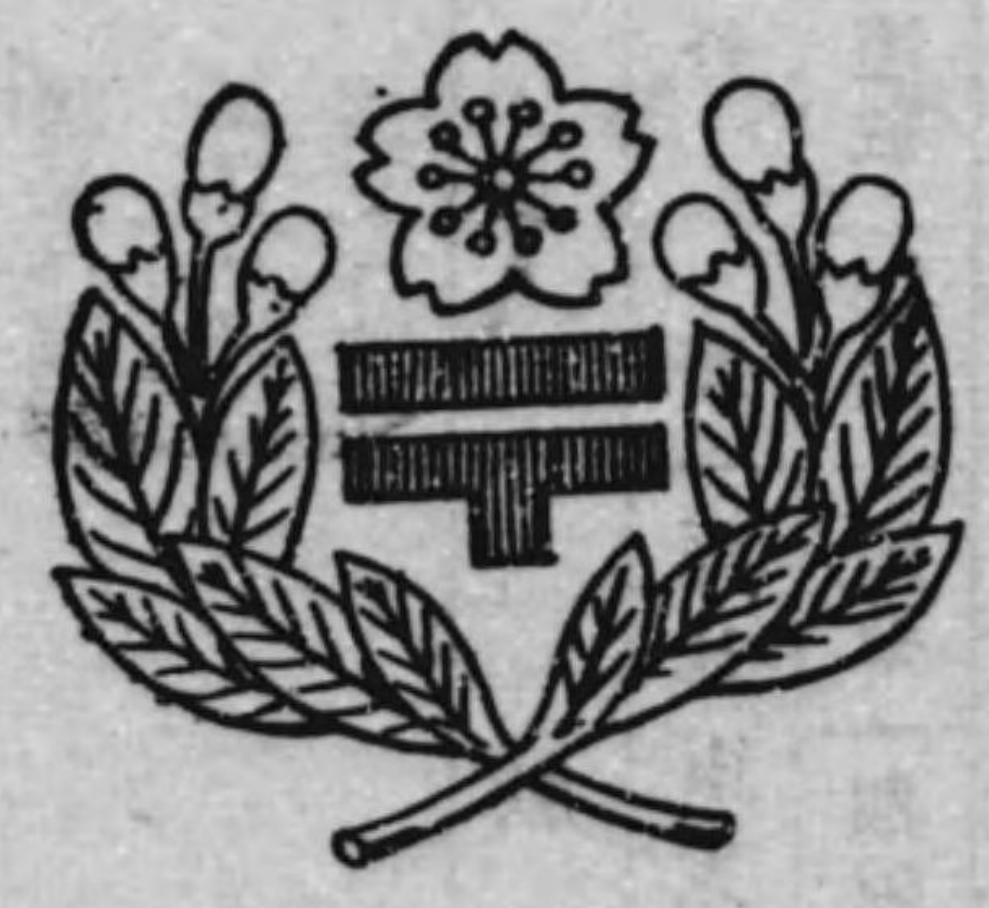
〔參照〕

取締役牌

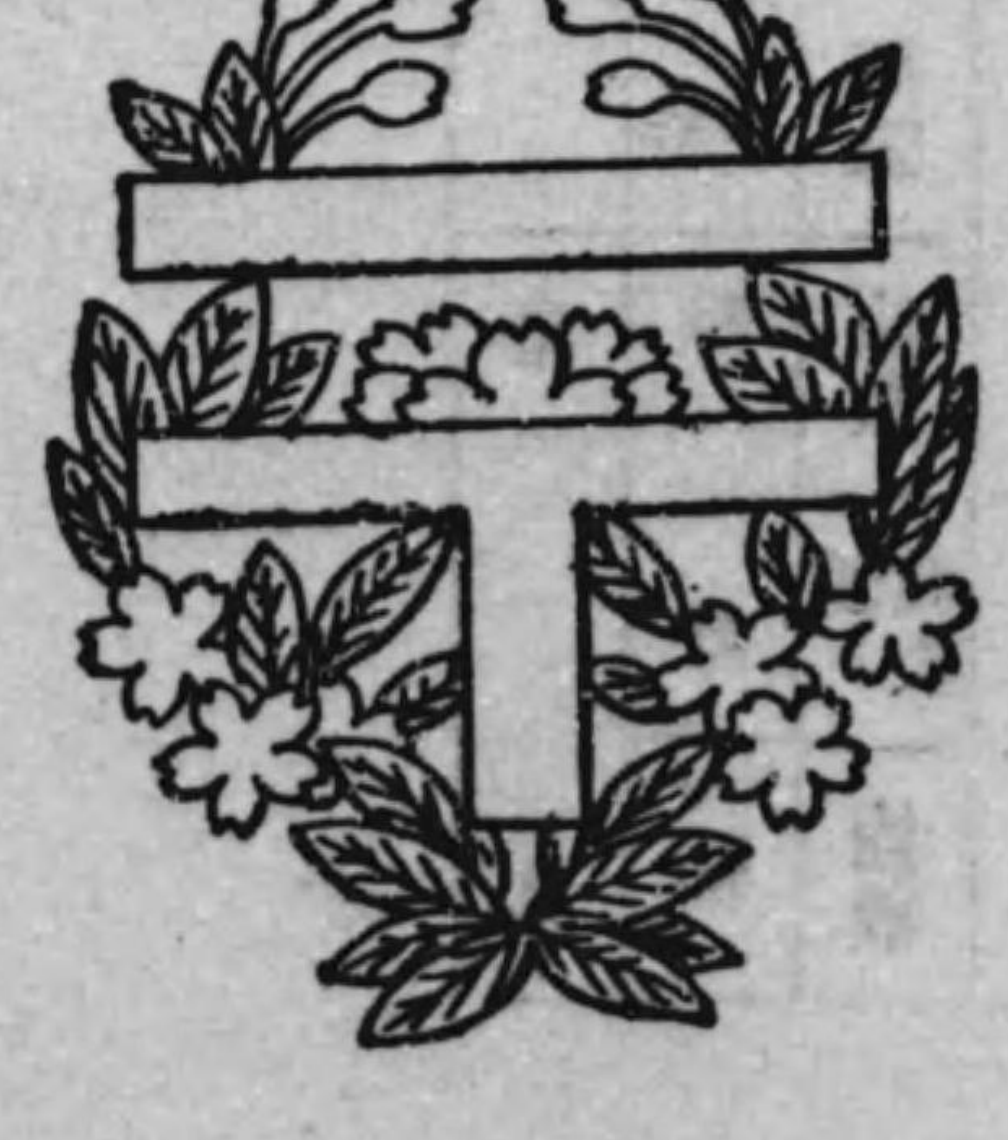


徑三十九粍金屬製
櫻並輪廓鍍金〒字
赤色七寶
地質水色七寶

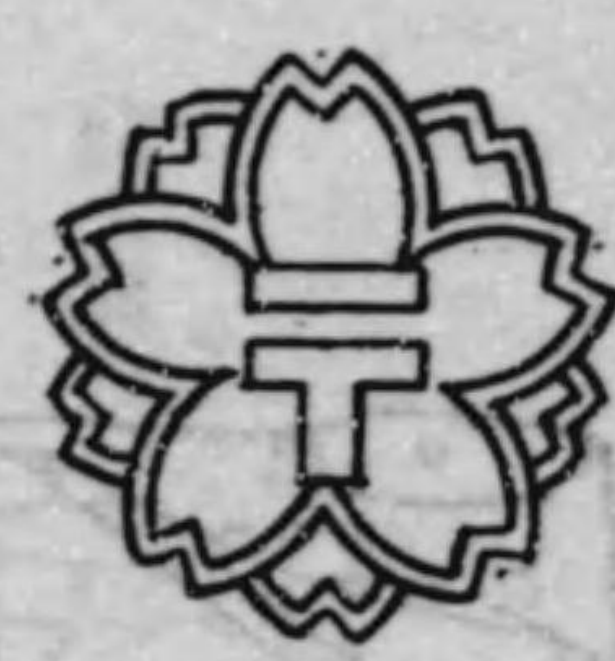
鐵道郵便係員、監視員、船內郵便係員、船舶受渡係員、通信工手帽徽章



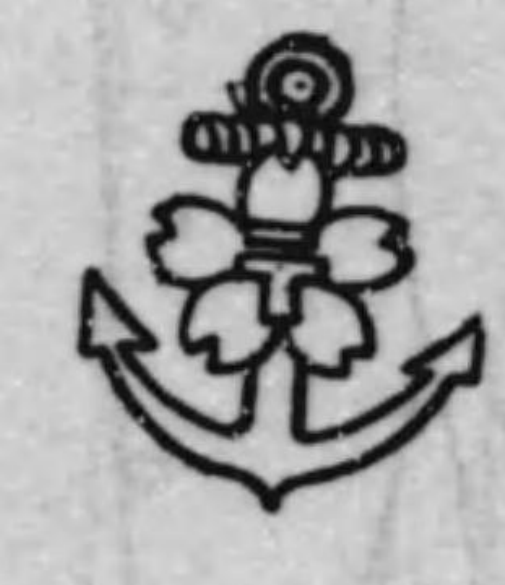
集配人、遞送人、郵便夫
通信工夫、信使、原簿助
手帽徽章



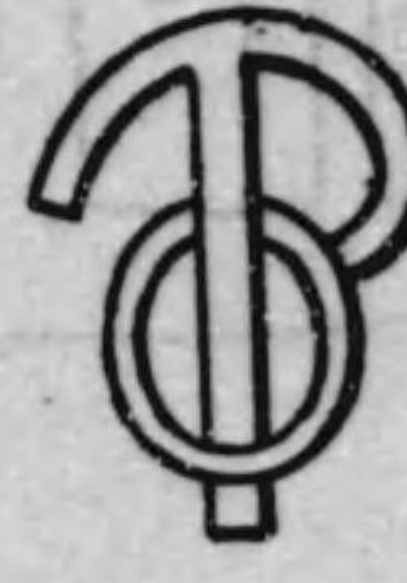
鐵道係員、監視員
通信工手胸章



船舶受渡係員
船內係員胸章

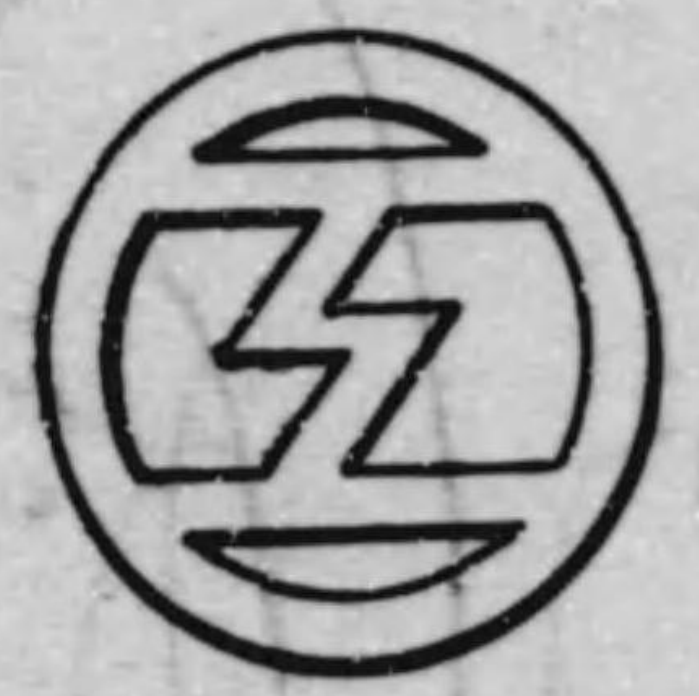


集配人、遞送人
郵便夫襟章

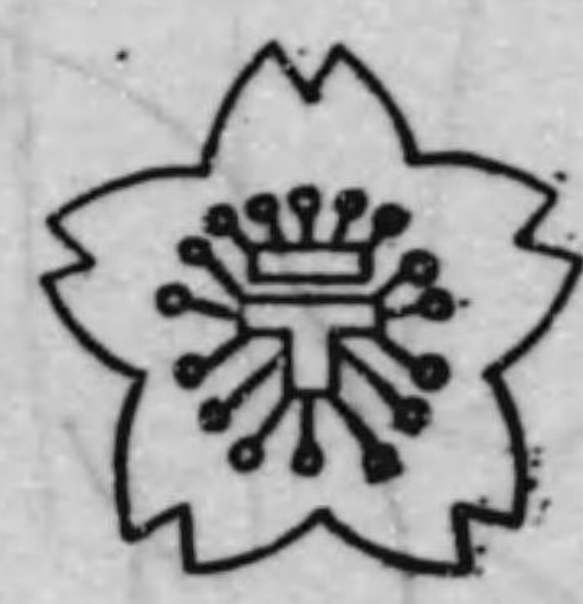


〔參照〕

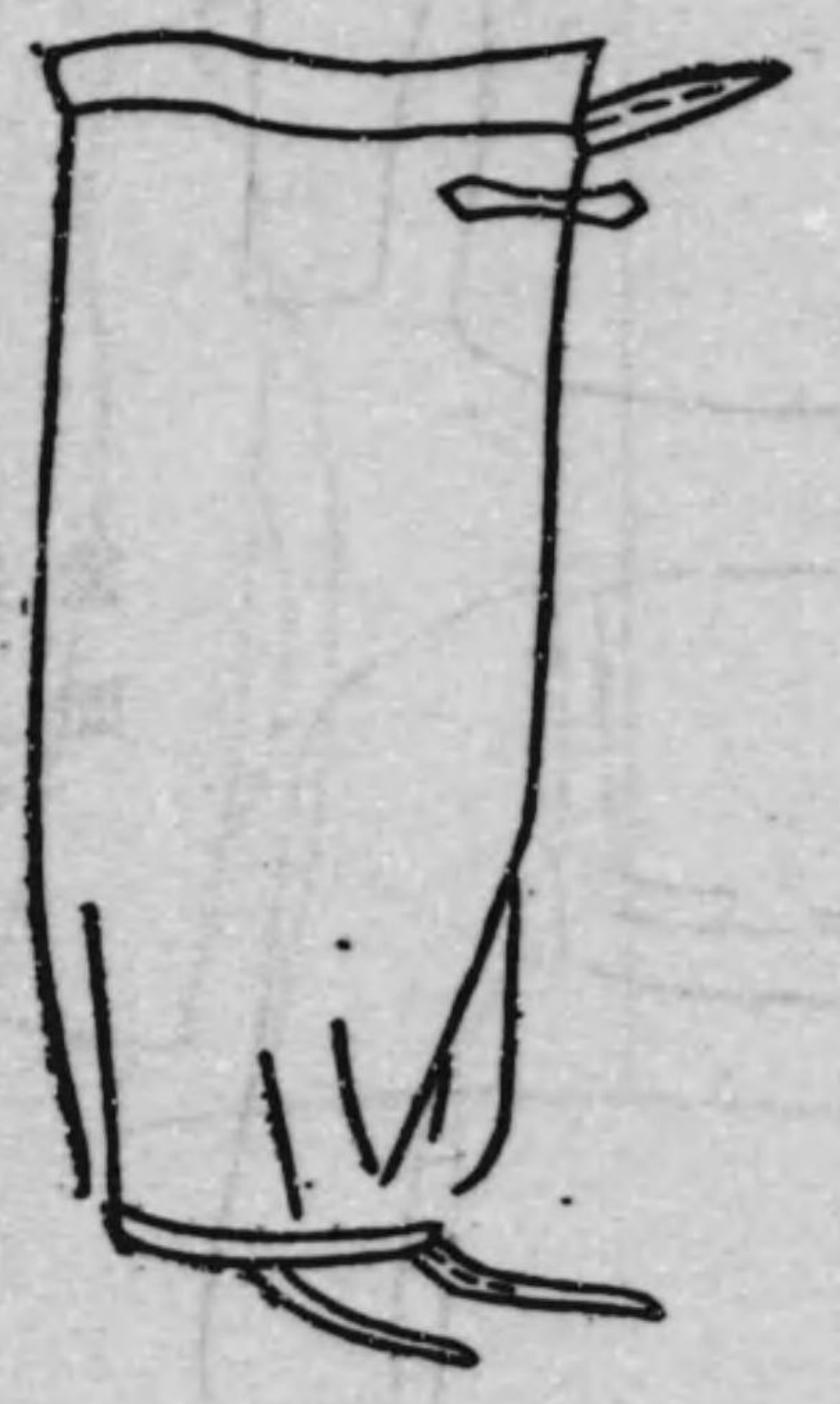
通信工夫襟章



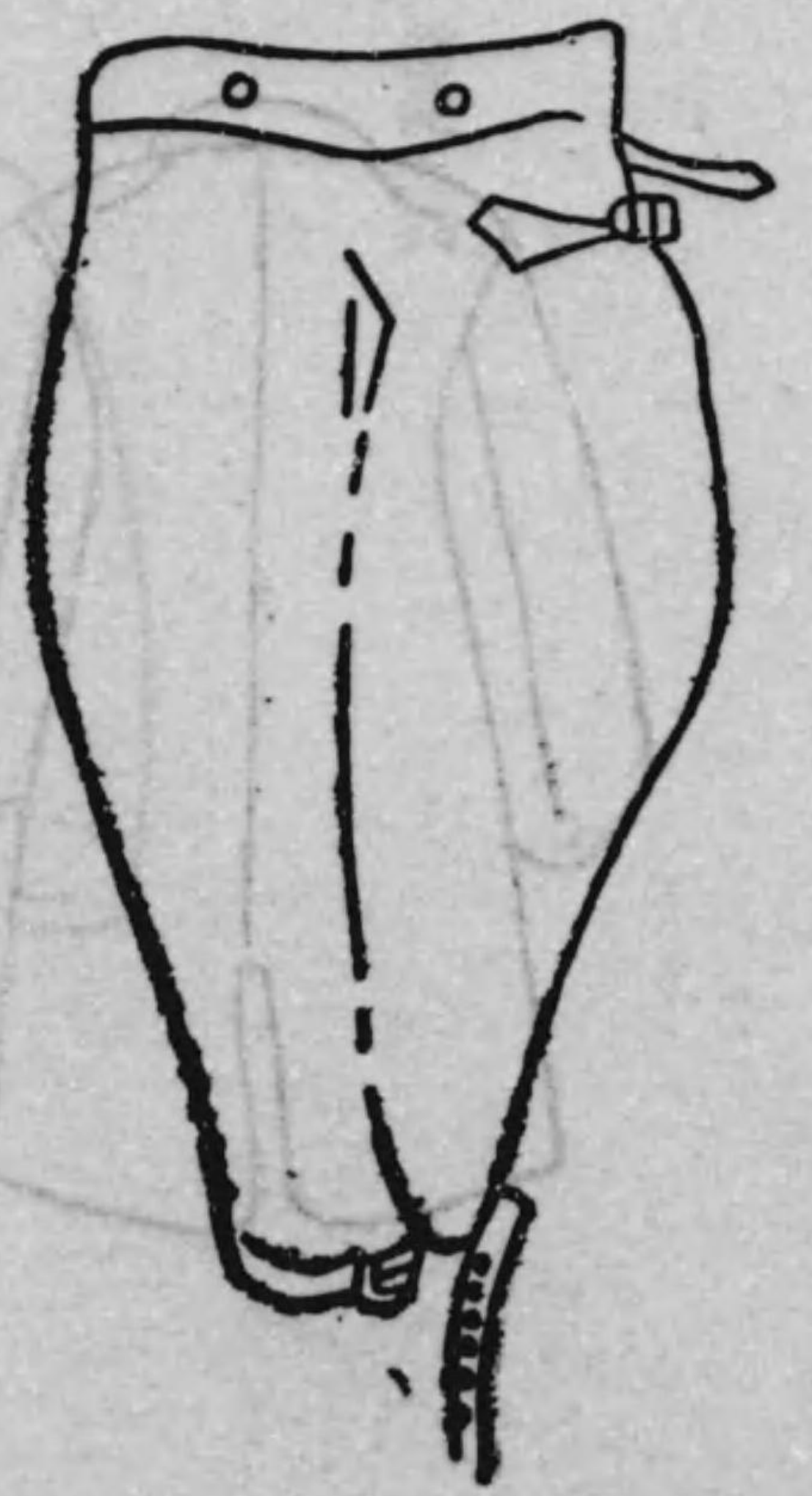
信使、原簿助手襟章



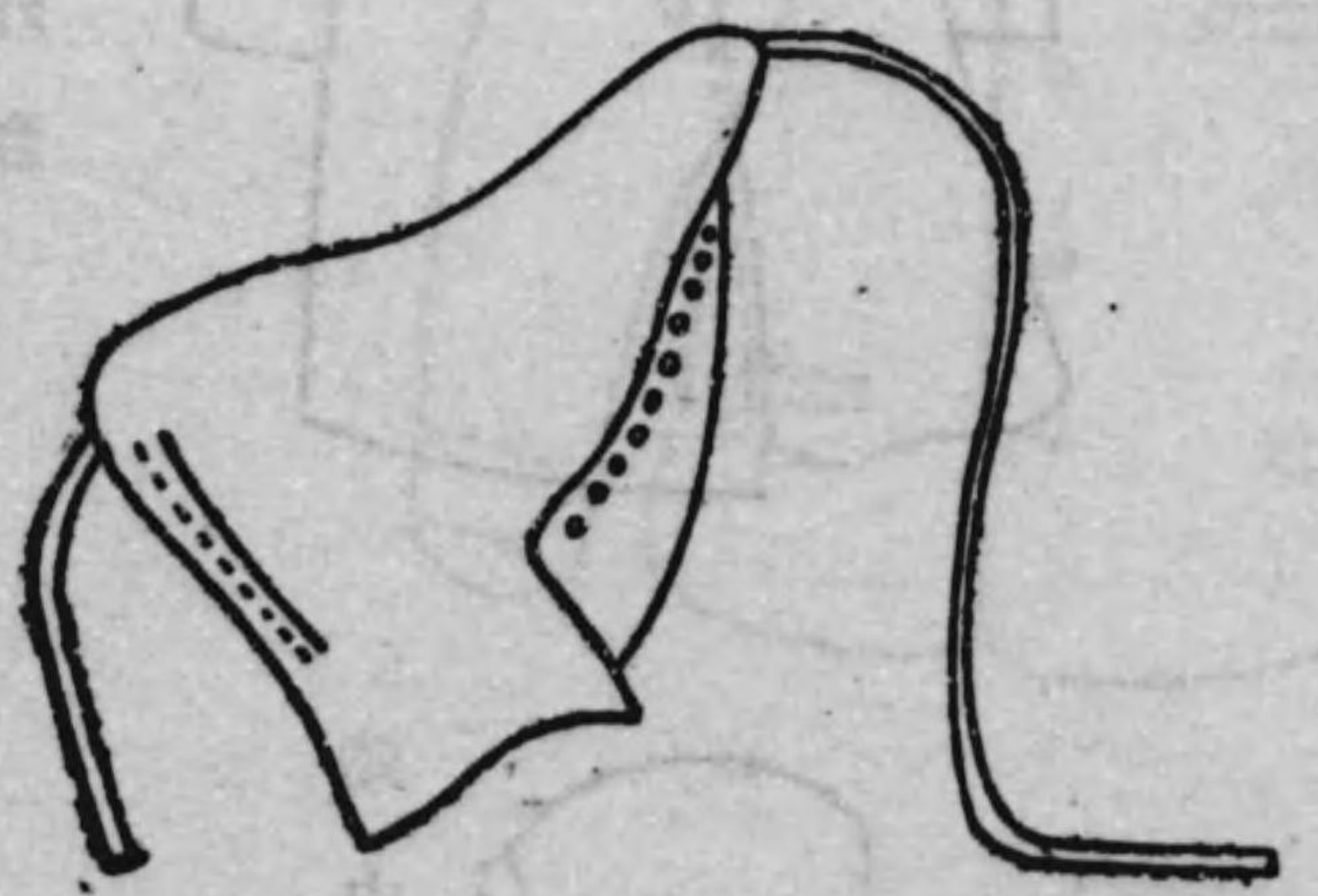
集配人、遞送人
郵便夫袴



通信工夫袴

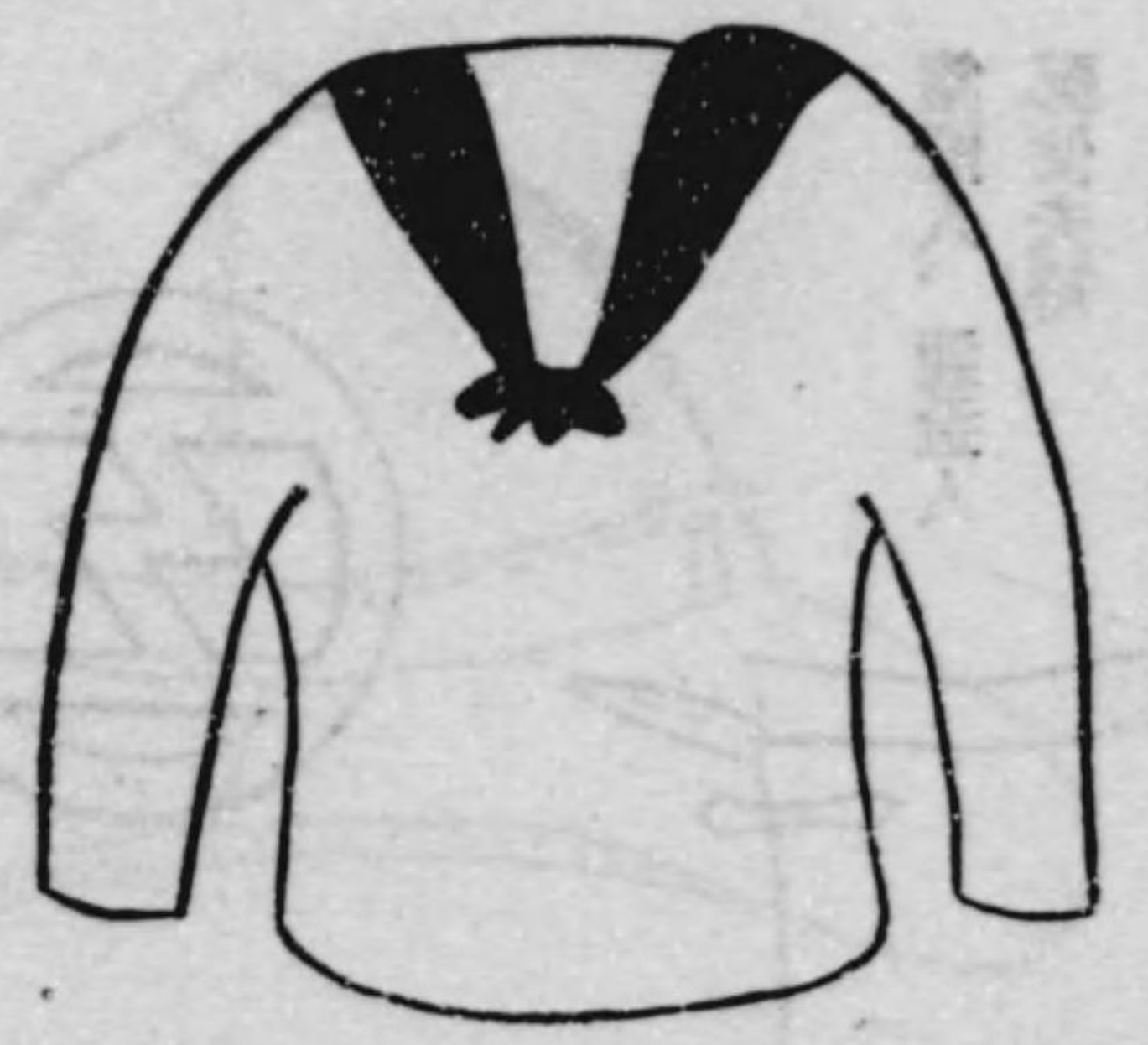


集配人、遞送人、郵便夫、通信工夫脚絆

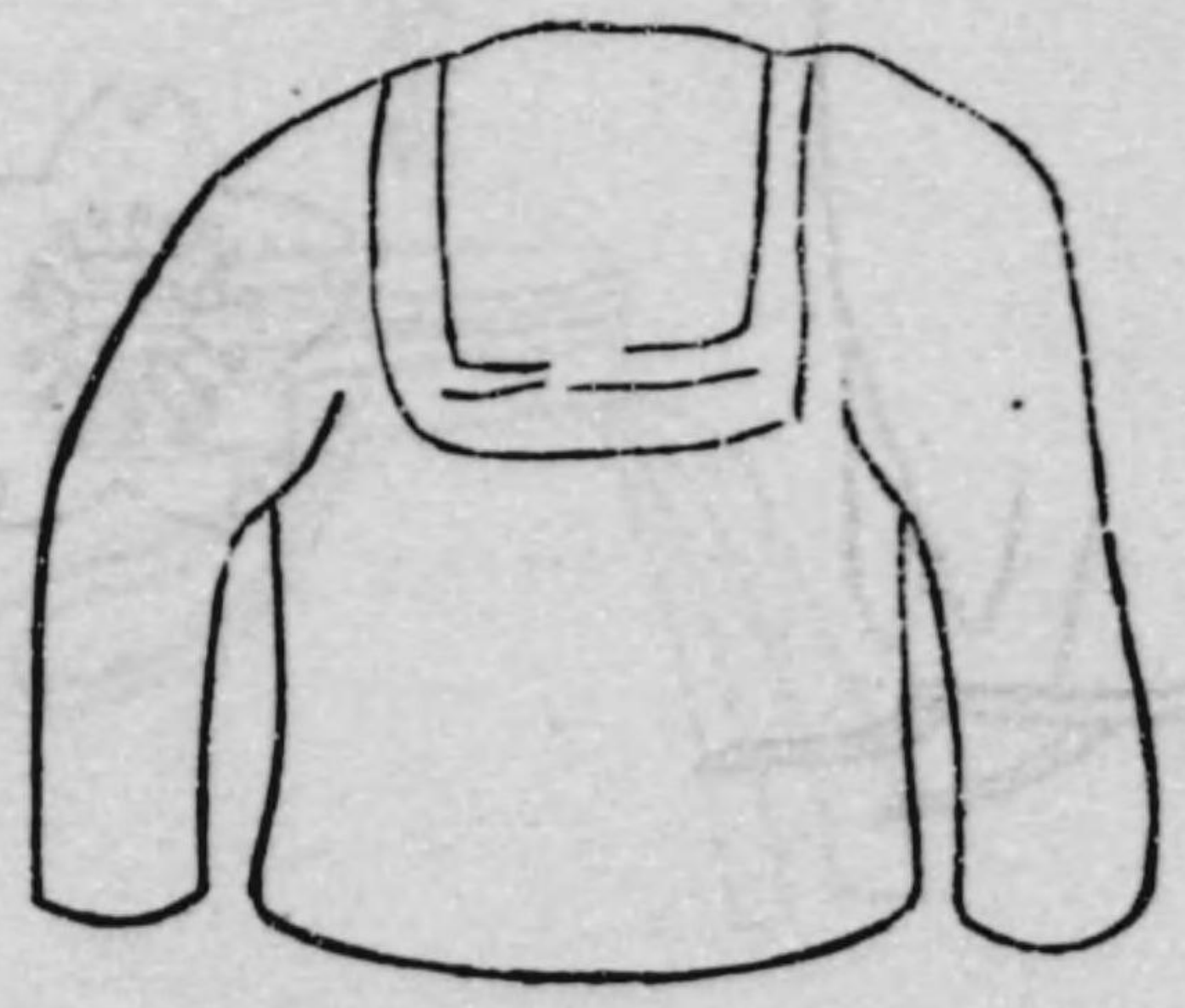


【臺灣】

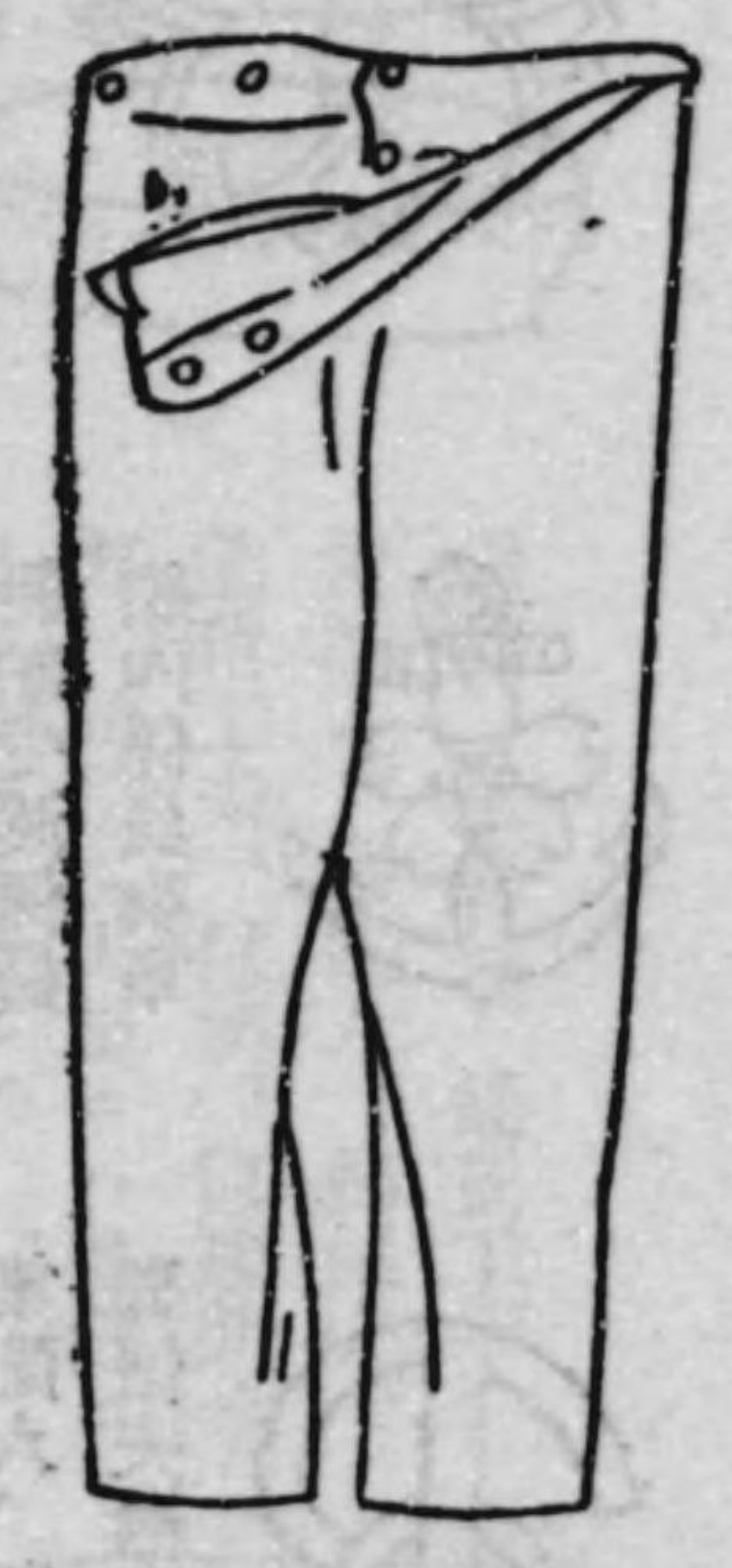
舸子上衣 前面



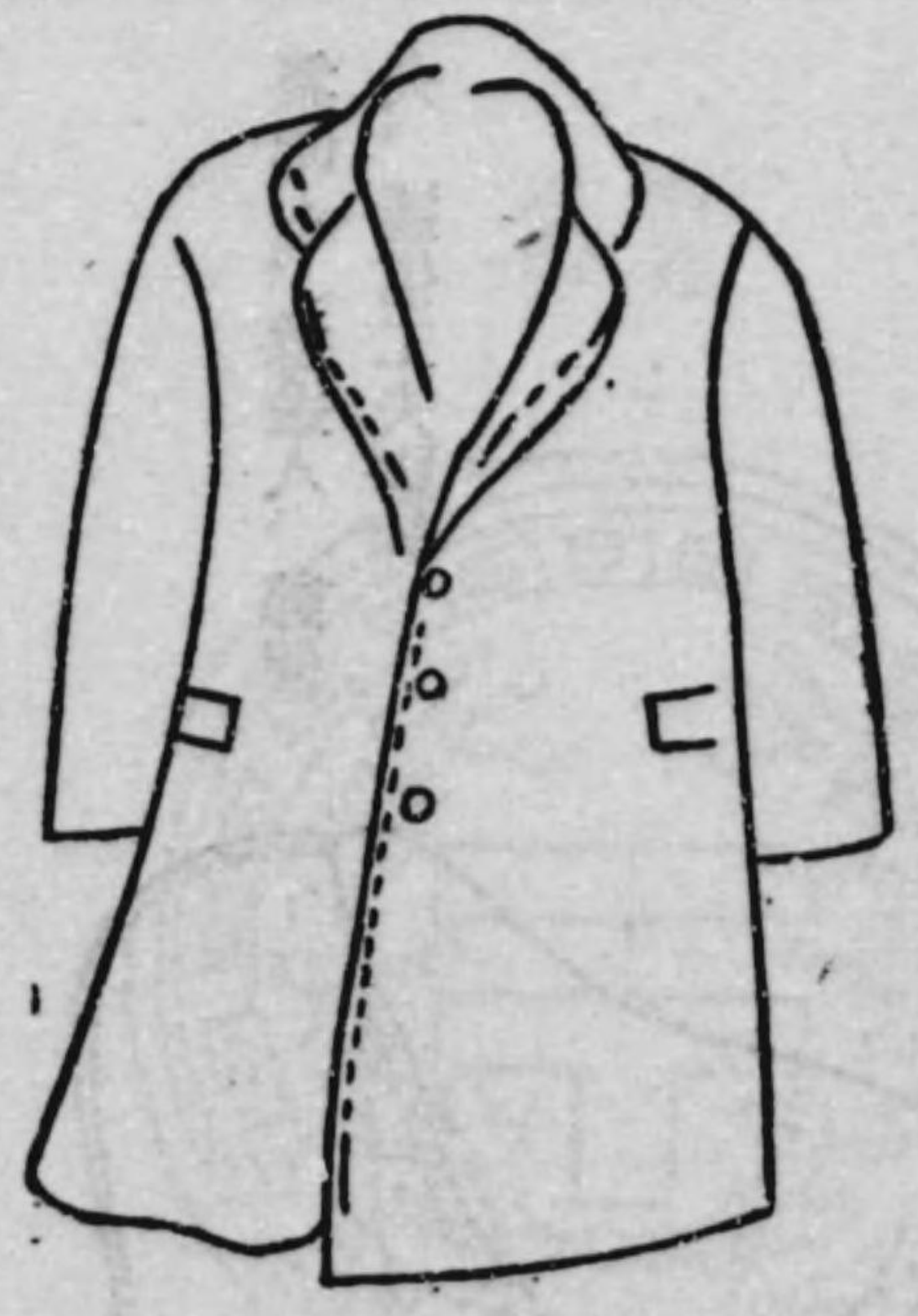
舸子上衣 後面



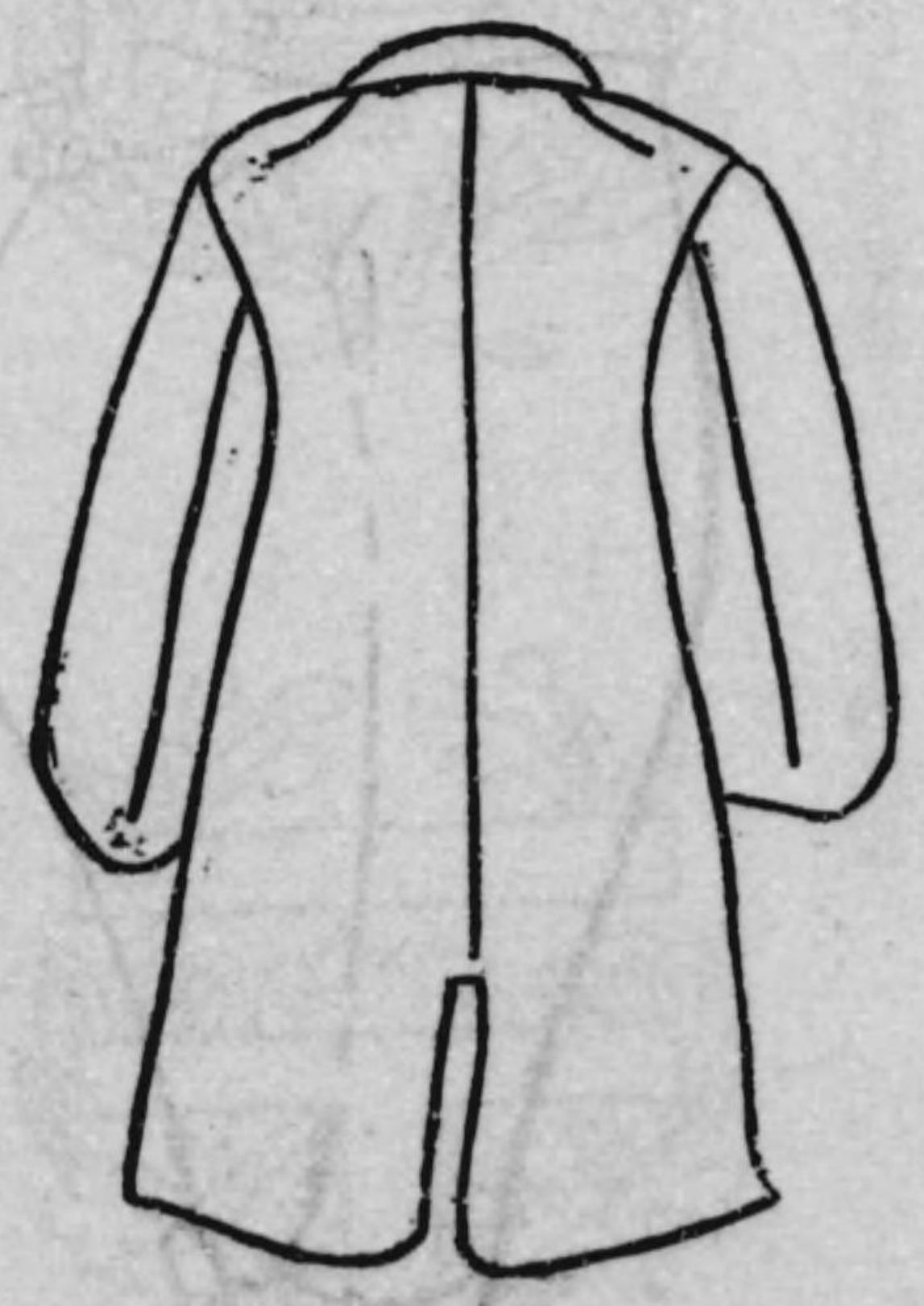
舸子袴



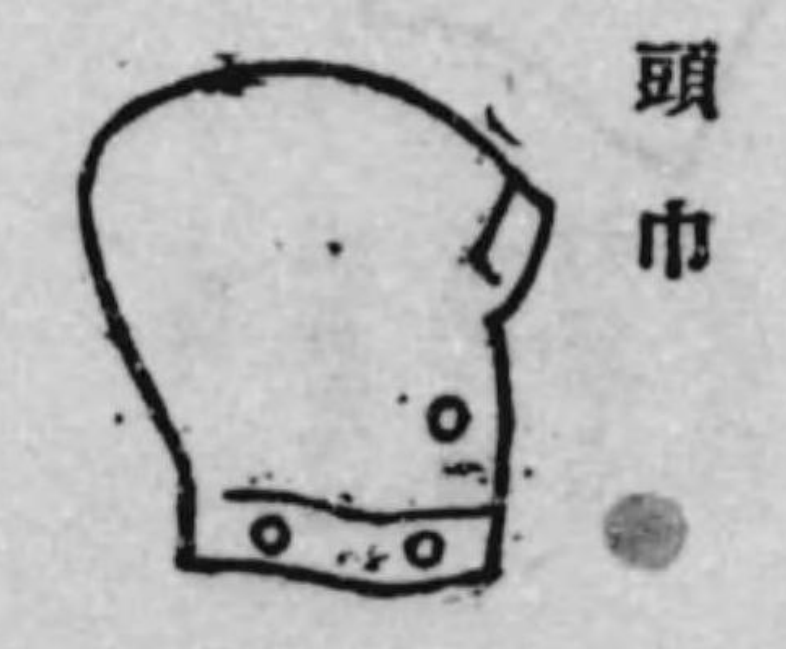
係員、監視員、郵便夫 通信工手、通信工夫 外套



後面



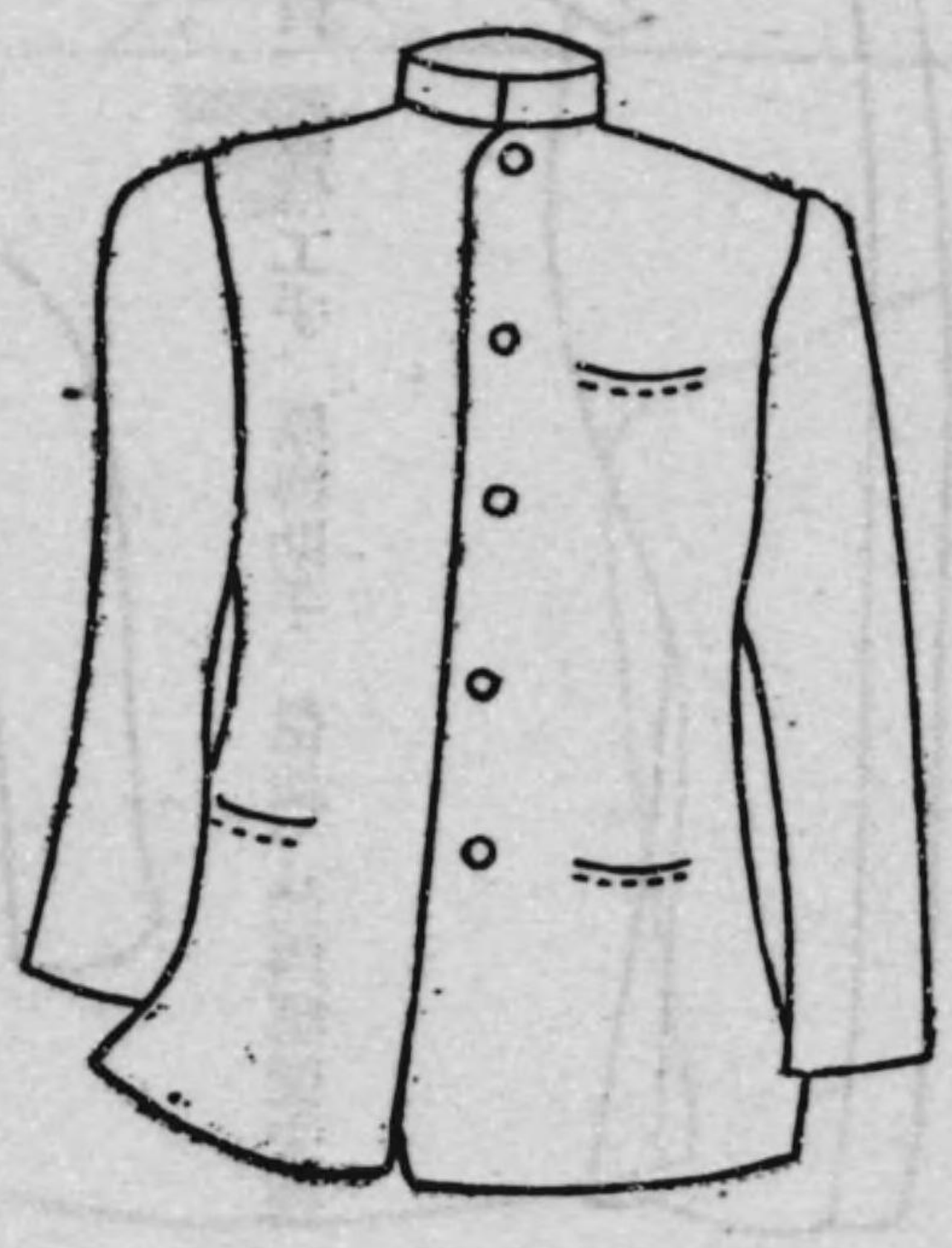
頭巾



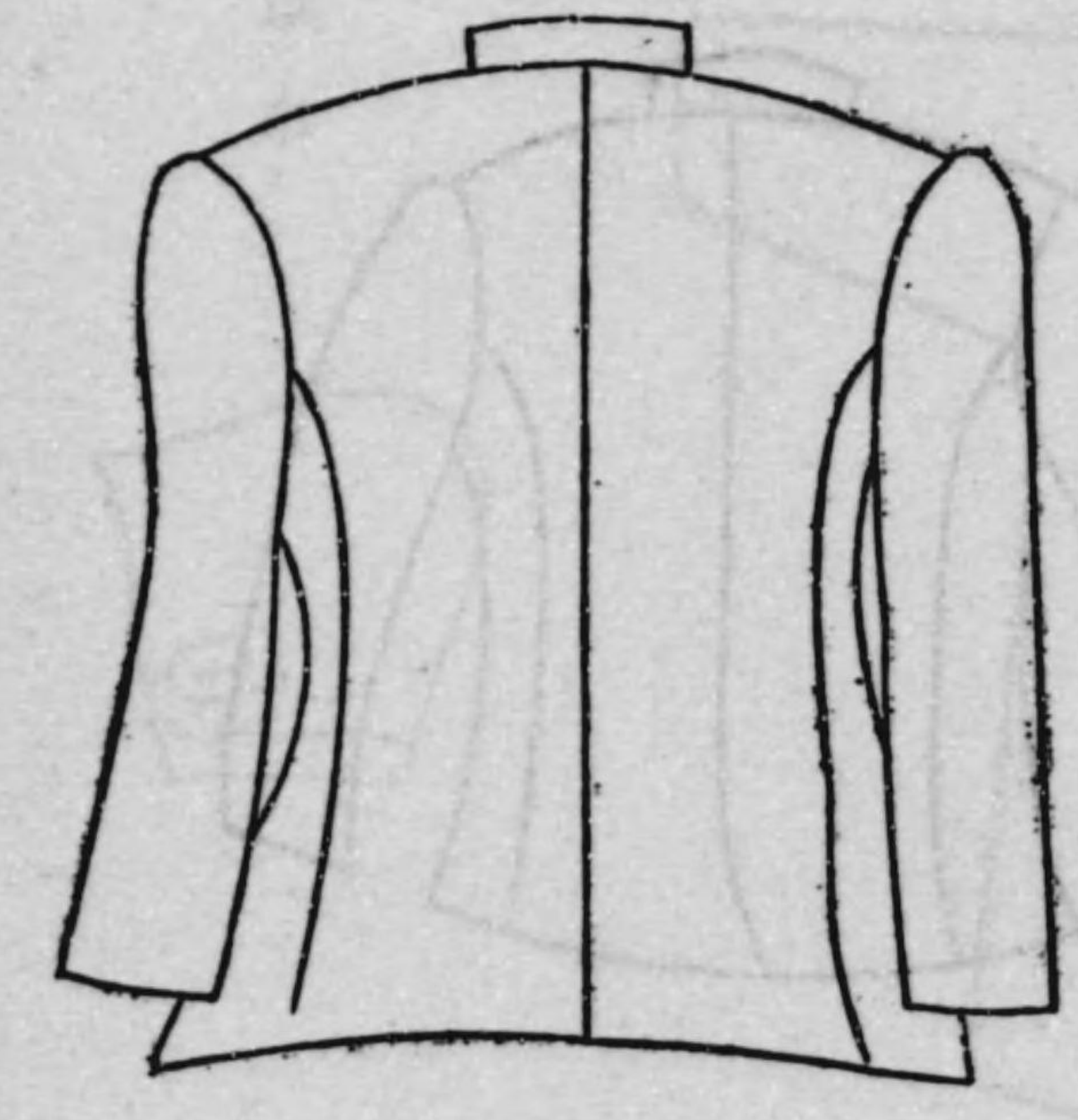
【臺灣】

係員、監視員、通信工手、遞送人、郵便夫、集配人、通信工夫上衣

前面

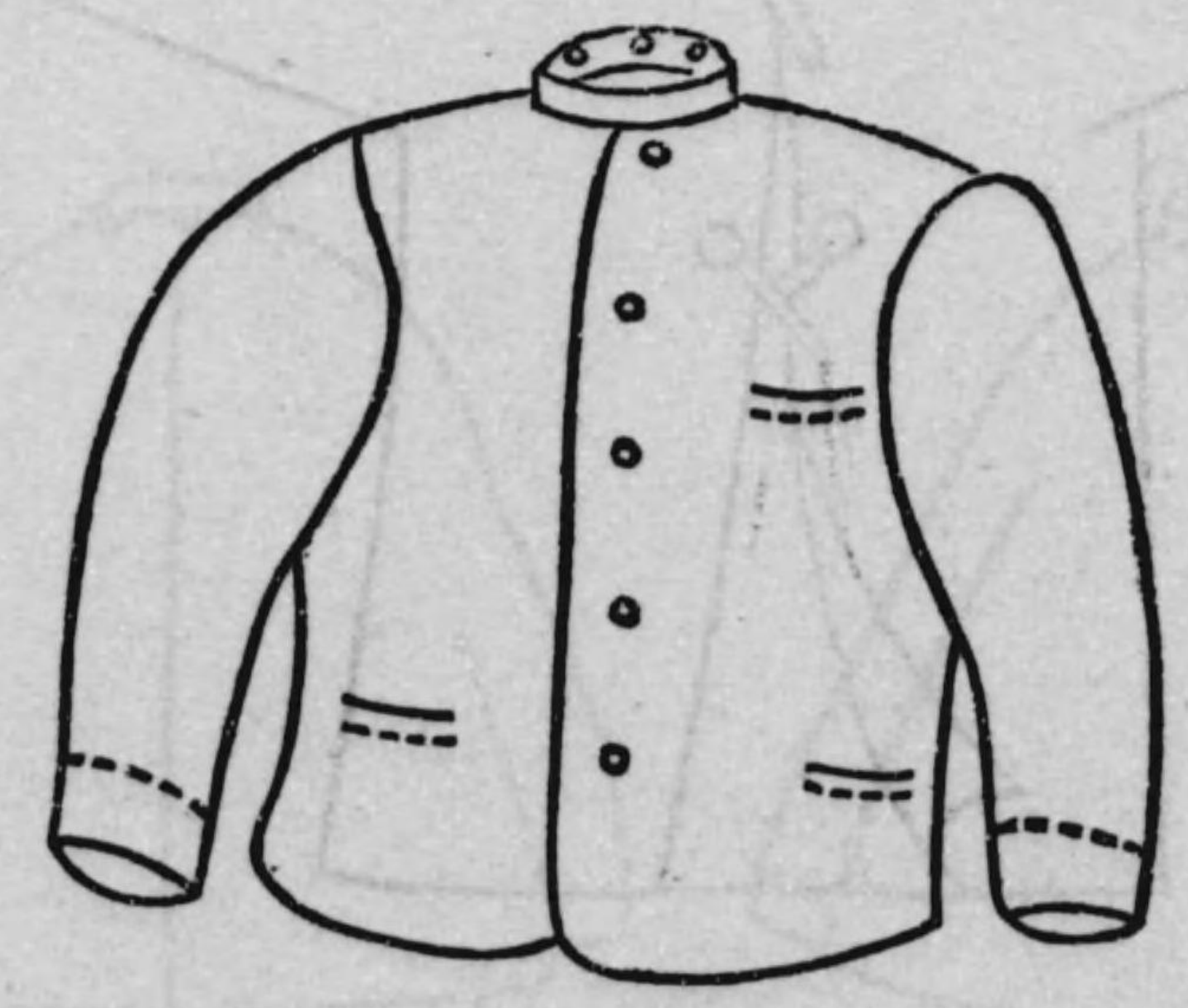


後面

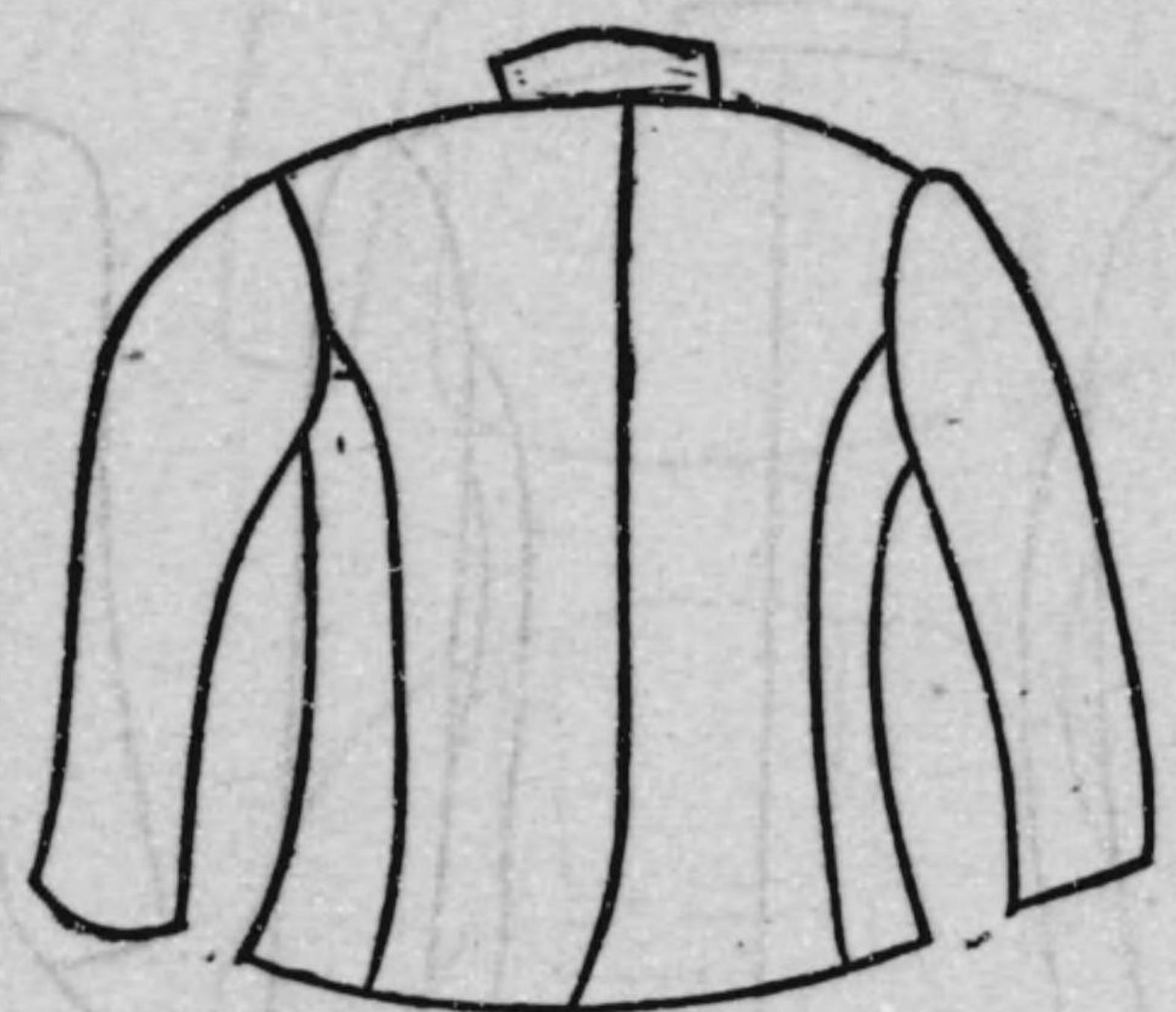


原簿助手、信使上衣

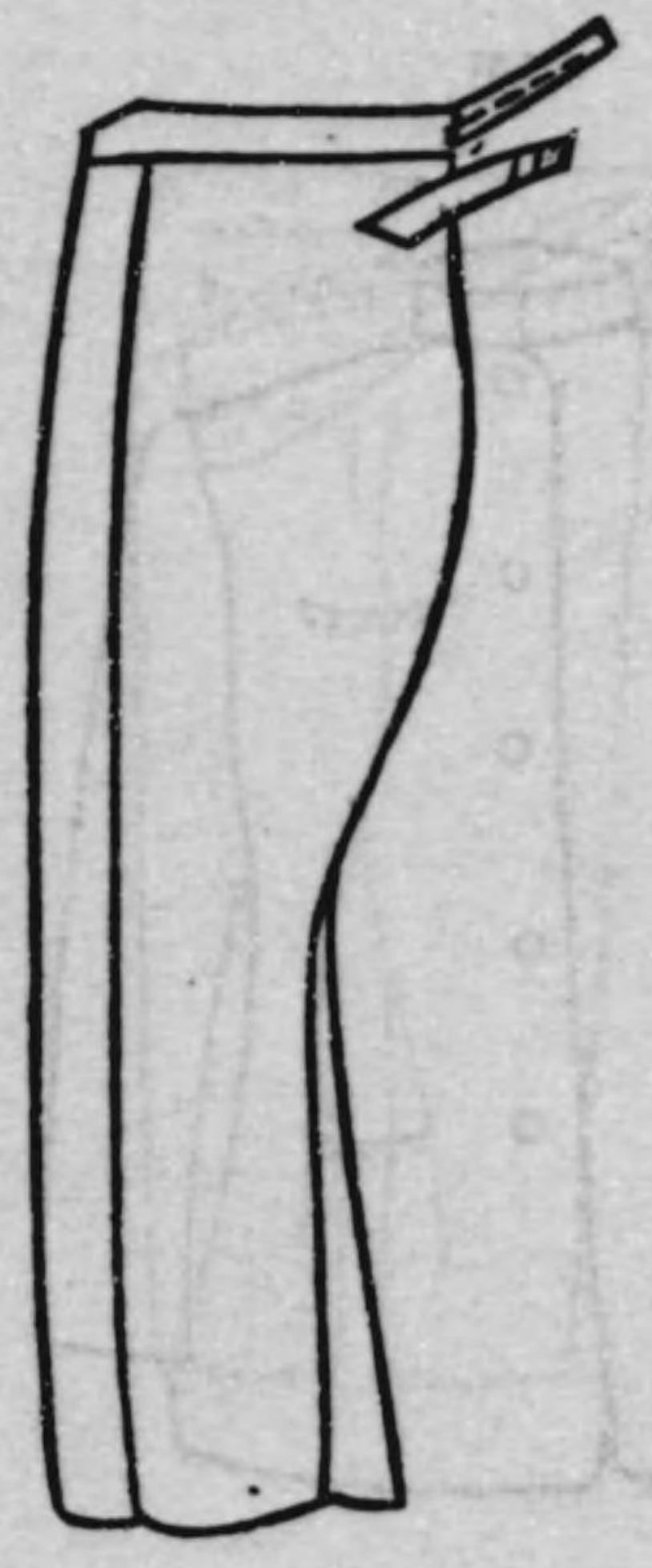
前面



後面

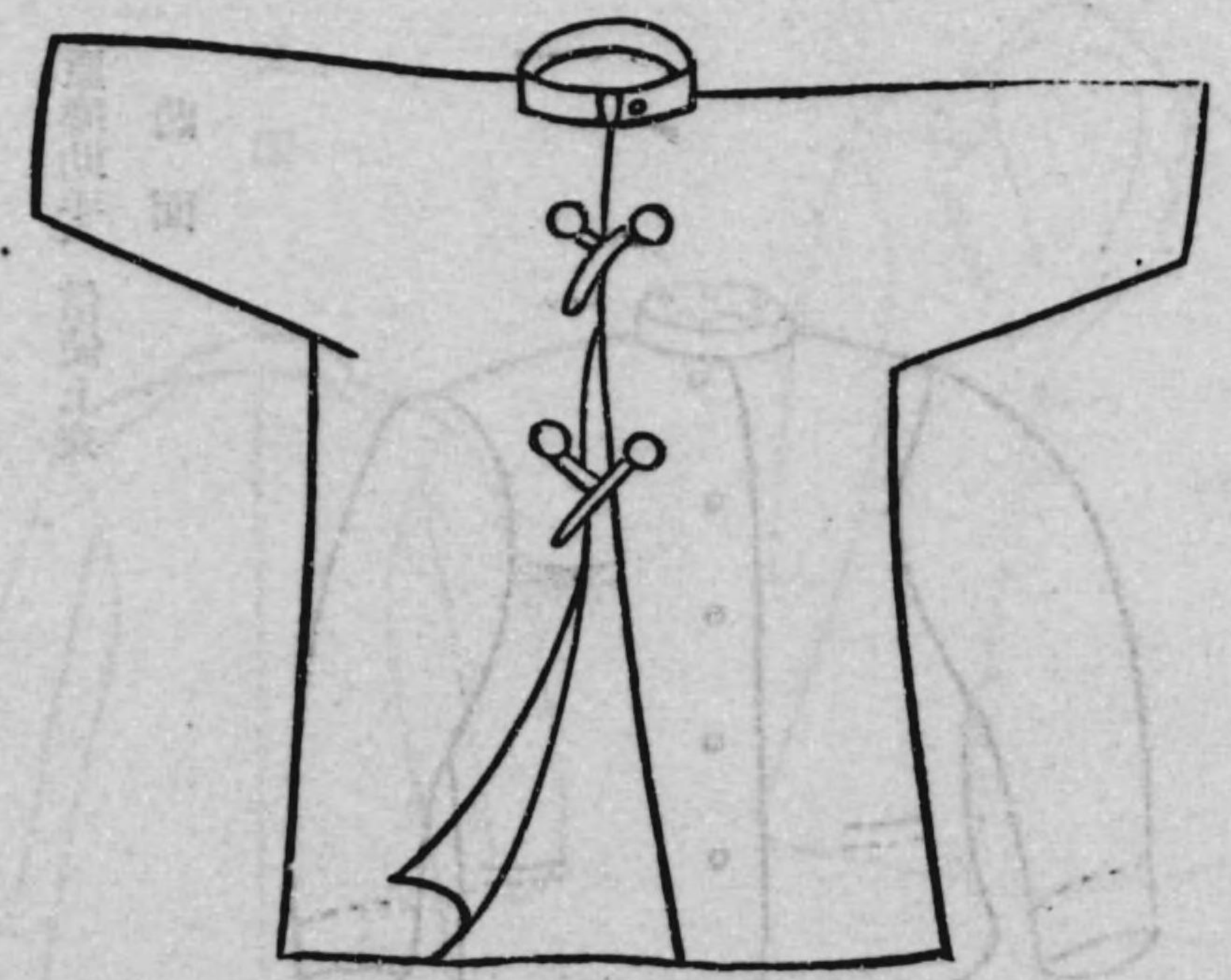


保員、監視員、通信工手、原動助手、信使、構內郵便夫袴

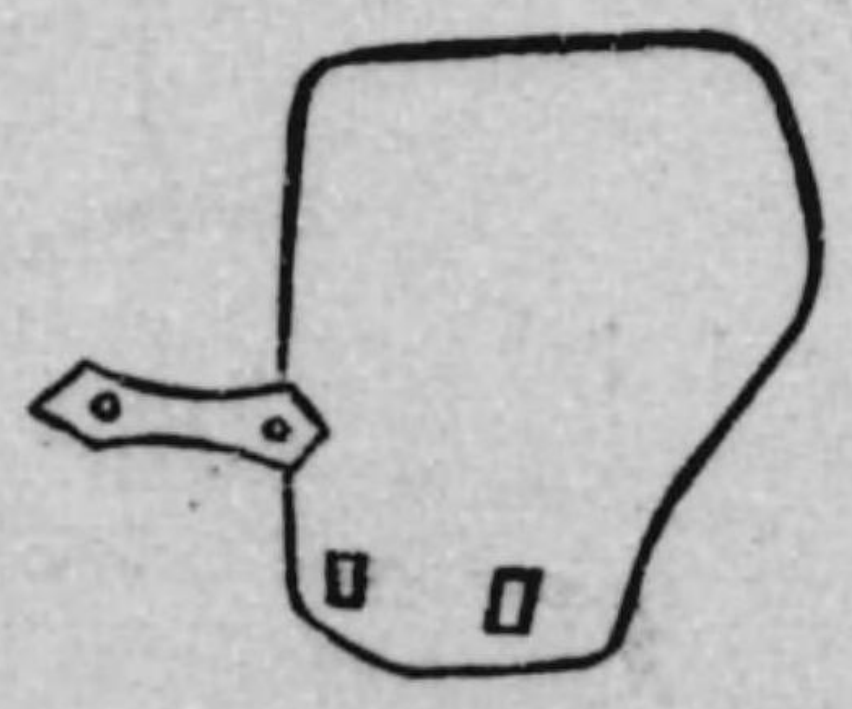


遞送人雨具

前面

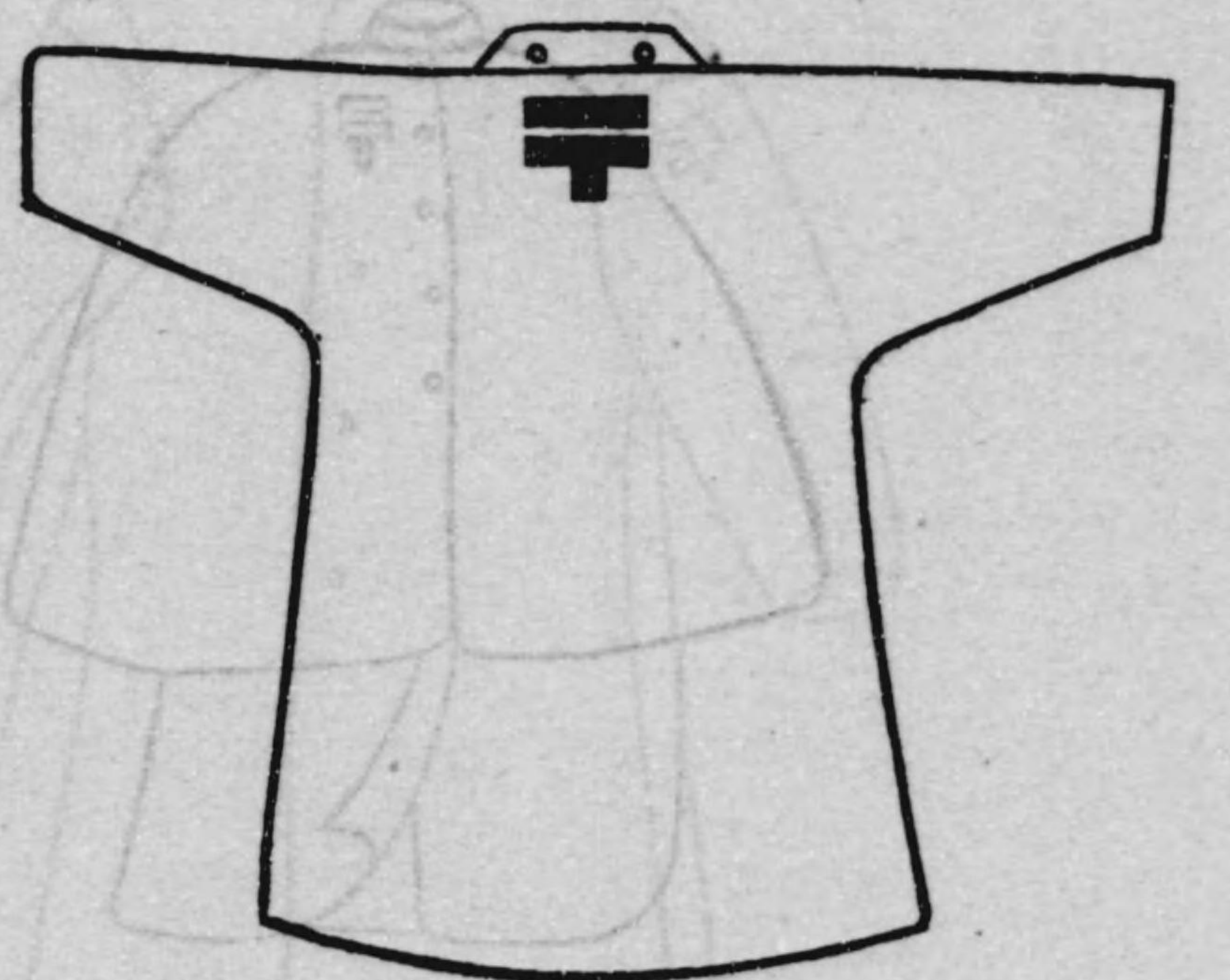


頭巾

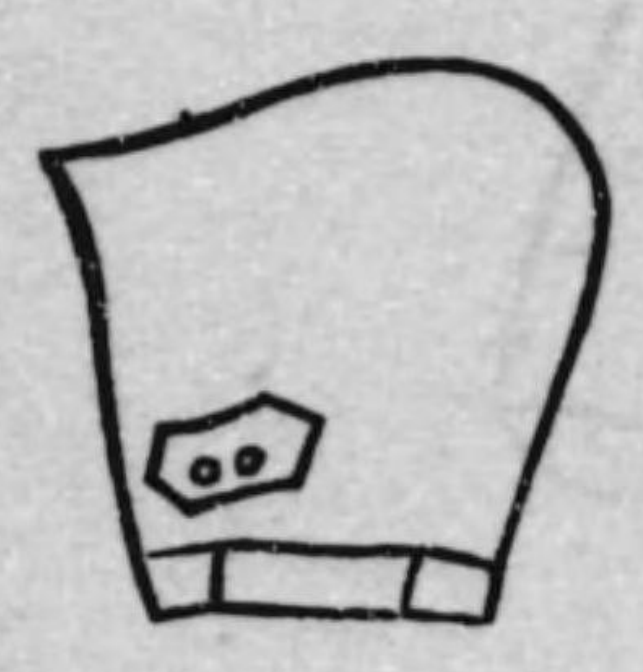


集配人雨具ノ一

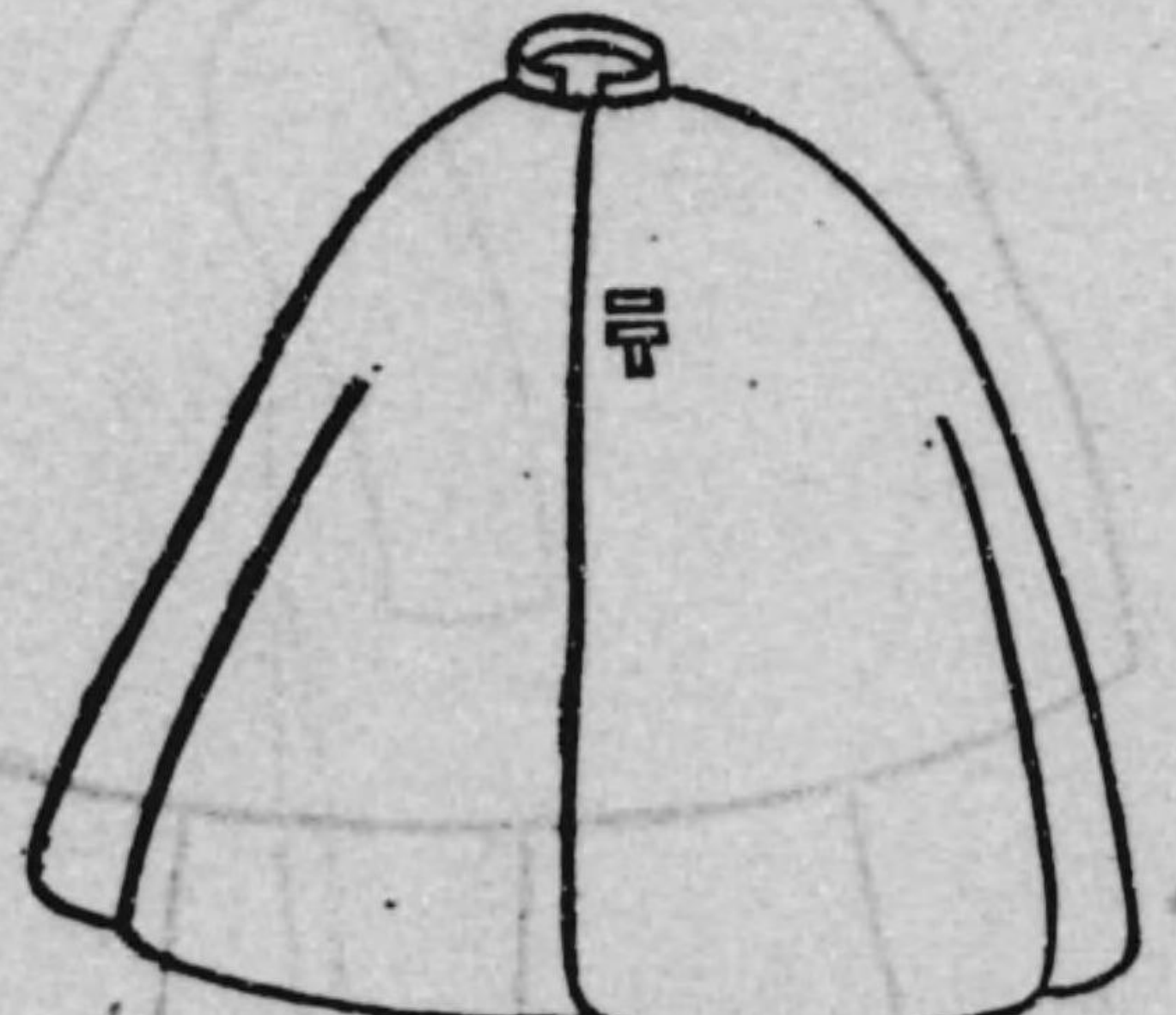
後面



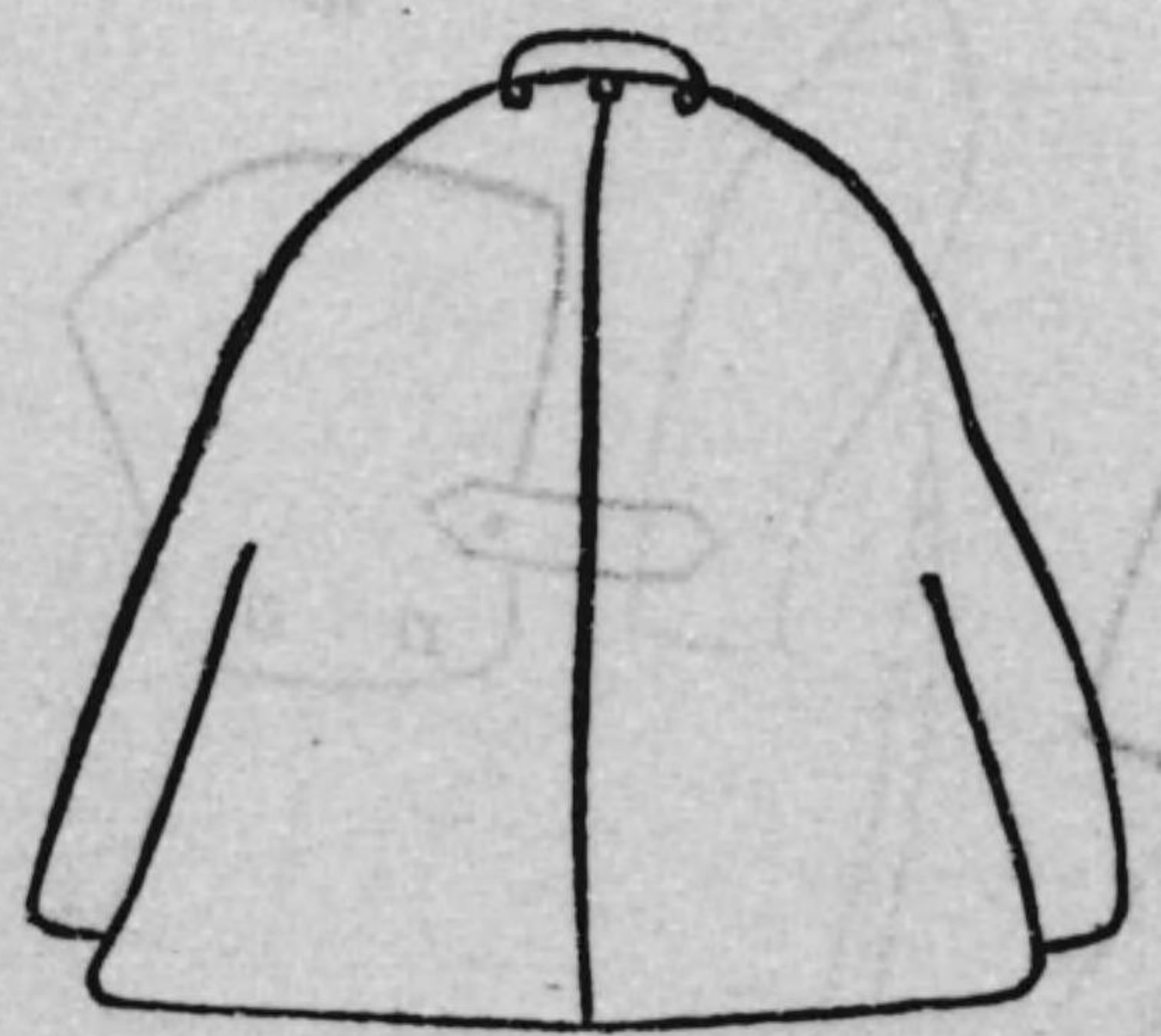
頭巾



前面

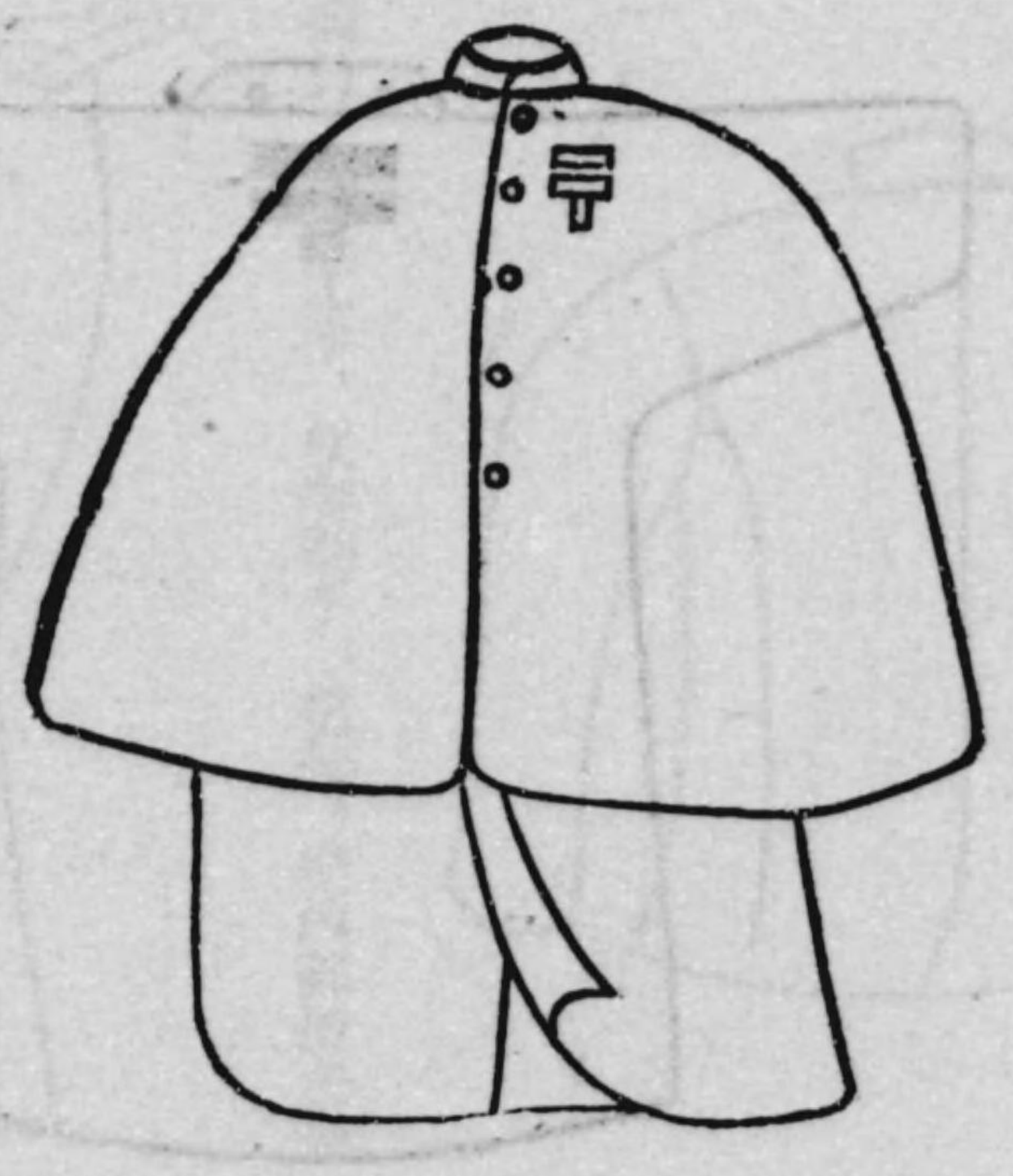


後面

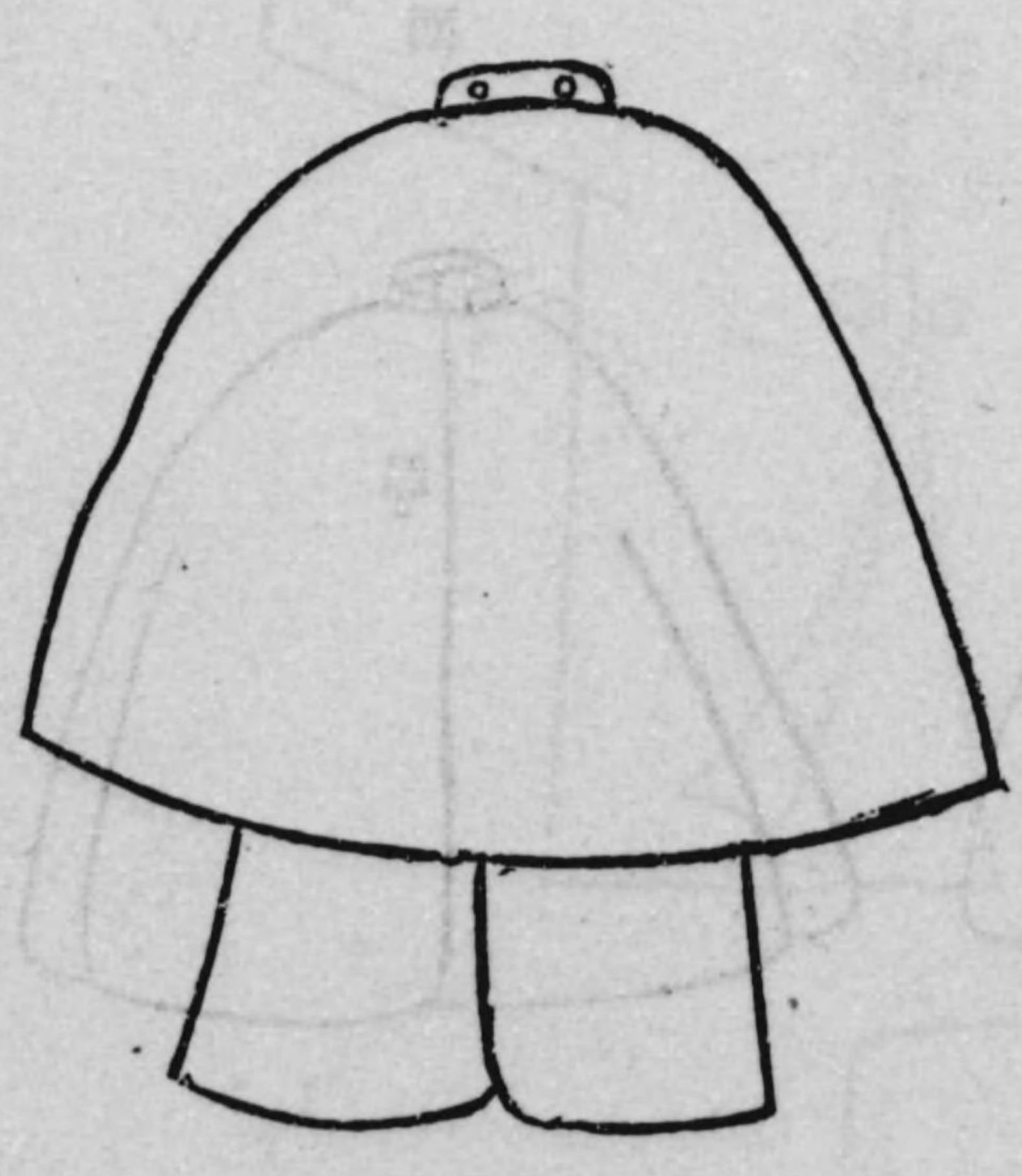


工夫
集配人　雨具ノ二

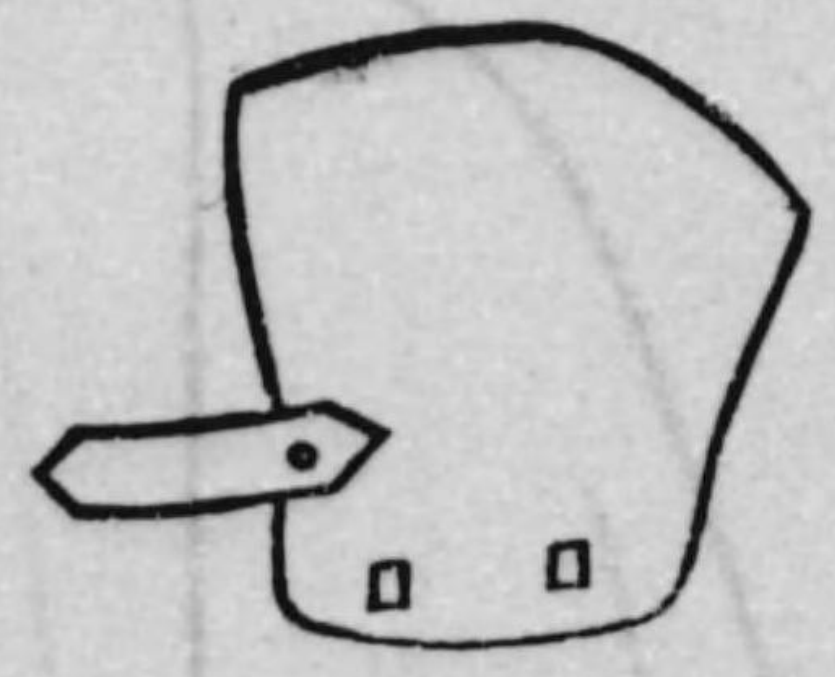
前面



後面

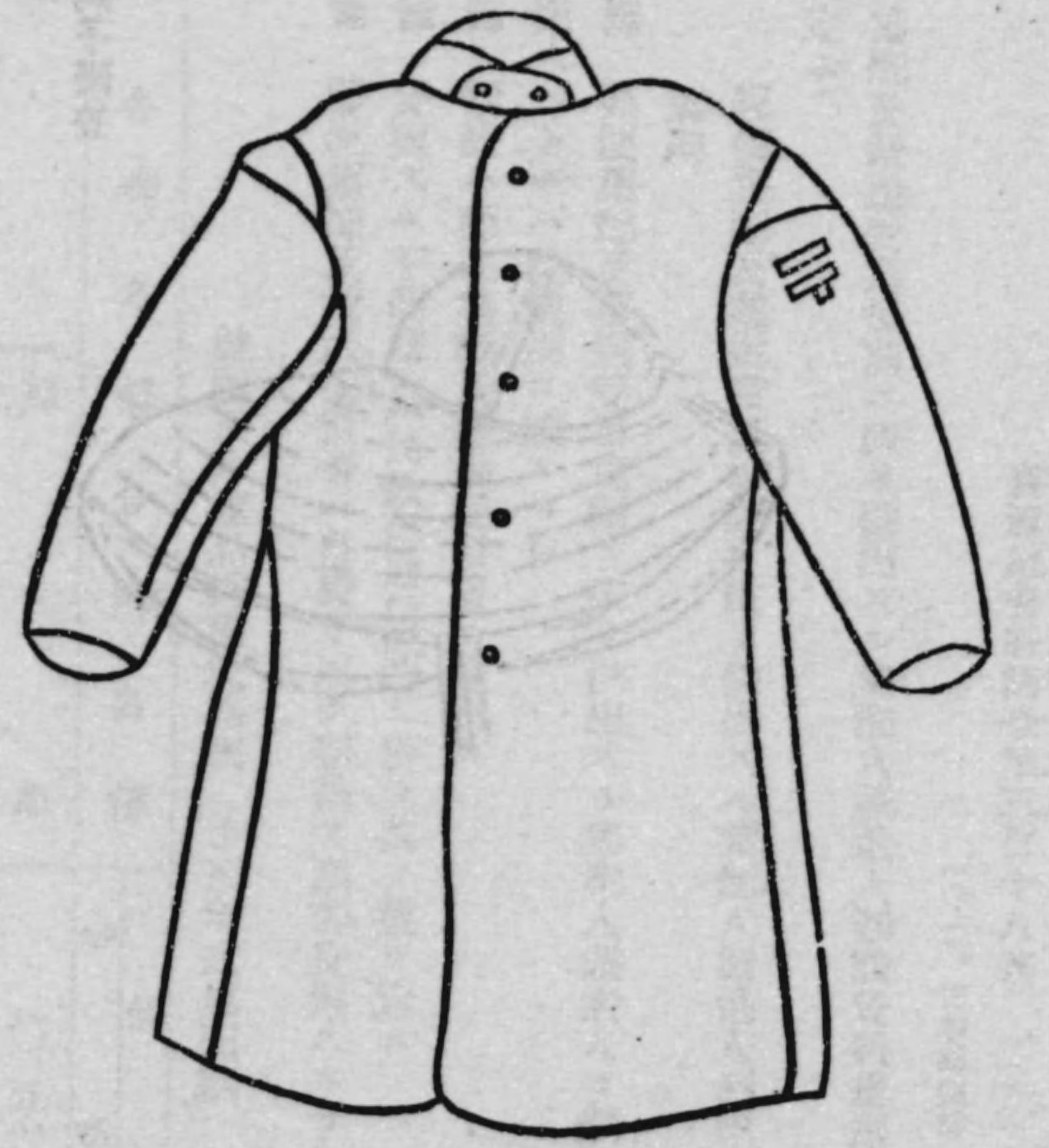


頭巾



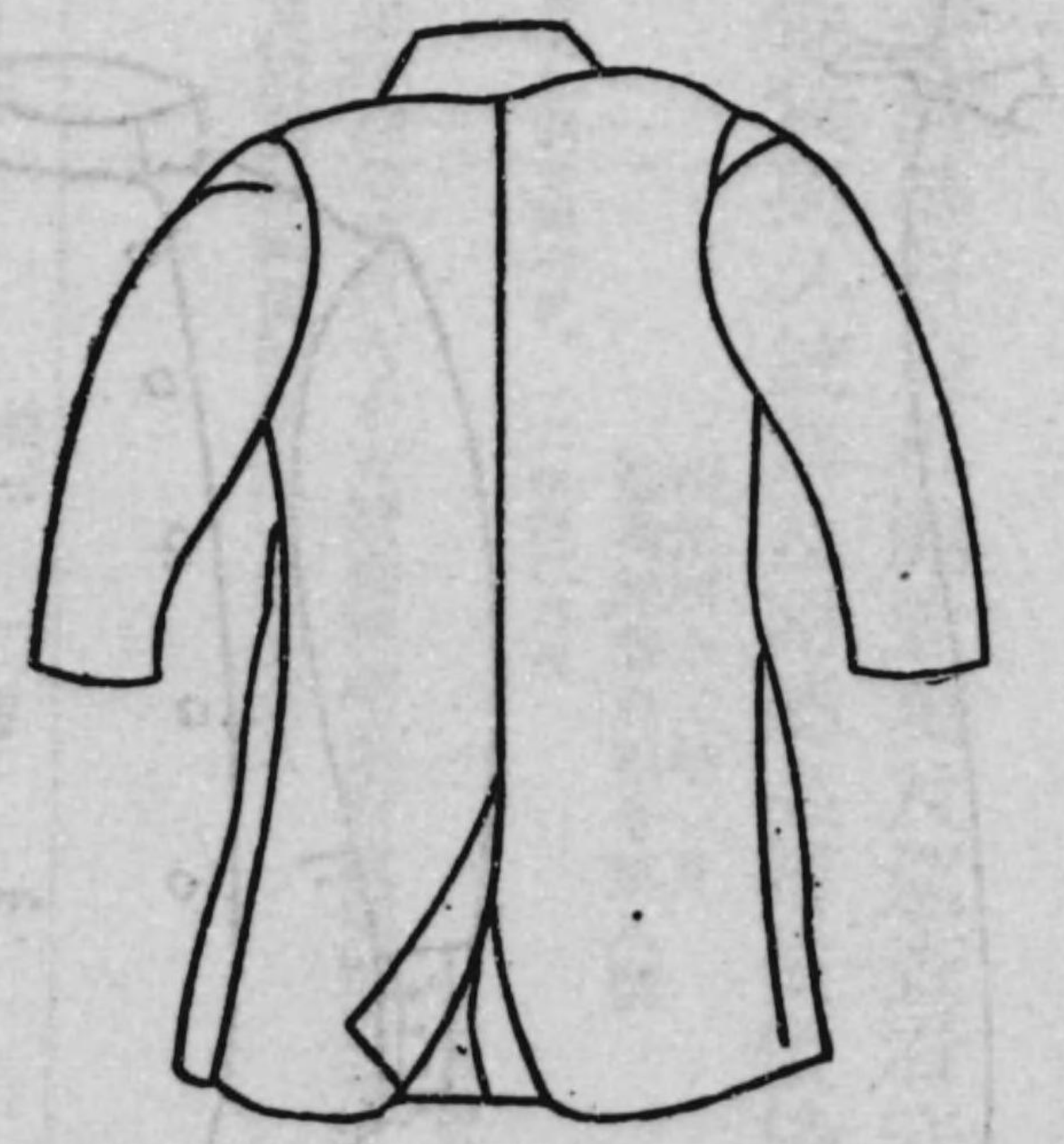
舸子雨具

前面



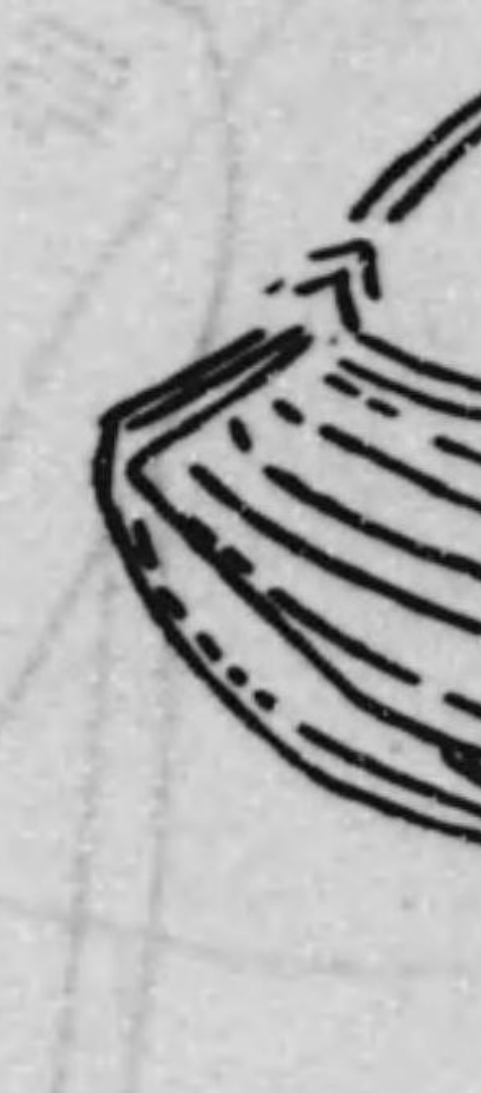
舸子雨具

後面



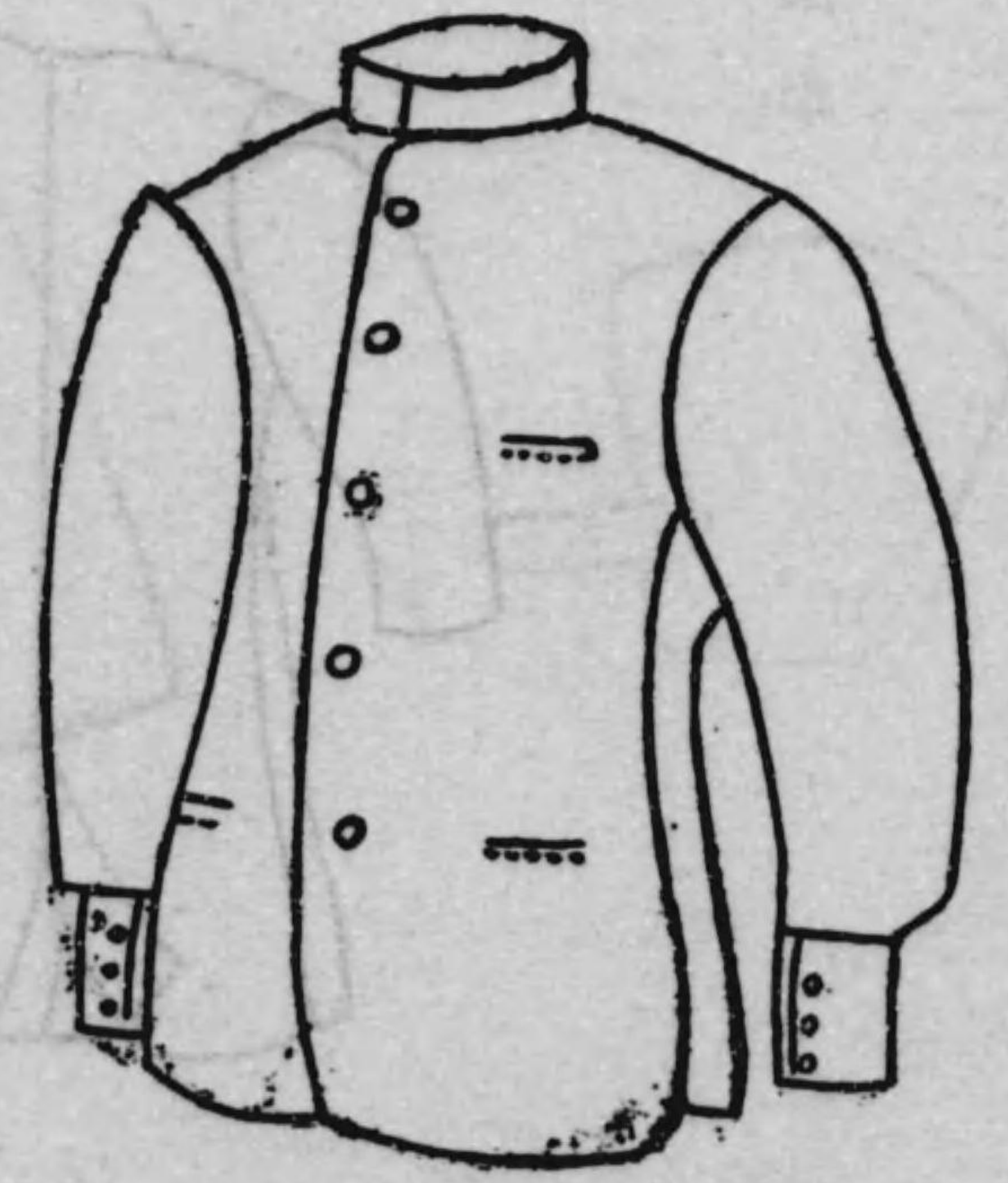
【臺轄】

桐子雨笠

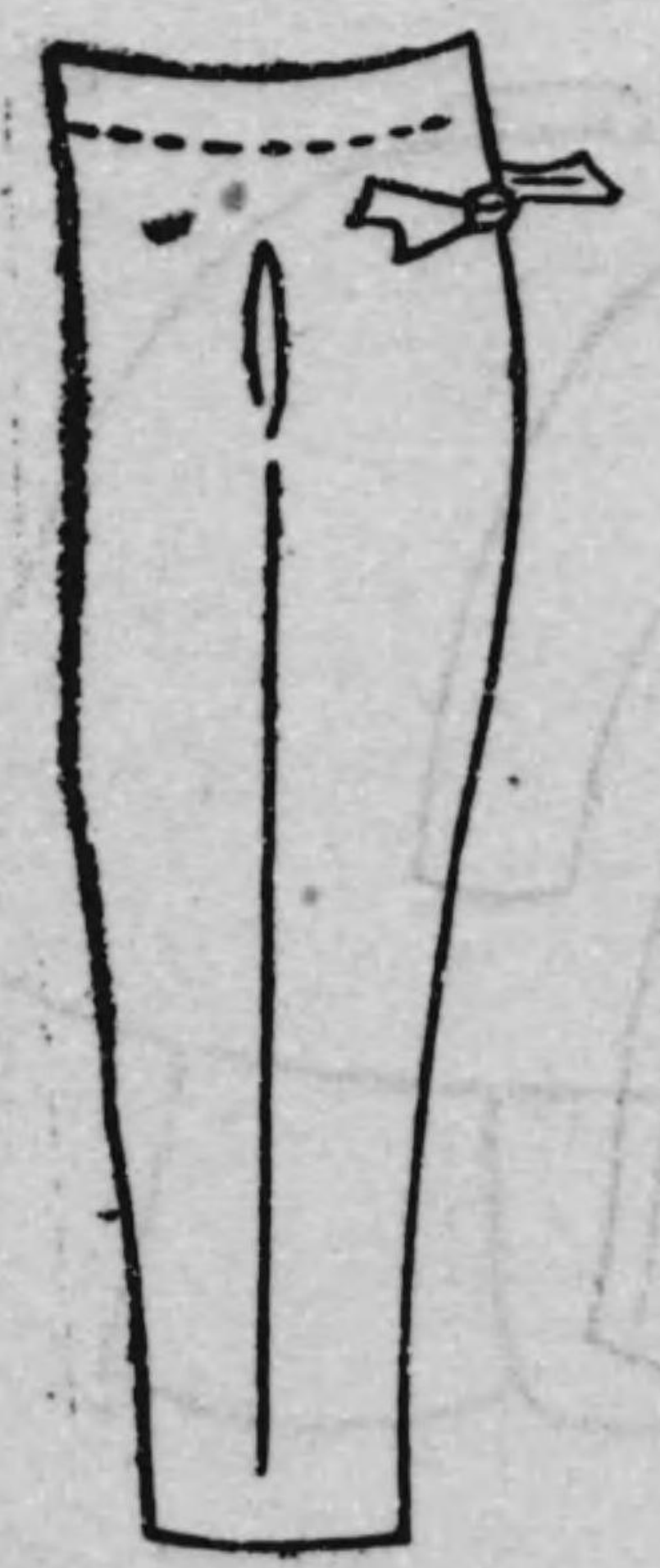


通信職工

上衣



袴



【臺轄】

●郵便集配及遞送受負規則ニ依リ供出スル集配人遞送人制服貸與規則

明治三十五年十二月
臺灣總督府訓令第三百十八號

一、二、三等郵便局

郵便集配及遞送受負規則ニ依リ供出スル集配人遞送人制服貸與規則左ノ通相定ム

郵便集配及遞送受負規則ニ依リ供出スル集配人遞送人制服貸與規則

第一條 郵便集配及遞送受負規則ニ依リ供出スル集配人遞送人ニ制服ヲ貸與スルトキハ此規則ニ據ルヘシ

第二條 制服ハ郵便集配及遞送受負者ニ貸與ス

第三條 貸與スヘキ制服ハ【民政部通信局】ニ於テ其ノ數ヲ定ム

第四條 郵便集配及遞送受負者ハ自費ヲ以テ制服ヲ調製貸與スルコトヲ得

第五條 制服圖式保存期限等此ノ規則ニ規定セサル事項ハ明治三十五年十二月訓令第三百十七號郵便電信現業雇員傭員制服帶具規則ヲ準用ス

附則

本令ハ明治三十六年一月一日ヨリ施行ス

●臺灣總督府稅關監吏及巡査看守其ノ他貸與ノ銃器及附屬品辨償價格

明治四十二年一月
臺灣總督府訓令第八號

改正 大正七年訓令第七號、一二年第二三號

臺灣總督府 州廳

明治三十三年五月訓令第百六十五號臺灣總督府稅關監吏及巡査看守其ノ他貸與ノ銃器及附屬品辨償價格左ノ通改正ス

銃器及附屬品辨償價格表 十八年式村田銃

各部名稱	分解名稱	價格 金額	價格 小計	價格 合計	備考
銃	照星	〇、五〇〇	八・三〇〇		
	銃身	五、〇〇〇			
	底筒	二、八〇〇			
	遊標	〇・〇七〇			
	遊標發條	〇・〇一〇			
	照尺頭	〇・〇五〇			

照尺	照尺頭駐螺	〇・〇一〇	〇・四四〇	一三・八四〇
	照尺發條	〇・〇三〇		
	照尺發條駐螺	〇・〇一〇		
	照尺鈑	〇・一〇〇		
	蝶番栓	〇・〇一〇		
	照尺坐	〇・一五〇		
圓筒	塞口・螺子	〇・〇五〇	二・一六〇	
	撃莖	〇・一八〇		
	撃莖發條	〇・〇八〇		
	撃莖坐	〇・〇三〇		
	撃鐵	〇・二〇〇		
	圓筒止螺	〇・〇二〇		
	抽筒子	〇・一〇〇		
	圓筒	一・五〇〇		
機關	引鐵	〇・〇四〇	〇・二五〇	
	逆鈎發條	〇・一八〇		
	逆鈎發條駐螺	〇・〇一〇		
	逆鈎發條小駐螺	〇・〇一〇		
	引鐵駐栓	〇・〇一〇		
坐鐵	坐鐵	〇・一二〇	〇・二九〇	
	坐鐵駐木螺	〇・〇一〇		
	用心鐵	〇・一五〇		
	用心鐵駐螺	〇・〇一〇		

【[illegible]】

上帶環		〇・一八〇	
上帶環駐螺		〇・〇一〇	
下帶環		〇・一三〇	
底常前駐螺		〇・〇一〇	
底常後駐螺		〇・〇一〇	
銃床	銃床	一・五五〇	一・七二〇
	床頭冠	〇・一二〇	
	床頭冠駐螺	〇・〇一〇	
	槊杖駐鐵	〇・〇一〇	
	圓筒止螺坐	〇・〇二〇	
	圓筒止螺坐木螺	〇・〇一〇	
床尾鈑	床尾鈑	〇・一五〇	〇・一七〇
	前床木螺	〇・〇一〇	
	床嘴木螺	〇・〇一〇	
槊杖		〇・一二〇	
負環	負環	〇・〇一〇	〇・〇五〇
	負環坐	〇・〇二〇	
	上負環駐螺	〇・〇一〇	
	下負環駐螺	〇・〇一〇	
劍	劍身	〇・八〇〇	一・二〇〇
	抽劍筍	〇・二〇〇	
	扁平發條	〇・二〇〇	
	扁平發條駐螺	〇・〇一〇	

【[illegible]】

各部名稱	分解名稱	價格 金額	價格 小計	價格 合計	備考
	鞘革	〇・一三〇			
	鯉口	〇・一五〇			
	鐺	〇・〇七〇			
口栓			〇・一五〇		
洗矢			〇・〇九〇		
禿			〇・一〇〇		
轉螺器			〇・一〇〇		
劍差革			〇・二〇〇		
油壺			〇・三〇〇		
豫備器嚢			〇・一二〇		
彈藥盒	彈藥盒	一・一〇〇	一・一七〇		
	彈藥盒蓋留革	〇・〇二〇			
	彈藥盒油壺留革	〇・〇五〇			
負革	負革	〇・二二〇	〇・二六〇		
	負革番環	〇・〇二〇			
	負革歷口	〇・〇一〇			
帶革	帶革	〇・四八〇	〇・五一〇		
	帶革番環	〇・〇二〇			二箇アリ
	帶革歷口	〇・〇一〇			

銃器及附屬品辨償價格表　十三年式村田銃

各部名稱	分解名稱	價格 金額	價格 小計	價格 合計	備考
銃	照星	〇・五〇〇	八・三〇〇		
	銃身	五・〇〇〇			
	底筒	二・八〇〇			
照尺	遊標	〇・〇七〇	〇・五七〇		
	照尺頭	〇・〇五〇			
	照尺頭駐螺	〇・〇一〇			
	照尺發條	〇・〇三〇			
	照尺發條駐螺	〇・〇一〇			
	照尺鈑	〇・二〇〇			
	蝶番栓	〇・〇一〇			
	照尺坐	〇・一五〇			
	照尺坐駐螺	〇・〇一〇			
	塞口螺子	〇・〇三〇			
圓筒	擊莖	〇・一八〇	二・一一〇		
	擊莖發條	〇・〇八〇			
	擊莖坐	〇・〇三〇			
	擊鍼	〇・二〇〇			
	圓筒駐坐	〇・〇一〇			
	圓筒駐螺	〇・〇一〇			
	抽筒子	〇・一〇〇			
	圓筒	一・五〇〇			

機關	引鐵	〇•〇四〇	〇•二四〇	一三•八八〇
	引鐵駐栓	〇•〇一〇		
	機關發條	〇•一八〇		
	機關發條駐螺	〇•〇一〇		
坐鐵	坐鐵	〇•〇二〇	〇•一五〇	
	前木螺	〇•〇一〇		
	後木螺	〇•〇一〇		
	底筩駐螺	〇•〇一〇		
用心鐵	用心鐵	〇•一五〇	〇•一六〇	
	用心鐵駐螺	〇•〇一〇		
	上帶環	〇•一八〇		
	上帶環駐螺	〇•〇二〇		
	下帶環	〇•一三〇		
銃床	銃床	一•五五〇	一•六八〇	
	床頭冠	〇•一二〇		
	床頭冠駐螺	〇•〇一〇		
床尾鈑	床尾鈑	〇•一五〇	〇•一八〇	
	前床木螺	〇•〇一〇		
	床踵木螺	〇•〇一〇		
	床嘴木螺	〇•〇一〇		
負環	負環	〇•〇一〇	〇•〇四〇	
	負環坐	〇•〇二〇		
	負環坐木螺	〇•〇一〇		

槊杖		〇•一二〇		
劍	劍身	〇•九〇〇	一•三三〇	
	抽劍筒	〇•〇二〇		
	扃平發條	〇•〇二〇		
	扃平發條駐螺	〇•〇一〇		
	鞘革	〇•一六〇		
	鯉口	〇•一五〇		
	鐺	〇•〇七〇		

口栓以下ノ附屬品ハ十八年式村田銃附屬品ト同一ニ付省ク

銃器及附屬品辨償價格表　十三年式村田騎銃

各部名稱	分解名稱	價格			備考
		金額	小計	合計	
銃	照星	〇•〇五〇	七•三〇〇		
	銃身	四•〇〇〇			
	底筩	二•八〇〇			
照尺	照尺鈑	〇•一〇〇	〇•三九〇		
	照尺坐	〇•一五〇			
	照尺發條	〇•〇三〇			
	照尺發條駐螺	〇•〇一〇			
	遊標	〇•〇七〇			
	遊標發條	〇•〇一〇			
	蝶番栓	〇•〇一〇			

〔臺轄〕

	遊標駐螺	〇・〇一〇		一二・七九〇
圓筒	圓筒	一・五〇〇	二・一六〇	
	抽筒子	〇・一〇〇		
	塞口螺子	〇・〇五〇		
	擊鐵	〇・二〇〇		
	擊莖	〇・一八〇		
	擊莖坐	〇・〇三〇		
	擊莖發條	〇・〇八〇		
	圓筒駐坐	〇・〇一〇		
	圓筒駐螺	〇・〇一〇		
機關	引鐵	〇・〇四〇	〇・二五〇	
	逆鈎發條	〇・一八〇		
	逆鈎發條駐螺	〇・〇一〇		
	逆鈎發條小駐螺	〇・〇一〇		
	引鐵駐栓	〇・〇一〇		
坐鐵	坐鐵	〇・一二〇	〇・三三〇	
	坐鐵駐木螺	〇・〇一〇		
	坐鐵駐螺	〇・〇一〇		
	用心鐵	〇・一五〇		
	用心鐵駐螺	〇・〇一〇		
	後負環	〇・〇一〇		
	後負環駐栓	〇・〇一〇		
	底筩駐螺	〇・〇一〇		

〔臺轄〕

銃床	銃床	一・五〇〇	一・七五〇	
	棚杖駐鐵	〇・一〇〇		
	床頭冠	〇・一二〇		
	床頭冠駐螺	〇・〇一〇		
	坐鐵駐螺坐鈑	〇・〇一〇		
	坐鐵駐螺坐鈑木螺	〇・〇一〇		
	前帶環發條	〇・〇三〇		
	中帶環發條	〇・〇三〇		
	後帶環發條	〇・〇三〇		
床尾鈑	床尾鈑	〇・一五〇	〇・一七〇	
	前床木螺	〇・〇一〇		
	床嘴木螺	〇・〇一〇		
	前帶環	〇・一〇〇		
	中帶環	〇・一〇〇		
	後帶環	〇・一〇〇		
	前負環	〇・〇一〇		
	前負環駐栓	〇・〇一〇		
	棚杖	〇・一二〇		
	銃口蓋		〇・二〇〇	
	洗矢		〇・〇九〇	
	羌		〇・一〇〇	
	轉螺器		〇・一〇〇	
	豫備品匣		〇・一〇〇	

負革	負革	〇・二二〇	〇・二七〇		
	負革止鉤	〇・〇一〇			
	負革替環	〇・〇二〇			
	負革壓口	〇・〇一〇			二箇アリ
彈藥盒	彈藥盒	〇・六二〇	〇・九〇〇		
	同蓋止革	〇・〇二〇			
	同負革	〇・二〇〇			
	同負革鉤	〇・〇一〇			二箇アリ
	同替環	〇・〇二〇			
	同壓口	〇・〇一〇			二箇アリ

銃器及附屬品辨償價格表　十八年式村田騎銃

各部名稱	分解名稱	價格 金額	價格 小計	價格 合計	備考
銃	照星	〇・五〇〇	七・三〇〇		
	銃身	四・〇〇〇			
	底筩	二・八〇〇			
照尺	照尺鈑	〇・一〇〇	〇・三九〇		
	照尺坐	〇・一五〇			
	照尺發條	〇・〇三〇			
	照尺發條駐環	〇・〇一〇			
	遊標	〇・〇七〇			

〔[illegible]〕

〔[illegible]〕

	遊標發條	〇・〇一〇		一二・七九〇	
	遊標香栓	〇・〇一〇			
	遊標駐螺	〇・〇一〇			
圓筒	圓筒	一・五〇〇	二・一六〇		
	抽筒子	〇・一〇〇			
	塞口螺子	〇・〇五〇			
	擊鐵	〇・二〇〇			
	擊莖	〇・一八〇			
	擊莖坐	〇・〇三〇			
	擊莖發條	〇・〇八〇			
	圓筒止螺	〇・〇二〇			
機關	引鐵	〇・〇四〇	〇・二五〇		
	逆鉤發條	〇・一八〇			
	逆鉤發條駐螺	〇・〇一〇			
	逆鉤發條小駐螺	〇・〇一〇			
	引鐵駐栓	〇・〇一〇			
坐鐵	坐鐵	〇・一二〇	〇・三二〇		
	坐鐵駐木螺	〇・〇一〇			
	用心鐵	〇・一五〇			
	後負螺	〇・〇一〇			
	後負環駐栓	〇・〇一〇			
	底筩前駐環	〇・〇一〇			
	底筩後駐螺	〇・〇一〇			

銃床	銃床	一・五〇〇	一・七六〇		
	槊杖駐鐵	〇・〇一〇			
	床頭冠	〇・一二〇			
	床頭冠駐螺	〇・〇一〇			
	圓筒止螺坐	〇・〇二〇			
	圓筒止螺坐木螺	〇・〇一〇			
	前帶環發條	〇・〇三〇			
	中帶環發條	〇・〇三〇			
	後帶環發條	〇・〇三〇			
床尾鈑	床尾鈑	〇・一五〇	〇・一七〇		
	前床木螺	〇・〇一〇			
	床嘴木螺	〇・〇一〇			
前帶環		〇・一〇〇			
中帶環		〇・一〇〇			
後帶環		〇・一〇〇			
前負環		〇・〇一〇			
前負環駐栓		〇・〇一〇			
槊杖		〇・一二〇			

銃口蓋以下ノ附屬品ハ十三年式村田騎銃ト同一ニ付省ク

銃器及附屬品辨償價格表　スナイドル銃

【臺轄】

各部名稱	分解名稱	價格 金額	價格 小計	價格 合計	備考

【臺轄】

銃	照星	〇・四〇〇	五・一〇〇		
	照尺	〇・七〇〇			
	銃身	四・〇〇〇			
遊底	遊底	〇・六五〇	一・〇八〇		
	開把	〇・一二〇			
	駐把螺子	〇・〇一〇			
	駐底筍	〇・〇二〇			
	準管	〇・〇四〇			
	復管	〇・〇二〇			
	復發條	〇・〇一〇			
	軸竿	〇・〇三〇			
	駐竿螺子	〇・〇一〇			
	擊針	〇・〇三〇			
	擊針發條	〇・〇二〇			
	火門	〇・〇五〇			
	脫包	〇・〇四〇			
	脫包竿軸	〇・〇三〇			
	機鈑	〇・三〇〇			
	扶鈑	〇・〇三〇			
	幹	〇・〇四〇			
	鏈	〇・一五〇			
	翻鈑	〇・〇六〇			

機	扶鈑駐螺	〇・〇一〇	一・一五〇	一一・九三〇	二個アリ
	機鈑駐螺	〇・〇一〇			二個アリ
	機鈑駐螺坐	〇・〇三〇			二個アリ
	大發條	〇・〇七〇			
	小發條	〇・〇三〇			
	小發條駐螺	〇・〇一〇			
	鷄頭	〇・三五〇			
	鷄頭駐螺	〇・〇一〇			
用心鐵	用心鐵	〇・二五〇	〇・二八〇		
	用心鐵駐栓	〇・〇一〇			
	用心鐵駐螺	〇・〇一〇			二個アリ
引鐵	引鐵	〇・〇四〇	〇・一一〇		
	引鐵坐	〇・〇四〇			
	引鐵坐駐栓	〇・〇二〇			
	引鐵坐駐螺	〇・〇一〇			
火門蓋	火門蓋	〇・〇七〇	〇・一〇〇		
	連鎖	〇・〇二〇			
	連環	〇・〇一〇			
床鈑	床鈑	〇・一四〇	〇・一七〇		
	前床木螺	〇・〇一〇			
	床踵木螺	〇・〇一〇			
	床嘴木螺	〇・〇一〇			

銃床	銃床	三・三七〇	三・五〇〇	
	床頭冠	〇・一二〇		
	床頭冠駐螺	〇・〇一〇		
	上帶環	〇・一五〇		
	下帶環	〇・一三〇		
	負環	〇・〇三〇		
	槊杖	〇・一三〇		
劍	劍身	一・〇〇〇	一・五四〇	
	抽劍筒	〇・〇二〇		
	扁平發條	〇・〇二〇		
	扁平發條駐螺	〇・〇一〇		
	鞘革	〇・二七〇		
	鯉口	〇・一五〇		
	鐺	〇・〇七〇		
口栓		〇・〇七〇		
萬力		〇・二〇〇		
分解器		〇・一二〇		
劍差革		〇・二〇〇		
油壺		〇・三〇〇		
負革	負革	〇・二二〇	〇・二六〇	
	負革番環	〇・〇二〇		
	負革歷口	〇・〇一〇		二個アリ

帶革	帶革	○•四八○	○•五一○
	帶革番環	○•○二○	
	帶革壓口	○•○一○	
彈藥盒	彈藥盒	一•一○○	一•一二○
	同蓋止革	○•○二○	

銃器及附屬品辨償價格表　十三年式改造村田騎銃

各部名稱分解名稱		價格			備考
		金額 圓	小計 圓	合計	
銃	照星	○•五○○	七•三○○	一二•八五○	
	銃身	四•○○○			
	底筩	二•八○○			
照尺	照尺鈑	○•一○○	○•三九○		
	照尺坐	○•一五○			
	照尺發條	○•○三○			
	照尺發條駐螺	○•○一○			
	遊標	○•○七○			
	遊標發條	○•○一○			
	螺番栓	○•○一○			
	遊標駐螺	○•○一○			
圓筒	圓筒	一•五○○	二•一六○		
	抽子	○•一○○			
	塞口螺子	○•○五○			
	擊鐵	○•二○○			
	擊莖	○•一八○			
	擊莖坐	○•○三○			
	擊莖發條	○•○八○			
	圓筒駐坐	○•○一○			
	圓筒駐螺	○•○一○			
機關	引鐵	○•○四○	○•二五○		
	逆鉤發條	○•一八○			
	逆鉤發條駐螺	○•○一○			
	逃鉤發條小駐螺	○•○一○			
	引鐵駐栓	○•○一○			
坐鐵	坐鐵	○•一二○	○•三三○		
	坐鐵木螺	○•○一○			
	坐鐵駐螺	○•○一○			
	用心鐵	○•一五○			
	用心鐵駐螺	○•○一○			
	後負環	○•○一○			
	後負環駐栓	○•○一○			
	底筩駐螺	○•○一○			
銃床	銃床	一•五○○	一•七二○		
	槊杖駐鐵	○•○一○			
	床頭冠	○•一二○			
	床頭冠駐螺	○•○一○			

	坐鐵駐螺坐鈑	〇・〇一〇			
	坐鐵駐螺坐鈑木螺	〇・〇一〇			
	中帶環發條	〇・〇三〇			
	後帶環發條	〇・〇三〇			
床尾鈑	床尾鈑	〇・一五〇	〇・一七〇		
	前床木螺	〇・〇一〇			
	床嘴木螺	〇・〇一〇			
前帶環			〇・一八〇		
前帶環駐螺			〇・〇一〇		
中帶環			〇・一〇〇		
後帶環			〇・一〇〇		
前負環			〇・〇一〇		
前負環駐栓			〇・〇一〇		
槊杖		〇・一二〇			
劍	劍身	〇・八〇〇	一・二〇〇		
	抽筒	〇・〇二〇			
	扁平發條	〇・〇二〇			
	扁平發條駐螺	〇・〇一〇			
	鞘革	〇・一三〇			
	鯉口	〇・一五〇			
	鐺	〇・〇七〇			
銃口蓋			〇・二〇〇		
洗矢			〇・〇九〇		

銃器及附屬品辨償價格表　十八年式改造村田騎銃

各部名稱	分解名稱	價格 金額	價格 小計	價格 合計	備考
禿			〇・一〇〇		
轉螺器			〇・一〇〇		
劍差革			〇・二〇〇		
豫備品匣			〇・一〇〇		
豫備囊			〇・四五〇		
負革	負革	〇・二二〇	〇・二七〇		
	負革止鈕	〇・〇一〇			
	負革轡環	〇・〇二〇			
	負革壓口	〇・〇一〇			
帶革	帶革	〇・五八〇	〇・六一〇		二箇アリ
	帶革轡環	〇・〇二〇			
	帶革壓口	〇・〇一〇			
彈藥盒	彈藥盒	〇・六二〇	〇・九〇〇		
	同蓋止革	〇・〇二〇			
	同負革	〇・二〇〇			
	同負革鈕	〇・〇一〇			二箇アリ
	同轡環	〇・〇二〇			
	同壓口	〇・〇一〇			二箇アリ

〔[illegible]〕

		圓	圓	
銃	照星	〇・五〇〇	七・三〇〇	一二・八五〇
	銃身	四・〇〇〇		
	底筩	二・八〇〇		
照尺	照尺鈑	〇・一〇〇	〇・三九〇	
	照尺坐	〇・一五〇		
	照尺發條	〇・〇三〇		
	照尺發條駐螺	〇・〇一〇		
	遊標	〇・〇七〇		
	遊標發條	〇・〇一〇		
	蝶番栓	〇・〇一〇		
	遊標駐螺	〇・〇一〇		
圓筒	圓筒	一・五〇〇	二・一六〇	
	抽筒子	〇・一〇〇		
	塞口螺子	〇・〇五〇		
	槊鐵	〇・二〇〇		
	撃茎	〇・一八〇		
	撃茎坐	〇・〇三〇		
	撃茎發條	〇・〇八〇		
	圓筒止螺	〇・〇二〇		
機關	引鐵	〇・〇四〇	〇・二五〇	
	逆鈎發條	〇・一八〇		
	逆鈎發條駐螺	〇・〇一〇		
	逆鈎發條小駐螺	〇・〇一〇		
	引鐵駐栓	〇・〇一〇		
坐鐵	坐鐵	〇・一二〇	〇・三二〇	
	坐鐵駐木螺	〇・〇一〇		
	用心鐵	〇・一五〇		
	後負環	〇・〇一〇		
	後負環駐栓	〇・〇一〇		
	底筩前駐螺	〇・〇一〇		
	底筩後駐螺	〇・〇一〇		
銃床	銃床	一・五〇〇	一・七三〇	
	槊杖駐鐵	〇・〇一〇		
	床頭冠	〇・一二〇		
	床頭冠駐螺	〇・〇一〇		
	圓筒止螺坐	〇・〇二〇		
	圓筒止螺坐木螺	〇・〇一〇		
	中帶環發條	〇・〇三〇		
	後帶環發條	〇・〇三〇		
床尾劍	床尾螺	〇・一五〇	〇・一七〇	
	前床木螺	〇・〇一〇		
	床嘴木螺	〇・〇一〇		
前帶環			〇・一八〇	
前帶環駐環			〇・〇一〇	
中帶環			〇・一〇〇	

〔[illegible]〕

後帶環		○・一○○	
前負環		○・○一○	
前負環駐栓		○・○一○	
槊杖		○・一二○	

銃口蓋以下ノ附屬品ハ十三年式村田騎銃ト同一ニ付省ク

銃器及附屬品辨償價格表 三八式歩兵銃

<table>
<tr><th rowspan="2">局部品及附屬品名稱</th><th colspan="3">價格</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>金額</th><th>小計</th><th>合計</th></tr>
<tr><td>銃身</td><td></td><td>八・○○○</td><td>二六・○○○</td><td></td></tr>
<tr><td>照星</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>照星坐</td><td>○・一五○</td><td>○・二六○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>照星坐駐螺</td><td>○・○一○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>照星頂</td><td>○・一○○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>照尺</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>照尺坐</td><td>○・二○○</td><td>○・七二○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>照尺坐駐螺</td><td>○・○一○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>表尺鈑</td><td>○・三二○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>照尺軸</td><td>○・○三○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>照尺發條</td><td>○・一五○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>照尺發條駐螺</td><td>○・○一○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>遊標</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>遊標</td><td>○・二○○</td><td>○・三六○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>遊標駐螺</td><td>○・○一○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>遊標駐鈎</td><td>○・一三○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>遊標駐鈎駐螺</td><td>○・○一○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>遊標駐鈎發條</td><td>○・○一○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>尾筒</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>尾筒</td><td>二・五○○</td><td>三・六七○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>遊底駐子</td><td>○・三八○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>遊底駐子發條</td><td>○・二○○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>遊底駐子駐螺</td><td>○・○一○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>蹴子</td><td>○・一一○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>蹴子駐螺</td><td>○・○一○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>逆鈎</td><td>○・三○○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>逆鈎發條</td><td>○・○一○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>逆鈎軸</td><td>○・○一○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>引鐵</td><td>○・一三○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>引鐵軸</td><td>○・○一○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>遊底</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>圓筒</td><td>二・○○○</td><td>五・○三○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>擊莖</td><td>○・七二○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>擊莖發條</td><td>○・二五○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>擊莖駐胛</td><td>一・○八○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>抽筒子</td><td>○・四六○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>遊底覆</td><td>○・五二○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>彈倉</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>彈倉</td><td>○・二六○</td><td>○・八七○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>彈倉發條</td><td>○・一一○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>彈倉底鈑</td><td>○・二六○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>受筒鈑</td><td>○・二四○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

【[illegible]】

【[illegible]】

銃床	銃床	二.五〇〇	三.八九〇
	尻筒筍坐鐵	〇.〇八〇	
	尾筒駐螺管	〇.〇二〇	
	床冠	〇.〇九〇	
	床冠駐栓	〇.二六〇	
	上帶發條	〇.三〇〇	
	上帶發條駐坐駐	〇.〇一〇	
	上帶發條坐駐螺	〇.〇二〇	
	下帶發條	〇.一三〇	
	木皮駐坐	〇.〇三〇	
	床尾鐖鐶	〇.〇五〇	
	床尾鐖鐶坐	〇.〇五〇	
	床尾鐖鐶長木螺	〇.〇二〇	
	床尾鈑	〇.三二〇	
	床尾鈑短木螺	〇.〇一〇	
	上帶	〇.三八〇	
	下帶	〇.二六〇	
	用心鐵	一.一二〇	
	尾筒長駐螺	〇.〇二〇	
	尾筒短駐螺	〇.〇一〇	
	彈倉駐子	〇.〇九〇	
	彈倉駐子發條	〇.〇六〇	
	彈倉駐子杆	〇.〇八〇	

〔[illegible]〕

〔[illegible]〕

銃床	彈倉駐子杆駐栓	〇.〇一〇	三.二〇〇	
	上支鐵	〇.二二〇		
	支鐵駐螺	〇.〇三〇		
	下支鐵	〇.二〇〇		
	木被	〇.二五〇		
	木被條鐵	〇.〇七〇		
	木被條鐵駐鋲	〇.〇一〇		
	棚杖	〇.三四〇		
	棚杖頭	〇.〇五〇		
銃口蓋			〇.二四〇	
轉螺器			〇.一六〇	
洗管			〇.二〇〇	
藥室掃除器			〇.〇六〇	
負革	負革	一.一六〇	一.三〇〇	
	負革遊環革	〇.〇四〇		
	負革鼓釦	〇.〇五〇		
	負革簪鐶	〇.〇五〇		
彈藥盒前盒	彈藥盒	三.〇六〇	三.一二〇	一組 六.二四〇
	彈藥盒鎖筍	〇.〇五〇		
	彈藥盒鎖筍坐	〇.〇一〇		
彈藥盒後盒	彈藥盒	四.三七〇	四.四八〇	
	彈藥盒鎖筍	〇.〇五〇		
	彈藥盒鎖筍坐	〇.〇一〇		

		金額	小計	合計	備考
	一油壺止革	○・○五○			
油壺	油壺	○・四二○	○・五二○		
	塗油桿	○・○三○			
	塗油桿壺螺	○・○七○			

銃器及附屬品辨償價格表 三八式騎兵銃

	局部品及附屬品名稱	價格 金額	價格 小計	價格 合計	備考
	銃身		七・五○○	二五・六○○	
照星	照星坐	○・一五○	○・二六○		
	照星坐駐螺	○・○一○			
	照星頂	○・○一○			
照尺	表尺鈑	○・三○○	○・六七○		
	照尺坐	○・二○○			
	照尺坐駐螺	○・○一○			
	照尺軸	○・○一○			
	照尺發條	○・一四○			
	照尺發條駐螺	○・○一○			
遊標	遊標	○・○二○	○・三六○		
	遊標駐螺	○・○一○			
	遊標駐鈎	○・一三○			
	遊標駐鈎駐螺	○・○一○			
	遊標駐鈎發條	○・○一○			
尾筒	尾筒	二・五○○	三・六七○		
	遊底駐子	○・三八○			
	遊底駐子發條	○・二○○			
	游底駐子駐螺	○・○一○			
	蹴子	○・一一○			
	蹴子駐螺	○・○一○			
	逆鈎	○・三○○			
	逆鈎發條	○・○一○			
	逆鈎軸	○・○一○			
	引鐵	○・一三○			
	引鐵軸	○・○一○			
遊底	圓筒	二・○○○	五・○三○		
	擊莖	○・七二○			
	擊莖發條	○・二五○			
	擊莖駐胛	一・○八○			
	抽筒子	○・四六○			
	遊底覆	○・五二○			
彈倉	彈倉	○・二六○	○・八七○		
	彈倉發條	○・一一○			
	彈倉底鈑	○・一六○			
	受筒鈑	○・二四○			
	銃床	二・五○○			
	尾筒筍坐鐵	○・○八○			

銃床	尾筒駐螺管	○•○二○	三•九三○
	床冠	○•一○○	
	床冠駐栓	○•○三○	
	上帶發條	○•三○○	
	上帶發條駐坐	○•○二○	
	上帶發條駐坐駐螺	○•○一○	
	木被駐坐	○•○三○	
	下帶發條(右)	○•二○○	
	下帶發條(左)	○•二○○	
	床尾螺鐶	○•○五○	
	床尾螺鐶坐	○•○五○	
	床尾螺鐶短木螺	○•○一○	
	床尾鈑	○•三二○	
	床尾鈑短木螺	○•○一○	
鉸鍊	上帶	○•四二○	三•三一○
	下帶	○•三八○	
	用心鐵	一•一二○	
	尾筒長駐螺	○•○二○	
	尾筒短駐螺	○•○一○	
	彈倉駐子	○•○八○	
	彈倉駐子發條	○•○六○	
	彈倉駐子桿	○•○八○	
	彈倉駐子杆駐栓	○•○一○	

	上支鐵	○•二二○	
	支鐵駐螺	○•○三○	
	下支鐵	○•二○○	
	木被	○•二四○	
	木被餘鐵	○•○七○	
	木被餘鐵駐鋲	○•○一○	
	槊杖	○•三一○	
	槊杖頭	○•○五○	
銃口蓋			○•二四○
銃轉螺器			○•一六○
洗管			○•二○○
藥室掃除器			○•○六○
負革	負革	一•一六○	一•三○○
	負革釦	○•○五○	
	負革遊環	○•○四○	
	負革臂環	○•○五○	
彈藥盒	彈藥盒	四•一二○	五•六○○
	彈藥盒鎖筍	○•○五○	
	彈藥盒鎖筍坐	○•○一○	
	彈藥盒帶革	○•五○○	
	彈藥盒帶革臂環	○•○三○	
	彈藥盒帶革遊環	○•○二○	
	彈藥盒負革	○•八○○	

名稱		金額	小計	合計
	彈藥盒負革箝環	〇•〇四〇		
	彈藥盒負革遊環革	〇•〇三〇		
油壺	油壺	〇•三五〇	〇•四四〇	
	塗油桿	〇•〇二〇		
	塗油桿蓋螺	〇•〇七〇		

三十年式銃劍及附屬品辨償價格表

局部品及附屬品名稱		價格			備考
		金額	小計	合計	
劍	劍身		一•二〇〇	二•八〇〇	
	劍鍔		〇•四七〇		
柄	柄木	〇•〇四〇	〇•二四〇		
	柄木駐螺	〇•〇一〇			
	柄木駐牝螺	〇•〇一〇			
	柄頭	〇•〇五〇			
	駐筍	〇•〇八〇			
	駐筍發條	〇•〇一〇			
	駐筍頭	〇•〇三〇			
	柄木駐坐	〇•〇一〇			
鞘	劍鞘	〇•六〇〇	〇•八九〇		
	上部彈鎖子（鯉口共）	〇•一八〇			
	下部彈鎖子	〇•〇一〇			

〔臺轄〕

〔臺轄〕

名稱		金額	小計	合計
	鈎鐶	〇•〇九〇		
	鈎鐶駐螺	〇•〇一〇		
帶革	帶革	一•七三〇	二•〇〇〇	
	帶革遊環革	〇•一〇〇		
	帶革箝鐶	〇•一七〇		
劍差	劍差體革	〇•八七〇	一•二〇〇	
	劍差止革	〇•〇五〇		
	劍差箝鎖	〇•〇八〇		
	劍差表革	〇•二〇〇		

彈藥

村田彈藥	〇•〇四〇
スナイドル彈藥	〇•〇五〇
村田藥莢	〇•〇二〇
スナイドル藥莢	〇•〇二〇
三八式銃實包	〇•〇七〇
同　挿彈子	〇•〇一〇
同　藥莢	〇•〇一〇

第三款　旅費

●內國旅費規則

明治四十三年六月十八日
勅令第二百七十四號

改正　明治四三年勅令第三九一號、四四年第一九二號、大正九年第一七六號、一三年第三〇六號

朕內國旅費規則改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

內國旅費規則

第一條　官吏公務ニ依リ本邦內ヲ旅行スルトキハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二條　旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料、赴任手當、移轉料及家族移轉料ノ九種トス

鐵道賃及船賃ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ從ヒ實際ノ料金ニ依リ、車馬賃日當宿泊料食卓料及移轉料ハ別表ニ揭クル所ニ從ヒ定額ニ依リ之ヲ支

給ス

旅費ハ順路ニ依リ之ヲ計算ス但シ公務ノ都合ニ依リ順路ニ依リテ旅行シ難キ場合ニ於テハ其ノ現ニ經過シタル通路ニ依ル

第三條 鐵道旅行ニハ鐵道賃、水路旅行ニハ船賃、陸路旅行ニハ車馬賃ヲ支給ス

鐵道又ハ水路ニ依ラサル旅行ハ之ヲ陸路旅行トス

第四條 宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シテ之ヲ支給ス

水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス但シ官用ノ船舶ニ依リテ旅行スル場合ニ於テ官ヨリ賄ヲ爲ササルトキハ食卓料ヲ支給ス

第五條 旅費ノ支給ニ關シテハ旅行日數ハ出張地ニ於ケル滯在日數及途中已ムヲ得サル事由ノ爲要シタル日數ヲ除クノ外鐵道旅行ハ二百哩、水路旅行ハ百海里、陸路旅行ハ十二里ニ付一日ノ割合ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ス但シ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス

第六條 赴任ノ場合ニ於テハ別ニ日當五日分宿泊料五夜分ニ相當スル赴任手當、移轉料及家族移轉料ヲ支給ス

家族移轉料ハ家族一人毎ニ舊任地又ハ本人ノ居住地ヨリ新任地ニ至ル本人相當ノ鐵道賃船賃車馬賃日當宿泊料食卓料ノ全額及赴任手當ノ三分ノ二ニ該當スル金額トス但シ十二歲未滿ノ家族ニ付テハ其ノ半額トス

家族ノ數三人ヲ超過スルトキハ其ノ超過スル者ニ付支給スル家族移轉料ハ前項ノ規定ニ依ル給額ノ半額トス

赴任者赴任後一年內ニ其ノ家族故ナクシテ新任地ニ移轉セサルトキハ家族移轉料ヲ支給セス

第七條 官用ノ船、車、馬等ニ依リテ旅行スルトキハ鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ支給セス

第八條 陸路六里未滿、鐵道四十八哩未滿、水路三十海里未滿ノ旅行ニ在リテハ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ヲ除クノ外其ノ支給スヘキ日當ハ定額ノ半額トス

一旅行ニシテ陸路、鐵道又ハ水路ニ亙ルトキハ鐵道ハ八哩、水路ハ五海里ヲ以テ陸路一里ト看做シ前項ノ規定ヲ準用ス

第九條 在勤廳所在地ノ市町村內ノ出張ニシテ遠距離ニ渉ルトキハ定額半額以內ノ日當ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ特別ノ事情アルトキハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ別ニ必要ナル費用ヲ支給スルコトヲ得

第九條ノ二 前條第二項ノ規定ハ在勤廳所在地ノ市町村內ノ出張ニシテ遠距離ニ渉ラサル場合又ハ在勤廳所在地外ノ市町村內ヲ旅行シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十條 私事ノ爲任地又ハ居住地以外ニ滯在スル者轉任ヲ命セラレ又ハ新ニ任用セラレ滯在地ヨリ赴任スル場合ニ於テハ滯在地ヨリ新任地ニ至ル旅費額カ舊任地又ハ居住地ヨリ新任地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ舊任地又ハ居住地ヨリ新任地ニ至ル旅費ヲ支給ス

前項ノ規定ハ私事ノ爲任地以外ニ滯在スル者滯在地ヨリ旅行スル場合ニ之ヲ準用ス

第十條ノ二 前條第一項ノ規定ハ舊任地又ハ本人ノ居住地以外ヨリ新任地ニ移轉スル家族ニ付支給スル家族移轉料ニ之ヲ準用ス

第十一條 新ニ任用スル爲召喚セラレタル者ニハ官吏赴任ノ例ニ準シ新官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十二條 特別ノ事情ニ依リ定額ノ車馬賃ヲ以テ其ノ實費ヲ支辨シ難キ場合ニ於テハ實費額ヲ支給スルコトヲ得

第十三條 車馬賃ハ其ノ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ定額ヲ異ニスルモノニ付テハ各別ニ之ヲ通算ス

通算上一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨トス

第十四條 年度又ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分計算スルノ必要アル場合ニ於テ其ノ區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ路程ヲ區別シ計算ス

第十五條 旅行中退官、退職、休職又ハ非職ト爲リタル者ニハ舊任地ニ至ル前官又ハ本官相當ノ旅費ヲ支給ス但シ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依リテ失官シ又ハ免官セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ第五條ニ定メタル旅程ノ割合ヲ以テ計算シタル日數ニ依リ旅費ヲ支給ス

旅行中死亡シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

第十六條 事務引繼殘務調理等ノ爲退官者ニ旅行ヲ命スルトキハ前官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十七條 所管大臣ハ測量土木工事等ノ爲現場ヲ巡廻スル官吏又ハ常時旅行ヲ要スル官吏ニ關シ特ニ其ノ旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

所管大臣ハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ旅費ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第十七條ノ二 日當及宿泊料ハ同一地ニ滯在十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ一割、三十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ二割、六十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ三割、百日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ四割ヲ減ス

同一地ニ滯在中一時他ノ地ニ旅行シタル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

第十八條 武官、陸海軍文官、鐵道事務ニ從事スル官吏及警察官ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ別ニ之ヲ定ム

第十九條 雇員其ノ他本令ニ規定ナキ者ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シ本令ニ準シテ之ヲ定ム

第二十條 當分ノ內朝鮮、臺灣、樺太又ハ千島國內ノ旅行ニ限リ所管大臣大藏大臣ト協議シテ旅費ノ定額ヲ增加スルコトヲ得

第二十一條 當分ノ內朝鮮、臺灣、樺太又ハ千島國在勤二年以上ニシテ退官、退職、休職又ハ非職ト爲リ三十日以內ニ同地出發歸鄕スル者ニハ前官又ハ本官相當ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得但シ刑事裁判若ハ懲戒處分ニ依リ失官シ若ハ免官セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退官若ハ退職シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

在職中死亡シタルトキハ第一項ノ例ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給スルコトヲ得

第二十二條 樺太ニ赴任スル者、千島國幌筵島以北ニ赴任若ハ出張スル者、朝鮮ニ赴任スル者ニシテ江原道平安南道平安北道咸鏡南道咸鏡北道ニ赴ク者又ハ十一月ヨリ翌年二月ニ至ル期間內ニ樺太ニ出張スル者

ニハ當分ノ內支度料ヲ支給スルコトヲ得其ノ額ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附 則

本令ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前轉任ヲ命セラレ、新ニ任用セラレ若ハ新ニ任用スル爲召喚セラレタル場合又ハ退官、退職、休職、非職ト爲リ若ハ死亡シタル場合ニ關シテハ舊令ニ依ル

附 則（大正九年勅令第百七十六號）

本令ハ大正九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正七年勅令第二百八十五號ハ之ヲ廢止ス

本令施行前轉任ヲ命セラレ又ハ新ニ任用セラレ若ハ新ニ任用スル爲召喚セラレタル者本令施行後著任シタルトキハ本令ニ依リ赴任手當及移轉料ヲ支給ス

前項ニ規定スル者ノ家族本令施行後新任地ニ到著シタルトキハ本令ニ依リ家族移轉料ヲ支給ス

（別表）

區分／官階		旅費額					
		車馬賃一里ニ付	日當一日ニ付		宿泊料一夜ニ付		食卓料一夜ニ付	移轉料
			甲地方	乙地方	甲地方	乙地方		
親任官		一圓五十錢	十二圓	十圓	十八圓	十五圓	四圓	三百圓以內
勅任官		一圓二十錢	八圓	七圓	十二圓	十圓	三圓五十錢	二百二十圓以內
奏任官	五等以上	九十錢	六圓	五圓	八圓	七圓	二圓五十錢	百五十圓以內
	六等以下	九十錢	五圓	四圓	七圓	六圓	二圓五十錢	百五十圓以內
判任官	五級俸以上	七十五錢	三圓	二圓五十錢	五圓五十錢	五圓	二圓	百圓以內
	六級俸以下	七十五錢	二圓五十錢	二圓二十錢	四圓五十錢	四圓	一圓	百圓以內

【參照】

備考

一 甲地方トハ大藏大臣ノ指定スル地域、乙地方トハ其ノ他ノ地域ヲ謂フ

二 一日中甲地方及乙地方ニ亙ル旅行ニ付テハ出發地、用務地又ハ到著地カ甲地方ノ場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額ニ依リ其ノ他ノ場合ニ於テハ乙地方ノ定額ニ依ル

三 鐵道旅行中宿泊スル場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額、宿泊料ハ乙地方ノ定額ニ依リ水路旅行中宿泊スル場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額ニ依ル

四 赴任手當ハ甲地方ノ日當及宿泊料ノ定額ニ依リ之ヲ計算ス

●內國旅費規則第二條ニ依ル鐵道賃、船賃

大正九年五月三十一日
大藏省令第十六號

改正 大正一〇年大藏省令第一號

內國旅費規則第二條ニ依リ鐵道賃、船賃左ノ通相定メ大正九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 鐵道賃ハ左ノ區別ニ從ヒ旅客運賃（通行稅ヲ含ム）及急行料金ニ依リ之ヲ計算ス

一、高等官ニ在リテハ一等ノ運賃但シ一等車ノ連結ナキ線路ニ依ル旅行ニ在リテハ二等ノ運賃

二、判任官ニ在リテハ二等ノ運賃但シ特別ノ必要ニ依リ一等車ニ乘車シタル場合ニ於テハ一等ノ運賃

三、運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ高等官判任官共上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘車ニ要スル運賃

四、五十哩以上ノ旅行ニ在リテハ普通急行料金但シ急行料金ヲ徵セサル線路ニ依リ旅行スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

五、百哩以上特別急行列車ニ乘車シタル場合ニ於テハ特別急行料金

六、特別ノ必要ニ依リ普通急行列車又ハ特別急行列車ニ乘車シタル場合ニ於テハ前二號ノ規定ニ拘ラス其ノ乘車ニ要スル急行料金

第二條 船賃ハ旅客運賃（通行稅、艀船賃、棧橋賃、寢臺料及普通運賃ノ外別ニ食費ヲ要スル場合ニ於テハ夕食及朝食ニ對スル所定ノ料金ヲ含ム）及急行料金ニ依リ鐵道賃ノ例ニ準シ之ヲ計算ス

【參照】

●內國旅費規則別表ニ定ムル甲地方指定

大正十三年十二月十六日
大藏省令第二十八號

改正 大正一四年大藏省令第一一號、第一二號

內國旅費規則別表ニ定ムル甲地方左ノ通指定シ大正十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

一道府縣廳、師團司令部、鎭守府又ハ帝國大學所在ノ市町村

二前號ノ外左ニ揭クル市町村

北海道函館市
同 小樽市
同 室蘭市
同 釧路市
同 常呂郡野付牛町
京都府紀伊郡伏見町
同 加佐郡新舞鶴町
同 同 中舞鶴町
大阪府堺市
神奈川縣鎌倉郡鎌倉町
同 三浦郡葉山村
兵庫縣尼崎市
同 西宮市
群馬縣高崎市
栃木縣上都賀郡日光町
三重縣宇治山田市
愛知縣豐橋市
靜岡縣濱松市
同 沼津市
山口縣下關市
福岡縣門司市
同 小倉市

同　八幡市
同　戸畑市
同　若松市
同　大牟田市
三　前二號ニ定ムルモノノ外左ノ區域內ニ在ル町村
東京府南葛飾郡
同　南足立郡
同　北豐島郡
同　豐多摩郡
同　荏原郡
神奈川縣足柄下郡
兵庫縣武庫郡

大藏省所管旅費支給規則

明治四十三年七月一日
大藏省令第三十三號

改正　明治四三年大藏省令第四七號、大正九年第一七號、第四二號、一三年第三〇號、一四年第一九號

大藏省所管旅費支給規則左ノ通相定ム

大藏省所管旅費支給規則

第一條　大藏省所管經費支辨ニ屬スル內國旅費ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本規則ニ依リ之ヲ支給ス

第二條　親任官待遇及勅任官待遇ノ者ニハ內國旅費規則ニ依リ支給スヘキ待遇官相當ノ額ヲ支給ス

【臺灣】

第三條　試補其ノ他奏任官待遇ノ者ニハ內國旅費規則ニ依リ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額ヲ支給ス

第四條　見習其ノ他判任官待遇ノ者ニハ內國旅費規則ニ依リ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額ヲ支給ス

第五條　專賣局見習員及稅務監督局見習員ニハ別表甲額ヲ支給ス

第六條　雇員ハ左ノ各號ニ依ル但シ日額ノモノハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス

一　給料月額百十圓以上ノ者ニハ內國旅費規則ニ依リ判任官五級俸以上ノ額
二　給料月額五十五圓以上百十圓未滿ノ者ニハ內國旅費規則ニ依リ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額
三　給料月額五十五圓未滿ノ者ニハ別表甲額

第七條　囑託員ハ左ノ各號ニ依ル

一　在官ノ者（退職ニ在ラサルモノ）ニハ其ノ官相當ノ額
二　高等官待遇及判任官待遇ノ者ニハ第二條乃至第四條ノ各相當額
三　宮內官ニハ內國旅費規則別表及大正九年大藏省令第十六號ニ照準シ各其ノ相當額
四　警察官ニハ所管大臣ノ定メタル額、地方吏員ニハ內務大臣ノ定メタル額
五　前各號ニ該當セサル者ハ其ノ常時一定ノ手當ヲ給スル者ニアリテハ其ノ手當額（年額ハ十二分ノ一、日額ハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス）ニ依リ、一時手當ヲ給スル者又ハ手當ヲ給セサル者ニアリテハ其ノ爵位勳功ニ依リ左ノ區別ニ從ヒテ支給ス但シ後段ノ場合爵位勳功ヲ併有スルトキハ高キニ從フ

【臺灣】

一　手當月額三百圓以上又ハ有爵者、正六位以上、勳五等以上及功四級以上ノ者ニハ內國旅費規則ニ依リ奏任官五等以上ノ額
二　手當月額百七十圓以上三百圓未滿又ハ從六位、勳六等及功五級ノ者ニハ內國旅費規則ニ依リ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額
三　手當月額百十圓以上百七十圓未滿又ハ從七位以上正七位以下、勳七等及功六級ノ者ニハ內國旅費規則ニ依リ判任官五級俸以上ノ額
四　手當月額五十五圓以上百十圓未滿又ハ正八位以下、勳八等及功七級ノ者ニハ內國旅費規則ニ依リ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額
五　手當月額五十五圓未滿又ハ位、勳、功級ヲ有セサル者ニハ別表甲額

特殊ノ事情アル者ニ付テハ其ノ身分及用務ノ性質ニ依リ其ノ都度之ヲ定ム

第八條　巡視、門衞、仕部其ノ他廳內取締ノ役務ニ服スル者並船長、機關士、水火夫長、職工長、組長及之ニ準スル者ニハ別表甲額ヲ支給ス

第九條　廷丁、給仕、小使、馭者、水夫、火夫、倉庫夫、運搬夫、車夫、馬丁、職工及其ノ他ノ傭人ニハ別表乙額ヲ支給ス但シ常傭ニアラサル職工其ノ他ノ傭人ニシテ其ノ業ニ從事シ勞銀ヲ給スル日ハ日當、宿泊料若ハ食卓料ヲ支給セス

第十條　在勤廳所在地ノ市町村內ノ出張ニシテ其ノ行程二里以上ニ渉ルトキハ定額ノ三分ノ一額ニ相當スル日當ヲ其ノ四里以上ニ渉ルトキハ定額ノ半額ニ相當スル日當ヲ支給ス

前項ノ場合ニ於テ公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要シタルトキハ宿泊料ヲ支給ス

第十條ノ二　在勤廳所在地又ハ在勤廳所在地外ノ市町村內ニ於テ陸路三里鐵道二十四哩水路十五海里以外ノ地ニ出張スルトキハ內國旅費規則ニ依ル鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ支給スルコトヲ得

交通不便其ノ他ノ事由ニ因リ特ニ多額ノ船車馬賃ヲ要シタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス其ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

第十條ノ三　在勤廳所在地ノ市町村內ニ於テ引續キ五時間以上出張スルトキハ日當定額ノ三分ノ一ニ相當スル額ヲ引續キ八時間以上出張スルトキハ日當定額ノ半額ニ相當スル額ヲ支給スルコトヲ得

第十條ノ四　第十條又ハ第十條ノ三ニ規定スル出張ヲ爲ス官用ノ船車馬ニ依リタルトキハ之ニ支給スヘキ旅費ノ額ハ第十條又ハ第十條ノ三ニ定ムル額ノ半額トス

第十一條　旅行ノ性質ニ依リ特ニ月額又ハ日額ヲ以テ旅費ヲ支給スル必要アルトキハ認可ヲ經ヘシ

第十二條　旅費ノ定額ヲ減シ又ハ旅費ノ全部若ハ一部ヲ支給セサル必要アルトキハ各廳長官ニ於テ適宜之ヲ定メ報告スヘシ

第十三條　移轉料ハ各廳長官ニ於テ旅程ノ遠近、情況等ヲ斟酌シ規定ノ範圍內ニ於テ適宜相當ノ額ヲ支給スヘシ

第十三條ノ二　家族移轉料ヲ支給スル場合ニ於ケル家族トハ本人ト同一

戶籍內ニアリテ同居スル親族ヲ謂フ

第十四條　旅費支給上路程ノ計算ニ付テハ鐵道ハ鐵道官廳調、水路ハ水路部調、陸路ハ最近刊行ノ郵便線路圖ニ據リ計算スヘシ

前項ニ據リ難キ場合ハ地方官廳若ハ市町村長ノ證明スル處ニ據ルヘシ

第十四條ノ二　路程ノ計算ニ付テハ郵便線路圖ニ示ス各市町村內ノ郵便局ヲ以テ其ノ起點トス若シ其ノ郵便局ニ依リ難キ場合ニ於テハ地方官廳又ハ市町村長ノ證明スル元標又ハ之ニ準スルモノヲ以テ其ノ起點トス

鐵道旅行又ハ水路旅行ノ場合ニハ前項市町村ニ於ケル起點及停車場又ハ波止場間ノ里程ハ陸路旅行ノ旅程ニ算入ス

第十五條　一日中旅費ノ支給額ヲ異ニスル場合ハ其ノ多キ額ヲ支給ス

第十六條　旅行中一時歸廳シタル場合ハ其ノ路程ハ之ヲ打切計算ス

第十七條　削除

第十八條　雇員其ノ他內國旅費規則ニ規定ナキ者ノ旅費支給ニ關シテハ同規則ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

大藏省所管經費支辨ニ屬スル特定旅費規則、官船航行旅費規則及專賣局旅費支給規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行前雇員其ノ他ノ者轉勤ヲ命セラレ又ハ新ニ採用セラレタル者ニ支給スヘキ旅費ニ關シテハ仍特定旅費規則ニ依ル

別表

旅費額

區別	鐵道賃	船賃	車馬賃一里ニ付	日當一日ニ付		宿泊料一夜ニ付		食卓料一夜ニ付	移轉料
				甲地方	乙地方	甲地方	乙地方		
甲額	三等定價通行税ヲ含ム	三等定價、通行税、艀賃及棧橋賃ヲ含ム	六十錢	二圓	一圓八十錢	三圓五十錢	三圓十錢	一圓二十錢	五十圓以內
乙額			四十五錢	一圓五十錢	一圓三十錢	二圓八十錢	二圓六十錢	八十錢	三十五圓以內

備　考

一、本表中甲地方トハ大正十三年大藏省令第二十八號ニ指定スル地域、乙地方トハ其ノ他ノ地域ヲ謂フ

二、鐵道五十哩水路五十海里以上ノ旅行ニアリテハ急行料金ヲ支給ス但シ急行料金ヲ徵セサル線路ニ依リ旅行スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

●大藏省所管經費支辨ニ屬スル各廳員朝鮮、臺灣及樺太內旅費支給規則

明治四十三年七月二十五日
大藏省令第三十五號

改正　明治四三年大藏省令第四六號、大正九年第三〇號、一三年第二九號

大藏省所管經費支辨ニ屬スル各廳員朝鮮、臺灣及樺太內旅費支給規則左ノ通相定ム

大藏省所管經費支辨ニ屬スル各廳員朝鮮、臺灣及樺太內旅費支給規則

第一條　大藏省所管經費支辨ニ屬スル各廳判任以上ノ者及待遇官吏、囑託員、雇員以下ノ者朝鮮、臺灣又ハ樺太內ヲ旅行スルトキハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ニ依リ別表ノ旅費額ヲ支給ス

第二條　本令ニ依ル日當ハ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ最初到達ノ日ヨリ該地最終出發ノ前日マテ、日當以外ノモノハ朝鮮、臺灣又ハ樺太最初到著ノ地ヨリ該地最終出發ノ地ニ至ルマテヲ支給ス

第三條　樺太ニ赴任スル者及十一月ヨリ翌年二月ニ至ル期間內ニ樺太ニ出張スル者ニハ別表支度料ノ範圍內ニ於テ各廳長官適宜之ヲ定メ支給スヘシ

第四條　朝鮮、臺灣及樺太在勤二年以上ノ者刑事裁判、懲戒處分若ハ自己ノ便宜ニ依ルニアラスシテ退官、休職又ハ解職ト爲リ三十日以內ニ前任地出發歸鄉スルトキハ內國旅費規則若ハ大藏省所管旅費支給規則ニ依リ前官、前職又ハ本官相當ノ額ヲ以テ前任地ヨリ原籍地マテノ鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ支給ス

第五條　朝鮮、臺灣及樺太ニ在勤スル者在職中死亡シタルトキハ前條ニ準シ歸鄉旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ給ス

第六條　朝鮮、臺灣及樺太在勤ノ者內地旅行中前二條ニ該當スルトキハ其ノ旅行カ公務タルト私事タルトヲ問ハス支給スヘキ金額ハ之ヲ半額トス

第七條　本令ニ規定セルモノヲ除クノ外旅費支給方ニ關シテハ內國旅費規則、大正九年大藏省所令第十六號及大藏省所管旅費支給規則ニ依ル

附　則

本令ハ明治四十三年七月ヨリ之ヲ施行ス

臺灣及樺太內旅費支給ニ關スル當省達ハ之ヲ廢止ス

（別表）

朝鮮、臺灣及樺太旅費額

區別		車馬賃一里ニ付	日當一日ニ付		宿泊料一夜ニ付		食卓料一夜ニ付	移轉料	支度料	
			甲地方	乙地方	甲地方	乙地方			赴任	出張
親任官	（及大藏省所管旅費支給規則ニ於テ同相當額ヲ受クル者）	二圓五十錢	十三圓	十二圓	二十二圓	十八圓	四圓	三百圓以內		二百五十圓以內
勅任官	（及以下同上）	二圓	九圓	八圓	十五圓	十二圓	三圓五十錢	二百二十圓以內	三百圓以內	二百圓以內
奏任官	五等以上（及以下同上）	一圓五十錢	七圓	六圓	十圓	八圓	二圓五十錢	百五十圓以內	二百圓以內	百五十圓以內
	六等以下（及以下同上）	一圓五十錢	六圓	五圓	九圓	七圓	二圓五十錢	百五十圓以內	二百圓以內	百五十圓以內

判任官 五級俸以上（及以下同上）	一圓二十錢	四圓	三圓	七圓	五圓五十錢	二圓	百圓以內	百圓以內	七十五圓以內
判任官 六級俸以下（及以下同上）	一圓二十錢	三圓五十錢	二圓五十錢	六圓	四圓五十錢	二圓	百圓以內	百圓以內	七十五圓以內
大藏省所管旅費支給規則ニ於テ甲額ヲ受クル者	九十錢	二圓五十錢	二圓	四圓五十錢	三圓五十錢	一圓二十圓	五十圓以內	五十圓以內	三十五圓以內
同上乙額ヲ受クル者	七十錢	二圓	一圓五十錢	三圓五十錢	二圓八十錢	八十錢	三十五圓以內	三十圓以內	二十圓以內

備考

甲地方トハ左ニ揭クル地域、乙地方トハ其ノ他ノ地域ヲ謂フ

一朝鮮ニ於ケル道廳所在ノ府又ハ面

二前號ノ外左ニ揭クル府又ハ面

京畿道仁川府 慶尙南道釜山府 同 東萊郡東萊面 咸鏡北道淸津府
全羅北道群山府 同 馬山府 平安南道鎭南浦府
全羅南道木浦府 同 昌原郡鎭海面 咸鏡南道元山府

三臺灣ニ於ケル州廳所在ノ市又ハ街

四前號ノ外左ニ揭クル街

臺北州基隆郡基隆街 臺中州南投郡南投街 高雄州澎湖郡馬公街 臺東廳臺東街
同 宜蘭郡宜蘭街 臺南州嘉義郡嘉義街 同 屛東郡屛東街 花蓮港廳花蓮港街

五樺太ニ於ケル左ノ地方

豐原郡豐原町大字豐原 一 大泊郡大泊町大字大泊 一 眞岡郡眞岡町大字眞岡

●大藏省所管經費支辨待遇官吏以下南洋群島關東州南滿洲旅費規則

【參照】

大正十二年一月九日
大藏省令第二號

大藏省所管經費支辨待遇官吏以下南洋群島關東州南滿洲旅費規則左之通相定ム

大藏省所管經費支辨待遇官吏以下南洋群島關東州南滿洲旅費規則

【參照】

第一條 大藏省所管經費支辨ニ屬スル待遇官吏以下ニ支給スヘキ南洋群島關東州南滿洲旅費ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本規則ニ依リ之ヲ支給ス

第二條 親任官又ハ勅任官ノ待遇ヲ受クル者ニハ親任官又ハ勅任官相當ノ旅費ヲ支給ス

第三條 奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニシテ官等ノ配等アル者ニハ其ノ官等相當ノ旅費、官等ノ配等ナキ者ニハ俸給又ハ手當ノ額ニ依リ左ノ區分ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

一、本俸若ハ手當年額三千六百圓以上（月額ノモノハ十二月分ヲ以テ年額トス）ノ者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額

二、前號ノ金額ニ達セサル者又ハ俸給若ハ一定ノ手當ヲ給セサル者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

第四條 判任官ノ待遇ヲ受クル者ニハ左ノ區分ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

一、本俸又ハ給料若ハ手當月額百十圓以上ノ者ニハ判任官五級俸以上ノ者ニ支給スヘキ額

二、前號ノ金額ニ達セサル者ニハ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額

第五條 囑託員ニシテ本官アル者（退職ノ者及退職ニ準スヘキ休職者ヲ除ク）ニハ本官相當ノ額、判任官以上ノ待遇ヲ受クル官職ニ在ル者ニハ第二條乃至第四條ノ區別ニ從ヒ各待遇相當ノ旅費ヲ支給ス

第六條 前條ノ規定ニ該當セサル囑託員ニハ其ノ常時一定ノ手當ヲ給スル者ニ在リテハ其ノ手當額（年額ハ十二分ノ一、日額ハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス）ニ依リ、一時手當ヲ給スル者又ハ手當ヲ給セサル者ニ在リテハ爵位、勳功ニ依リ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス但シ後段ノ場合爵位勳功ヲ併有スルトキハ高キニ從フ

一、手當月額三百圓以上ノ者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額

二、手當月額百七十圓以上ノ者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

三、手當月額百十圓以上ノ者ニハ判任官五級俸以上ノ者ニ支給スヘキ額

四、手當月額五十五圓以上ノ者ニハ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額

五、有爵者、正六位以上、勳五等以上又ハ功四級以上ノ者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額

六、從六位、勳六等又ハ功五級ノ者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

七、正七位、從七位、勳七等又ハ功六級ノ者ニハ判任官五級俸以上ノ者ニ支給スヘキ金額

八、正八位以下、勳八等又ハ功七級ノ者ニハ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額

九、前各號ニ該當セサル者ニハ別表甲額

第七條 雇員ニハ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス但シ日額ノモノハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス

一、給料月額五十五圓以上ノ者ニハ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額

二、前號以外ノ者ニハ別表甲額

第八條 傭人ニハ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

一、巡視、門衞、其ノ他廳內取締ノ役務ニ服スル者竝運轉士、機關士、水火夫長、職工長、組長及之ニ準スル者又ハ給料日額二圓五十錢以上ノ者ニハ別表甲額

二、前號以外ノ者ニハ別表乙額

臨時傭人ニシテ其ノ業ニ從事シ勞銀ヲ給スル日ハ日當、宿泊料又ハ食卓料ハ之ヲ支給セス

第九條 囑託員、雇員及傭人ニシテ臨時ニ採用シタル者又ハ常時一定ノ手當若ハ給料ヲ支給セサル者ニハ死亡手當ハ之ヲ支給セス、傭外國人ニシテ其ノ本國內ニ於テ死亡シタルトキ亦同シ

第十條 官吏ニ非サル船舶乘組員ニシテ南洋群島關東州又ハ南滿洲ニ於テ死亡シタルトキハ死亡手當ヲ支給スルコトヲ得但シ前條ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 本規則ニ定ナキ者又ハ特別ノ事情ニ依リ本規則ニ據リ難キ者ノ旅費ニ關シテハ其ノ身分竝用務ノ性質ニ依リ其ノ都度之ヲ定ム

第十二條 本規則ニ規定スルモノヲ除クノ外旅費ノ支給方ニ關シテハ南洋群島關東州南滿洲旅費規則及南洋群島關東州南滿洲旅費規則施行細則ニ依ル

附　則

本令ハ大正十一年四月一日以降ノ旅行ヨリ之ヲ適用ス

（別表）

旅費額

區分	鐵道賃及船賃	車馬賃	日當	宿泊料	食卓料	支度料	移轉料	死亡手當
甲額	（イ）南滿洲鐵道株式會社ノ經營ニ屬スル鐵道線路ニ付テハ二等ノ定價 （ロ）前號以外ノ運賃ニシテ其ノ等級ヲ三階級以上ニ區分スルトキハ二等ノ定價	一圓二十錢	四圓	八圓	二圓	百七十圓以內	八十五圓以內	四百圓以內
乙額	（ハ）同上二階級ニ區分スルトキハ下級ノ定價 （ニ）運賃ノ等級ヲ區分セサルトキハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃	一圓	三圓	六圓	一圓五十錢	百二十圓以內	七十圓以內	三百圓以內

一、鐵道賃及船賃ハ前揭ノ旅客運賃（通行稅、艀船賃及棧橋賃ヲ含ム）ノ外別ニ急行料金ヲ要シタルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得

二、車馬賃ハ南洋群島內ノ旅行ニ付テハ之ヲ支給セス

〔參照〕

三、出張ヲ命セラレタル者ノ旅行中携帶スル私屬ノ荷物ハ二十貫迄ヲ限リ其ノ運賃ヲ支給スルコトヲ得

〔參照〕

●大藏省所管經費支辨遇待官吏以下外國旅費規則

大正十二年一月九日
大藏省令第一號

大藏省所管經費支辨待遇官吏以下外國旅費規則左ノ通相定ム

大藏省所管經費支辨待遇官吏以下外國旅費規則

第一條 大藏省所管經費支辨ニ屬スル待遇官吏以下ニ支給スヘキ外國旅費ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本規則ニ依リ之ヲ支給ス

第二條 親任官又ハ勅任官ノ待遇ヲ受クル者ニハ親任官又ハ勅任官相當ノ旅費ヲ支給ス

第三條 奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニシテ官等ノ配等アル者ニハ其ノ官等相當ノ旅費、官等ノ配等ナキ者ニハ俸給又ハ手當ノ額ニ依リ左ノ區分ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

一、本俸若ハ手當年額三千六百圓以上（月額ノモノハ十二月分ヲ以テ年額トス）ノ者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額

二、前號ノ金額ニ達セサル者又ハ俸給若ハ一定ノ手當ヲ給セサル者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

第四條 判任官ノ待遇ヲ受クル者ニハ判任官相當ノ旅費ヲ支給ス

第五條 囑託員ニシテ本官アル者（退職ノ者及退職ニ準スヘキ休職者ヲ除ク）ニハ本官相當ノ額、判任官以上ノ待遇ヲ受クル官職ニ在ル者ニハ第二條乃至第四條ノ區別ニ從ヒ各待遇相當ノ旅費ヲ支給ス

第六條 前條ノ規定ニ該當セサル囑託員ニハ其ノ常時一定ノ手當ヲ給スル者ニ在リテハ其ノ手當額（年額ハ十二分ノ一、日額ハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス）ニ依リ一時手當ヲ給スル者又ハ手當ヲ給セサル者ニ在リテハ爵位勳功ニ依リ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス但シ後段ノ場合爵位勳功ヲ併有スルトキハ高キニ從フ

一、手當月額三百圓以上ノ者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額

二、手當月額百七十圓以上ノ者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

三、手當月額五十五圓以上ノ者ニハ判任官ニ支給スヘキ額

四、有爵者、正六位以上、勳五等以上又ハ功四級以上ノ者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額

五、從六位、勳六等又ハ功五級ノ者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

六、正七位以下、勳七等以下又ハ功六級以下ノ者ニハ判任官ニ支給スヘキ額

七、前各號ニ該當セサル者ニハ別表甲額

第七條 雇員ニハ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス但シ日額ノモノハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス

一、給料月額五十五圓以上ノ者ニハ判任官ニ支給スヘキ額

二、前號以外ノ者ニハ別表甲額

第八條 傭人ニハ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

一、水火夫長、司厨長、職工長、組長及之ニ準スル又ハ給料日額二圓

五十錢以上ノ者ニハ別表甲額

二、前號以外ノ者ニハ別表乙額

臨時傭人ニシテ其ノ業ニ從事シ勞銀ヲ給スル日ハ日當、宿泊料又ハ食卓料ハ之ヲ支給セス

第九條　囑託員、雇員及傭人ニシテ臨時ニ採用シタル者又ハ常時一定ノ手當若ハ給料ヲ給セサル者ニハ死亡手當ハ之ヲ支給セス傭外國人ニシテ其ノ本國內ニ於テ死亡シタルトキモ亦同シ

第十條　官吏ニ非サル船舶乘組員ニシテ外國ニ於テ死亡シタルトキハ死亡手當ヲ支給スルコトヲ得但シ前條ニ該當スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　本規則ニ定ナキ者又ハ特別ノ事情ニ依リ本規則ニ據リ難キ者ノ旅費ニ關シテハ其ノ身分並用務ノ性質ニ依リ其ノ都度之ヲ定ム

第十二條　本規則ニ規定スルモノヲ除クノ外旅費ノ支給方ニ關シテハ外國旅費規則及外國旅費規則施行細則ニ依ル

附則

本令ハ大正十一年四月一日以降ノ旅行ヨリ之ヲ適用ス

（別表）

旅費額

區別	鐵道賃及船賃	日當	宿泊料			食卓料	支度料		移轉料		死亡手當	
			甲地方	乙地方	丙地方		甲乙地方	丙地方	甲額	乙額	甲乙地方	丙地方
甲額	(イ)運賃ノ等級ヲ三階級以上ニ區分スルトキハ二等ノ定價 (ロ)同上二階級ニ區分スルトキハ下級ノ定價	四圓	十八圓	十四圓	十圓	三圓	三百五十圓以內	二百圓以內	百五十圓以內	百圓以內	千圓以內	七百圓以內
乙額	(ハ)運賃ノ等級ヲ區分セサルトキハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃	三圓	十五圓	十圓	七圓	二圓	二百五十圓以內	百五十圓以內	百二十圓以內	八十圓以內	七百圓以內	五百圓以內

一、鐵道賃ハ前揭ノ旅客運賃（通行稅ヲ含ム）ノ外急行料金又ハ寢臺料金ヲ要シタルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得但シ寢臺料金ノ支給ヲ受クル場合ニ於ケル宿泊料ハ定額ノ十分ノ七トス

【[illegible]】

二、船賃ハ前揭ノ旅客運賃（通行稅、艀船賃及棧橋賃ヲ含ム）ノ外別ニ急行料金ヲ要シタルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得、二等運賃ヲ數種ニ區分スルモノニ在リテハ最低二等運賃ニ其ノ三割ヲ加算シタル額ノ限度ヲ超エサル範圍ニ於テ現ニ支拂ヒタル料金迄ヲ支給ス

三、隨員タル雇員、傭人又ハ從者（通辯人及途案內者ヲ含ム）ニ限リ特別ノ事情ニ因リ前二號ノ支給額ヲ以テ支辨スルコト能ハサル座席又ハ船室ヲ要シタル場合ニ於テハ最低一等運賃迄ヲ支給スルコトヲ得

四、出張ヲ命セラレタル者ノ旅行中携帶スル私屬ノ荷物ハ七十五「キログラム」迄ヲ限リ其ノ運賃ヲ支給スルコトヲ得

【[illegible]】

●南洋群島關東州南滿洲旅費規則

大正十年九月一日
勅令第四百二號

（改正　大正一一年勅令第一九〇號）

朕南洋群島關東州南滿洲旅費規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

南洋群島關東州南滿洲旅費規則

第一章　總則

第一條　官吏公務ニ依リ南洋群島關東州南滿洲內ヲ旅行シ若ハ此等ノ地域相互間ヲ旅行シ又ハ南洋群島關東州南滿洲ト其ノ他ノ地方トノ間ヲ旅行スルトキハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

勅令ノ定ムル所ニ依リ賜暇歸朝ヲ許サレタル者任地本邦間ヲ旅行スルトキハ公務ニ依リ旅行スルモノト看做ス

本令ニ於テ南洋群島ト稱スルハ帝國ニ於テ統治ノ委任ヲ受ケタル南太平洋群島ヲ謂ヒ南滿洲ト稱スルハ支那奉天省並吉林省ノ內第二松花江以南ノ地域及琿春、汪淸、延吉、和龍ノ四縣ヲ謂フ

第二條　旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料、支度料、移轉料、著後手當及家族移轉料ノ十種トス

第三條　旅費ハ順路ニ依リ之ヲ計算ス但シ公務ノ都合ニ依リ順路ニ依リテ旅行シ難キ場合ニ於テハ其ノ現ニ經過シタル通路ニ依ル

第四條　年度又ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分計算スルノ必要アル場合ニ於テ其ノ區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ旅程ヲ區別シ計算ス

第五條　所管大臣ハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ旅費ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第六條　本部ト南洋群島關東州南滿洲トノ間ノ旅行ノ爲本邦內ヲ通過スルトキハ其ノ地域ニ於ケル旅行ニ付定メラレタル旅費ヲ支給ス但シ關東州南滿洲直通ノ汽車ニ依リ若ハ南洋群島關東州南滿洲航路ノ船舶ニ依リ本邦ヲ出發シ又ハ本邦ニ歸著シタルトキハ當該鐵道賃、船賃及乘船港出發ノ日ヨリ又ハ歸著港ニ上陸ノ日迄ノ日當ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七條　南洋群島關東州南滿洲ト外國トノ間ノ旅行ニ付テハ外國旅費規則ニ定ムル外國相互間ノ旅行ニ準シ旅費ヲ支給ス

第八條　一日中旅費ノ定額ヲ異ニスル場合ニ於テハ多キニ從ヒ之ヲ支給ス

第九條　新ニ任用スル爲召喚セラレタル者ニハ官吏ノ赴任、轉勤又ハ歸

朝ノ例ニ準シ新官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十條 私事ノ爲在勤地又ハ出張地以外ニ滯在スル者滯在地ヨリ直ニ旅行スル場合ニ於テハ滯在地ヨリ目的地ニ至ル旅費額カ在勤地又ハ出張地ヨリ目的地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ在勤地又ハ出張地ヨリ目的地ニ至ル旅費ヲ支給ス

第十一條 特別ノ事情ニ因リ本令ニ依リ難キ場合ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第十二條 雇員傭人其ノ他本令ニ規定ナキ者ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シ本令ニ準シテ之ヲ定ム

第十三條 旅費ノ支給ヲ受クル者ニ對シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ定メタルモノヲ除クノ外別ニ手當ヲ支給スルコトヲ得ス

第十四條 本令中所管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東長官、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ但シ大藏大臣ト協議ヲ要スル事項ニ關シテハ所管大臣ヲ經由スヘシ

第二章 鐵道賃、船賃及車馬賃

第十五條 鐵道旅行ニハ鐵道賃、水路旅行ニハ船賃、其ノ他ノ旅行ニハ車馬賃ヲ支給ス

第十六條 鐵道賃及船賃ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ從ヒ實際ノ料金ニ依リ、車馬賃ハ南洋群島內ノ旅行ニ付テハ實費ニ依リ關東州、南滿洲內ノ旅行ニ付テハ別表ニ揭クル所ニ從ヒ定額ニ依リ之ヲ支給ス

第十七條 鐵道旅行又ハ水路旅行ノ場合ニ於テ別ニ急行料金又ハ寢臺料金ヲ要シタルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得

【臺報】

前項ノ規定ニ依リ寢臺料金ノ支給ヲ受クル場合ニ於ケル宿泊料ハ勅任官以上ニ在リテハ定額ノ十分ノ六、奏任官以下ニ在リテハ定額ノ十分ノ七トス

第十八條 特別ノ事情ニ因リ定額ノ車馬賃ヲ以テ其實費ヲ支辨シ難キ場合ニ於テハ實費額ヲ支給スルコトヲ得

第十九條 車馬賃ハ其ノ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ定額ヲ異ニスルモノニ付テハ各別ニ之ヲ通算ス

第二十條 出張ヲ命セラレタル者ノ旅行中攜帶スル私屬ノ荷物ハ四十貫迄ヲ限リ其ノ運賃ヲ支給スルコトヲ得

通算上一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨トス

第二十一條 官用ノ船、車、馬等ニ依リテ旅行スルトキハ鐵道運賃、船賃又ハ車馬賃ハ之ヲ支給セス

第三章 日當、宿泊料及食卓料

第二十二條 日當、宿泊料及食卓料ハ別表ニ揭クル所ニ從ヒ定額ニ依リ之ヲ支給ス

第二十三條 日當ハ日數ニ應シ宿泊料ハ夜數ニ應シテ之ヲ支給ス

水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス但シ天災其ノ他已ムヲ得サル事故ノ爲上陸宿泊ヲ要シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

食卓料ハ船賃ノ外別ニ食料ヲ要スル場合ハ船賃ヲ要セサルモ食料ヲ要スル場合ニ於テ夜數ニ應シテ之ヲ支給ス

第二十四條 旅行日數ハ出張地ニ於ケル滯在日數及途中已ムヲ得サル事由ノ爲要シタル日數ヲ除クノ外鐵道旅行ハ二百哩、水路旅行ハ百海里、陸路旅行ハ十二里ニ付一日ノ割合ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ス但シ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス

【臺報】

第二十五條 陸路六里未滿、鐵道四十八哩未滿、水路三十海里未滿ノ旅行ニ在リテハ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ヲ除クノ外支給スヘキ日當ハ定額ノ半額トス

一旅行ニシテ陸路、鐵道又ハ水路ニ亙ルトキハ鐵道ハ八哩、水路ハ五海里ヲ以テ一里ト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第二十六條 在勤廳所在地域內ノ出張ニシテ遠距離ニ涉ルトキハ定額ノ半額以內ノ日當ヲ支給スルコトヲ得

第二十七條 日當及宿泊料ハ同一地ニ滯在三十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ二割、六十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日ニ付定額ノ三割ヲ減ス

同一地ニ滯在中一時他ノ地ニ旅行シタル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

第四章 支度料、移轉料、著後手當及家族移轉料

第二十八條 支度料ハ南洋群島關東州南滿洲ニ赴任又ハ出張ヲ命セラレタル者ニ別表ニ依リ之ヲ支給ス

南洋群島關東州南滿洲又ハ其ノ他ノ外國ニ赴任又ハ出張ヲ命セラレ支度料ノ支給ヲ受ケタル者其ノ赴任又ハ出張ヲ命セラレタル日ヨリ一年內ニ再ヒ南洋群島關東州南滿洲ニ赴任又ハ出張ヲ命セラレタルトキ支給スル支度料ハ定額ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス但シ其ノ金額前ニ受ケタル金額ト合シテ定額ノ十五割ニ滿タサルトキハ定額ヲ超エサル範圍內ニ於テ通シテ十五割迄ヲ支給スルコトヲ妨ケス

南洋群島關東州南滿洲ニ在勤中若ハ出張中ノ者南洋群島ト關東州南滿洲トノ間ニ於テ轉勤若ハ出張ヲ命セラレ又ハ南滿洲以外ノ外國ニ在勤中若ハ出張中ノ者南洋群島關東州南滿洲ニ轉勤若ハ出張ヲ命セラレタル場合ニ於テハ前ニ受ケタル支度料ノ額新ニ轉勤若ハ出張ヲ命セラレタル地方ニ付定メラレタル支度料ノ定額ニ達セサルトキニ限リ其ノ差額ノ範圍內ニ於テ支度料ヲ支給スルコトヲ得

第二十九條 移轉料及著後手當ハ左ニ揭クル者ニ之ヲ支給ス

一 南洋群島關東州南滿洲ニ赴任ヲ命セラレタル者

二 南洋群島關東州南滿洲ニ在勤中轉勤ヲ命セラレ又ハ他地方勤務ノ爲歸朝ヲ命セラレタル者

第三十條 南洋群島關東州南滿洲ニ滯在中此等ノ地域ニ在勤ヲ命セラレ又ハ新ニ任用セラレタル者ニハ移轉料及著後手當ヲ支給スルコトヲ得

第三十一條 移轉料ハ別表ニ依ル

著後手當ハ目的地ニ於ケル旅行ニ付定メラレタル日當五日分及宿泊料五夜分ニ相當スル額トス

第三十二條 家族移轉料ハ左ノ場合ニ之ヲ支給ス

一 第二十九條又第三十條ニ揭クル者家族ヲ隨伴シ又ハ赴任、轉勤若ハ歸朝ノ後之ヲ呼寄スルトキ

二 賜暇歸朝ヲ許サレタル者許可ヲ受ケ妻子ヲ隨伴シ又ハ呼寄スルトキ

三 南洋群島關東州南滿洲ニ在勤中許可ヲ受ケ家族ヲ呼寄セ又ハ歸朝セシムルトキ但シ特別ノ事情アル場合ヲ除クノ外同一任地ニ付往返各一回限リトス

第三十三條 家族移轉料ハ妻ニ付テハ本人相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃及食卓料ノ全額竝日當、宿泊料、支度料、著後手當ノ半額トシ妻以外

ノ家族ニシテ十二歳以上ノ者ニ在リテハ本人相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料及著後手當ノ半額トシ十二歳未滿ノ者ニ在リテハ更ニ其ノ半額トス

第三十四條 南洋群島關東州南滿洲ニ赴任若ハ出張ヲ命セラレタル者、同地域ニ在勤中轉勤若ハ歸朝ヲ命セラレタル者又ハ同地域ニ滯在中其ノ地域ニ在勤ヲ命セラレ若ハ新ニ任用セラレタル者其ノ出發前死亡シ又ハ命令ヲ取消サレ其ノ他旅行ノ必要ナキニ至リタルトキハ支度料及移轉料ノ全額以內ヲ支給スルコトヲ得

隨伴シ又ハ呼寄スルコトヲ許サレタル妻其ノ出發前死亡シ又ハ許可ヲ取消サレ其ノ他旅行ノ必要ナキニ至リタルトキハ本人ニ支給スヘキ支度料ノ半額以內ヲ支給スルコトヲ得

第五章 退官退職者旅費及死亡手當

第三十五條 南洋群島關東州南滿洲ニ在勤中又ハ任所往返中ノ者廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リタルトキハ其ノ命令又ハ通知到達ノ日迄日當及宿泊料ヲ支給ス

第三十六條 前條ニ揭クル南洋群島關東州南滿洲在勤中ノ者命令又ハ通知到達ノ日ヨリ三月內ニ舊任地ヲ出發シ相當ノ期間內ニ本邦ニ歸著スルトキハ其ノ出發ノ日迄ノ滯在日數三十日ヲ限リ日當及宿泊料ヲ支給スルノ外賜暇ニ依ル歸朝ノ例ニ準シ其ノ地ヨリ本邦迄ノ旅費ヲ支給ス但シ著後手當ハ之ヲ支給セス

第三十七條 南洋群島關東州南滿洲ニ在勤中ノ者他ノ地ニ出張中又ハ公務若ハ賜暇ニ依ル歸朝中廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リ其ノ命令又ハ通知到達ノ日ヨリ一月內ニ出發シ相當ノ期間內ニ舊任地ニ歸著スルトキハ其ノ出發ノ日迄ノ滯在日數十五日ヲ限リ日當及宿泊料ヲ支給スルノ外其ノ地ヨリ舊任地迄ノ旅費ヲ支給ス

前項ノ場合ニ於テ舊任地ニ於ケル滯在中ノ日當及宿泊料ヲ支給スル日數ハ前條ノ規定ニ依リ日當及宿泊料ヲ支給スル滯在日數ト通シテ四十日以內トス

第一項ニ揭クル者其ノ出張地ヨリ直ニ歸朝スルトキハ前條ノ規定ニ準シ其ノ地ヨリ本邦迄ノ旅費ヲ支給ス

前三項ノ規定ハ公務又ハ賜暇ニ依リ任所往返中廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リタル者ニ之ヲ準用ス

第三十八條 天災其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ又ハ事務引繼殘務整理等ノ爲前二條ニ規定スル期間內ニ出發スルコト能ハサルトキハ所管大臣ハ事情ヲ斟酌シ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第三十九條 在勤俸ヲ受クル期間ニ對シテハ第三十五條乃至第三十七條ノ規定ニ依リ支給スル滯在中ノ日當及宿泊料ハ之ヲ支給セス但シ在勤地以外ノ地ニ於ケル出張中又ハ公務歸朝中ノ日數ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十條 第三十五條、第三十六條及第三十八條ノ規定ハ南洋群島關東州南滿洲ニ出張中ノ者廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十一條 南洋群島關東州南滿洲ニ在勤中、任所往返中又ハ出張中ノ者在勤地ニ於テ又ハ旅行中死亡シタルトキハ別表ニ依リ死亡ノ手當ヲ其ノ遺族ニ支給ス

妻夫ノ任地ニ於テ又ハ許可ヲ受ケテ其ノ任所往返中死亡シタルトキハ本人ニ對スル死亡手當ノ半額以內ノ金額ヲ死亡手當トシテ支給スルコトヲ得

第四十二條 第三十六條、第三十七條及前條ノ場合ニ於テハ其ノ家族ニ付第三十三條ノ規定ニ準シ其ノ地ヨリ本邦迄ノ旅費ヲ支給ス

第四十三條 第三十六條乃至第三十八條、第四十條及前條ノ規定ハ刑事裁判所若ハ懲戒處分ニ依リ失官シ若ハ免官セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退官若ハ退職シタル者及其ノ家族ニ付テハ之ヲ適用セス

第六章 雜則

第四十四條 許可ヲ受ケ從者ヲ伴ヒ旅行スルトキハ親任官ニ在リテハ二人、勅任官ニ在リテハ一人、奏任官以下ニ在リテハ出張ノ場合ヲ除クノ外六歳未滿ノ子ヲ同伴スルトキ一人ヲ限リ傭人相當ノ鐵道賃、船賃及食卓料ヲ支給スルコトヲ得

南洋群島關東州南滿洲ニ在勤中若ハ歸朝後妻ヲ呼寄セ若ハ歸朝セシムル場合又ハ同地域ニ在勤中若ハ任所往返中死亡シタル者ノ妻歸朝スル場合ニ於テ許可ヲ受ケ從者ヲ伴ヒ旅行スルトキハ親任官ノ妻ニ在リテハ二人、勅任官又ハ奏任官ノ妻ニ在リテハ一人、判任官ノ妻ニ在リテハ六歳未滿ノ子ヲ同伴スルトキ一人ヲ限リ前項ノ規定ニ準シ支給スルコトヲ得

第三十六條、第三十七條、第四十條又ハ第四十一條ノ場合ニ於テ許可ヲ受ケ伴ヒタル從者アルトキハ前二項ノ規定ニ準シ旅費ヲ支給スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ第四十三條ノ規定ヲ準用ス

第四十五條 事務引繼殘務整理等ノ爲廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リタル者ニ旅行又ハ滯在ヲ命シタルトキハ旅費ヲ支給ス

第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 第三十四條乃至第四十條及前條ノ規定ニ依リ支給スル旅費ハ前官又ハ本官相當ノ旅費額ニ依ル

第四十七條 本令ニ依リ旅費ノ支給ヲ受クヘキ者旅行ノ必要ナキニ至リタル場合ニ於テ未タ旅行ヲ爲ササル區間ノ鐵道賃、船賃、急行料金、寢臺料金又ハ車馬賃ノ支拂ヲ要スルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得

第四十八條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外旅費ノ支給ニ關シ必要ナル規程ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令中支度料、移轉料、著後手當、妻ニ對スル支度料及著後手當ニ相當スル家族移轉料又ハ死亡手當ニ關スル規定ハ在外公館費用條例ノ適用又ハ準用ヲ受クル者ニハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

關東都督府職員旅費規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ定額ノ定アル區間ヲ旅行中ノ者ニ支給スル船賃ハ其ノ區間ニ限リ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前ヨリ引續キ同一地ニ滯在スル者ニ對スル第二十七條ノ規定ノ適用ニ關シテハ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

本令施行前南洋群島關東州南滿洲ニ赴任ヲ命セラレタル者、同地域ニ在勤中轉勤ヲ命セラレ若ハ本邦勤務ノ爲歸朝ヲ命セラレタル者、賜暇歸朝ヲ許サレタル者又ハ賜暇歸朝中歸任スル者本令施行後目的地ニ到著シタルトキハ本令ニ依リ移轉料ヲ支給ス

本令施行前南洋群島關東州南滿洲ニ滯在中同地域ニ在勤ヲ命セラレ又ハ

新ニ任用セラレタル者本令施行後目的地ニ到著シタルトキハ本令ニ依リ移轉料ヲ支給スルコトヲ得

前二項ニ掲クル者家族ヲ隨伴シ、呼寄セ又ハ歸朝セシムル場合ニ於テ其ノ家族本令施行後目的地ニ到著シタルトキハ本令ニ依リ家族移轉料ヲ支給スルコトヲ得

本令施行前南洋群島南滿洲ニ赴任ヲ命セラレ本令施行後出發シタル者ニ支給スヘキ支度料ノ額從前ノ規定ニ依リ支給スヘキ額ヨリ少額ナルトキハ仍從前ノ例ニ依ル

(別表)

官階＼區分		車馬賃	日當	宿泊料	食卓料	支度料	移轉料	死亡手當
親任官		四圓	十八圓	二十七圓	六圓	八百圓以內	三百五十圓以內	三千圓以內
勅任官		三圓	十三圓	二十圓	五圓	六百圓以內	二百五十圓以內	二千圓以內
奏任官	五等以上	二圓	九圓	十五圓	四圓	四百五十圓以內	百八十圓以內	千二百圓以內
	六等以下	二圓	八圓	十四圓	四圓	四百五十圓以內	百八十圓以內	九百圓以內
判任官	五級俸以上	一圓五十錢	六圓	十一圓	三圓	三百五十圓以內	百二十圓以內	七百圓以內
	六級俸以下	一圓五十錢	五圓	十圓	三圓	三百五十圓以內	百二十圓以內	五百圓以內

●南洋群島關東州南滿洲旅費規則施行細則

大正十年九月一日
大藏省令第三十二號

南洋群島關東州南滿洲旅費規則施行細則左ノ通定ム

南洋群島關東州南滿洲旅費規則施行細則

第一條 旅費ハ南洋群島關東州南滿洲旅費規則第五條ノ規定ニ依リ其ノ一部ヲ支給セサル場合ト雖精算ヲ爲サシムヘシ

第二條 南洋群島關東州南滿洲旅費規則第十三條ニ規定スル手當トハ旅費以外ニ特ニ旅行者ニ支給スル金額ニシテ其ノ精算ヲ要セサルモノヲ謂フ

第三條 鐵道賃ハ奏任官以上ニ在リテハ一等ノ旅客運賃（通行稅ヲ含ム）判任官ニ在リテハ二等ノ旅客運賃ニ依リ之ヲ計算ス但シ一等ノ座席ノ設ナキモノニ在リテハ上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘車ニ要スル運賃ニ依ル

南滿洲鐵道株式會社ノ經營ニ屬セサル鐵道線路ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラス判任官ニ對シテモ一等ノ旅客運賃ヲ支給ス

勅任官以上ニシテ第一項ノ運賃ヲ以テ支辨シ能ハサル特別ノ座席ヲ要シタルトキハ第一項運賃ノ外其ノ座席ノ爲現ニ支拂ヒタル料金ヲ支給ス

第四條 船賃ハ奏任官以上ニ在リテハ一等ノ旅客運賃（通行稅、艀船賃及棧橋賃ヲ含ム）判任官ニ在リテハ二等ノ旅客運賃ニ依リ之ヲ計算ス但シ一等ノ船室ノ設ナキモノニ在リテハ上級ノ運賃其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘船ニ要スル運賃ニ依ル

第五條 判任官ニシテ特別ノ事情ニ依リ前條ノ支給額ヲ以テ支辨スルコト能ハサル船室ヲ要シタル場合ニ於テハ其ノ實費額ヲ支給スルコトヲ得

【參照】

【參照】

第六條 車馬賃ハ鐵道又ハ船舶ノ便アル區間ノ旅行ニハ之ヲ支給セス但シ用務ノ性質上鐵道又ハ船舶ニ依リ難キ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 陸路路程ハ郵便線路圖ノ示ス所ニ依リ之ヲ計算スヘシ

前項ノ規定ニ依リ難キ場合ハ成ルヘク領事館其ノ他帝國官衙ノ證明スル所ニ依ルヘシ

第八條 賜暇歸朝ヲ許サレタル者ニ支給スル任地本邦間ノ旅費トハ任地ト本邦ニ於ケル所屬廳所在地トノ間ノ旅費、本邦ニ所屬廳ナキ場合ニ在リテハ任地ト東京トノ間ノ旅費ヲ謂フ

第九條 南洋群島關東州南滿洲旅費規則第三十六條、第三十七條、第四十二條又ハ第四十四條ノ規定ニ依リ支給スル旅費トハ本邦ニ於ケル住所地迄ノ旅費、其ノ住所地ナキ者ニ在リテハ本邦ニ於ケル家族ノ住所地迄ノ旅費、本人又ハ家族ノ住所地共ニナキ者ニ在リテハ原籍地迄ノ旅費ヲ謂フ但シ其ノ金額ニシテ本邦ニ於ケル目的地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ目的地ニ至ル旅費ヲ支給ス

第十條 家族移轉料ヲ支給スル場合ニ於ケル家族トハ妻子及同一戸籍內ニ在リテハ本人ノ扶養スル親族ヲ謂フ

第十一條 南洋群島關東州南滿洲旅費規則ニ於テ遺族トハ配偶者、直系卑屬、直系尊屬及兄弟姉妹又ハ同一戸籍內ニ在ル親族ヲ謂フ

死亡手當ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ掲クル順位ニ依リ同順位內ニ在リテハ民法第九百七十條及第九百八十四條ノ規定ニ準シ之ヲ定ム

第十二條 南洋群島關東州南滿洲旅費規則第四十四條ノ規定ニ依ル從者ノ旅費ハ傭人ノ旅費ニ付階級ヲ設クル場合ニ於テハ其ノ最下級ノ額トス

附則

本令ハ南洋群島關東州南滿洲旅費規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●外國旅費規則

大正十年九月一日
勅令第四百一號

改正 大正一一年勅令第一九一號

朕外國旅費規則改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

外國旅費規則

第一章 總則

第一條 官吏公務ニ依リ本邦外國間ヲ旅行シ又ハ外國ヲ旅行スルトキハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス但シ南滿洲ノ旅費ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

勅令ノ定ムル所ニ依リ賜暇歸朝ヲ許サレタル者任地本邦間ヲ旅行スルトキハ公務ニ依リ旅行スルモノト看做ス

第二條 旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料、支度料、移轉料、著後手當及家族移轉料ノ十種トス

第三條 旅費ハ順路ニ依リ之ヲ計算ス但シ公務ノ都合ニ依リ順路ニ依リテ旅行シ難キ場合ニ於テハ其ノ現ニ經過シタル通路ニ依ル

第四條 年度又ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分計算スルノ必要アル場合ニ於テ其ノ區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ旅程ヲ區分シ計算ス

第五條 所管大臣ハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ旅費ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第六條 本邦外國間ヲ旅行スル爲本邦又ハ南洋群島關東州南滿洲內ヲ通

過スルトキハ其ノ地域ニ於ケル旅行ニ付定メラレタル旅費ヲ支給ス但シ南滿洲以外ノ外國直通ノ汽車又ハ南滿洲以外ノ外國航路ノ船舶ニ依リ本邦ヲ出發シ又ハ本邦ニ歸著シタルトキハ當該鐵道賃、船賃及乘船港出發ノ日ヨリ又ハ歸著港ノ上陸ノ日迄ノ日當ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七條 一日中旅費ノ定額ヲ異ニスル場合ニ於テハ多キニ從ヒ之ヲ支給ス

第八條 新ニ任用スル爲召喚セラレタル者ニハ官吏ノ赴任、轉勤又ハ歸朝ノ例ニ準シ新官相當ノ旅費ヲ支給ス

第九條 私事ノ爲在勤地又ハ出張地以外ニ滯在スル者滯在地ヨリ直ニ旅行スル場合ニ於テハ滯在地ヨリ目的地ニ至ル旅費額カ在勤地又ハ出張地ヨリ目的地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ在勤地又ハ出張地ヨリ目的地ニ至ル旅費ヲ支給ス

第十條 特別ノ事情ニ因リ本令ニ依リ難キ場合ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

特殊ノ要務ニ從事スル爲外國ニ出張ヲ命セラレタル者ニハ所管大臣大藏大臣ト協議シ旅費ヲ支給セス旅行手當ヲ支給スルコトヲ得

第十一條 雇員傭人其ノ他本令ニ規定ナキ者ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シ本令ニ準シテ之ヲ定ム

第十二條 旅費ノ支給ヲ受クル者ニ對シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ定メタルモノヲ除クノ外別ニ手當ヲ支給スルコトヲ得ス

第十三條 本令中所管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東長官、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ但シ大藏大臣ト協議ヲ要スル事項ニ關シテハ所管大臣ヲ經由スヘシ

第二章 鐵道賃、船賃及車馬賃

第十四條 鐵道旅行ニハ鐵道賃、水路旅行ニハ船賃、其ノ他ノ旅行ニハ車馬賃ヲ支給ス

第十五條 鐵道賃及船賃ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ從ヒ實際ノ料金ニ依リ、車馬賃ハ實費ニ依リ之ヲ支給ス

第十六條 鐵道旅行又ハ水路旅行ノ場合ニ於テ別ニ急行料金又ハ寢臺料金ヲ要シタルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ寢臺料金ノ支給ヲ受クル場合ニ於ケル宿泊料ハ勅任官以上ニ在リテハ定額ノ十分ノ六、奏任官以下ニ在リテハ定額ノ十分ノ七トス

第十七條 出張ヲ命セラレタル者ノ旅行中攜帶スル私屬ノ荷物ハ百五十「キログラム」迄ヲ限リ其ノ運賃ヲ支給スルコトヲ得

第十八條 官用ノ船、車、馬等ニ依リテ旅行スルトキハ鐵道賃、船賃又ハ車馬賃ハ之ヲ支給セス

第三章 日當、宿泊料及食卓料

第十九條 日當、宿泊料及食卓料ハ別表ニ揭クル所ニ從ヒ定額ニ依リ之ヲ支給ス

第二十條 日當ハ日數ニ應シ宿泊料ハ夜數ニ應シテ之ヲ支給ス

水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス但シ天災其ノ他已ムヲ得サル事故ノ爲上陸宿泊シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

食卓料ハ船賃ノ外別ニ食料ヲ要スル場合又ハ船賃ヲ要セサルモ食料ヲ要スル場合ニ於テ夜數ニ應シテ之ヲ支給ス

第二十一條 陸路二十哩未滿、鐵道六十哩未滿、水路四十海里未滿ノ旅行ニ在リテハ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ヲ除クノ外支給スヘキ日當ハ定額ノ半額トス

一旅行ニシテ陸路、鐵道又ハ水路ニ亙ルトキハ鐵道ハ三哩、水路ハ二海里ヲ以テ陸路一哩ト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第二十二條 日當及宿泊料ハ同一地ニ滯在三十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ二割、六十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ三割ヲ減ス

同一地ニ滯在中一時他ノ地ニ旅行シタル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

第四章 支度料、移轉料、著後手當及家族移轉料

第二十三條 支度料ハ外國ニ赴任又ハ出張ヲ命セラレタル者ニ別表ニ依リ之ヲ支給ス

南洋群島關東州南滿洲又ハ外國ニ赴任又ハ出張ヲ命セラレ支度料ノ支給ヲ受ケタル者其ノ赴任又ハ出張ヲ命セラレタル日ヨリ一年內ニ再ヒ外國ニ赴任又ハ出張ヲ命セラレタルトキ支給スル支度料ハ定額ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス但シ其ノ金額前ニ受ケタル金額ト合シテ定額ノ十五割ニ滿タサルトキハ定額ヲ超エサル範圍內ニ於テ通シテ十五割迄ヲ支給スルコトヲ妨ケス

外國ニ在勤又ハ出張中ノ者他ノ地ニ轉勤又ハ出張ヲ命セラレタル場合ニ於テハ前ニ受ケタル支度料ノ額新ニ轉勤又ハ出張ヲ命セラレタル地方ニ付定メラレタル支度料ノ定額ニ達セサルトキニ限リ其ノ差額ノ範圍內ニ於テ支度料ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ規定ハ南洋群島關東州南滿洲ニ在勤中又ハ出張中ノ者南滿洲以外ノ外國ニ轉勤又ハ出張ヲ命セラレタル場合ニ之ヲ準用ス

支度料定額ノ少額ナル地方ニ滯在中新ニ任用セラレタル者其ノ多額ナル地方ニ赴任、轉勤又ハ出張ヲ命セラレタル場合ニ於テハ滯在中ノ地方ニ付定メラレタル支度料ト赴任、轉勤又ハ出張ヲ命セラレタル地方ニ付定メラレタル支度料トノ差額ノ範圍內ニ於テ支度料ヲ支給ス

第二十四條 移轉料及著後手當ハ左ニ揭クル者ニ之ヲ支給ス

一 外國ニ赴任ヲ命セラレタル者

二 外國ニ在勤中轉勤ヲ命セラレ又ハ本邦勤務ノ爲歸朝ヲ命セラレタル者

三 賜暇歸朝ヲ許サレタル者及賜暇歸朝中歸任スル者

第二十五條 外國ニ滯在中外國在勤ヲ命セラレ又ハ新ニ任用セラレタル者ニハ移轉料及著後手當ヲ支給スルコトヲ得

第二十六條 移轉料ハ別表ニ依ル

著後手當ハ目的地ニ於ケル旅行ニ付定メラレタル日當五日分及宿泊料五夜分ニ相當スル額トス

第二十七條 家族移轉料ハ左ノ場合ニ之ヲ支給ス

一 第二十四條又ハ第二十五條ニ揭クル者許可ヲ受ケ妻子ヲ隨伴スルトキ

二 外國ニ在勤中公務ノ爲歸朝ヲ命セラレタル者又ハ公務歸朝中歸任スル者許可ヲ受ケ妻子ヲ隨伴スルトキ

三 外國ニ在勤中又ハ歸朝後許可ヲ受ケ妻子ヲ呼寄セ又ハ歸朝セシム

ルトキ但シ特別ノ事情アル場合ヲ除クノ外同一任地ニ付往返各一囘限リトス

第二十八條 家族移轉料ハ妻ニ付テハ本人相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃及食卓料ノ全額並日當、宿泊料、支度料、著後手當ノ半額トシ子ニ付テハ十二歲以上ノ者ニ在リテハ本人相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料及著後手當ノ半額トシ十二歲未滿ノ者ニ在リテハ更ニ其ノ半額トス

第二十九條 外國ニ赴任若ハ出張ヲ命セラレタル者、外國ニ在勤中轉勤若ハ歸朝ヲ命セラレタル者又ハ外國ニ滯在中外國在勤ヲ命セラレ若ハ新ニ任用セラレタル者其ノ出發前死亡シ又ハ命令ヲ取消サレ其ノ他旅行ノ必要ナキニ至リタルトキハ支度料及移轉料ノ全額以內ヲ支給スルコトヲ得

隨伴シ又ハ呼寄スルコトヲ許サレタル妻其ノ出發前死亡シ又ハ許可ヲ取消サレ其ノ他旅行ノ必要ナキニ至リタルトキハ本人ニ支給スヘキ支度料ノ半額以內ヲ支給スルコトヲ得

第五章 退官退職者旅費及死亡手當

第三十條 外國在勤中又ハ任所往返中ノ者廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リタルトキハ其ノ命令又ハ通知到達ノ日迄日當及宿泊料ヲ支給ス

第三十一條 前條ニ揭クル外國在勤中ノ者命令又ハ通知到達ノ日ヨリ三月內ニ舊任地ヲ出發シ相當ノ期間內ニ本邦ニ歸著スルトキハ其ノ出發ノ日迄ノ滯在日數三十日ヲ限リ日當及宿泊料ヲ支給スルノ外賜暇ニ依ル歸朝ノ例ニ準シ其ノ地ヨリ本邦迄ノ旅費ヲ支給ス但シ著後手當ハ之

【差替】

ヲ支給セス

第三十二條 外國在勤中ノ者他ノ地ニ出張中又ハ公務若ハ賜暇ニ依ル歸朝中廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リ其ノ命令又ハ通知到達ノ日ヨリ一月內ニ出發シ相當ノ期間內ニ舊任地ニ歸著スルトキハ其ノ出發ノ日迄ノ滯在日數十五日ヲ限リ日當及宿泊料ヲ支給スルノ外其ノ地ヨリ舊任地迄ノ旅費ヲ支給ス

前項ノ場合ニ於テ舊任地ニ於ケル滯在中ノ日當及宿泊料ヲ支給スル日數ハ前條ノ規定ニ依リ日當及宿泊料ヲ支給スル滯在日數ト通シテ四十日以內トス

第一項ニ揭クル者其ノ出張地ヨリ直ニ歸朝スルトキハ前條ノ規定ニ準シ其ノ地ヨリ本邦迄ノ旅費ヲ支給ス

前三項ノ規定ハ公務又ハ賜暇ニ依リ任所往返中廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リタル者ニ之ヲ準用ス

第三十三條 天災其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ又ハ事務引繼殘務整理等ノ爲前二條ニ規定スル期間內ニ出發スルコト能ハサルトキハ所管大臣ハ事情ヲ斟酌シ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第三十四條 在勤俸ヲ受クル期間ニ對シテハ第三十條乃至第三十二條ノ規定ニ依リ支給スル滯在中ノ日當及宿泊料ハ之ヲ支給セス但シ在勤地以外ノ地ニ於ケル出張中又ハ公務歸朝中ノ日數ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 第三十條、第三十一條及第三十三條ノ規定ハ外國出張中ノ者廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條 外國在勤中、任所往返中又ハ出張中ノ者在勤地ニ於テ又ハ旅行中死亡シタルトキハ外國在勤者又ハ任所往返中ノ者ニ在リテハ其ノ任地ニ付定メラレタル額ニ依リ、外國出張中ノ者ニ在リテハ其ノ出張地ニ付定メラレタル額ニ依リ別表ニ從ヒ死亡手當ヲ其ノ遺族ニ支給ス但シ出張地數地方ニ亙ルトキハ最近ノ出發地又ハ到達地ニ付定メラレタル額ニ依リ多キニ從ヒ之ヲ支給ス

妻夫ノ任地ニ於テ又ハ許可ヲ受ケテ其ノ任所往返中死亡シタルトキハ本人ニ對スル死亡手當ノ半額以內ノ金額ヲ死亡手當トシテ支給スルコトヲ得

第三十七條 第三十一條、第三十二條及前條ノ場合ニ於テハ其ノ妻子ニ付第二十八條ノ規定ニ準シ其ノ地ヨリ本邦迄ノ旅費ヲ支給ス

第三十八條 第三十一條乃至第三十三條、第三十五條及前條ノ規定ハ刑事裁判若ハ懲戒處分ニ依リ失官シ若ハ免官セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者及其ノ妻子ニ付テハ之ヲ適用セス

第六章 雜則

第三十九條 入國稅若ハ出國稅ヲ支拂ヒ又ハ旅行券ニ外國官公署ノ査證ヲ求ムル爲手數料ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

第四十條 特別ノ危險アル場合ニ於テ旅行中ニ於ケル身體ノ傷害又ハ荷物ノ損害ニ付保險ニ付シタルトキハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ保險料ノ全部又ハ一部ニ相當スル金額ヲ支給スルコトヲ得

第四十一條 許可ヲ受ケ從者ヲ伴ヒ旅行スルトキハ親任官ニ在リテハ二人、勅任官ニ在リテハ一人、奏任官以下ニ在リテハ出張ノ場合ヲ除クノ外六歲未滿ノ子ヲ同伴スルトキ一人ヲ限リ傭人相當ノ鐵道賃、船賃

【差替】

及食卓料ヲ支給スルコトヲ得

外國在勤中若ハ歸朝後妻ヲ呼寄セ若ハ歸朝セシムル場合又ハ外國在勤中若ハ任所往返中死亡シタル者ノ妻歸朝スル場合ニ於テ許可ヲ受ケ從者ヲ伴ヒ旅行スルトキハ親任官ノ妻ニ在リテハ二人、勅任官又ハ奏任官ノ妻ニ在リテハ一人、判任官ノ妻ニ在リテハ六歲未滿ノ子ヲ同伴スルトキ一人ヲ限リ前項ノ規定ニ準シ支給スルコトヲ得

第三十一條、第三十二條、第三十五條又ハ第三十六條ノ場合ニ於テ許可ヲ受ケ伴ヒタル從者アルトキハ前二項ノ規定ニ準シ旅費ヲ支給スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ第三十八條ノ規定ヲ準用ス

第四十二條 事務引繼殘務整理等ノ爲廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リタル者ニ旅行又ハ滯在ヲ命シタルトキハ旅費ヲ支給ス

第三十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 第二十九條乃至第三十五條及前條ノ規定ニ依リ支給スル旅費ハ前官又ハ本官相當ノ旅費額ニ依ル

第四十四條 本令ニ依リ旅費ノ支給ヲ受クヘキ者旅行ノ必要ナキニ至リタル場合ニ於テ未タ旅行ヲ爲ササル區間ノ鐵道賃、船賃、急行料金、寢臺料又ハ車馬賃ノ支拂ヲ要スルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得

第四十五條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外旅費ノ支給ニ關シ必要ナル規程ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令中支度料、移轉料、著後手當、妻ニ對スル支度料及著後手當ニ相當スル家族移轉料又ハ死亡手當ニ關ス

ル規定ハ在外公館費用條例ノ適用又ハ準用ヲ受クル者ニハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治三十年勅令第四百四十三號

遞信省部內官吏外國在勤者妻携帶旅費給與規則

大正四年勅令第百九十六號

大正七年勅令第三百八十七號

大正八年勅令第二十號

大正八年勅令第百二十九號

大正八年勅令第百七十一號

本令施行ノ際從前ノ規定ニ定額ノ定アル區間ヲ旅行中ノ者ニ支給スル鐵道賃又ハ船賃ハ其ノ區間ニ限リ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前ヨリ引續キ同一地ニ滯在スル者ニ對スル第二十二條ノ規定ノ適用ニ關シテハ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

本令施行前外國ニ赴任ヲ命セラレタル者、外國在勤中轉勤ヲ命セラレ若ハ本邦勤務ノ爲歸朝ヲ命セラレタル者、賜暇歸朝ヲ許サレタル者又ハ賜暇歸朝中歸任スル者本令施行後目的地ニ到著シタルトキハ本令ニ依リ移轉料ヲ支給ス

本令施行前外國ニ滯在中外國在勤ヲ命セラレ又ハ新ニ任用セラレタル者本令施行後目的地ニ到著シタルトキハ本令ニ依リ移轉料ヲ支給スルコトヲ得

前二項ニ揭クル者妻子ヲ隨伴シ、呼寄セ又ハ歸朝セシムル場合ニ於テ其ノ妻子本令施行後目的地ニ到著シタルトキハ本令ニ依リ家族移轉料ヲ支給スルコトヲ得

（別表）

區分／官階	日當	宿泊料 甲地方	宿泊料 乙地方	宿泊料 丙地方	食卓料	支度料 甲乙地方	支度料 丙地方	移轉料 甲額	移轉料 乙額	死亡手當 甲乙地方	死亡手當 丙地方
親任官	二十圓	七十圓	六十圓	三十圓	八圓	千四百圓以內	千圓以內	六百圓以內	四百圓以內	七千五百圓以內	五千圓以內
勅任官	十五圓	五十圓	四十二圓	二十二圓	七圓	九百圓以內	七百圓以內	四百五十圓以內	三百圓以內	四千五百圓以內	三千圓以內
奏任官 五等以上	十圓	三十二圓	二十四圓	十七圓	五圓	七百圓以內	五百五十圓以內	三百圓以內	二百圓以內	二千五百圓以內	千七百圓以內
奏任官 六等以下	八圓	三十圓	二十二圓	十六圓	五圓	七百圓以內	五百五十圓以內	三百圓以內	二百圓以內	二千圓以內	千三百圓以內
判任官	六圓	二十四圓	十八圓	十三圓	四圓	五百圓以內	三百圓以內	二百圓以內	百五十圓以內	千五百圓以內	千圓以內

備考

一 甲地方トハ南北亞米利加、乙地方トハ歐羅巴亞弗利加、太洋洲竝支那及西比利亞以外ノ亞細亞、丙地方トハ支那及西比利亞ヲ謂フ

二 移轉料ノ甲額ハ甲乙地方ト本邦又ハ丙地方トノ間竝甲乙地方間及甲乙各地方內ノ移轉ニ付之ヲ支給シ移轉料ノ乙額ハ本邦丙地方間及丙地方內ノ移轉ニ付之ヲ支給ス

●外國旅費規則施行細則

大正十年九月一日
大藏省令第三十一號

改正 大正一四年大藏省令第三號

外國旅費規則施行細則左ノ通定ム

外國旅費規則施行細則

第一條 外國旅費規則ニ於テ南洋群島ト稱スルハ帝國ニ於テ統治ノ委任ヲ受ケタル南太平洋諸島ヲ謂ヒ南滿洲ト稱スルハ支那奉天省竝吉林省ノ內第二松花江以南ノ地域及琿春、汪清、延吉、和龍ノ四縣ヲ謂フ

第二條 旅費ハ外國旅費規則第五條ノ規定ニ依リ其ノ一部ヲ支給セサル場合ト雖精算ヲ爲サシムヘシ

第三條 外國旅費規則第十二條ニ規定スル手當トハ旅費以外ニ特ニ旅行者ニ支給スル金額ニシテ其ノ精算ヲ要セサルモノヲ謂フ

第四條 鐵道賃ハ一等ノ旅客運賃(通行稅ヲ含ム)ニ依リ之ヲ計算ス但シ一等ノ設ナキモノニ在リテハ上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘車ニ要スル運賃ニ依ル

勅任官以上ニシテ前項ノ運賃ヲ以テ支辨シ能ハサル特別ノ座席ヲ要シタルトキハ前項運賃ノ外其ノ座席ノ爲現ニ支拂ヒタル料金ヲ支給ス

第五條 船賃ハ最低一等旅客運賃(通行稅、艀船賃及棧橋賃ヲ含ム)ニ依リ之ヲ計算ス但シ一等ノ船室ノ設ナキモノニ在リテハ上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘船ニ要スル運賃ニ依ル

一等運賃ヲ數種ニ區分スルモノ又ハ特別ノ船室ノ設アルモノニ在リテハ最低一等運賃ニ親任官ニハ其ノ十割、勅任官ニハ其ノ六割、奏任官ニハ其ノ三割、判任官ニハ其ノ一割ヲ加算シタル額ノ範圍內ニ於テ現ニ支拂ヒタル料金迄ヲ支給ス

第六條 勅任官以上ニシテ職務上ノ必要ニ依リ前條ノ支給額ヲ以テ支辨スルコト能ハサル特別ノ船室ヲ要シタルトキハ豫メ所管大臣ノ許可ヲ得タル場合ニ限リ特ニ其ノ實費額迄ヲ支給スルコトヲ得

前條第二項及前項ノ規定ハ家族移轉料中妻子ニ付支給スル船賃ニ之ヲ適用セス

第七條 車馬賃ハ鐵道又ハ船舶ノ便アル區間ノ旅行ニハ之ヲ支給セス但シ用務ノ性質上鐵道又ハ船舶ニ依リ難キ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 賜暇歸朝ヲ許サレタル者ニ支給スル任地本邦間ノ旅費トハ任地ト本邦ニ於ケル所屬廳所在地トノ間ノ旅費、本邦ニ所屬廳ナキ場合ニ在リテハ任地ト東京トノ間ノ旅費ヲ謂フ

第九條 外國旅費規則第三十一條、第三十二條、第三十七條又ハ第四十

一條ノ規定ニ依リ支給スル旅費トハ本邦ニ於ケル住所地迄ノ旅費、其ノ住所地ナキ者ニ在リテハ本邦ニ於ケル家族ノ住所地迄ノ旅費、本人又ハ家族ノ住所地共ニナキ者ニ在リテハ原籍地迄ノ旅費ヲ謂フ但シ其ノ金額ニシテ本邦ニ於ケル目的地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ目的地ニ至ル旅費ヲ支給ス

第十條　外國旅費規則ニ於テ遺族トハ配偶者、直系卑屬、直系尊屬及兄弟姉妹又ハ同一戸籍內ニ在ル親族ヲ謂フ

死亡手當ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ揭クル順位ニ依リ同順位內ニ在リテハ民法第九百七十條及第九百八十四條ノ規定ニ準シ之ヲ定ム

第十一條　外國旅費規則第四十一條ノ規定ニ依ル從者ノ旅費ニ付階級ヲ設クル場合ニ於テハ其ノ最下級ノ額トス

第十二條　旅行者ハ旅行日記及船車馬賃ノ領收書又ハ鐵道船舶ノ賃金表等料金ノ支拂ヲ證スヘキ相當ノ書類ヲ提出スヘシ

前項ノ旅行日記ニハ毎日ノ行程、宿泊地名、旅店名、搭乘船名及汽車又ハ船舶ノ出發時刻等ヲ記載スヘシ

附則

本令ハ外國旅費規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府職員旅費規則

大正九年八月一日
臺灣總督府令第四十四號

改正　大正九年府令第一七九號、一三年第一〇一號、一五年第二二號

臺灣總督府職員旅費規則左ノ通相定ム

臺灣總督府職員旅費規則

第一條　判任官以上ノ者臺灣內旅行ノ場合支給スヘキ車馬賃、日當、宿泊料、食卓料、移轉料ハ當分ノ內別記第一號表ニ依ル

第二條　待遇官吏內地又ハ臺灣內旅行ノ場合ニ於テハ親任官待遇ノ者ハ親任官、勅任官待遇ノ者ハ勅任官、奏任官待遇ノ者ハ奏任官六等以下、判任官待遇ノ者ハ判任官六級俸以下ノ額ニ相當スル旅費ヲ支給ス

第三條　前二條ノ者內地ヨリ臺灣ニ赴任ノ場合ニ於テハ臺灣內旅行ノ定額ニ依リ算出シタル赴任手當ヲ支給ス

第四條　囑託員、雇員、內地又ハ臺灣內旅行ノ場合ニ於テハ月手當又ハ月俸四百圓以上ヲ受クル者ハ奏任官五等以上、二百五十圓以上ヲ受クル者ハ奏任官六等以下、百五十圓以上ヲ受クル者ハ判任官五級俸以上、七十五圓以上ヲ受クル者ハ判任官六級俸以下ノ額ニ相當スル旅費ヲ支給ス但シ赴任手當ハ之ヲ支給セス

第四條ノ二　看守部長又ハ月俸五十五圓以上ノ看守內地又ハ臺灣內旅行ノ場合ニ於テハ判任官六級俸以下ニ相當スル旅費ヲ支給ス但シ赴任手當ハ之ヲ支給セス

第五條　月手當又ハ月俸七十五圓未滿ノ囑託員、雇員、月俸五十五圓未滿ノ看守、女監取締又ハ公學校訓導內地又ハ臺灣內旅行ノ場合ニ於テハ別記第二號表ニ依リ旅費ヲ支給ス

第六條　月手當又ハ月俸四十圓未滿若ハ日給ノ雇員及傭員內地又ハ臺灣內旅行ノ場合ニ於テハ別記第三號表ニ依リ旅費ヲ支給ス

第七條　前二條ノ者鐵道又ハ水路旅行ノ場合ニ於テハ大正九年五月大藏省令第十六號ニ準シ三等又ハ下級ニ相當スル鐵道賃、船賃ヲ支給シ赴任ノ場合ニ於テハ別ニ內國旅費規則第六條ニ準シ家族移轉料（赴任手當ヲ除ク）ヲ支給ス

第八條　囑託員ニシテ在官ノ者（休職退職者ヲ除ク）ニハ其ノ官相當ノ旅費ヲ支給ス

第九條　所屬長官ハ調査、監査、測量、土木工事等ノ爲現場ヲ巡回スル職員又ハ常時旅行ヲ要スル職員ニ對シ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ月額又ハ日額ヲ定メテ旅費ヲ支給スルコトヲ得

所屬長官ハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ其ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第十條　內地ヨリ臺灣ニ旅行スルトキハ臺灣最初ノ著船地迄ヲ內地旅行トシ臺灣ヨリ內地ニ旅行スルトキハ臺灣最後ノ發船地迄ヲ臺灣內旅行トシテ各其ノ旅費ヲ支給ス但シ內地ヨリ臺灣ヘ著船當日ハ臺灣內旅行ノ日當臺灣ヨリ內地ヘ乘船當日ハ內地旅行ノ日當ヲ支給ス

第十一條　判任官以上ノ者臺灣ニ於ケル勤續二年以上ニシテ退官退職又ハ休職トナリ三十日以內ニ臺灣ヲ出發歸鄕スルトキハ前官又ハ本官相當ノ旅費ヲ支給ス但シ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依リ失官シ若ハ免官セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退官若ハ退職シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

待遇官吏、囑託員、雇員、巡査又ハ看守ヨリ判任官以上ノ官ニ任セラレタル者ニ在リテハ待遇官吏、囑託員、雇員在職年月數ノ五分ノ二又ハ巡査、看守在職年月數ノ三分ノ二ヲ前項ノ勤續年數ニ通算ス但シ一月ニ滿タサル日數ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　判任官以上ノ者在職中死亡シタルトキハ勤續年數ニ拘ラス前條ノ例ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

第十三條　內地ニ旅行中退官退職休職トナリ又ハ死亡シタルトキハ其ノ旅行ノ公務タルト私事タルトヲ問ハス前二條ノ規定ニ依リ支給スヘキ金額ノ半額ヲ支給ス但シ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依リ失官シ若ハ免官セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退官若ハ退職シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　待遇官吏、囑託員若ハ雇員ニシテ臺灣ニ於ケル勤續五年以上ノ者及看守ニシテ誓約期限ヲ經過セル者刑事裁判、懲戒處分又ハ自己ノ便宜ニ依ルニ在ラスシテ退職シ三十日以內ニ臺灣ヲ出發歸鄕スルトキ又ハ在職中死亡シタルトキハ第十一條乃至第十三條ノ例ニ準シ前職相當ノ旅費又ハ旅費ニ相當スル金額ヲ支給ス

第十五條　歸鄕旅費ハ舊在勤地ヨリ原籍地ニ至ル鐵道賃、船賃、車馬賃ニ相當スル額トス

第十六條　本令ニ規定ナキモノノ旅費ニ關シテハ內國旅費規則及大藏省所管旅費支給規則ヲ準用ス

附則

本令ハ大正九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令發布前休職退官（退官退職ト同日又ハ翌日附ヲ以テ臺灣總督府及所屬官署ニ採用セラレ現ニ在職中ノ者ヲ除ク）シタル者又ハ本令施行ノ際現ニ水路旅行ノ途ニ在ル者ニ對シテハ其ノ最近到著地迄從前ノ額ヲ支給ス

大正七年十月訓令第百六十五號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

公醫ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ五級俸以上ノ判任官ト看做ス

大正九年勅令第百七十六號附則第三項及第四項ノ規定ハ本令施行ノ際之

ヲ準用ス

第一號表

區分	車馬賃（一里ニ付）	日當（一日ニ付）		宿泊料（一夜ニ付）		食卓料（一夜ニ付）	移轉料
		甲地方	乙地方	甲地方	乙地方		
親任官	二圓五十錢	十三圓	十二圓	二十二圓	十八圓	四圓	三百圓以內
勅任官	二圓	九圓	八圓	十五圓	十二圓	三圓五十錢	二百二十圓以內
奏任官 五等以上	一圓五十錢	七圓	六圓	十圓	八圓	二圓五十錢	百五十圓以內
奏任官 六等以下	一圓五十錢	六圓	五圓	九圓	七圓	二圓五十錢	百五十圓以內
判任官 五級俸以上	一圓二十錢	四圓	三圓	七圓	五圓五十錢	二圓	百圓以內
判任官 六級俸以下	一圓二十錢	三圓五十錢	二圓五十錢	六圓	四圓五十錢	二圓	百圓以內

第二號表

區分	車馬賃（一里ニ付）	日當（一日ニ付）		宿泊料（一夜ニ付）		食卓料（一夜ニ付）	移轉料
		甲地方	乙地方	甲地方	乙地方		
內地	六十錢	二圓	一圓八十錢	三圓五十錢	三圓十錢	一圓二十錢	五十圓以內
臺灣	九十錢	二圓五十錢	二圓	四圓五十錢	三圓五十錢	一圓二十錢	五十圓以內

第三號表

區分	車馬賃（一里ニ付）	日當（一日ニ付）		宿泊料（一夜ニ付）		食卓料（一夜ニ付）	移轉料
		甲地方	乙地方	甲地方	乙地方		
內地	四十五錢	一圓五十錢	一圓三十錢	二圓八十錢	二圓六十錢	八十錢	三十五圓以內
臺灣	七十錢	二圓	一圓五十錢	三圓五十錢	二圓八十錢	八十錢	三十五圓以內

備考 本表中甲地方乙地方ノ區分ニ付テハ大正十三年十二月大藏省令第二十八號及第二十九號ニ依ル

●臺灣總督府囑託員ニシテ常時一定ノ手當ヲ給セサル者ニ支給スル旅費規程

明治四十三年十二月
臺灣總督府訓令第二百五十一號

官房【民政部】法院 廳【所屬民政各官廳】

臺灣總督府囑託員ニシテ常時一定ノ手當ヲ給セサル者ニ支給スル旅費規程左ノ通相定ム

臺灣總督府囑託員ニシテ常時一定ノ手當ヲ給セサル者ニ支給スル旅費規程

第一條 臺灣總督府囑託員ニシテ常時一定ノ手當ヲ給セサル者公務ノ爲內地又ハ臺灣內ヲ旅行スルトキハ本規程ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二條 在官者（退職者ヲ除ク）ノ旅費額ハ左ノ區分ニ依ル

一 文官ニハ其ノ官相當ノ額

二 陸海軍將官ニハ勅任文官、上長官ニハ奏任文官五等以上、士官ニハ奏任文官六等以下、准士官ニハ判任文官五級俸以上、下士ニハ判任文官六級俸以下ノ額

第三條 前條ニ該當セサル者ノ旅費額ハ左ノ區分ニ依ル但シ爵位勳功ヲ併有スルトキハ高キニ從フ

一 有爵者、正六位以上、勳五等以上及功四級以上ノ者ニハ奏任文官五等以上ノ額

二 從六位、勳六等及功五級ノ者ニハ奏任文官六等以下ノ額

三 正七位若ハ從七位、勳七等及功六級ノ者ニハ判任文官五級俸以上ノ額

四 正八位以下、勳八等及功七級ノ者ニハ判任文官六級俸以下ノ額

五 位、勳、功級ヲ有セサル者ニハ臺灣總督府職員旅費規則第二號表ノ額

第四條 本規程ハ公務ニ關シ一般人民ヲ旅行セシムル場合ニ之ヲ準用ス

第五條 本規程ノ定ムルモノノ外ハ臺灣總督府職員旅費規則ニ依ル

附則

本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十一年五月訓令第百十六號及同訓令第百十七號ハ之ヲ廢止ス

●臺灣總督府管內旅行里程計算方

明治二十九年十二月
臺灣總督府訓令第百五十九號

改正 大正一一年訓令第三九號、第一七三號

臺灣總督府 法院 州廳
臺灣總督府所屬官署

臺灣總督府管內旅行ノ汽車里數汽船運數陸里程ハ最新臺灣郵便線路圖ニ依リ郵便線路外ノ旅行ハ所轄知事又ハ廳長ノ定ムル管內里程圖ニ依リ管內里程圖ニ里程ノ記載ナキ地方ノ旅行ナルトキハ其ノ地方官衙ノ爲シタル證明ニ依リ旅費ノ計算ヲ爲スヘシ但本令ハ明治三十年一月一日ヨリ施行シ明治二十九年六月訓令第三十四號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●臺灣總督府【土木局】職員旅費規程

大正九年八月十三日
臺灣總督府訓令第百二十二號

改正 大正九年訓令第二九九號

臺灣總督府

臺灣總督府【土木局】職員旅費規程左ノ通相定ム

臺灣總督府【土木局】職員旅費規程

第一條 【土木局】職員ニシテ測量調査並工事ノ施行監督ノ爲臺灣內旅行ノ場合ハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

用務ノ名稱前項ノ規定ニ相當セサルトキト雖其ノ性質カ前項ノ規定ニ屬スヘキモノナルトキ亦同シ

第二條 本令ニ於テ事業區域ト稱スルハ施行計劃ニ依リ決定セラレタル區域ヲ謂ヒ用務地ト稱スルハ事業區域一圓ヲ謂フ

前項事業區域ノ定メナキトキハ其ノ所在地ヲ距ル三里以內ハ事業區域ト看做ス

第三條 在勤廳所在地ヲ距ル三里以上ノ地ニ旅行スルトキハ其ノ用務地內ニ滯在期間（事業區域內ノ旅行日數ヲ含ム）別記第一號表ニ依リ左ノ各號ニ從ヒ日額旅費ヲ支給ス

一 甲號日額

第二號及第三號ニ該當セサルトキ

二 乙號日額

用務地ニ於テ官舍宿舍其ノ他居住ノ設備アルトキ

三 丙號日額

用務地ニシテ蕃地內又ハ運輸交通不便ノ地ナルトキ但シ其ノ等級ハ事業施行決定ノ場合指定スル處ニ依ル

前項ノ滯在期間三十日ヲ超ユルトキハ其ノ當日ヨリ當該日額旅費ノ十分ノ七ヲ支給ス

前項日數ノ計算ニ於テ宿泊地ノ移轉及用務地外ノ旅行又ハ一時歸廳ノ場合其ノ前後ノ日數ヲ通算ス

第四條 事業區域內ニ於テ宿泊地ヲ移轉シタルトキハ其ノ當日ハ定額ノ宿泊料ニ相當スル日額旅費ヲ支給ス事業區域內二箇所以上ノ事務所相互間ノ旅行ニシテ其ノ距離三里以上ノ地ニ宿泊ヲ要シタルトキ亦同シ

一旅行ニシテ官舍、宿舍其ノ他居住ノ設備ナキ用務地ニ滯在十日ヲ超ヘサル旅行ノ場合ハ其ノ滯在期間前項ノ日額旅費ヲ支給ス

第五條 鐵道、軌道、船舶ニ依リ事業區域內ヲ旅行スヘキ場合ハ前二條ノ日額旅費ノ外別記第二號表賃金等級ノ區分ニ依リ相當賃金ヲ加給ス

第六條 在勤廳所在地ヲ距ル三里未滿ノ地ニ旅行スル者ニハ其ノ日數ニ應シ別記第二號表ノ日額旅費ヲ支給ス

〔臺灣〕

第七條 日額旅費ヲ受クル者他ノ用務ノ爲事業區域外ノ地ニ日歸旅行スルトキハ日額旅費ノ外第五條ノ賃金ノミヲ加給ス

第八條 日額旅費ヲ受クル者其ノ用務ニ從事中第一條ニ揭クル以外ノ用務ノ爲用務地外ニ旅行スルトキハ其ノ旅行ヲ終リタル翌日ヨリ原用務ニ依ル日額旅費ヲ支給ス

第九條 在勤廳所在地ノ市區內ヲ旅行スルトキ一里以上ニ涉ル場合ハ別記第二號表ノ日當ヲ支給ス事業區域カ市區外ニ跨ルトキ亦同シ

在勤廳所在地ニ於テハ常時外業又ハ工場ニ從務スル場合特ニ指定シタル者ニ對シテハ其ノ從事期間別記第二號表ノ月額旅費（從事日數一箇月未滿ノ場合ハ日割）ヲ支給ス

第十條 現業員（工夫、職工、傭人等）ノ其ノ職務當然ノ旅行ニ對シテハ旅費ヲ支給セス

第十一條 現業員ノ左ニ揭クル旅行ニ對シテハ別記第三號表（日額旅費ヲ除ク）ノ旅費ヲ支給ス

一 勤務地外又ハ業務地外ニ於テ特ニ測量、調查又ハ工事施行ニ關スル用務ヲ命シタルトキ

二 轉勤ヲ命シタルトキ若ハ業務地ヲ移轉又ハ變更シタルトキ

三 業務地ニ於テ採用ノ爲召喚シタルトキ但シ居住地ヨリ業務地迄陸路六里以上ノ場合ニ限ル

四 陸路急行若ハ鐵道旅行ヲ命シタルトキ又ハ事業區域內ニ於テ宿泊地ヲ移轉セシメタルトキ但シ車馬賃ハ實費（賃金ノ定アルモノハ最低賃金）ヲ支給ス

前項第一號ノ旅行ニシテ往復日數ヲ除キタル日數ニ對シテハ別記第三號表日額旅費ヲ支給ス但シ常時業務ニ從事スル場合ハ旅費ヲ支給セス

第十二條 【土木局長】ハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ其ノ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第十三條 本令ニ規定セサル事項ハ臺灣總督府職員旅費規則ニ依ル

〔臺灣〕

附則

本令ハ大正九年六月一日以後ノ旅行ニ付之ヲ適用ス

大正八年七月訓令第百三十號臺灣總督府土木局職員旅費規程ハ之ヲ廢止ス

第三條第二項及第三項ノ規定ハ本令適用前ノ旅行ニ對シテ之ヲ適用ス

（別記）

第一號表

區分	甲號日額	乙號日額	丙號日額 一等	丙號日額 二等	丙號日額 三等
奏任官五等以上 月手當四百圓以上ノ囑託員	六圓	五圓	十圓	七圓	六圓
奏任官六等以下 月手當二百五十圓以上ノ囑託員	五圓五十錢	四圓五十錢	八圓	六圓	五圓五十錢
判任官五級俸以上 月俸又ハ月手當百五十圓以上ノ囑託員及雇員	四圓五十錢	三圓五十錢	六圓	五圓	四圓
判任官六級俸以下 月俸又ハ月手當七十五圓以上ノ囑託員及雇員	三圓七十錢	三圓	五圓	四圓	三圓五十錢
月俸又ハ月手當五十五圓以上ノ囑託員及雇員	三圓	二圓五十錢	四圓	三圓五十錢	三圓
月俸又ハ月手當五十五圓未滿若ハ日給ノ囑託員及雇員	二圓	一圓八十錢	三圓	二圓五十錢	二圓
傭員	一圓五十錢	一圓五十錢	二圓五十錢	二圓	一圓五十錢
本島人ノ傭員	一圓二十錢	一圓	二圓	一圓五十錢	一圓二十錢

第二號表

區分	日額	日當	月額	賃金等級 鐵道及船舶	賃金等級 軌道
奏任官五等以上月手當四百圓以上ノ囑託員	二圓	一圓二十錢	二十圓	一等賃金一等ノ設備ナキトキハ二等ノ賃金	上級一人乘ノ賃金
奏任官六等以下月手當二百五十圓以上ノ囑託員	一圓六十錢	一圓	十八圓		
判任官五級俸以上月俸又ハ月手當百五十圓以上ノ囑託員及雇員	一圓二十錢	八十錢	十五圓	二等ノ賃金二等ノ設備ナキトキハ一等ノ賃金	普通一人乘ノ賃金
判任官六級俸以下月俸又ハ月手當七十五圓以上ノ囑託員及雇員	一圓	七十錢	十二圓		
月俸又ハ月手當五十五圓以上ノ囑託員及雇員	八十錢	六十錢	九圓	最低賃金、船賃ニハ艀船賃ヲ含ム（各等共）	
月俸又ハ月手當五十五圓未滿若ハ日給ノ囑託員及雇員	六十錢	五十錢	八圓		
傭員	五十錢	四十錢	七圓		
本島人ノ傭員	四十錢	三十錢	六圓		

第三號表

區分	車馬賃一里ニ付	宿泊料一夜ニ付	食卓料一夜ニ付	日額旅費	鐵道賃及船賃
內地人	四十錢	三圓	八十錢	一圓五十錢	最低賃金 鐵道百哩以上ハ急行料ヲ含ム 船賃ニハ艀船賃ヲ含ム
本島人	三十錢	二圓	八十錢	一圓	

●臺灣總督府〔土木局〕職員旅費規程及臺灣總督府〔土木局〕現業員規程ノ適用ニ關スル件

大正十三年十二月二十五日
臺灣總督府訓令第百十四號

臺灣總督府　交通局

〔參照〕

大正九年訓令第百二十二號臺灣總督府〔土木局〕職員旅費規程及大正十年訓令第四十五號臺灣總督府〔土木局〕現業員規程ハ別段ノ定アルモノヲ除クノ外左ニ掲クル者ニ之ヲ適用ス

一 官房會計課主管ニ屬スル營繕工事ニ從事スル現業員及職員
一 內務局土木課主管ニ屬スル土木工事ニ從事スル現業員及職員
一 交通局道路港灣課主管ニ屬スル道路、橋梁、築港及運河ノ工事ニ從事スル現業員及職員

〔參照〕

●臺灣總督府殖產局職員特別旅費規程

大正十二年十二月十三日
臺灣總督府訓令第百三十三號

改正　大正一三年訓令第八三號、一四年第七八號、一五年第五九號、昭和二年第五三號、第七一號

臺灣總督府

臺灣總督府殖產局職員特別旅費規程左ノ通相定ム

臺灣總督府殖產局職員特別旅費規程

第一條　臺灣總督府殖產局職員ニシテ本令ニ規定スル用務ニ依リ本島內ヲ旅行スル者ノ旅費ハ以下各條ニ依ル但シ本令ニ依ル旅費ノ日額カ普通旅費ヲ超過シ又ハ普通旅費ヲ受クル者ト同行スルコトヲ指定セラレタル場合ハ此限ニ在ラス

本令ニ依リ旅費ノ支給ヲ受クル者鐵道、水路又ハ軌道ニ依リタル場合ハ臺灣總督府職員旅費規則ニ依リ奏任官ト同等ノ旅費ヲ受クル者ニハ一等賃金、判任官ト同等ノ旅費ヲ受クル者ニハ二等賃金、二等ナキトキハ一等賃金ヲ支給ス

前項以外ノ者ニハ三等又ハ最下級ノ賃金ヲ支給スルコトヲ得

第二條　旅行中陸等、昇給其ノ他ノ事由ニ依リ旅費額ヲ異ニスル場合ハ、發令ノ翌日ヲ以テ區分計算ス

第三條　日額旅費ハ日歸リ旅行及歸著當日ハ其ノ半額ヲ支給ス但シ第四條第一項但書、第五條第三項及第七條ニハ之ヲ適用セス

旅行日數又ハ滯在日數ノ計算ニ付テハ一時歸府シ更ニ出張シタル場合又ハ一旅行中數回同一地ニ滯在シタル場合ノ前後ノ日數ハ之ヲ通算ス

旅行カ指定區域ノ內外ニ亙ルトキハ其ノ區域外ノ旅行ヲナシタル日ニ限リ普通旅費ヲ支給ス

第四條　左記各所ノ職員、駐在員又ハ滯在旅費ノ支給ヲ受ケスシテ滯在中ノ者其ノ所用務ノ爲附表ニ指定セラレタル各其ノ區域內ニ出張スル場合ハ第三號ニ依ル日額旅費ヲ給ス但シ日歸ニシテ行程六里以上ニ亙ルトキハ第五號、六里未滿ノトキハ第七號ニ依ル

一 大南庄蔗苗養成所
二 后里庄蔗苗養成所
三 鹹水養殖試驗場
四 淡水養殖試驗場
五 鳳梨種苗養成所

前項ノ者ニシテ常時出張巡回者ニ指定セラレタルトキハ第七號ノ日額旅費ヲ支給ス

第四條ノ二　肥料檢查所出張所ニ勤務スル職員肥料檢查ノ爲其ノ駐在ス

ル州又ハ廳區域內ニ出張スル場合ハ第二號ノ日額旅費ヲ支給ス但シ日歸ニシテ行程六里未滿ノ場合ハ第三號ニ依ル

第五條 營林所出張所ノ管內在勤員附表ニ指定セラレタル各其ノ區域內ヲ旅行スルトキハ第三號ノ日額旅費ヲ支給ス但シ常時出張巡回者ニ指定セラレタル者ニハ第六號ノ日額旅費ヲ支給ス

汽車乘組ヲ常務トナス者及其ノ代務者又ハ營林所出張所在勤ノ諸職工其ノ他ノ現業傭員ノ旅行ニハ宿泊シタル日ニ限リ第八號ノ日額旅費ヲ支給ス但シ所定宿泊所ナキトキハ定額ノ五割增トス

汽車乘組ヲ業務トナス者及其ノ代務者ニシテ線路又ハ汽車ノ故障ニ因リ特ニ陸路一里以上ノ旅行ヲ爲シタルトキハ其ノ當日ニ限リ第五號ノ日額旅費ヲ支給ス

第六條 前二條ニ揭クル場所ニ兼務スル者其ノ兼務地ニ出張滯在中ハ第二號ノ日額旅費ヲ支給ス但シ兼務地ニ於テ宿舍若ハ宿舍料ノ給與ヲ受クルトキハ旅費ヲ支給セス

第七條 營林所出張所管內ノ派出所又ハ詰所員ニシテ其ノ受持區域ヲ出張巡回スル場合ハ第八號ノ日額旅費ヲ支給ス但シ宿泊シタルトキハ第六號ニ依ル

第八條 左ノ各號ニ該當スル者ニハ第九號ノ日額旅費ヲ支給ス但シ第一條第二項ヲ適用セス

一 蠶業獎勵、害蟲驅除豫防、植物檢查竝分析試驗ニ關スル用務ノ爲殖產局又ハ植物檢查所ト蠶業所又ハ中央研究所農業部間ヲ往復スル者

二 園藝ニ關スル用務ノ爲殖產局ト中央研究所士林園藝試驗支所間ヲ往復スル者

三 度量衡ニ關スル臨檢、檢定、作業ノ爲其ノ在勤地タル臺北又ハ臺南ノ市內ヲ巡回スル者

四 商況調查及販賣用務ノ爲其ノ在勤地タル臺北市內ヲ巡回スル者

石炭檢收ヲ常務トスル者檢收ノ爲出張スル場合ハ第二號ノ日額旅費ヲ支給ス

第九條 蔗苗養成ニ關シ大南庄蔗苗養成所又ハ后里庄蔗苗養成所地域內ノ調查、作業又ハ工事ノ設計竝現場監督ノ爲出張スル者ニハ滯在中第二號ノ日額旅費ヲ支給ス

第十條 林務ノ爲測量、調查、設計、造林、斫伐、土木建築、施業案編成又ハ鑛物調查若ハ地質調查ノ爲現業ニ從事スル者ニハ用務地到著ノ翌日ヨリ出發シ前日迄第一號ノ日額旅費ヲ支給ス但シ現業巡回員附屬ヲ常務トナス傭員ハ第五號ニ依ル

前項ノ用務地トハ指定シタル作業地ヲ管轄スル郡又ハ支廳管內ヲ謂ヒ、作業地カ數郡又ハ數支廳ニ跨リ若ハ點在スル場合ハ其ノ全部ノ郡又ハ支廳管內ヲ謂フ

水產試驗ニ從事スル者其ノ用務ノ爲出張スル場合又ハ水產試驗船監督其ノ事務執行ノ爲出張スル者ニハ第二號ノ日額旅費ヲ支給ス、茶業獎勵用務及茶檢查用務ノ爲臺北、新竹兩州管內ニ出張スル者亦同シ

米穀檢查所出張所補勤ノ爲メ出張スル事務傭員以上ノ職員ニハ補勤地到著ノ翌日ヨリ歸任ノ爲メ出發ノ前日迄第五號ノ日額旅費ヲ支給ス

米穀檢查員及傭員ニ於テ米穀檢查ノ爲其ノ在勤檢查所所在地ノ市街庄外ノ檢查ニ出張スル場合ハ第七號ノ日額旅費ヲ支給ス

第十一條 土地改良事務ニ從事スル者其ノ用務ノ爲（視察ヲ除ク）十日以上出張スル場合ハ用務地到著ノ翌日ヨリ同用務地ノ作業ヲ終リテ出發スル前日迄第二號ノ日額旅費ヲ支給ス但シ測夫ニハ汽車賃、船賃、軌道賃ノ實費ノミヲ支給ス

第十二條 水產試驗船員航海スル場合ニハ船籍港出帆ノ日ヨリ歸港ノ日迄第七號ノ日額旅費ヲ支給ス

水產ニ關スル監督、試驗又ハ調查ノ爲水產試驗船若ハ民有漁船ニ乘船航行スル者ニハ水產試驗船ニ在リテハ第四號、民有漁船ニ在リテハ第二號ノ日額旅費ヲ前項ニ準シ支給ス

第十三條 第四條、第五條第一項前段、第九條及第十條第一項前段第三項ニ該當スル者其ノ滯在十日以上ニ亘ル場合ハ其ノ翌日ヨリ第四號ノ日額旅費ヲ支給ス

第十四條 本令ニ規定ナキ事項ハ臺灣總督府職員旅費規則ニ依ル

附則

大正九年訓令第百四十九號同第百五十號ハ之ヲ廢止ス

附表

一	大南庄蔗苗養成所		東勢郡管內
二	后里庄蔗苗養成所		豐原郡管內
三	鹹水養殖試驗場		臺南市、新豐郡管內
四	淡水養殖試驗場		桃園、中壢郡管內
五	鳳梨種苗養成所		鳳山郡管內
六	營林所臺北出張所		臺北州管內但シ羅東、蘇澳兩郡管內ヲ除ク
七	同	羅東出張所	羅東、宜蘭、蘇澳郡管內
八	同	新竹出張所	新竹州管內及海山郡管內
九	同	臺中出張所	臺中州管內
一〇	同	嘉義出張所	臺南州管內
一一	同	旗山出張所	高雄州管內但シ恒春、潮州郡管內ヲ除ク
一二	同	恒春出張所	恒春、潮州郡管內
一三	同	東部出張所	花蓮港、臺東廳管內

區分	第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號	第七號	第八號	第九號
奏任官五等以上、月手當又ハ月俸四百圓以上ノ囑託員雇員	一一・〇〇	一〇・〇〇	八・八〇	七・〇〇	五・五〇	五・〇〇	三・〇〇	二・二〇	一・五〇
奏任官六等以下、奏任待遇者月手當又ハ月俸二百五十圓以上ノ囑託員雇員	九・五〇	八・〇〇	七・三〇	六・〇〇	五・〇〇	四・五〇		二・〇〇	

判任官五級俸以上、月手當又ハ月俸百九十圓以上ノ囑託員雇員	七・五〇	六・〇〇	五・五〇	四・〇〇	四・〇〇	三・七〇	二・〇〇	一・三〇	一・〇〇
判任官六級俸以下、判任官待遇者、月手當又ハ月俸七十五圓以上ノ囑託員雇員	六・五〇	五・〇〇	四・五〇	三・五〇	三・五〇	三・二〇		一・一〇	
月手當又ハ月俸四十圓以上ノ囑託員雇員	五・〇〇	四・〇〇	三・六〇	二・五〇	二・七〇	二・五〇	一・五〇	一・〇〇	・七〇
月手當又ハ月俸四十圓未滿及日給ノ囑託員雇員事務傭員	四・〇〇	三・〇〇	二・五〇	二・〇〇	一・七〇	一・七〇	一・〇〇	・九〇	
事務傭員以下ノ傭員	三・〇〇	二・〇〇		一・五〇					
同本島人傭員			一・五〇		一・二〇			・六〇	

●臺灣總督府殖産局ノ樟樹造林事務ニ從事スル職員ノ旅費規程ニ關スル件

大正十三年十二月二十五日
臺灣總督府訓令第百二十九號

大正十年訓令第五十四號臺灣總督府專賣局職員旅費規程中樟樹造林ニ從事スル職員ニ關スル規定ハ當分ノ內臺灣總督府殖産局ノ當該事務ニ從事スル職員ニ之ヲ適用ス

●【遞信局、通信官署】及燈臺職員特別旅費規程

大正九年八月十三日
臺灣總督府訓令第百二十四號

【臺報】

改正 大正九年訓令第二八〇號、一〇年第五三號、一一年第一五九號、第一六六號
【臺灣總督府通信官署】 燈臺

【遞信局、通信官署】及燈臺職員特別旅費規程左ノ通相定ム

【遞信局、通信官署】及燈臺職員特別旅費規程

第一條 【臺灣總督府遞信局、通信官署】及燈臺職員ニシテ左ニ掲クル旅行ヲ爲ス場合ハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス但シ普通旅費ノ支給ヲ受クルモノト同行ヲ命シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 特設電話又ハ私設電話監査ノ爲其ノ施設地域內ニ出張又ハ巡囘スルトキ

二 加入電話ノ修理又ハ試驗ノ爲其ノ機械設置場所ニ出張又ハ巡囘スルトキ

三 電信電話線路ノ測量、檢査若ハ工事施行ノ爲指定地域內ニ出張又ハ巡囘スルトキ

四 一二等郵便局職員其ノ所轄區域內ニ出張又ハ巡囘スルトキ但シ一二等郵便局長ニシテ視察規程ニ依リ視察ヲ爲ス場合ヲ除ク

五 燈臺職員其ノ所管航路標識ニ出張又ハ巡囘スルトキ

六 鐵道又ハ船舶郵便係員ニシテ船車ニ乘務スルトキ

七 臺灣總督府通信事務練習規程ニ依ル甲科練習終了者ニシテ其ノ採用局所ニ赴任スルトキ

八 【臺灣總督府遞信局又ハ通信官署】若ハ燈臺職員事務援助ノ爲在勤地外ニ出張スルトキ

九 【臺灣總督府遞信局】職員其ノ在勤地ノ郵便局所ニ出張スルトキ

十 遞信官吏練習所依託生トシテ入學又ハ復歸スルトキ若ハ實習又ハ卒業試驗ノ爲出張スルトキ

第二條 前條ノ旅行ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ日額旅費五十錢ヲ支給ス但シ官用船車ヲ乘用セシメタルトキ及一旅行一里ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 第一號乃至第三號ノ旅行カ其ノ在勤地ノ電話加入區域內ナルトキ

二 第四號ノ旅行カ其ノ在勤地ノ郵便區市內地ナルトキ

三 第五號ノ旅行カ其ノ在勤地ヲ距ル一里以內ナルトキ

四 第九號ノ旅行ヲ爲シタルトキ

第三條 第一條第一號乃至第五號及第八號ノ旅行ニシテ前條ニ該當セサル場合日歸ナルトキハ左記第一表甲號、二日以上ニ涉ルトキハ歸著當日ハ左記第一表甲號、其ノ他ハ左記第一表乙號ノ日額旅費ヲ支給ス但シ左ニ掲タル場合ハ各其ノ定ムル所ニ依ル

【臺報】

一 用務地域カ在勤地ヲ距ル一里以上ナルトキハ其ノ間ノ往復旅行ニ對シテハ普通旅費ニ依リ車馬賃（軌道アルトキハ軌道賃）鐵道賃又ハ船賃ヲ支給ス

第一條第二號ノ場合ハ所屬局所ト加入電話機設置場所トノ間ヲ以テ用務地域ト看做ス

二 前號ノ往復旅行ニシテ途中宿泊ヲ要スル場合ハ該宿泊ノ日ニ對シテハ左記第一表甲號ノ日額旅費及普通旅費ニ依ル宿泊料ヲ併セ支給ス

三 用務地域內ニ適當ノ宿泊所ナキ爲メ用務地域外ニ宿泊シ其ノ間ニ鐵道、軌道又ハ水路旅行ヲ要スルトキ及用務地域內ノ旅行ニシテ鐵道、軌道又ハ水路旅行ヲ要スルトキハ日額旅費ノ外別ニ鐵道賃、軌道賃又ハ船賃ヲ支給ス

四 第一條第八號ノ旅行ニシテ同一地ニ滯在スルコト十日ヲ超ユルトキハ左記第一表丙號ノ月額旅費ヲ支給ス

第四條 第一條第六號ノ乘務ヲ爲シタルトキハ左記第二表甲號、乘務先ニ於テ豫定地ニ下車又ハ上陸宿泊シタルトキハ左記第二表乙號ノ日額旅費ヲ支給ス但シ左ニ掲クル場合ハ各其ノ定ムル所ニ依ル

一 汽車乘務兩日ニ跨リ乘務先ニ於テ下車スルモ宿泊ヲ爲ササリシトキ及引續キ乘務シタルトキハ左記第二表乙號日額旅費ノ三分ノ二ヲ支給ス

二 豫定地外ニ於テ下車又ハ上陸宿泊シタルトキハ左記第一表乙號ノ日額旅費ヲ支給ス

三 係員所屬局以外ノ職員ニシテ臨時乘務ニ服シタルトキ及係員ニシ

テ往路又ハ歸路乗務外ノ旅行ヲ爲シタルトキハ前條ノ規定ヲ適用ス

第五條 第一條第七號ノ場合ハ傭員ノ赴任ニ準シ普通旅費ヲ支給ス但シ赴任手當、移轉料及家族移轉料ヲ支給セス

第五條ノ二 第一條第十號ノ場合ハ左ノ區別ニ依ル

一 無給雇員トシテ入學又ハ復歸シタルトキハ臺灣總督府職員旅費規則中月俸四十圓未滿ノ雇員ニ關スル規定ニ依ル但シ滯京中ハ旅費ヲ支給セサルモノトス

二 入學中學費ノ給與ヲ受ケサル者ニハ滯京中左ノ日額旅費ヲ支給ス

判任官	二圓
雇員	一圓五十錢
傭員	一圓三十錢

三 入學中實習又ハ卒業試驗ノ爲出張シタルトキハ三等又ハ下級ニ相當スル鐵道賃又ハ船賃ノ外左ノ車馬賃、日當、宿泊料又ハ食卓料ヲ支給ス但シ同一地滯在十日（滯在一日ニ滿タサル日ヲ含ム）ヲ超ユルトキハ其ノ當日ヨリ滯在中日額旅費一圓二十錢ヲ支給ス其ノ滯在地ヨリ一時出張又ハ一時歸所等ニ因ル滯在ノ中斷ハ日額旅費ノ支給ヲ妨ケス

車馬賃	一里ニ付	二十五錢
日當	一日ニ付	一圓
宿泊料	一夜ニ付	二圓五十錢
食卓料	一夜ニ付	八十錢

第六條 鐵道又ハ船舶郵便事務視察ノ爲無賃ニテ乗車又ハ乗船スル場合ハ鐵道賃、船賃ヲ支給セス

本令ニ依リ軌道賃ヲ支給スル場合ハ判任官以上及月俸又ハ月手當七十五圓以上ノ囑託員雇員ハ上等臺車其ノ他ハ普通臺車ノ實費ニ依ル

第七條 日額旅費ヲ受クル者昇給又ハ降給ニ依ル定額ヲ異ニスル場合ハ發令ノ翌日ヨリ計算ス

月額旅費ハ暦月ニ依リ之ヲ計算シ支給ヲ受クヘキ日數一箇月ニ滿タサルトキハ日割ヲ以テ計算ス

第八條 本令ニ規定セサル事項ハ臺灣總督府職員旅費規則ニ依ル

第九條 本令ハ三等郵便局職員ニ之ヲ適用セス

附則

本令ハ大正九年六月一日以後ノ旅行ニ付之ヲ適用ス

明治四十三年九月訓令第百八十一號臺灣總督府遞信局及一二等郵便局特別旅費規程ハ本令適用ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（第一表）

區分	甲號日額	乙號日額	丙號月額
奏任官五等以上及月俸又ハ月手當四百圓以上ノ囑託員雇員	四圓	十二圓	一
奏任官六等以下及月俸又ハ月手當二百五十圓以上ノ囑託員雇員	三圓五十錢	十圓	一
判任官五級俸以上及月俸又ハ月手當百五十圓以上ノ囑託員雇員	二圓五十錢	七圓	三十圓
判任官六級俸以下及月俸又ハ月手當七十五圓以上ノ囑託員雇員	二圓二十錢	六圓	二十七圓
月俸又ハ月手當七十五圓未滿ノ囑託員雇員	一圓七十錢	五圓	二十四圓
月俸又ハ月手當四十圓未滿又ハ日給ノ囑託員、雇員及傭員	一圓三十錢	四圓	二十一圓

（第二表）

區分	甲號日額	乙號日額
鐵道係員	七十五錢	三圓七十五錢
船舶係員	一圓五十錢	四圓五十錢

●臺灣總督府【鐵道部】職員旅費規則

大正九年十二月三日
臺灣總督府令第百七十六號

改正 大正一〇年府令第一五七號

臺灣總督府【鐵道部】職員旅費規則左ノ通相定ム

臺灣總督府【鐵道部】職員旅費規則

第一條 臺灣總督府【鐵道部】職員ノ旅費ハ本令ニ定ムルモノノ外臺灣總督府職員旅費規則ノ規定ヲ準用ス

第二條 【鐵道部】職員其ノ所管ノ鐵道ニ依ル旅行ニ對シテハ鐵道賃ヲ支給セス

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ日額旅費ヲ支給ス

一 驛、機關庫、檢車所、保線區、營繕掛員及各其ノ代務者ノ旅行ニ對シテハ第一號表日額旅費

二 測量ノ爲現場ヲ巡回スル者又ハ巡回等ノ爲常時出張スル者及其ノ代務者ニ對シテハ第二號表日額旅費

第四條 常時出張巡回スル者ニシテ第三號表ニ該當スル者ニハ月額旅費ヲ支給ス但シ第三號表第一項乃至第四項ニ該當スル者ニシテ花蓮港出張所管內在勤者ニハ各定額ノ三割、宜蘭出張所管內在勤者ニハ各定額ノ二割ヲ增給ス

前項月額旅費ヲ受クル者宿泊シタル場合ハ第四號表ニ依ル宿泊料ヲ支給ス

第五條 月額旅費ヲ受クル者旅行日數一箇月ヲ通シ五日未滿ノ場合ニ於テハ月額旅費ヲ支給セス驛、機關庫、檢車所、保線區及營繕掛員ニハ第一號表其ノ他ノ者ニハ第二號表ニ依ル日額旅費ヲ支給スルコトヲ得但シ月額旅費ヲ超過スルコトヲ得ス

第六條 日額旅費ノ支給ハ日歸ノ場合ハ甲號、二日以上ニ涉ル場合ハ歸著ノ當日ハ甲號、其ノ他ノ場合ハ乙號ヲ支給ス

第七條 汽車乗組ヲ常務ト爲ス者ニハ第六號表ニ依ル手當ヲ支給ス乗務時間ハ運轉時刻表ニ依リ之ヲ定メ運轉時刻表ニ依リ難キ場合ハ所定ノ運轉時刻ニ依リ之ヲ定ム但シ一箇所ノ待合時間三時間迄ハ乗務時間ト看做ス

第八條 一乗務番割中又ハ一仕業中初發列車及最終歸著列車ニ限リ左ノ時間ヲ乗務時間ト看做ス

一 機關車乗務ニハ初發前一時間及最終歸著後三十分間

二 列車乗務ニハ初發前三十分間

第九條 汽車乗務員其ノ助勤地トノ往復旅行ヲ爲シタル當日ハ第一號表

甲號旅費ヲ支給ス

第十條　汽車乘務員宿泊シタルトキハ第五號表ニ依ル宿泊料ヲ支給ス但シ部有宿泊所ナキ場合ハ普通旅費ノ宿泊料ヲ支給ス

第十一條　本令施行ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正九年六月一日以後ノ旅行ニ付之ヲ適用ス但シ大正九年七月三十一日以前ノ旅行ニ付テハ別表中囑託員雇員ノ月俸又ハ月手當四百圓ヲ二百五十圓、二百五十圓ヲ百五十圓、百五十圓ヲ八十圓、七十五圓ヲ四十五圓、四十圓ヲ二十圓トシテ之ヲ適用ス

明治四十三年訓令第百七十九號ハ本令適用ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號表

區分	奏任官五等以上月俸又ハ月手當四百圓以上ノ囑託員、雇員	奏任官六等以下及月俸又ハ月手當二百五十圓以上ノ囑託員、雇員	判任官五級俸以上及月俸又ハ月手當百五十圓以上ノ囑託員、雇員	判任官六級俸以下及月俸又ハ月手當七十五圓以上ノ囑託員、雇員	月俸又ハ月手當七十五圓未滿ノ囑託員、雇員	月俸又ハ月手當四十圓未滿若ハ日給ノ囑託員、雇員、傭員
甲號	二圓四十錢	二圓	一圓六十錢	一圓三十錢	一圓	七十錢
乙號	八圓八十錢	七圓三十錢	五圓六十錢	四圓六十錢	三圓六十錢	二圓二十錢

第二號表

區分	奏任官五等以上及月俸又ハ月手當四百圓以上ノ囑託員、雇員	奏任官六等以下及月俸又ハ月手當二百五十圓以上ノ囑託員、雇員	判任官五級俸以上及月俸又ハ月手當百五十圓以上ノ囑託員、雇員	判任官六級俸以下及月俸又ハ月手當七十五圓以上ノ囑託員、雇員	月俸又ハ月手當七十五圓未滿ノ囑託員、雇員	月俸又ハ月手當四十圓未滿若ハ日給ノ囑託員、雇員、傭員
甲號	二圓四十錢	二圓	一圓六十錢	一圓三十錢	一圓	七十錢
乙號	十圓四十錢	八圓六十錢	六圓四十錢	五圓四十圓	四圓二十錢	二圓六十錢

第三號表

項	區分		奏任官五等以上及月俸又ハ月手當四百圓以上ノ囑託員、雇員	奏任官六等以下及月俸又ハ月手當二百五十圓以上ノ囑託員、雇員	判任官五級俸以上及月俸又ハ月手當百五十圓以上ノ囑託員、雇員	判任官六級俸以下及月俸又ハ月手當七十五圓以上ノ囑託員、雇員	月俸又ハ月手當七十五圓未滿ノ囑託員、雇員	月俸又ハ月手當四十圓未滿若ハ日給ノ囑託員、雇員、傭員
第一項	保線課主任 機關庫主任 檢車所主任 物品檢查員 車長監督員 普場線内工事現業監督員 電機擔當員 「タブレット」分送責任者		三十三圓	二十八圓	二十一圓	十八圓	十二圓	
第二項	保線手 機關庫助役 檢車所助役				十四圓	十三圓	十圓	
第三項	保線助手 保線技術員 電氣技術員 檢炭夫				十二圓	十一圓	八圓	六圓
第四項	一驛以上兼務驛員				三十三圓	二十八圓	二十一圓	十二圓
第五項	工事現場監督員	一等地	四十圓	三十五圓	二十六圓	二十三圓	十八圓	十五圓
		二等地	四十五圓	四十圓	二十九訓	二十六圓	二十圓	十七圓
		三等地	五十圓	四十五圓	三十二圓	二十九圓	二十二圓	十九圓
		四等地	五十九圓	五十四圓	三十八圓	三十五圓	二十六圓	二十三圓
第六項	工事現場物品取扱員	一等地			二十一圓	十八圓	十三圓	十圓
		二等地			二十四圓	二十一圓	十五圓	十三圓
		三等地			二十七圓	二十四圓	十七圓	十五圓
		四等地			三十三圓	三十圓	二十一圓	十九圓

〔參照〕

〔參照〕

第四號表

區分	宿泊料
奏任官五等以上及月俸又ハ月手當四百圓以上ノ囑託員、雇員	五圓六十錢
奏任官六等以下及月俸又ハ月手當二百五十圓以上ノ囑託員、雇員	四圓八十錢
判任官五級俸以上及月俸又ハ月手當百五十圓以上ノ囑託員、雇員	三圓九十錢
判任官六級俸以下及月俸又ハ月手當七十五圓以上ノ囑託員、雇員	三圓四十錢
月俸又ハ月手當七十五圓未滿ノ囑託員、雇員	二圓六十錢
月俸又ハ月手當四十圓未滿若ハ日給ノ囑託員、雇員、傭員	一圓七十錢

第五號表

區分	宿泊料
判任官及月俸又ハ月手當七十五圓以上ノ囑託員、雇員	一圓六十錢
月俸又ハ月手當七十五圓未滿ノ囑託員、雇員	一圓二十錢
月俸又ハ月手當四十圓未滿若ハ日給ノ囑託員、雇員、傭員	一圓

第六號表

區間	職名	乘務一時間ニ付
臺中苗栗間（山線）	機關車乘務員	四錢
臺中苗栗間（山線）ヲ除キタル區間	機關車乘務員	三錢
全線	列車乘務員	三錢

●臺灣總督府【鐵道部】職員旅費規則施行規程

大正九年十二月十八日
臺灣總督府訓令第三百三號
【鐵道部】

改正 大正一一年訓令第八二號

臺灣總督府【鐵道部】職員旅費規則施行規程左ノ通相定ム

臺灣總督府【鐵道部】職員旅費規則施行規程

【臺鐵】

第一條 測量ノ爲現場ヲ巡視スル者在勤地ト現場間トノ旅行又ハ現場巡視中特別ノ命令ニ依ル往復二里以上ノ地ノ旅行ニハ普通旅費ヲ支給ス

第二條 測量ノ爲現場ヲ巡視スル者出張先ニテ內勤シタル場合ニハ臺灣總督府【鐵道部】旅費規則（以下單ニ規則ト稱ス）別表第二號表乙號日額ノ十分ノ八ヲ支給ス

第三條 一驛以上兼務ノ驛員兼務地ニ宿泊シタル場合ニハ宿泊料ヲ支給セス

第四條 日額旅費又ハ月額旅費ヲ受クル者昇給、降給其ノ他ニ依リ定額ヲ異ニスル場合ハ發令ノ翌日ヨリ之ヲ計算ス

第五條 月額旅費ノ支給方ハ左ノ區別ニ依ル

一 新任、轉職、休職、退職、廢官、死亡等ノ場合ハ勤務ノ日數ニ應シ日割ヲ以テ之ヲ支給ス病氣其ノ他ノ事故ニ因リ缺勤日數一箇月ヲ通シ十日以上ニ渉リタルトキ亦同シ

【臺鐵】

二 普通旅費、減額旅費及日額旅費ヲ受クル日數ニ對シテハ之ヲ支給セス

第六條 乘務時間ハ一箇月毎ニ之ヲ通算シ一時間未滿ハ切捨ツルモノトス

第七條 回送車ニ乘務シタル者ノ乘務時間ハ其ノ牽引列車ノ運轉時間ニ依リ之ヲ計算ス

第八條 增時給ノ支給ヲ受クル傭員ニハ日額旅費ヲ支給セス但シ測量ノ爲現場ヲ巡回スル者ニハ臺灣總督府【鐵道部】職員旅費規則第三條第二號ノ日額旅費ヲ支給ス

第九條 左ニ揭クル者ノ受持區域內ノ旅行ニハ車馬賃及日當（規則別表乙號日額旅費ヲ受クルトキハ宿泊料ヲ含ム）ヲ支給セス但シ常務以外ノ用務ヲ以テ旅行スル場合ハ普通旅費ヲ支給ス

一 月額旅費又ハ日額旅費ヲ受クル者及其ノ代務者

一 保線區及營繕掛勤務ノ線路工夫其ノ他ノ傭員ニシテ增時給ノ支給ヲ受クル者

一 建設ニ從事スル建築工夫其ノ他ノ傭員ニシテ增時給ノ支給ヲ受クル者

一 汽車乘務員及其ノ代務者

第十條 汽車乘務員ノ乘務旅行若ハ保線係員ノ線路巡視又ハ作業ノ爲ノ旅行ニシテ午後六時ヨリ翌日午前六時迄ノ間ニ於テ在勤地ノ休憩時間ヲ除キ七時間未滿ノ場合ハ宿泊料ヲ支給セス

前項ノ旅行時間ハ出發ノ時ヨリ歸著ノ時ヲ以テ之ヲ計算ス

第十一條 第九條ニ揭クル者線路又ハ汽車ノ故障ニ因リ陸路又ハ水路旅行ヲ爲シタルトキハ其ノ旅行ノ部分ニ對シテハ普通旅費ヲ支給ス

第十二條 【鐵道部長】ハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ其ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第十三條 日額旅費ヲ受クル者及土地ノ等級竝受持區域ハ【鐵道部長】之ヲ定ム

附則

本令ハ臺灣總督府鐵道部職員旅費規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令發布前休職、退官又退職（休職、退官又ハ退職ト同日又ハ翌日附ヲ以テ臺灣總督府及所屬官署ニ採用セラレ現ニ在職ノ者ヲ除ク）シタル者本令發布前ノ旅行ニシテ從前ノ規定ニ依ル旅費額カ本令ニ依ル旅費額ヨリ多キトキハ從前ノ額ヲ支給スルコトヲ得

●臺灣總督府專賣局職員旅費規程

昭和二年十一月一日
臺灣總督府訓令第六十七號
專賣局

臺灣總督府專賣局職員旅費規程左ノ通相定ム

臺灣總督府專賣局職員旅費規程

第一條 臺灣總督府專賣局職員公務ノ爲臺灣內ヲ旅行スルトキハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

本令ニ規定ナキ旅行ニ付テハ臺灣總督府職員旅費規則ニ依ル

第二條 本令ニ於テ本局直轄、支局又ハ出張所ノ管內トハ專賣局長ノ別

ニ定ムル區域ヲ謂ヒ用務地トハ事業施行地ノ屬スル市、街及庄ヲ謂フ但シ街庄ヲ置カサル地域ニ在ル事業施行地ニ付テハ專賣局長別ニ其ノ用務地ヲ定ム

第三條 左記各號ノ一ニ該當スル用務ノ爲管外ヲ旅行スルトキハ用務地到著ノ翌日ヨリ用務地出發ノ前日迄別表第一號ノ日額旅費ヲ支給ス

一 製腦地、製鹽地、天然樟樹保護林地域、煙草耕作地若ハ其ノ豫定地ノ調査又ハ測量
二 專賣品ノ收納若ハ引渡
三 製腦、製鹽、煙草耕作又ハ造酒ノ狀況調査若ハ試驗
四 製腦若ハ製鹽ノ監督又ハ獎勵
五 煙草耕作ノ監督又ハ指導獎勵
六 煙草植付ノ檢査又ハ數量査定
七 專賣ニ關スル取締
八 土木（鹽田工事ヲ含ム）又ハ營繕工事ノ監督
九 製腦用材ノ引渡
十 專賣ニ關スル各種ノ講習又ハ教習
十一 其ノ他用務ノ性質前各號ノ一ニ準スヘキ旅行

前項各號ノ一ニ該當スル用務ノ爲連續シテ管外ニ在ル二以上ノ用務地ヲ旅行スル場合ニ於テ最初ノ用務地到著ノ翌日ヨリ最後ノ用務地出發ノ前日迄支給スヘキ旅費亦前項ニ同シ

第四條 左記各號ノ一ニ該當スルトキハ別表第二號ノ日額旅費ヲ支給ス

一 前條ニ規定スル用務ニ依リ其ノ管內ヲ旅行スルトキ
二 專賣品ノ商況調査ノ爲其ノ管內ヲ旅行スルトキ
三 專賣品原料若ハ專賣品ノ生產業者又ハ專賣品販賣業者ノ業務調査又ハ監督ノ爲其ノ管內ヲ旅行スルトキ
四 支局員、出張所員、工場員又ハ地方駐在ヲ命セラレタル職員其ノ管內ヲ管轄スル州廳、廳、郡役所又ハ支廳ヘ旅行スルトキ

兼務ノ用務ヲ以テ兼務地ニ旅行スル場合ニ於テ兼務地到著ノ翌日ヨリ兼務地出發ノ前日迄支給スヘキ旅費亦前項ニ同シ

第五條 兼務地ニ於テ官舍若ハ宿舍料ノ給與ヲ受クル者ニ對シテハ兼務地滯在中旅費ヲ支給セス

第六條 日額旅費ハ同一用務地ニ滯在スルコト（用務地內旅行ヲ含ム）三十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ三割、六十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ五割ヲ減ス

前項ノ滯在中一時同一用務地外ニ旅行スルコトアルモ前後ノ日數ハ之ヲ通算ス

第七條 日額旅費ハ宿泊シタル日ハ全額ヲ、歸著當日及日歸旅行ニ在リテハ半額ヲ支給ス但シ陸路一里未滿、鐵道八哩未滿又ハ水路五海里未滿ノ日歸旅行ニハ汽車賃及船賃ノ外旅費ヲ支給セス

第八條 本令ニ依リ旅費ノ支給ヲ受クル者左記各號ノ一ニ該當スルトキハ普通旅費ヲ支給ス

一 普通旅費ヲ受クル者ト同行出張スルトキ
二 日額旅費又ハ減額旅費カ普通旅費ヲ超過スルトキ

第九條 支局長、出張所長又ハ工場長第四條ノ用務ニ依リ其ノ管內ヲ旅行スル場合ニハ左記區分ニ依リ減額旅費ヲ支給ス但シ管外ヲ旅行スル場合ニハ普通旅費ヲ支給ス

區分	車馬賃一里ニ付	宿泊料一夜ニ付	日當一日ニ付
奏任官五等以上	一圓	八圓	四圓
同 六等以下		七圓	三圓五十錢
判任官五級俸以上	八十錢	五圓	二圓五十錢
同 六級俸以下		四圓五十錢	二圓

第十條 左記各號ノ一ニ該當スル旅行ニ付テハ別表第三號ニ依リ月額旅費ヲ支給ス

一 駐在員ノ直營製腦腦寮ノ巡廻
二 煙草耕作指導ニ從事スル職員ノ其ノ受持區域內ノ巡廻
三 食鹽監視員又ハ監視員補ノ其ノ管內ノ巡廻
四 其ノ他用務ノ性質前各號ノ一ニ準スヘキ管內ノ旅行

第十一條 地方駐在ヲ命セラレタル職員樟樹保護ニ關スル用務ヲ以テ駐在地外ニ旅行シ宿泊スル場合ハ別表第二號ノ日額旅費ヲ、日歸旅行ノ場合ハ別表第三號ノ月額旅費ヲ支給ス

第十二條 月額旅費ハ新任、轉任、退職、休職又ハ死亡ノ場合ハ外業日數ニ應シ日割ヲ以テ之ヲ支給ス外業日數一箇月ヲ通シ二十五日未滿ノトキ亦同シ

第十三條 月額旅費ハ普通旅費又ハ日額旅費ノ支給ヲ受ケタル日數ニ對シテハ之ヲ支給セス

第十四條 在勤地市、街、庄、區內ノ旅行ニシテ其ノ行程二里以上ナルトキ又ハ引續キ五時間以上ニ亙ルトキハ別表第四號ノ區分ニ依リ旅費ヲ支給ス但シ事務打合又ハ會議ノ用務ニ依リ旅行スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合官用ノ船車馬ニ依リタルトキハ之ニ支給スヘキ旅費ノ額ハ定額ノ十分ノ五トス

第十五條 本令ニ依リ旅費ノ支給ヲ受クル者鐵道又ハ水路ニ依リタルトキハ臺灣總督府職員旅費規則ノ定ムル所ニ依リ各相當ノ汽車賃又ハ船賃ヲ支給ス

日額旅費又ハ月額旅費ノ支給ヲ受クル者在勤地市、街、庄、區外ニ旅行スル場合ニ於テ軌道又ハ定期運轉區域ニ於ケル乘合自動車ニ依リタルトキハ其ノ賃金實費ヲ支給ス

第十六條 職工其ノ他傭人ノ旅行ニ付テハ在勤地市、街、庄、區外ニ旅行スル場合ニ限リ鐵道賃、船賃又ハ定期運轉區域ニ於ケル乘合自動車賃ノ最下級實費ノ外日給一圓以上ノ者ニ對シテハ日額四圓ヲ、日給一圓未滿ノ者ニ對シテハ日額二圓五十錢ヲ支給ス但シ陸路二里未滿、鐵道十六哩未滿水路十海里未滿ノ日歸旅行ニ付テハ汽車賃及船賃ノ外旅費ヲ支給セス

附則

大正十年訓令第五十四號ハ之ヲ廢止ス

別表

區分	第一號	第二號	第三號	第四號			
				二里以上又ハ引續キ五時間以上		四里以上又ハ引續キ八時間以上	
				甲地方	乙地方	甲地方	乙地方
奏任官五等以上、月俸又ハ月手當四百圓以上ノ囑託員及雇員	十圓	八圓	一	一圓五十錢	一圓二十錢	二圓十錢	一圓七十錢
奏任官六等以下、月俸又ハ月手當二百五十圓以上ノ囑託員及雇員	九圓	七圓	一	一圓五十錢	一圓二十錢	二圓十錢	一圓七十錢
判任官五級俸以上、月俸又ハ月手當百五十圓以上ノ囑託員及雇員	七圓	六圓	十八圓	一圓	八十錢	一圓四十錢	一圓十錢
判任官六級俸以下、月俸又ハ月手當七十五圓以上ノ囑託員及雇員	六圓	五圓	十六圓	一圓	八十錢	一圓四十錢	一圓十錢
月俸又ハ月手當七十五圓未滿ノ囑託員及雇員、傭員	五圓	四圓五十錢	十四圓	七十錢	六十錢	一圓	八十錢
月俸又ハ月手當四十圓未滿若ハ日給一圓以上ノ囑託員及雇員、傭員	四圓五十錢	四圓	十圓	五十錢	四十錢	七十錢	六十錢
月俸又ハ月手當三十圓未滿若ハ日給一圓未滿ノ囑託員及雇員、傭員	三圓	二圓五十錢	六圓	五十錢	四十錢	七十錢	六十錢

●臺灣總督府專賣局樟木調查職員旅費規程

大正十年四月一日
臺灣總督府訓令第五十五號

專賣局

臺灣總督府專賣局樟木調查職員旅費規程左ノ通相定ム

臺灣總督府專賣局樟木調查職員旅費規程

第一條 臺灣總督府專賣局樟木調查ニ從事スル職員臺灣內旅行ノ場合ハ本令ニ依リ根據地到著ノ翌日ヨリ出發ノ前日迄別表ノ日額旅費ヲ支給ス

第二條 庄、區社ヲ異ニスル根據地移轉ノ場合ニ於テハ臺灣總督府專賣局職員旅費規則第三條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三條 臺灣總督府專賣局職員旅費規程第十四條及第十六條ハ樟木調查ノ爲旅行ノ場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正九年六月一日以後ノ旅行ニ付之ヲ適用ス

別表

【臺報】

區分	日額
主任隊長 奏任官	圓 九・〇〇
隊長 判任官	六・五〇
班長 判任官	五・五〇
班長 雇員	四・五〇
班員	三・八〇

【臺報】

●臺灣總督府稅關職員旅費規程

大正九年八月十四日
臺灣總督府訓令第百二十五號

改正 大正一〇年訓令第二九號

稅關

臺灣總督府稅關職員旅費規程左ノ通相定ム

臺灣總督府稅關職員旅費規程

第一條 稅關職員關稅取締ノ爲又ハ私設假置場ヘ派遣セラレ臺灣內ヲ旅行スルトキハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二條 關稅取締ノ爲巡回旅行スル者ニ對シテハ左ノ區分ニ依リ日額旅費ヲ支給ス

一　陸路三里以上鐵道十五哩以上水路十五浬以上ノ旅行ニシテ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタルトキハ別表甲號ノ日額旅費、日歸旅行又ハ歸廳ノ日ハ乙號ノ日額旅費

二　陸路一里以上三里未滿、鐵道五哩以上十五哩未滿、水路五浬以上十五浬未滿ノ旅行ニシテ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタルトキハ別表乙號ノ日額旅費、日歸旅行又ハ歸廳ノ日ハ丙號ノ日額旅費

第三條 官船ニ依リ巡回旅行スル場合ハ前條定額ノ十分ノ六ヲ支給ス但シ汽船又ハ發動機船ニ依ル旅行ニシテ前條第二號ニ該當スルモノニ對シテハ宿泊シタル場合ノ外之ヲ支給セス

第四條 私設假置場ヘ派遣セラレタル者ニハ其ノ到著ノ翌日ヨリ出發ノ前日迄別表甲號ノ日額旅費ヲ支給ス但シ同一ノ地ニ滯在スルコト十五日ヲ踰ユルトキハ其ノ當日ヨリ定額ノ十分ノ三ヲ減シ三十日ヲ踰ユルトキハ十分ノ五ヲ減ス一時滯在地外ニ旅行スルコトアルモ之ヲ中斷セス

第五條 日額旅費ヲ受クル者鐵道、軌道又ハ水路ニ依ル旅行ヲ爲シタル場合ニ於テ稅關長必要ト認ムルトキハ其ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

第六條 稅關長ハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ其ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第七條 本令ニ規定セサル事項ハ臺灣總督府職員旅費規則ニ依ル

附　則

本令ハ大正九年六月一日以後ノ旅行ニ付之ヲ適用ス

大正六年十二月訓令第百七十號臺灣總督府稅關職員出張旅費規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（別表）

區分	甲號	乙號	丙號
判任官五級俸以上月手當又ハ月俸百五十圓以上ノ囑託員雇員	四圓五十錢	二圓五十錢	一圓二十錢
判任官六級俸以下月手當又ハ月俸七十五圓以上ノ囑託員雇員	三圓五十錢	二圓	一圓
月手當又ハ月俸四十圓以上ノ囑託員雇員	二圓五十錢	一圓五十錢	七十錢
監吏補月手當又ハ月俸四十圓未滿若ハ日給ノ囑託員雇員	一圓八十錢	一圓	五十錢
傭員	一圓二十錢	七十錢	三十五錢

●臺灣總督府中央研究所職員特別旅費規程

昭和二年十月二十六日
臺灣總督府訓令第六十六號

中央研究所

臺灣總督府中央研究所職員特別旅費規程左ノ通相定ム

臺灣總督府中央研究所職員特別旅費規程

第一條　臺灣總督府中央研究所職員本令ニ指定スル地域內ニ出張スルトキハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

用務ノ都合ニ依リ指定地域外ヲ通過シタルトキハ之ヲ指定地域內ト看做ス

日額旅費ヲ受クル者鐵道、水路又ハ軌道ニ依リタル場合ハ臺灣總督府職員旅費規則ニ依リ奏任官ト同等ノ旅費ヲ受クル者ニハ一等賃金、判任官ト同等ノ旅費ヲ受クル者ニハ二等賃金、二等ナキトキハ一等賃金其ノ他ノ者ニハ三等又ハ最下級ノ賃金ヲ支給ス

〔臺財〕

第二條　支所及糖業科（市ニ所在スル支所ヲ除ク）ノ職員勤務地ヲ管轄スル郡ノ管內ニ出張スル場合ハ別表第一號ノ日額旅費ヲ支給ス

前項ノ出張ニシテ日歸又ハ歸著當日ハ別表第四號ノ日額旅費ヲ支給ス

但シ陸路行程四里以上ニ涉ルトキハ別表第三號、六里以上ニ涉ルトキハ別表第二號ニ依リ支給シ二里未滿ナルトキハ鐵道賃、船賃又ハ軌道賃ノ實費ノミヲ支給ス

第三條　前條ノ規定ハ本所竝士林園藝試驗支所職員七星郡、新莊郡、海山郡又ハ文山郡管內ニ出張スル場合ニ之ヲ準用ス糖業科職員臺南市ニ平鎭茶業試驗支所職員桃園街ニ高雄檢糖支所職員岡山郡管內ニ臺中藥品試驗支所職員大屯郡管內ニ臺南藥品試驗支所職員新豐郡管內ニ蓮華池藥用植物栽培試驗地駐在員埔里街ニ出張スル場合亦同シ

第四條　兼務ノ爲兼務地ニ出張スルトキハ別表第一號ノ日額旅費ヲ支給ス兼務地在勤ヲ命セラレタル者本務地ニ出張スルトキ亦同シ

第五條　勤務所所在地ノ市街庄內ノ出張ニシテ其ノ行程四里以上ニ涉ルトキハ別表第五號、其ノ行程二里以上ニ涉ルトキ及士林園藝試驗支所職員臺北市ヘ出張スルトキハ別表第六號ノ日額旅費ヲ支給ス但シ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル日ニ對シテハ別表第一號ニ依リ支給ス

前項ノ出張ニハ第一條第三項ノ規定ヲ適用セス

第六條　左記各所ノ職員ニシテ其ノ所ニ屬スル用地內ノ巡視ヲ爲シ其ノ行程二里以上ニ涉ルトキハ別表第七號ノ日額旅費ヲ支給ス

一　恒春種畜支所

二　臺東種畜支所

三　大埔種畜支所

四　恒春林業試驗支所

五　蓮華池藥用植物栽培試驗地

六　沄水溪移植試驗地

第七條　左記各號ノ一ニ該當スル出張ニ對シテハ普通旅費ヲ支給ス

一　本令ニ依ル旅費額カ普通旅費額ヲ超過スルトキ

一　普通旅費ヲ受クル者ト同行ヲ命セラレタルトキ

一　臺灣總督府中央研究所長ニ於テ本令ニ依リ難キ特別ノ事情アリト認メタルトキ

〔臺財〕

第八條　臺灣總督府中央研究所長ハ本令ノ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第九條　日額旅費ヲ受クル者用務ノ爲同一地ニ滯在スルコト三十日ヲ超ユルトキハ其ノ當日ヨリ出發ノ前日迄定額ノ十分ノ七ヲ支給ス

前項ノ滯在中一時滯在地外ニ旅行シタル場合ハ前後ノ日數ヲ通算ス

第十條　本令ニ規定ナキ事項ハ臺灣總督府職員旅費規則ニ依ル

附　則

本令ハ昭和二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

區分	第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號	第七號
奏任官五等以上月手當又ハ月俸四百圓以上ノ囑託員雇員	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	四、〇〇〇	二、五〇〇	二、〇〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇
奏任官六等以下月手當又ハ月俸二百五十圓以上ノ囑託員雇員	八、〇〇〇	五、〇〇〇	三、五〇〇	二、〇〇〇			
判任官五級俸以上月手當又ハ月俸百五十圓以上ノ囑託員雇員	六、〇〇〇	四、〇〇〇	二、五〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	、八〇〇	、七〇〇
判任官六級俸以下月手當又ハ月俸七十五圓以上ノ囑託員雇員	五、〇〇〇	三、五〇〇	二、〇〇〇	一、二〇〇			
月手當又ハ月俸七十五圓未滿ノ囑託員雇員	四、〇〇〇	三、〇〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	、七〇〇	、五〇〇	、五〇〇
月手當又ハ月俸四十圓未滿若クハ日給ノ囑託員及傭員以下	三、五〇〇	二、五〇〇	一、二〇〇	、八〇〇	、七〇〇	、五〇〇	、三〇〇

●官幣社職員旅費支給方

大正十四年十月三十一日
臺灣總督府訓令第九十二號

官幣社

官幣社職員ノ旅費ハ大正九年府令第四十四號臺灣總督府職員旅費規則ニ依リ之ヲ支給ス但シ宮司ハ奏任、禰宜及主典ハ判任、出仕及守衞ハ雇員ニ準ス

附　則

明治三十六年訓令第十八號ハ之ヲ廢止ス

●臺灣總督府警察官吏旅費規則

大正九年十二月十七日
臺灣總督府令第百八十五號

改正 大正一四年府令第二五號、一五年第四四號

臺灣總督府警察官吏旅費規則左ノ通相定ム

臺灣總督府警察官吏旅費規則

第一條 臺灣總督府警察官吏ノ旅費ハ本令ニ定ムルモノノ外臺灣總督府職員旅費規則ノ規定ヲ準用ス但シ巡査部長及月俸五十五圓以上ノ巡査ハ判任官六級俸以下ニ其ノ他ノ巡査ハ看守ニ準ス

第二條 官設鐵道ニ依リ旅行シタルトキハ左ノ區分ニ依リ鐵道賃ヲ支給ス但シ割引券ヲ使用スルヲ得サル場合ニハ各其ノ全額ヲ支給ス

一 一等運賃ヲ支給スヘキ場合ニ在リテハ其ノ運賃ノ七割

二 二等運賃ヲ支給スヘキ場合ニ在リテハ其ノ運賃ノ八割

三 三等運賃ヲ支給スヘキ場合ニ在リテハ其ノ運賃ノ額

巡査ニシテ刑事被告人又ハ被疑者ノ押送、旅行者ノ警護若ハ要視察人尾行ノ爲特ニ必要アリテ上級車ニ乘車シタルトキハ前項ニ依リ各相當ノ運賃ヲ支給ス

大正九年大藏省令第十六號ノ規定ハ警察官吏ニ支給スル鐵道賃ニ付之ヲ準用ス

第三條 内地、朝鮮、樺太又ハ千島國内旅行ノ場合ハ大藏省所管旅費支給規則及大藏省所管經費支辨ニ屬スル各廳員朝鮮、臺灣及樺太内旅費支給規則ニ依リ旅費ヲ支給ス但シ汽車賃ニ付テハ警察官吏内國旅費規則、朝鮮總督府警察官旅費規則又ハ樺太廳警察官旅費規則支給ノ例ニ依ル

第四條 警察官吏其ノ所屬州、廳又ハ郡、支廳管内旅行ノ場合ハ左ノ區分ニ依リ日額旅費ヲ支給ス但シ州、廳及郡課長、支廳長、地方警視及州廳各係ノ主席者ニシテ其ノ事務ノ監督ノ爲出張スルトキ、普通旅費ヲ受クル者ト同行スルトキ及外國人ト同行スルトキハ此ノ限ニ在ラス

區分	州又ハ廳管内	郡又ハ支廳管内
奏任官	十二圓以内	九圓以内
判任官	八圓以内	六圓以内
巡査	六圓以内	四圓五十錢以内

前項ノ日額旅費ハ宿泊シタルトキニ限リ其ノ全額ヲ支給シ日歸旅行又ハ歸廳ノ日ハ左ノ區分ニ依ル旅費ヲ支給ス

區分	金額
奏任官	四圓以内
判任官	二圓五十錢以内
巡査	二圓以内

第五條 外勤務ニ從事スル警察官吏警察用務ノ爲其ノ受持區域内旅行ノ場合ハ月額ヲ定メテ旅費ヲ支給スルコトヲ得其ノ額ハ奏任官十六圓以内判任官十一圓以内巡査六圓以内トス但シ蕃地ニ在リテハ奏任官二十八圓以内判任官二十三圓以内巡査十五圓以内トス

前項ノ旅費ヲ受クル者公務ノ都合ニ依リ宿泊シタルトキハ月額旅費ヲ支給セス前條ニ定ムル州又ハ廳管内出張ノ場合ニ支給スル日額旅費ノ半額以内ヲ支給スルコトヲ得

第六條 前二條ノ者土地ノ情況又ハ公務ノ都合ニ依リ鐵道、水路又ハ軌道ニ依ル旅行ヲ爲シタルトキハ鐵道賃、船賃、軌道賃ヲ知事若ハ廳長ニ於テ車馬若ハ轎ニ依ル必要ヲ認メタルトキハ其ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

第七條 警察官吏ニシテ討伐、捜索又ハ警戒等ノ部隊ニ編入セラレ其ノ作業地域内ニ出張シタルトキハ左ノ區分ニ依リ日額旅費ヲ支給ス

區分	金額
奏任官	六圓以内
判任官	四圓以内
巡査	二圓五十錢以内

第八條 所屬州又ハ廳管外ノ旅行ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ定額ノ車馬賃ハ之ヲ支給セス知事又ハ廳長ニ於テ軌道、車馬又ハ轎ニ依ル必要ヲ認メタルトキハ其ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

一 刑事被告人、被疑者若ハ囚人ヲ押送シ又ハ浮浪者其ノ他ヲ護送スルトキ

二 警衛、警備若ハ犯罪捜索ノ爲旅行シ又ハ蕃人ヲ引率スルトキ

第九條 本令施行ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

附則

本令ハ大正九年六月一日以後ノ旅行ニ之ヲ適用ス但シ第二條ノ規定ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ノ規定ハ巡査補ニ之ヲ適用シ第一條ノ規定ニ關シテハ月俸二十圓未滿ノ雇員ニ、第四條、第五條及第七條ノ適用ニ關シテハ巡査ニ準ス

明治四十三年訓令第百七十七號及大正四年訓令第百五十五號ハ本令適用ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

大正九年六月一日以前轉任ヲ命セラレ又ハ新ニ任用セラレ若ハ新ニ任用スル爲召喚セラレタル者同日後ニ着任シタルトキハ本令ニ依リ赴任手當及移轉料ヲ支給ス

前項ニ規定スル者ノ家族大正九年六月一日以降新任地ニ到著シタルトキハ本令ニ依リ家族移轉料ヲ支給ス

●臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生採用旅費返納取扱規程

昭和三年八月十四日
臺灣總督府訓令第五十三號

臺灣總督府 警察官及司獄官練習所
州 廳 刑務所

臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生採用旅費返納取扱規程左ノ通相定ム

臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生採用旅費返納規程

第一條 臺灣總督府巡査又ハ看守タル臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生（以下單ニ練習生ト稱ス）自己ノ都合又ハ懲戒ノ處分ニ依リ若ハ定期ノ練習ヲ受クルモ課程ヲ修了スルコト能ハスシテ練習生ヲ免セラレタルトキハ臺灣總督府警察官及司獄官練習所長（以下單ニ練習所長ト稱ス）ニ於テ其ノ採用ノ際支給シタル旅費（以下單ニ採用旅費ト稱ス）ヲ本人又ハ保證人ヲシテ返納セシムヘシ但シ練習所長事情已ムヲ得サルモノト認メタルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ返納ヲ免除スルコト

ヲ得

前項ニ依リ採用旅費ヲ返納セシムヘキ者アルトキハ練習所長ニ於テ返納セシムヘキ金額ヲ定メ事由ヲ詳具シ之ヲ歲入徵收分掌官ニ通知スヘシ

第二條 練習生タル臺灣總督府巡査又ハ看守州、廳又ハ刑務所ニ出向ヲ命セラレタルトキハ練習所長ニ於テ各出向先ノ知事、廳長又ハ刑務所長ニ其ノ採用旅費額ヲ通知スヘシ

第三條 練習生タル臺灣總督府巡査又ハ看守州、廳ノ巡査又ハ刑務所ノ看守ヲ命セラレ誓約年限內ニ退職シタルトキハ知事、廳長又ハ刑務所長ニ於テ其ノ採用旅費ヲ返納セシムヘシ但シ知事、廳長又ハ刑務所長事情已ムヲ得サルモノト認メタルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ返納ヲ免除スルコトヲ得

前項ニ依リ採用旅費ヲ返納セシムヘキ者アルトキハ知事、廳長又ハ刑務所長ニ於テ返納セシムヘキ金額ヲ定メ事由ヲ詳具シ之ヲ練習所長及州、廳又ハ刑務所ノ歲入徵收官若ハ歲入徵收分掌官ニ通知スヘシ

附 則

明治三十九年訓令第二百一號ハ之ヲ廢止ス

●州及廳警察職員旅費規程

大正九年十二月十七日
臺灣總督府訓令第三百一號

改正 大正一三年訓令第一三七號、一四年第四二號、一五年第三二號

州 廳

州及廳警察職員旅費規程左ノ通相定ム

〔臺轄〕

州及廳警察職員旅費規程

第一條 州及廳警察職員公務ノ爲臺灣內ヲ旅行スルトキハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二條 本令ニ於テ警察職員ト稱スルハ警察官吏及警察事務ニ從事スル職員ヲ謂ヒ所轄內ト稱スルハ所屬郡（郡役所所在地カ潾接市內ナルトキハ其ノ市ノ管內ヲ含ム）、警察署、警察分署又ハ支廳管內ヲ謂フ但シ市內ニ警察署又ハ警察分署二以上ヲ置クトキハ其ノ市ノ管內ヲ當該警察署又ハ警察分署ノ所轄內ト看做ス

旅行ノ都合ニ依リ他管內又ハ所轄外ヲ通過スルトキ又ハ警察交通、鐵道線路保護等ノ爲他管內又ハ所轄外ヘ旅行スルトキハ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタルトキニ非サレハ之ヲ州、廳管內又ハ所轄內ノ旅行ト看做ス

第三條 警務部長、郡守・警察署長及州、廳各課長ノ出張ニ對シテハ普通旅費ヲ支給スルコトヲ得但シ討伐、捜索又ハ警戒等ノ地域內ヲ旅行スル場合ハ定額ノ車馬賃ヲ支給セス

前項以外ノ警察職員州又ハ廳管內ノ旅行ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ普通旅費ヲ支給スルコトヲ得

一 普通旅費ヲ所屬州、廳以外ノ職員ト同行スルトキ

二 臺灣總督府部外又ハ外國ノ文武官ト同行スルトキ

三 知事又ハ廳長ニ於テ必要ト認メタルトキ

第四條 警察職員州又ハ廳管外ノ旅行ニ對シテハ普通旅費ヲ支給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該ルトキ竝ニ警手ノ旅行ニ對シテハ定額ノ車馬賃ヲ支給セス

一 刑事被告人、被疑者、囚人ヲ押送シ又ハ浮浪者其他ヲ護送スルトキ

二 警衞、警備、犯罪捜査ノ爲旅行シ又ハ蕃人ヲ引率スルトキ

前項但書ノ場合知事又ハ廳長ニ於テ軌道、車馬若ハ轎ニ依ル必要ヲ認ムルトキハ其ノ實費ヲ支給スルコトヲ得但シ定額ヲ車馬賃ヲ超過スルコトヲ得ス

第五條 赴任ノ場合ニ於テハ左ノ各號ニ依ルノ外普通旅費ヲ支給ス

一 巡査ニハ赴任手當ヲ支給セス

二 所屬州又ハ廳管內赴任ノ場合ニ於テ之ニ支給スヘキ赴任手當ハ日當宿泊料各三日分ノ範圍內ニ於テ土地ノ情況ヲ參酌シ知事又ハ廳長適宜之ヲ定ム

第六條 支廳長、地方警視、郡課長及警察醫ノ旅行ニ對シテハ左ノ區分ニ依リ旅費ヲ支給スルコトヲ得州又ハ廳各係ノ主席者ニシテ其ノ事務ノ監督ノ爲出張スルトキ亦同シ但シ陸路六里未滿、鐵道四十八哩未滿、水路三十海里未滿ノ日歸旅行ノ場合支給スル日當ハ普通旅費ノ定額ニ依リ之ヲ計算ス

區分	鐵道賃及船賃	車馬賃一里ニ付	宿泊料一夜ニ付	日當一日ニ付
奏任官五等以上	臺灣總督府職員旅費規則及警察官吏旅費規則ニ依ル	一圓	八圓	四圓
奏任官六等以下及奏任官ノ待遇ヲ受クル者		一圓	六圓五十錢	三圓五十錢
判任官五級俸以上		七十錢	五圓	二圓五十錢
判任官六級俸以下及判任官ノ待遇ヲ受クル者		七十錢	四圓五十錢	二圓

前項ノ者討伐、捜索又ハ警戒等ノ地域內ヲ旅行スル場合ハ定額ノ車馬賃ヲ支給セス

〔臺轄〕

第七條 警察職員官、公用ノ船、車、馬等ニ依リ旅行スルトキハ鐵道賃船賃車馬賃ヲ、鐵道無賃乘車券ヲ受ケタルトキハ鐵道賃ヲ支給セス

第八條 外勤務ニ從事スル警察職員所轄內ノ旅行ニ對シテハ左ノ區分ニ依リ月額旅費ヲ支給ス但シ警手ハ此ノ限ニ在ラス

區分	蕃地 一等	蕃地 二等	蕃地 三等	蕃地 四等	蕃地 五等	蕃地 六等	平地
奏任官五等以上	二十八圓	二十六圓	二十四圓	二十二圓	二十圓	十八圓	十六圓
奏任官六等以下	二十六圓	二十四圓	二十二圓	二十圓	十八圓	十六圓	十四圓
判任官三級俸以上 月手當又ハ月俸百五十圓以上ノ囑託員雇員	二十三圓	二十一圓	十九圓	十七圓	十五圓	十三圓	十一圓
判任官六級俸以下 月手當又ハ月俸七十五圓以上ノ囑託員雇員	十九圓	十七圓	十五圓	十三圓五十錢	十二圓	十圓五十錢	九圓
巡査部長タル巡査及月俸五十五圓以上ノ巡査	十五圓	十三圓五十錢	十二圓	十圓五十錢	九圓	七圓五十錢	六圓
月俸五十五圓未滿ノ巡査 月手當又ハ月俸五十五圓以上ノ囑託員雇員	十四圓	十二圓五十錢	十一圓	九圓五十錢	八圓	六圓五十錢	五圓
月手當又ハ月俸五十五圓未滿若ハ日給ノ囑託員雇員	九圓	八圓	七圓	六圓	五圓	四圓	三圓

前項ノ蕃地月額旅費等級ハ知事又ハ廳長之ヲ定メ臺灣總督ニ報告スヘシ

第九條 月額旅費ハ新任、轉免、休職、復職、廢官及死亡ノ場合ハ勤務ノ日數ニ應シ日割ヲ以テ之ヲ支給ス病氣其ノ他ノ事故ニ依リ勤務セサル日數一箇月ヲ通シ十日以上ニ涉リタルトキ亦同シ

第十條 月額旅費ハ普通旅費、減額旅費又ハ日額旅費ヲ受ケタル日數ニ對シテハ之ヲ支給セス

第十一條 月額旅費ヲ受クル者公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合知事又ハ廳長ニ於テ必要ト認ムルトキハ土地ノ情況ヲ參酌シ左ノ範圍內ニ於テ適宜其ノ額ヲ定メ日額旅費ヲ支給スルコトヲ得

區分	金額
奏任官五等以上	六圓以內
奏任官六等以下	五圓以內
判任官五級俸以上 月手當又ハ月俸百五十圓以上ノ囑託員雇員	四圓以內
判任官六級俸以下 月手當又ハ月俸七十五圓以上ノ囑託員雇員	三圓五十錢以內
巡査部長タル巡査及月俸五十五圓以上ノ巡査	三圓以內
月俸五十五圓未滿ノ巡査 月手當又ハ月俸五十五圓以上ノ囑託員雇員	二圓五十錢以內
月手當又ハ月俸五十五圓未滿若ハ日給ノ囑託員雇員	二圓以內

第十二條 月額旅費ヲ受クル者所轄內旅行ニ對シ土地ノ情況ニ依リ鐵道賃、船賃、軌道賃ノ實費ヲ支給スル必要アルトキハ其ノ地域ヲ指定シ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ支給スルコトヲ得

第十三條 前各條ニ規定セルモノノ外警察職員州又ハ廳管內ノ旅行ニ對シテハ左ノ區分ニ依リ日額旅費ヲ支給ス但シ往復陸路一里未滿、鐵道五哩未滿、水路五浬未滿ノ旅行及警手所轄內ノ旅行ニ對シテハ之ヲ支給セス鐵道賃、船賃、軌道賃ノ實費ノミヲ支給スルコトヲ得

區分	宿泊シタル日		日歸又ハ歸廳ノ日
	所轄內	其ノ他	
奏任官五等以上 月手當四百圓以上ノ囑託員	八圓	十圓	四圓
奏任官六等以下及奏任官ノ待遇ヲ受クル者 月手當二百五十圓以上ノ囑託員	七圓	八圓	三圓五十錢
判任官五級俸以上 月手當又ハ月俸百五十圓以上ノ囑託員雇員	五圓	六圓	二圓五十錢
判任官六級俸以下及判任官ノ待遇ヲ受クル者 月手當又ハ月俸七十五圓以上ノ囑託員雇員	四圓	五圓	二圓
巡査部長タル巡査及月俸五十五圓以上ノ巡査	三圓五十錢	四圓五十錢	一圓八十錢
月俸五十五圓未滿ノ巡査 月手當又ハ月俸五十五圓以上ノ囑託員雇員	三圓	四圓	一圓五十錢
月手當又ハ月俸五十五圓未滿若ハ 日給ノ囑託員雇員警手及傭員	二圓五十錢 一圓五十錢	三圓 二圓	一圓二十錢 八十錢

第十四條 在勤地市區街庄內ノ旅行ニシテ行程二里以上ニ涉ルトキハ左ノ區分ニ依ル日當ヲ支給スルコトヲ得但シ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル日ニ對シテハ前條宿泊シタル日ノ日額旅費ヲ支給ス

區分	金額			
	二里以上		四里以上	
	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方
奏任官五等以上 月手當四百圓以上ノ囑託員	一圓六十錢	一圓四十錢	三圓	二圓五十錢
奏任官六等以下及奏任官ノ待遇ヲ受クル者 月手當二百五十圓以上ノ囑託員	一圓四十錢	一圓二十錢	二圓五十錢	二圓
判任官五級俸以上 月手當又ハ月俸百五十圓以上ノ囑託員、雇員	一圓二十錢	一圓	二圓	一圓五十錢
判任官六級俸以下及判任官ノ待遇ヲ受クル者 月手當又ハ月俸七十五圓以上ノ囑託員、雇員	一圓	八十錢	一圓七十錢	一圓二十錢
巡査部長タル巡査及月俸五十五圓以上ノ巡査	八十錢	七十錢	一圓五十錢	一圓
月俸五十五圓未滿ノ巡査 月手當又ハ月俸五十五圓以上ノ囑託員、雇員	七十錢	六十錢	一圓二十錢	八十錢
月手當又ハ月俸五十五圓未滿若ハ日給ノ囑託員、雇員	六十錢	五十錢	一圓	七十錢
傭員	五十錢	四十錢	八十錢	六十錢

第十四條ノ二 在勤地市區街庄內ノ旅行ニシテ引續キ五時間以上公務ニ從事スルトキハ前條二里以上ニ相當スル日當ヲ、引續キ八時間以上公務ニ從事スルトキハ前條四里以上ニ相當スル日當ヲ支給スルコトヲ得但シ事務打合又ハ會議ノ爲旅行スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條ノ三 第十四條又ハ第十四條ノ二ニ依リ旅行スル者官用ノ船、車、馬ニ依リタルトキハ之ニ支給スヘキ日當ハ其ノ半額トス

第十五條 月額旅費ヲ受クル警察職員職務ニ從事スル爲所轄內ヲ旅行シ行程二里以上ニ涉ルトキハ其ノ日數ニ應シ第十三條日歸又ハ歸廳ノ日ニ相當スル日額旅費ヲ支給ス

第十六條 討伐、搜索又ハ警戒等ノ部隊ニ編入セラレタル者ニハ所轄ノ內外ヲ問ハス土地ノ情況事件ノ難易ニ依リ現ニ討伐、搜索又ハ警戒ニ從事シタル日數ニ應シ左ノ區分ニ依リ日額旅費ヲ支給ス

前項ノ日額旅費等級ハ知事又ハ廳長之ヲ定メ報告スヘシ

區分	金額		
	一等	二等	三等
奏任官五等以上 月手當四百圓以上ノ囑託員	六圓	五圓五十錢	五圓
奏任官六等以下及奏任官ノ待遇ヲ受クル者 月手當二百五十圓以上ノ囑託員	五圓五十錢	五圓	四圓
判任官五級俸以上 月手當又ハ月俸百五十圓以上ノ囑託員雇員	四圓	三圓五十錢	三圓
判任官六級俸以下及判任官ノ待遇ヲ受クル者 月手當又ハ月俸七十五圓以上ノ囑託員雇員	三圓二十錢	二圓八十錢	二圓五十錢
巡査部長タル巡査及月俸五十五圓以上ノ巡査	二圓五十錢	二圓二十錢	二圓
月俸五十五圓未滿ノ巡査 月手當又ハ月俸五十五圓以上ノ囑託員雇員	二圓	一圓八十錢	一圓六十錢
月手當又ハ月俸五十五圓未滿若ハ日給ノ囑託員雇員	一圓六十錢	一圓四十錢	一圓二十錢
警手及傭員	一圓二十錢	一圓	八十錢

第十七條 傳染病又ハ獸疫流行地若ハ其ノ疑アル地ト認定シタル地域內ニ於テ豫防救治ニ從事シ又ハ海上ノ搜索ニ從事スル職員ニ對シテハ其ノ宿泊シタルトキニ限リ所轄ノ內外ヲ問ハス其ノ日數ニ應シ前條日額旅費ノ範圍內ニ於テ知事又ハ廳長適宜其ノ額ヲ定メ日額旅費ヲ支給スルコトヲ得

前項ニ依リ日額旅費ヲ定メタルトキハ直ニ其ノ區分、旅費額ヲ報告スヘシ

第十八條 諸種ノ講習ヲ受クル爲旅行スル者ニ對シテハ開催地ニ滯在期間中其ノ日數ニ應シ第十三條其ノ他ニ相當スル日額旅費ヲ支給ス

前項ノ開催地カ所轄內ナルトキハ第十三條所轄內ニ相當スル日額旅費、番地ナルトキハ第十六條三等日額旅費ノ範圍內ニ於テ知事又ハ廳長之ヲ定ム

第十九條 第六條ノ日當、宿泊料及第十三條、第十八條第一項ノ日額旅費ハ同一地ニ滯在十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ一割、三十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ二割、六十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ三割、百日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ四割ヲ減ス

同一地ニ滯在中一時他ニ旅行シタル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

第二十條 日額旅費及第三條第一項但書第六條第二項ノ旅費ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ其ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

一、鐵道、軌道又ハ水路ニ依ル旅行ヲ爲シタルトキ

二、知事又ハ廳長ニ於テ轎又ハ車馬ニ依ル必要ヲ認メタルトキ

【臺轄】

前項ノ規程ハ第十四條中陸路三里鐵道二十四哩水路十五浬以外ノ地ニ旅行シタル場合之ヲ準用ス

第二十一條 日額旅費又ハ日額旅費ト前條ノ實費トノ合算額カ普通旅費ヲ超過スルトキハ普通旅費ヲ支給ス

第二十二條 本令ニ依リ支給スヘキ鐵道賃、船賃、轎賃、車馬賃、軌道賃實費ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ支給ス

一 鐵道賃、船賃ハ臺灣總督府職員旅費規則及警察官吏旅費規則ニ依ル額

二 轎賃、車馬賃ハ其ノ州又ハ廳ニ於テ定メタル額

三 軌道賃ハ奏任官及其ノ待遇ヲ受クル者又ハ月手當二百五十圓以上ノ囑託員ハ一等賃金、判任官及其ノ待遇ヲ受クル者又ハ月手當、月俸七十五圓以上ノ囑託員雇員ハ二等賃金、二等ノ設備ナキトキハ一等賃金、巡査部長ニアラサル月俸五十五圓未滿ノ巡査及其ノ他ノ者ニハ三等賃金

第二十三條 警察職員他ニ官職ヲ有シ俸給又ハ手當ヲ受クル者ニ對シテハ其ノ官職俸給又ハ手當ヲ前各條ニ照シ旅費額ノ多キモノヲ支給ス無給ノ囑託員雇員ニシテ他ニ官職ヲ有シ俸給又ハ手當ヲ受クル者ニ對シテハ其ノ官職俸給又ハ手當ニ依リ然ラサル者ハ明治四十三年訓令第二百五十一號第三條ノ區分ニ準シ前各條ノ例ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二十四條 知事又ハ廳長ハ此ノ規程ニ規定シタル者ノ外日額又ハ月額ヲ定メテ旅費ヲ支給スル必要ヲ認ムルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ支給スルコトヲ得此ノ規程ノ定額ヲ增加スルノ必要アルトキ亦同シ

第二十五條 知事又ハ廳長ハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ其ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

附則

本令ハ臺灣總督府警察官吏旅費規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ大正九年八月三十一日以前ノ旅行ニ在リテハ左ノ各號ニ依ル

一 囑託員雇員大正九年七月三十一日以前ノ旅行ニ對シテハ月手當又ハ月俸二百五十圓以上ヲ受クル者ハ月手當又ハ月俸四百圓以上ヲ受クル者ニ、百五十圓以上ヲ受クル者ハ二百五十圓以上ヲ受クル者ニ、八十圓以上ヲ受クル者ハ百五十圓以上ヲ受クル者ニ、四十五圓以上ヲ受クル者ハ七十五圓以上ヲ受クル者ニ、三十圓以上又ハ三十圓未滿ヲ受クル者ハ五十五圓以上又ハ五十五圓未滿ヲ受クル者ニ相當スル旅費ヲ支給ス

一 警手ノ大正九年八月三十一日以前ノ旅行ニ對シテハ月手當又ハ月俸五十五圓未滿ノ囑託員雇員ニ相當スル旅費ヲ支給ス

一 大正九年八月三十一日以前廳直轄內ノ旅行ハ本令適用ノ際之ヲ所轄內ノ旅行ト看做ス

本令ハ巡査補及隘勇ニ之ヲ適用ス但シ巡査補ハ月手當又ハ月俸五十五圓未滿ノ囑託員雇員ニ隘勇ハ警手ニ相當スル定額トス

本令發布前ノ旅行ニシテ從前ノ規程ニ依ル旅費額カ本令ニ依ル旅費額ヨリ多キトキハ從前ノ額ヲ支給スルコトヲ得

【臺轄】

●州廳駐在ノ臺灣總督府防疫獸醫旅費支給ニ關スル件

大正十年六月二十八日
臺灣總督府訓令第百二十二號

州部

州廳駐在ノ臺灣總督府防疫獸醫旅費支給ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條 州廳駐在ノ防疫獸醫カ其ノ所屬州、廳內旅行ノ場合ニ於ケル旅費ハ州、廳、郡、市職員管內旅費規程ヲ準用ス

第二條 州廳駐在ノ防疫獸醫獸疫豫防用務ノ爲メ其ノ所屬州廳以外ノ地ニ出張シ十日ヲ踰ユルトキハ其ノ當日ヨリ出發ノ前日迄日額旅費ヲ支給ス

前項ノ日額旅費ノ支給ニ關シテハ州、廳、郡、市職員管內旅費規程第十四條ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●州、廳、郡、市職員管內旅費規程

大正十年四月十二日
臺灣總督府訓令第五十九號

改正 大正一三年訓令第五〇號、第一三八號、一四年第一一一號

州部

州、廳、郡、市職員管內旅費規程左ノ通相定ム

州、廳、郡、市職員管內旅費規程

第一條 州、廳、郡、市職員公務ノ爲其ノ管內ヲ旅行スルトキハ別ニ定

ムルモノノ外本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二條 本令ニ於テ管內ト稱スルハ其ノ州又ハ廳一圓ヲ謂ヒ所轄內ト稱スルハ其ノ所屬郡（郡役所所在地カ市內ナルトキハ其ノ市ノ管內ヲ含ム）市又ハ支廳管內ヲ謂フ旅行ノ都合ニ依リ管外又ハ所轄外ヲ通過スルトキハ之ヲ管內又ハ所轄內ノ旅行ト看做ス

第三條 左ニ揭クル者ニハ普通旅費ヲ支給スルコトヲ得

一 知事及廳長
二 內務部長
三 州及廳課長
四 郡守
五 市尹
六 市助役
七 稅務出張所長
八 普通旅費ヲ受クル他廳職員ト同行スル者
九 知事又ハ廳長ニ於テ必要ト認メタル者

第四條 赴任ノ場合ハ普通旅費ヲ支給ス但シ其ノ赴任手當ハ日當宿泊料各三日分ノ範圍內ニ於テ知事又ハ廳長適宜之ヲ定ム

第五條 地方技師、奏任官ノ待遇ヲ受クル者、郡市課長、州廳視學及州、廳、稅務出張所各係ノ主權者ニハ左ノ區分ニ依リ旅費ヲ支給スルコトヲ得

區分	鐵道賃及船賃	車馬賃一里ニ付	宿泊料一夜ニ付	日當一日ニ付
奏任官五等以上	內國旅費規則ニ依ル實費	一圓	八圓	四圓
奏任官六等以下及奏任官ノ待遇ヲ受クル者		一圓	六圓五十錢	三圓五十錢
判任官五級俸以上		七十錢	五圓	二圓五十錢
判任官六級俸以下		七十錢	四圓五十錢	二圓

第六條 林野苗圃等巡視監督又ハ取締ノ爲若ハ害蟲驅除豫防ノ爲巡視受持區域內ヲ旅行スル者ニハ左ノ區分ニ依リ月額旅費ヲ支給ス

區分	金額
判任官五級俸以上 月手當又ハ月俸百五十圓以上ノ囑託員雇員	十五圓
判任官六級俸以下 月手當又ハ月俸七十五圓以上ノ囑託員雇員	十三圓
月手當又ハ月俸五十五圓以上ノ囑託員雇員	十一圓
月手當又ハ月俸五十五圓未滿若ハ日給ノ囑託員雇員	九圓
傭員	六圓

第七條 月額旅費ハ新任、轉任、免職、休職、復職、廢官及死亡ノ場合ハ勤務ノ日數ニ應シ日割ヲ以テ之ヲ支給ス病氣其ノ他ノ事故ニ依リ勤務セサル日數一月ヲ通シ十日以上ニ涉リタルトキ亦同シ

第八條 月額旅費ハ普通旅費、減額旅費又ハ日額旅費ノ支給ヲ受ケタル日數ニ對シテハ之ヲ支給セス

第九條 月額旅費ヲ受クル者公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合知事又ハ廳長ニ於テ必要ト認ムルトキハ土地ノ情況ヲ參酌シ左ノ範圍內ニ於テ適宜其ノ額ヲ定メ日額旅費ヲ支給スルコトヲ得

區分	金額
判任官五級俸以上 月手當又ハ月俸百五十圓以上ノ囑託員雇員	四圓以內
判任官六級俸以下 月手當又ハ月俸七十五圓以上ノ囑託員雇員	三圓五十錢以內
月手當又ハ月俸五十五圓以上ノ囑託員雇員	二圓五十錢以內
月手當又ハ月俸五十五圓未滿若ハ日給ノ囑託員雇員	二圓以內
傭員	一圓五十錢以內

第十條 月額旅費ヲ受クル者ノ受持區域內旅行ニ對シ土地ノ情況ニ依リ鐵道賃、船賃、軌道賃ノ實費ヲ支給スル必要アルトキハ其ノ地域ヲ指定シ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ支給スルコトヲ得

第十一條 在勤地市區街庄內ノ旅行ニシテ陸路行程二里以上又ハ引續キ五時間以上ニ涉ルトキハ左ノ區分ニ依リ日當ヲ支給スルコトヲ得但シ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル日ニ對シテハ第十四條ノ宿泊シタル日ノ日額旅費ヲ支給ス

區分	金額	
	二里以上又ハ引續キ五時間以上	四里以上又ハ引續キ八時間以上
奏任官五等以上 月手當四百圓以上ノ囑託員	一圓六十錢	三圓
奏任官六等以下及奏任官ノ待遇ヲ受クル者 月手當二百五十圓以上ノ囑託員	一圓四十錢	二圓五十錢
判任官五級俸以上 月手當又ハ月俸百五十圓以上ノ囑託員	一圓二十錢	二圓
判任官六級俸以下及判任官ノ待遇ヲ受クル者 月手當又ハ月俸七十五圓以上ノ囑託員雇員	一圓	一圓七十錢
月手當又ハ月俸五十五圓以上ノ囑託員雇員	七十錢	一圓二十錢
月手當又ハ月俸五十五圓未滿若ハ日給ノ囑託員雇員	六十錢	一圓
傭員	五十錢	八十錢

第十二條 營繕又ハ土木工事ノ爲使役スル監督雇員、同傭員、道路巡視員及工夫ニシテ廳所在地外ニ出張シタルトキハ左ノ區分ニ依リ日額旅費ヲ支給ス

區分	金額
監督雇員	二圓
同傭員	一圓五十錢
道路巡視員	一圓二十錢
工夫	八十錢

第十三條 稅務課及稅務出張所主務ニ屬スル調査、檢査、監視、納稅督勵及滯納處分並同事務補助ノ爲出張スル者ニハ左ノ區分ニ依リ日額旅費ヲ支給ス

區分	土地檢査、地押調査、滯納處分、蔗園調査	間稅詰切檢査	其ノ他
判任官五級俸以上 月手當又ハ月俸百五十圓以上ノ囑託員雇員	六圓五十錢	四圓五十錢	六圓

判任官六級俸以下月手當又ハ月俸七十五圓以上ノ囑託員雇員	五圓五十錢	三圓五十錢	五圓
月手當又ハ月俸五十五圓以上ノ囑託員雇員	四圓五十錢	二圓五十錢	四圓
月手當又ハ月俸五十五圓未滿ノ囑託員雇員	三圓五十錢	一圓七十錢	三圓

前項ノ日額旅費ハ宿泊シタルトキニ全額ヲ支給シ日歸又ハ歸廳ノ日ハ十分ノ四ヲ支給ス

第十四條 前各條ニ規定セルモノノ外他ノ旅行者ニハ左ノ區分ニ依リ日額旅費ヲ支給ス但シ陸路往復一里未滿鐵道五哩未滿水路五浬未滿ノ旅行ニ對シテハ之ヲ支給セス鐵道賃、船賃、軌道賃ノ實費ノミヲ支給スルコトヲ得

區分	宿泊シタル日		日歸又ハ歸廳ノ日
	所轄內	其ノ他	
奏任官五等以上月手當四百圓以上ノ囑託員	八圓	十圓	四圓
奏任官六等以下及奏任官ノ待遇ヲ受クル者月手當二百五十圓以上ノ囑託員	七圓	八圓	三圓五十錢
判任官五級俸以上月手當又ハ月俸百五十圓以上ノ囑託員雇員	五圓	六圓	二圓四十錢
判任官六級俸以下及判任官待遇ヲ受クル者月手當又ハ月俸七十五圓以上ノ囑託員雇員	四圓	五圓	二圓
月手當又ハ月俸五十五圓以上ノ囑託員雇員	三圓	四圓	一圓五十錢
月手當又ハ月俸五十五圓未滿若ハ日給ノ囑託員雇員	二圓五十錢	三圓	一圓二十錢
傭員	一圓五十錢	二圓	八十錢
洄夫	八十錢	一圓	五十錢

【參照】

第十五條 日額旅費ヲ受クル者同一ノ地ニ滯在スルコト十五日ヲ踰ユルトキハ其ノ當日ヨリ定額ノ十分ノ三ヲ減シ三十日ヲ踰ユルトキハ其ノ當日ヨリ十分ノ五ヲ減ス一時滯在地外ニ旅行スルコトアルモ之ヲ中斷セス

第十六條 日額旅費ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ其ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

一 鐵道、軌道又ハ水路ニ依ル旅行ヲ爲シタルトキ

二 知事又ハ廳長ニ於テ特ニ轎又ハ車馬ニ依ル必要ヲ認メタルトキ

前項ノ規程ハ在勤地市區街庄內陸路三里、鐵道二十四哩、水路十五浬以外ノ地ニ旅行シタル場合之ヲ準用ス

第十七條 本令ニ依リ支給スヘキ鐵道賃、船賃、轎賃、車馬賃、軌道賃ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ支給ス

一 鐵道賃船賃ハ內國旅費規則及臺灣總督府職員旅費規則ニ依ル額

二 轎賃車馬賃ハ其ノ州又ハ廳ニ於テ定メタル額

三 軌道賃ハ奏任官及其ノ待遇ヲ受クル者又ハ月手當二百五十圓以上ノ囑託員ハ一等賃金、判任官及其ノ待遇ヲ受クル者又ハ月手當月俸七十五圓以上ノ囑託員雇員ハ二等賃金、二等ノ設備ナキトキハ一等賃金、其ノ他ノ者ニハ三等又ハ下級ノ賃金

第十八條 第十一條ノ日當及第十二條乃至第十四條ノ日額旅費ヲ受クル

者自轉車ヲ乘用シタルトキハ土地ノ情況用務ノ種類ヲ參酌シ日額四十錢以內ニ於テ適宜其ノ額ヲ定メ之ヲ加給スルコトヲ得但シ官用ノ自轉車ヲ乘用シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

【參照】

第十九條 日額旅費又ハ日額旅費ト前三條ノ支給額トノ合算額カ普通旅費ヲ超過スルトキハ普通旅費ヲ支給ス

第二十條 州、廳、郡、市職員他ニ官職ヲ有シ俸給又ハ手當ヲ受クル者ニ對シテハ各其ノ官職俸給又ハ手當ヲ前各條ニ照シ其ノ旅費額ノ多キモノヲ支給ス

無給ノ囑託員及雇員ニシテ他ニ官職ヲ有シ俸給又ハ手當ヲ受クル者ニ對シテハ其ノ官職俸給又ハ手當ニ依リ然ラサル者ハ明治四十三年訓令第二百五十一號第三條ノ區分ニ準シ前各條ノ例ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二十一條 知事及廳長ハ本令ニ規定シタルモノノ外日額又ハ月額ヲ定メテ旅費ヲ支給スル必要ヲ認ムルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ支給スルコトヲ得本令ノ定額ヲ增加スルノ必要アルトキ亦同シ

知事及廳長ハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ其ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第二十二條 本令ニ規定セサル事項ハ臺灣總督府職員旅費規則ヲ準用ス

附則

本令ハ大正九年九月一日以後ノ旅行ニ付之ヲ適用ス

大正九年十月二十日以前ニ於ケル廳財務課ニ付テハ本令適用ノ際之ヲ稅務課ト看做ス

大正九年訓令第百十七號廳職員管內旅費規程ハ之ヲ廢止ス

本令發布前ノ旅行ニシテ舊規程ニ依ル旅費額カ本令ニ依ル旅費額ヨリ多キトキハ従前ノ額ヲ支給スルコトヲ得

●地方職員旅費支給規程

大正十四年十二月十一日
臺灣總督府令第八十號

改正 大正一五年府令第三七號

地方職員旅費支給規程左ノ通相定ム

地方職員旅費支給規程

第一條 本令ニ於テ地方職員ト稱スルハ左ノ職員ヲ謂フ

一 州費又ハ廳地方費ヨリ俸給、給料若ハ手當ノ支給ヲ受クル者

二 臺灣地方待遇職員令ニ依リ市費ヲ以テ置キタル職員

三 公立ノ中學校、高等女學校及實業學校職員

第二條 地方職員公務ノ爲旅行スルトキハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

知事又ハ廳長ハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ其ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第三條 旅費ハ別表ノ定額及大正九年大藏省令第十六號ニ依ル鐵道賃、船賃ノ實費トシ本令別表中一等該當者ニハ鐵道賃及船賃ノ一等賃金、二等該當者ニハ其ノ二等賃金、三等該當者ニハ其ノ三等賃金ヲ支給ス

第四條 日當及宿泊料ハ同一地ニ滯在十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ一割、三十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ二割、六十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ三割、百日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ四割ヲ減ス

同一地ニ滯在中一時他ノ地ニ旅行シタル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ其ノ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

第五條 公用ノ船、車、馬ニ依リテ旅行スルトキハ鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ支給セス

第六條 地方職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事務ニ從事シ常時出張ヲ要スル者ニハ知事又ハ廳長ハ特ニ月額若ハ日額ノ旅費ヲ定メ支給スルコトヲ得

一 測量、土木又ハ營繕工事

二 水產動植物ノ採集、製造、養殖ノ調查及試驗

三 物產又ハ屠畜ノ檢查、害蟲ノ驅除又ハ豫防、防疫（獸疫ヲ含ム）

四 稅務又ハ會計ニ關スル調查、檢查、監視、督勵及滯納處分並其ノ補助

五 道路、山林、苗圃等ノ巡視

六 以上ノ外必要ト認メタル事項

第七條 赴任ノ場合ハ第三條ノ旅費、赴任手當及家族移轉料ヲ支給ス

赴任手當ハ日當、宿泊料各五日分ノ範圍內ニ於テ、移轉料ハ別表定額ノ範圍內ニ於テ知事又ハ廳長適宜之ヲ定ム

第八條 月額旅費ハ新任、轉任、休職、退官、退職又ハ死亡ノ場合ハ勤務日數ニ應シ日割計算ヲ以テ支給ス疾病其ノ他ノ事故ニ依リ勤務セサル日數一月ヲ通シ十日以上ニ涉リタルトキ亦同シ

第九條 月額旅費ハ定額旅費、減額旅費又ハ日額旅費ヲ支給シタル日數ニ對シテハ之ヲ支給セス

第十條 月額旅費ヲ受クル者公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ハ土地ノ情況ヲ參酌シ日額旅費ヲ支給スルコトヲ得

【臺轄】

第十一條 在勤地市區街庄內ノ旅行ニシテ陸路行程二里以上又ハ引續キ五時間以上ニ涉ルトキハ別表日當定額ノ半額以內ノ額ヲ支給スルコトヲ得但シ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル日ニ對シテハ前條ニ準シ日額旅費ヲ支給スルコトヲ得

第十二條 月額又ハ日額旅費ヲ受クル者管外ニ旅行シタル場合ハ第三條ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得

第十三條 日額旅費ヲ受クル者同一ノ地ニ滯在スルコト十五日ヲ超ユルトキハ其ノ當日ヨリ定額ノ十分ノ三ヲ、三十日ヲ超ユルトキハ其ノ當日ヨリ十分ノ五ヲ減ス

同一地ニ滯在中一時他ノ地ニ旅行シタル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ其ノ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

第十四條 月額又ハ日額旅費ヲ受クル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ豫メ知事又ハ廳長ニ於テ指定シタル地域ニ限リ其ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

一 鐵道、軌道又ハ水路ニ依ル旅行ヲ爲シタルトキ

二 知事又ハ廳長ニ於テ必要アリト認メタルトキ

第十五條 第六條ノ日額旅費又ハ第十一條ノ日當ヲ受クル者自用自轉車ヲ乘用シタルトキハ土地ノ情況、用務ノ種類ヲ參酌シ日額四十錢以內ニ於テ適宜加給スルコトヲ得

第十六條 日額旅費又ハ日額旅費ト前二條ノ支給額トノ合算額カ第三條ノ旅費ヲ超過スルトキハ第三條ノ旅費ヲ支給ス

第十七條 地方職員他ニ官職ヲ有シ其ノ俸給、給料又ハ手當ヲ受クル者ノ旅行ニ對シテハ其ノ旅費額ノ多キモノヲ支給ス

【臺轄】

第十八條 旅費ノ支給ニ關シテハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外臺灣總督府職員旅費規則ヲ準用ス

前項規則ノ準用ニ付テハ本令別表一等該當者ハ奏任官ニ、二等該當者ハ判任官ニ、三等該當者ハ月俸又ハ月手當七十五圓未滿ノ囑託員若ハ雇員ニ該當スルモノト看做ス

第十九條 本令施行ニ關スル細則ハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ知事又ハ廳長之ヲ定ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別表

等級				車馬賃（一里ニ付）	宿泊料（一夜ニ付）		日當（一日ニ付）		食卓料	移轉料
					甲地方	乙地方	甲地方	乙地方		
一等	甲	奏任官及同待遇五等以上 月手當又ハ月俸四百圓以上ノ囑託員及雇員	島內	一圓五十錢	十圓	八圓	七圓	六圓	二圓五十錢	百五十圓以內
			內地	九十錢	八圓	七圓	六圓	五圓		
	乙	奏任官及同待遇六等以下 月手當又ハ月俸二百五十圓以上ノ囑託員及雇員	島內	一圓五十錢	九圓	七圓	六圓	五圓	二圓五十錢	百五十圓以內
			內地	九十錢	七圓	六圓	五圓	四圓		
二等	甲	判任官又同待遇三級俸以上 吏員二級下俸以上 公醫 月手當又ハ月俸百五十圓以上ノ囑託員及雇員	島內	一圓二十錢	七圓	五圓五十錢	四圓	三圓	二圓	百圓以內
			內地	七十五錢	五圓五十錢	五圓	三圓	二圓五十錢		
	乙	判任官及同待遇六級俸以下 吏員五級上俸以上 月手當又ハ月俸七十五圓以上ノ囑託員及雇員	島內	一圓二十錢	六圓	四圓五十錢	三圓五十錢	三圓五十錢	二圓	百圓以內
			內地	七十五錢	四圓五十錢	四圓	二圓五十錢	二圓二十錢		
三等	甲	吏員五級下俸以下 公立小學校准訓導 月手當又ハ月俸七十五圓未滿ノ囑託員及雇員	島內	九十錢	四圓五十錢	三圓五十錢	二圓五十錢	二圓	一圓二十錢	五十圓以內
			內地	六十錢	三圓五十錢	三圓十錢	二圓	一圓八十錢		

乙	月手當又ハ月俸四十圓未滿若ハ日給ノ雇員及傭員	島內	七十錢	三圓五十錢	二圓八十錢	二圓	一圓五十錢	八十錢	三十五圓以內
		內地	四十五錢	二圓八十錢	二圓六十錢	一圓五十錢	一圓三十錢		

備考

一 本表中甲地方乙地方ノ區分ニ付テハ大正十三年十二月大藏省令第二十八號及第二十九號ニ依ル

二 一日中甲地方及乙地方ニ亘ル旅行ニ付テハ出發地、用務地又ハ到著地カ甲地方ノ場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額ニ依リ其ノ他ノ場合ニ於テハ乙地方ノ定額ニ依ル

三 鐵道旅行中宿泊スル場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額、宿泊料ハ乙地方ノ定額ニ依リ水路旅行中宿泊スル場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額ニ依ル

四 赴任手當ハ甲地方ノ日當及宿泊料ノ定額ニ依リ之ヲ計算ス

●區長及區書記旅費支給規程

大正九年十月一日
臺灣總督府訓令第二百三十八號

區長及區書記旅費規程左ノ通相定ム

區長及區書記旅費支給規程

第一條 區長及區書記職務ノ爲旅行シタルトキハ別ニ定ムルモノノ外本規程ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二條 旅費ノ定額ハ別表ニ依ル但シ汽車賃、船賃ハ二等賃金ノ實費トス

區長ハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ其ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

區內出張ニハ壹圓以內ノ日額旅費ヲ支給スルコトヲ得

第三條 旅費ノ支給ニ關シテハ本規程ニ定ムルモノヲ除クノ外臺灣總督府職員旅費規則ヲ準用ス

【臺灣】

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

	車馬賃一里ニ付	宿泊料一夜ニ付	日當一日ニ付	移轉料
區長	圓・五〇	圓三・〇〇	圓一・五〇	圓五〇
區書記	・三〇	二・〇〇	一・〇〇	三〇

【臺灣】

第三章 任用 試驗 敎習

第一節 任用 採用

●文官任用令

大正二年八月一日
勅令第二百六十一號

改正 大正七年勅令第一〇號、九年第一五九號、第三五五號、一〇年第一一六號、一一年第一一六號、第四七三號、一二年第四二七號、一三年第二八號、第四〇二號、一五年第一六七號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官任用令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文官任用令

第一條 文官ノ任用ハ親任式ヲ以テ任スル官及特別ノ規程ヲ設クルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 勅任文官ハ第五條第一項ノ資格ヲ有シ一年以上勅任文官ノ職ニ在リタル者又ハ奏任文官トシテ二年以上高等官三等ノ職ニ在リタル者ヨリ之ヲ任用ス

第三條 第五條第一項ノ資格ヲ有セス二年以上勅任文官ノ職ニ在リタル者又ハ奏任文官トシテ二年以上高等官三等ノ職ニ在リタル者ハ高等試驗委員ノ詮衡ヲ經テ之ヲ勅任文官ニ任用スルコトヲ得

第三條ノ二 左ニ掲クル勅任文官ハ前二條ノ規定ニ依ル資格ヲ有セサルモ各其ノ職務ニ必要ナル學識、技能及經驗ヲ有スル者ヨリ高等試驗委員ノ詮衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

製鐵所長官

復興局長官

海外駐劄財務官

專賣局長官

內閣印刷局長

造幣局長

專賣局部長

千住製絨所長

臺灣總督府專賣局長

第四條 陸海軍將官ハ各其ノ部內ノ勅任文官ニ任用スルコトヲ得

第五條 奏任文官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一 高等試驗行政科試驗ニ合格シタル者

二 高等試驗外交科試驗ニ合格シ二年以上外交官又ハ領事官ノ職ニ在リタル者

三 二年以上判事又ハ檢事ノ職ニ在リタル者

四 裁判所構成法ニ依リ判事、檢事又ハ司法官試補タル資格ヲ有シ二年以上陸軍法務官若ハ海軍法務官、朝鮮總督府若ハ南洋廳ノ判事若ハ檢事又ハ臺灣總督府法院若ハ關東廳法院ノ判官若ハ檢察官ノ職ニ在リタル者

二年以上奏任敎官ノ職ニ在リタル者ハ之ヲ文部部內ノ奏任文官ニ任用スルコトヲ得

第六條 判任文官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一 中學校又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認定シタル學校ヲ卒業シタル者

二 高等試驗令第七條ノ規定ニ依リ高等試驗豫備試驗ヲ受クルコトヲ得ル者

三 專門學校令ニ依リ法律學、政治學、行政學又ハ經濟學ヲ敎授スル學校ニ於テ三年ノ課程ヲ履修シ其ノ學校ヲ卒業シタル者

四 普通試驗ニ合格シタル者

五 高等試驗ニ合格シタル者

六 二年以上文官ノ職ニ在リタル者

七 四年以上雇員タル者

第七條 敎官、技術官其ノ他特別ノ學術技藝ヲ要スル文官ハ高等官ニ在リテハ高等試驗委員、判任官ニ在リテハ普通試驗委員ノ詮衡ヲ經テ之ヲ任用ス

學校長ハ前項ノ規定ニ依リ之ヲ任用スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ文官タル資格ヲ有スル者ハ仍其ノ規定ニ依リ之ヲ任用スルコトヲ得

附則（大正七年勅令第十號）

本令ハ大正七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

文官高等試驗ニ合格シタル者ハ高等試驗行政科試驗、文官普通試驗ニ合格シタル者ハ普通試驗ニ合格シタル者ト看做ス

他ノ勅令中文官高等試驗委員トアルハ高等試驗委員、文官普通試驗委員トアルハ普通試驗委員トス

附則（大正十一年勅令第百十六號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

理事又ハ主理ノ職ニ在リタル者ハ之ヲ陸軍法務官又ハ海軍法務官ノ職ニ在リタル者ト看做ス

●奏任文官特別任用令

大正九年五月十五日
勅令第百六十號

改正 大正九年勅令第三五六號、第三五七號、第四六五號、第五〇七號、一〇年第四號、第二五號、第一八七號、第一九三號、第三六五號、第三九〇號、第四三八號、第四七三號、一一年第七四號、第一一七號、第二五二號、第二七四號、第二八八號、第三一四號、第四五六號、一二年第一一一號、第一九四號、第二九三號、第四二八號、第四五六號、一三年第二九號、第三八號、第七七號、第四〇三號、第四〇四號、第四五八號、第四五九號、一四年第四六號、第九九號、第一〇〇號、第一八一號、第一八七號、第二〇七號、一五年第一〇六號、第一六八號、第二七五號、第三一八號、昭和二年第三四六號、三年第六號、第一八六號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ奏任文官特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

奏任文官特別任用令

左ニ揭クル奏任文官ハ五年以上判任以上ノ官ニ在職シテ行政事務ニ從事シ判任官五級俸以上ノ俸給ヲ受ケタル者ヨリ高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

外務理事官
外務省警視
土木事務官
復興局事務官

都市計畫地方委員會事務官
職業紹介事務局事務官
廢兵院事務官
健康保險署事務官
神宮衞士長
造神宮主事
主稅局事務官
專賣局副參事
營繕管財局事務官
稅務監督局事務官
司稅官
關稅官
陸軍事務官
陸軍監獄長
海軍事務官
海軍監獄長
司法省事務官
裁判所書記長
供託局事務官
典獄
典獄補
航空研究所事務官
產業組合事務官

農林省山林事務官
營林局山林事務官
營林署山林事務官
度量衡事務官
製鐵所副參事
遞信省事務官
貯金局事務官
簡易保險局事務官
遞信局事務官
通信事務官
鐵道省事務官
鐵道局副參事
朝鮮總督府土木事務官
朝鮮總督府山林事務官
朝鮮總督府醫院事務官
朝鮮總督府道警視
朝鮮總督府遞信副事務官
朝鮮總督府鐵道局副參事
朝鮮總督府專賣局副事務官
朝鮮總督府營林署山林事務官
朝鮮總督府稅關關稅官
朝鮮總督府裁判所書記長
朝鮮總督府典獄

朝鮮總督府典獄補
朝鮮總督府濟生院主事
朝鮮總督府林野調査委員會副事務官
朝鮮總督府道理事官
朝鮮道立醫院事務官
朝鮮總督府府尹
朝鮮總督府府理事官
朝鮮總督府郡守
朝鮮總督府島司
臺灣總督府土木事務官
臺灣總督府典獄
臺灣總督府典獄補
臺灣總督府中央研究所事務官
臺灣總督府專賣局副參事
臺灣總督府法院書記長
臺灣總督府交通局副參事
臺灣總督府廳長
臺灣總督府地方理事官
臺灣總督府警視
臺灣總督府地方警視
關東廳理事官
關東廳警視
關東廳典獄

關東廳典獄補
關東廳遞信副事務官
關東廳專賣局理事官
樺太廳事務官
樺太廳鐵道事務官
樺太廳通信事務官
樺太廳支廳長
樺太廳警視
南洋廳事務官
南洋廳警視
貴族院守衞長
衆議院守衞長
警視廳事務官
警視廳警視
警視廳消防司令
北海道廳事務官
北海道廳警視
地方事務官
地方警視

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス
鐵道院職員特別任用令

大正七年勅令第二百九十四號
明治三十年勅令第百三號
大正四年勅令第七十七號
大正二年勅令第二百七十八號
專賣局職員特別任用令
大正七年勅令第二百七十三號
稅務監督局及稅務署職員特別任用令
大正八年勅令第三百三十六號
明治三十年勅令第二百五十五號
明治三十年勅令第二百二十二號
監獄職員特別任用令
大正二年勅令第二百三十七號
大正三年勅令第六十九號
明治三十一年勅令第十八號
明治四十年勅令第二百七十五號
大正八年勅令第二百四十二號
爲替貯金局及地方遞信官署職員特別任用令
大正五年勅令第三十二號
明治二十九年勅令第百五十六號
朝鮮總督府及所屬官署職員特別任用令
大正七年勅令第百六十九號
明治四十三年勅令第三百二號
朝鮮總督府遞信官署職員特別任用令

朝鮮總督府裁判所書記長及裁判所書記特別任用令
朝鮮總督府典獄及看守長特別任用令
大正七年勅令第三百七十九號
大正二年勅令第百一號
朝鮮總督府地方廳職員特別任用令
明治四十三年勅令第百七十九號
明治四十五年勅令第五十四號
明治四十四年勅令第二百五十九號
臺灣總督府監獄職員特別任用令
明治三十九年勅令第百十五號
明治三十七年勅令第百二十五號
臺灣總督府稅關事務官・稅關監視官特別任用令
大正八年勅令第三百一號
明治四十一年勅令第百五號
臺灣總督府通信事務官通信事務官補特別任用令
大正八年勅令第三百二十八號
明治四十四年勅令第二百六十五號
臺灣總督府作業所事務官特別任用令
臺灣總督府師範學校長臺灣總督府中學校長
臺灣總督府高等女學校長臺灣公立高等普通學校長及臺灣公立女子高等
普通學校長特別任用令
大正八年勅令第七十五號
大正八年勅令第七十六號

大正八年勅令第七十七號
大正八年勅令第七十九號
大正七年勅令第二百八十九號
明治三十三年勅令第三百十號
臺灣總督府地方職員特別任用令
臺灣總督府廳事務官及廳警視特別任用令
大正四年勅令第百三十五號
關東都督府職員特別任用令
大正八年勅令第二百九十八號
旅順工科學堂學長特別任用令
明治四十三年勅令第百八十號
樺太廳及所屬官署職員特別任用令
大正五年勅令第百五十一號
警視廳職員特別任用令
大正二年勅令第二百三十號
明治三十二年勅令第三號
明治四十年勅令第二百七十四號
大正七年勅令第百五十號
府縣立師範學校長特別任用令

附則（大正九年勅令第四百六十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ遞信事務官、爲替貯金局副事務官、爲替貯金局事務官補、遞信局副事務官、遞信局事務官補、通信副事務官、通信事務官補ノ職ニ在ル者ハ本令施行ノ際ニ限リ遞信事務官ハ遞信省事務官ニ、爲替貯金局副事務官又ハ爲替貯金局事務官補ハ貯金局事務官ニ、遞信局副事務官又ハ遞信局事務官補ハ遞信局事務官ニ、通信副事務官又ハ通信事務官補ハ通信事務官ニ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

【[illegible]】

附則（大正十一年勅令第七十四號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ監獄事務官ノ職ニ在ル者ハ本令施行ノ際ニ限リ司法省事務官ニ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

附則（大正十一年勅令第百十七號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ奏任官待遇ノ海軍事務官ノ職ニ在ル者ハ本令施行ノ際ニ限リ南洋廳事務官ニ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

附則（大正十二年勅令第百十一號）

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際ニ限リ職業紹介事業ニ關スル學識經驗ヲ有スル者ハ高等試驗委員ノ詮衡ヲ經テ職業紹介事務局事務官ニ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

當分ノ內陸海軍將校同相當官ハ高等試驗委員ノ詮衡ヲ經テ廢兵院事務官ニ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

附則（大正十三年勅令第四百四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ北海道廳及府縣理事官、北海道廳支廳長又ハ府縣警視ノ職ニ在ル者ハ本令施行ノ際ニ限リ北海道廳理事官又ハ北海道廳支廳長ハ北海道廳事務官ニ、府縣理事官ハ地方事務官ニ、府縣警視ハ地方警視ニ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

【[illegible]】

附則（大正十三年勅令第四百五十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ臺灣總督府ノ海事官、專賣局副事務官、通信事務官、郡守、市尹、州理事官、廳理事官、市理事官、州警視、廳警視、通信技師、鐵道部技師、通信技手又ハ鐵道部技手ノ職ニ在ル者ハ本令施行ノ際ニ限リ臺灣總督府專賣局副事務官ハ臺灣總督府專賣局副參事ニ、臺灣總督府通信事務官ハ臺灣總督府交通局副參事ニ、臺灣總督府郡守、臺灣總督府市尹、臺灣總督府州理事官、臺灣總督府廳理事官又ハ臺灣總督府市理事官ハ臺灣總督府地方理事官ニ、臺灣總督府州警視又ハ臺灣總督府廳警視ハ臺灣總督府地方警視ニ、臺灣總督府海事官、臺灣總督府通信技師又ハ臺灣總督府鐵道部技師ハ臺灣總督府交通局技師ニ、臺灣總督府通信技手又ハ臺灣總督府鐵道部技手ハ臺灣總督府交通局技手ニ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

他ノ勅令中臺灣總督府通信官署官制ニ依ル三等郵便局長ノ任用、手當等ニ關スル規定ハ之ヲ臺灣總督府交通局官制ニ依ル三等郵便局長ニ關スル規定トス

附則（大正十四年勅令第九十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ朝鮮總督府道慈惠醫院事務官ノ職ニ在ル者ハ本令施行ノ際ニ限リ朝鮮道立醫院事務官ニ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

附則（大正十四年勅令第百八十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時電信電話建設局官制廢止ノ際現ニ臨時電信電話建設局ノ事務官、技師又ハ技手ノ職ニ在ル者ハ同官制廢止ノ際ニ限リ臨時電信電話建設局事務官ハ遞信省事務官又ハ遞信局事務官ニ、臨時電信電話建設局技師ハ遞信技師又ハ遞信局技師ニ、臨時電信電話建設局技手ハ遞信技手又ハ遞信局技手ニ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

附則（大正十四年勅令第二百七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

營繕管財局官制施行ノ際現ニ左表ノ上欄ニ掲クル職ニ在ル者ハ同官制施行ノ際ニ限リ各其ノ相當下欄ニ掲クル官ニ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

大藏大臣官房臨時建築課又ハ其ノ出張所勤務ノ大藏技師	營繕管財局技師
大藏大臣官房臨時建築課又ハ其ノ出張所勤務ノ大藏技手	營繕管財局技手
國有財產整理局技手	營繕管財局技手
臨時議院建築局事務官	營繕管財局事務官
臨時議院建築局技師	營繕管財局技師
臨時議院建築局技手	營繕管財局技手

●判任文官特別任用令

大正九年九月一日
勅令第三百五十七號

改正 大正九年勅令第四六六號、第五〇八號、一〇年第四七四號、一一年第一一九號、一二年第三三七號、一三年第四六〇號、一五年第二七六號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ判任文官特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

判任文官特別任用令

第一條 各廳ノ警部及警部補ハ二年以上各廳巡査ノ職ニ在リ學術試驗及實務考査ニ合格シタル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

外務省ノ警部及警部補ハ前項ノ規定ニ依ルノ外外務書記生タル資格ヲ有スル者又ハ二年以上外國在勤巡査ノ職ニ在リ普通試驗委員ノ銓衡ヲ經タル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

蕃務ニ從事スル臺灣總督府部內ノ警部及警部補ハ第一項ノ規定ニ依ルノ外二年以上蕃地ニ於テ蕃務ニ從事スル臺灣總督府部內ノ巡査、雇員又ハ囑託員ノ職ニ在リ普通試驗委員ノ銓衡ヲ經タル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

第二條 各廳看守長ハ二年以上各廳看守ノ職ニ在リ學術試驗及實務考査ニ合格シタル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

第三條 各廳消防士ハ各廳消防機關士ノ職ニ在リ若ハ二年以上判任官待遇ノ各廳消防手ノ職ニ在リ學術試驗及實務考査ニ合格シタル者又ハ各廳ノ警部若ハ警部補ノ職ニ在リタル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

第四條 前三條ノ學術試驗及實務考査ニ關スル規程ハ當該試驗及考査ヲ行フ廳ノ主管大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東長官、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ定ム

第四條ノ二 神宮衞士副長ハ三年以上神宮衞士ノ職ニ在リ普通試驗委員ノ銓衡ヲ經タル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

第五條 貴族院又ハ衆議院ノ守衞副長ハ三年以上貴族院又ハ衆議院ノ守衞ノ職ニ在リ普通試驗委員ノ銓衡ヲ經タル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

第六條 左ニ掲クル判任文官ハ其ノ所屬廳ノ主管大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東長官、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官ノ定ムル規程ニ依リ之ヲ任用スルコトヲ得

健康保險署書記補
各廳稅關監吏
各廳森林主事
貯金局書記補
簡易保險局書記補
遞信局書記補
各廳通信書記補
各廳遞信書記補
臺灣總督府交通主事
各廳稅務吏
北海道廳河川監守

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治二十四年勅令第百九十二號
明治二十六年勅令第二百九號
淸國及朝鮮國在勤警部特別任用令
明治二十九年勅令第三百七十四號
海軍通譯官特別任用令
明治三十年勅令第三百八十一號
明治三十一年勅令第百九十三號
稅關事務官補監視及監吏特別任用令
明治三十三年勅令第三百三十四號
臺灣總督府稅關屬特別任用令
明治三十六年勅令第二百八十七號
臺灣總督府通信屬及通信手特別任用令
臺灣總督府警部、警部補特別任用令
警部補特別任用令
關東都督府警部警部補特別任用令
明治四十三年勅令第三百九十八號
朝鮮總督府及所屬官署判任官特別任用令
朝鮮總督府稅關書記及監視特別任用令
警部消防士特別任用令
大正七年勅令第二百八十二號

奏任文官特別任用令附則二項但書及大正九年勅令第百六十一號第五條第二項ヲ削ル

外國在勤警部及巡査任用及支給規則第二條第一項ヲ削ル

陸軍監獄官特別任用令第四條ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ

海軍監獄官特別任用令第二條中「第五、第六ニ該ル者」ヲ「第五ニ該ル者」ニ、「三年以上海軍監獄看守又ハ」ヲ「二年以上」ニ改メ同條第六號ヲ削ル

明治二十九年勅令第三百六號第三條ヲ削ル

從前ノ規定ニ依ル考査及試驗ニ合格シタル者ハ本令中之ニ相當スル學術試驗及實務考査ニ合格シタル者ト看做ス但シ關東廳監吏ノ考査及試驗ニ合格シタル者ハ關東廳看守長ノ學術試驗及實務考査ニ合格シタル者ト看做ス

本令施行ノ際現ニ臺灣總督府地方廳ノ林務手ノ職ニ在ル者ハ之ヲ臺灣總督府地方廳ノ森林主事ニ任用スルコトヲ得

●文官試補及見習ニ關スル件

明治四十三年六月二十日
勅令第二百七十五號

改正 大正九年勅令第三一七號

朕文官試補及見習ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 文官任用令第五條ノ規定ニ依リ奏任文官ニ任用セラルヘキ資格ヲ有スル者ニ試補、同令第六條ノ規定ニ依リ判任文官ハ任用セラルヘキ資格ヲ有スル者ハ見習トシテ各官廳ニ屬セシメ其ノ廳又ハ他ノ官廳ニ於テ事務ヲ練習セシムルコトヲ得

第二條 試補ハ奏任官ノ待遇、見習ハ判任官ノ待遇トス

第三條 試補ノ任免奏薦及宣行ハ奏任官、見習ノ任免ハ判任官ノ例ニ依ル

第四條 試補ニハ一年千百圓以內、見習ニハ一月四十圓以內ノ俸給ヲ給

スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十六年勅令第百八十六號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セラレサル試補及見習ハ本令ニ依リ任セラレタルモノト看做ス

附則（大正九年勅令第三百十七號）

本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ハ現ニ受クル本俸額ニ付大正九年勅令第二百五十七號附則第二項第五號乃至第七號ノ規定ニ準シ算出シタル金額ノ俸給ヲ受クルモノトス

●任用分限又ハ官等ノ初敍陞敍ノ規定ヲ適用セサル文官ニ關スル件

大正二年八月一日
勅令第二百六十二號

改正 大正三年勅令第二一八號、九年第一六二號、一一年第四七七號、一三年第一八八號、一四年第一〇一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ任用分限又ハ官等ノ初敍陞敍ノ規定ヲ適用セサル文官ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 左ニ揭クル諸官ニハ文官任用令、文官分限令竝高等官官等俸給令第四條及第五條ノ規定ヲ適用セス

內閣書記官長
法制局長官
各省政務次官
各省參與官
內務省警保局長
警視總監
貴族院書記官長
衆議院書記官長
祕書官

〔參照〕

第二條 學校長、敎官、技術官其ノ他特別ノ學術技藝ヲ要スル文官、文官任用令第三條ノ二ニ揭クル勅任文官、勅任外交官及勅任領事官竝大正十四年勅令第百二號ニ依リ任用セラルル外交官及領事官ニハ高等官官等俸給令第四條ノ規定ヲ適用セス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年勅令第百六十二號、明治四十三年勅令第二百八十八號及同年勅令第二百八十九號ハ之ヲ廢止ス

●臺灣總督府法院檢察官任用ノ件

明治三十二年六月二十二日
勅令第三百號

朕臺灣總督府法院檢察官任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府法院檢察官ハ判事又ハ檢事タル資格ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

〔參照〕

●臺灣總督府視學官特別任用令

明治四十二年五月四日
勅令第百三十一號

改正 大正七年勅令第一〇號、一二年第三二一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ臺灣總督府視學官特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府視學官特別任用令

第一條 臺灣總督府視學官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ニ限リ高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

一 文部省督學官又ハ文部省視學官ノ職ニ在リタル者
二 二年以上文部省直轄諸學校、臺灣總督府專門學校、臺灣總督府高等學校又ハ朝鮮總督府專門學校ノ學校長ノ職ニ在リタル者
三 三年以上師範學校、官公立中學校、官公立高等女學校、官公立高等普通學校、官公立女子高等普通學校、官公立實業學校又ハ臺灣總督府國語學校ノ學校長ノ職ニ在リタル者
四 三年以上奏任敎官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル敎員ノ職ニ在リタル者
五 五年以上敎育ニ關スル公務ニ從事シ判任官二級俸以上ノ俸給ヲ受ケタル者

第二條 前條中同號ニ規定シタル各職ノ在職年數ハ之ヲ通算ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺北帝國大學事務官、臺北帝國大學司書官及臺北帝國大學司書特別任用令

昭和三年三月十七日
勅令第三十八號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ臺北帝國大學事務官、臺北帝國大學司書官及臺北帝國大學司書特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺北帝國大學事務官、臺北帝國大學司書官及臺北帝國大學司書特別任用令

第一條 臺北帝國大學事務官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

一 敎育行政ニ關スル高等文官ノ職ニ在リタル者
二 三年以上敎育行政ニ關スル奏任官待遇ノ職ニ在リタル者
三 五年以上敎育行政ニ關スル判任官ノ職ニ在リ判任官五級俸以上ノ俸給ヲ受ケタル者

第二條 臺北帝國大學司書官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

一 敎育又ハ圖書ニ關スル高等文官ノ職ニ在リタル者
二 三年以上敎育又ハ圖書ニ關スル奏任官待遇ノ職ニ在リタル者
三 五年以上敎育又ハ圖書ニ關スル判任官又ハ判任官待遇ノ職ニ在リ判任官五級俸以上ノ俸給又ハ八十五圓以上ノ月俸ヲ受ケタル者
四 圖書ニ關シ特別ノ學藝技術ヲ有スル者

第三條 臺北帝國大學司書ハ圖書ニ關シ學術經驗アル者ヨリ普通試驗委

員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府圖書館長特別任用ニ關スル件

大正五年五月十六日
勅令第百三十四號

改正　大正一二年勅令第四九九號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ臺灣總督府圖書館長特別任用ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

朝鮮總督府圖書館長及臺灣總督府圖書館長ノ任用ニ關シテハ帝國大學司書官ノ任用ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府州港務官特別任用令

明治四十四年五月十二日
勅令第百五十三號

改正　大正一三年勅令第四六三號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ臺灣總督府港務官特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府州港務官特別任用令

臺灣總督府州港務官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヨリ高等試驗委員ノ銓

〔臺轄〕

衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

一　三年以上船舶又ハ海員ニ關スル事務ニ從事シ判任官四級俸以上ノ俸給ヲ受ケ現ニ其ノ職ニ在ル者
二　三年以上衞生事務ニ從事シ判任官四級俸以上ノ俸給ヲ受ケ現ニ其ノ職ニ在ル者
三　甲種船長ノ免狀ヲ有シ一年以上近海航船以上ノ船舶ニ於テ船長ノ職ヲ執リタル者

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府州理事官等ノ特別任用ニ關スル件

大正十年二月十二日
勅令第二十六號

改正　大正一一年勅令第四二六號、一二年第一七號、一三年第四六一號、第四六二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ朝鮮總督府事務官等ノ特別任用ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

左ニ掲クル文官ハ朝鮮語ニ熟達シ朝鮮ノ事情ニ精通シ且相當ノ學識經驗アル者ノ中ヨリ高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

朝鮮總督府事務官
朝鮮總督府中樞院書記官
朝鮮總督府道知事
朝鮮總督府道參與官
朝鮮總督府道事務官
朝鮮總督府道理事官
朝鮮總督府府理事官
朝鮮總督府郡守

臺灣總督府地方理事官ハ臺灣語ニ熟達シ臺灣ノ事情ニ精通シ且相當ノ學識經驗アル者ノ中ヨリ高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ任用スル者ニ付テハ高等官官等俸給令第四條ノ規定ヲ適用セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年勅令第三百八十三號ハ之ヲ廢止ス

●三等郵便局長等ノ任用ニ關スル件

大正九年九月一日
勅令第三百五十八號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ三等郵便局長等ノ任用ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

三等郵便局長及三等電信局長ハ遞信大臣ノ定ムル規程ニ依リ之ヲ任用ス

三等郵便局長及三等電信局長ノ在職年數ハ任用ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ之ヲ判任文官ノ在職年數ニ非サルモノト看做ス

前二項ノ規定ハ朝鮮總督府郵便所長、臺灣總督府三等郵便局長、關東廳郵便所長及樺太廳特定郵便局長ノ任用及在職年數ニ付之ヲ準用ス但シ遞

〔臺轄〕

信大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東長官、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ行フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

大正五年勅令第七十三號
大正五年勅令第八十六號

●臺灣總督府三等郵便局長任用規則

大正十三年八月十六日
臺灣總督府令第六十九號

臺灣總督府三等郵便局長任用規則左ノ通相定ム

臺灣總督府三等郵便局長任用規則

第一條　臺灣總督府三等郵便局長（以下三等郵便局長ト稱ス）ハ左ノ各號ニ該當スル者ヨリ之ヲ任用ス

一　年齡二十年以上ノ男子
二　相當ノ資產ヲ有スル者
三　相當ノ學識才幹アル者

第二條　三等郵便局長ハ別ニ定ムル臺灣總督府三等郵便局長服務規程ヲ遵奉スルノ義務アルモノトス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府交通主事特別任用規則

大正十年八月二十一日
臺灣總督府令第百三十五號

改正　大正一三年府令第八五號

臺灣總督府交通主事特別任用規則左ノ通相定ム

臺灣總督府交通主事特別任用規則

第一條　臺灣總督府交通主事ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得但シ第二號乃至第七號ニ該當スル者ニ在リテハ臺灣總督府交通主事試驗委員（以下試驗委員長ト稱ス）ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルモノトス

一　交通主事、貯金局書記補、遞信局書記補、各廳通信書記補又ハ各廳遞信書記補試驗ノ合格證書ヲ有スル者ニシテ其ノ證書ノ日附ヨリ起算シ二年以內ニ在ル者

二　官立公立中學校三學年以上又ハ官立公立甲種實業學校本科一學年以上ノ修業證書、修業年限三年以上ノ官立公立高等女學校ノ卒業證書若ハ之ト同等以上ト認ムル官立公立私立學校ノ卒業證書ヲ有スル者

三　官立公立學校ノ教員タルヘキ免許狀ヲ有スル者

四　陸海軍現役滿期ノ下士以上又ハ陸軍上等兵若ハ之ト相當ノモノニシテ下士適任證書ヲ有スル者

五　判任文官ノ職ニ在リタル者

六　二年以上雇員トシテ遞信事務ニ從事シ現ニ其ノ職ニ在ル者

七　五年以上巡査又ハ看守ノ職ニ在リタル者

第二條　臺灣總督府交通主事試驗（以下試驗ト稱ス）ハ臺灣總督府交通局總長ノ須要ニ應シ試驗委員之ヲ行フ

第三條　試驗ヲ行フヘキ期日及場所ハ府報及臺灣ニ於テ發行スル新聞紙一種以上ニ之ヲ公告ス

第四條　試驗ヲ受ケムトスル者ハ年齡十六年以上ニシテ身體健全且左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ナルコトヲ要ス

一　故意ヲ以テ遞信ニ關スル罪ヲ犯シタル者

二　前號以外ノ犯罪ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

三　懲戒ニ依リ免官又ハ免職セラレ二年ヲ經過セサル者

四　破產若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者

第五條　試驗志願者ハ願書（書式第一號）履歷書（書式第二號）及身元證明書ヲ添ヘ試驗期日十日前迄ニ之ヲ試驗委員長ニ差出スヘシ但シ現ニ臺灣總督府交通局ニ在職スル者ハ身元證明書ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

第六條　試驗出願者ハ手數料トシテ金一圓ヲ納ムヘシ但シ其ノ手數料ハ收入印紙ヲ用ヰ之ヲ願書ニ貼付スヘシ

手數料ハ願書ヲ取下ケ又ハ試驗ヲ受ケサルトキト雖之ヲ還付セス

第七條　不正ノ方法ニ依リ試驗ヲ受ケムト企テタル者又ハ試驗ニ關スル規定ニ違背シタル者ハ其ノ期ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス若事後其ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無效トス

第八條　試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

一　讀書　漢字交リ文

二　作文　普通往復文、記事文又ハ論說文

三　筆讀　楷書、行書

四　數學　筆算（比例）珠算（四則）

五　地理　本邦及外國地理ノ大要

六　歷史　本邦歷史ノ大要

以上ノ科目ハ悉ク之ヲ課ス

一　郵便ニ關スル法令　大要

二　郵便爲替及貯金ニ關スル法令　大要

三　電信ニ關スル法令　大要

四　電話ニ關スル法令　大要

五　會計法及會計規則　大要

六　簿記　官用簿記

七　外國語　外文和譯、和文外譯

八　土語（本島人ノ受驗者ニ對シテハ之ヲ課セス）　讀方、譯文、會話

以上ノ內一乃至五ノ科目ハ受驗者ヲシテ必ス其ノ一ヲ選擇セシメ六乃至八ノ科目ハ受驗者ノ希望ニ依リ之ヲ課ス但シ必要アル場合ニ於テハ試驗委員ニ於テ以上ノ科目ノ內一以上ヲ指定シ之ヲ課スルコトアルヘシ

第九條　試驗ハ各科目百點ヲ以テ滿點トシ一科目四十點未滿又ハ各科目平均六十點未滿ノ者ハ不合格トス

第十條　試驗合格者ニハ合格證書ヲ付與ス

第十一條　試驗合格者ノ氏名ハ府報ヲ以テ之ヲ公示ス

第十二條　試驗委員長ハ臺灣總督府交通局總長ヲ以テ之ニ充テ試驗委員ハ若干名トシ臺灣總督府交通局所屬ノ職員中ヨリ臺灣總督府交通局總長之ヲ命ス

第十三條　受驗者ノ體格檢査ハ試驗施行地ノ醫師ニ囑託シテ之ヲ行フヘシ

第十四條　試驗ニ關スル必要ノ手續ハ試驗委員長之ヲ定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年府令第五十號臺灣總督府通信試驗規則ハ之ヲ廢止ス

明治四十年府令第五十號臺灣總督府通信手試驗規則ニ依リ施行シタル試驗ニ合格シタル者ハ本令ニ依ル試驗ニ合格シタル者ト看做ス但シ其ノ合格證書ノ有效期間ハ其ノ日附ヨリ起算シ二年トス

書式第一號　（用紙美濃紙）

交通主事受驗願

私儀交通主事志願ニ付御試驗被成下度別紙履歷書及身元證明書相添此段相願候也

但シ選擇科目　何々

希望科目　何々

年　月　日　族籍　氏　名印

試驗委員長氏名宛

書式第二號　（用紙美濃紙）

履歷書

族籍　氏　名

年月日生

本籍

一　何々（戸主トノ續柄ヲモ記スヘシ）

現住所

一　何々何某方

住所ノ移轉

一　何年何月何地ニ生レ何年何月迄居住

一　何年何月何地ニ移轉シ何年何月迄居住

右ハ居住ヲ移轉スル毎ニ之ヲ記スヘシ

學　事

一　何年何月何地官公私立何學校ニ入リ何年何月卒業ス其ノ證書寫左ノ如シ

一　何年何月何地ニ於テ何々ノ試驗ヲ受ケ及第ス其ノ證書又ハ免許狀寫左ノ如シ

職　業

一　何年何月何官廳ニ於テ何々拜命何々ノ事務ニ從事シ何年何月辭職ス其ノ辭令寫左ノ如シ

一　何年何月ヨリ何地何會社ニ傭ハレ給料何圓何々ノ事務ニ從事シ何年何月解傭其ノ間給料ノ増減何々

一　何年何月ヨリ何年何月迄何業ニ從事ス

一　目下何々ニ從事中

賞　罰

一　何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ニ依リ賞ヲ受ク其ノ辭令寫左ノ如シ

一　何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ニ依リ罰ヲ受ク其ノ辭令寫左ノ如シ

一　何年何月何地裁判所ニ於テ何々ノ爲何々ノ宣告ヲ受ク其ノ宣告書ノ要領ハ左ノ如シ

破産家資分散又ハ身代限處分ノ有無

一　何年何月何地ニ於テ破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ何年何月復權又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ何年何月負債ノ辨濟ヲ爲ス裁判所ノ云渡左ノ如シ

一　破産若ハ家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタルコトナシ

右ノ通相違無之候也

年　月　日　　右　氏　名印

●臺灣總督府稅關監吏任用規則

大正九年十二月一日
臺灣總督府令第百七十四號

改正　大正一四年府令第七九號

臺灣總督府稅關監吏任用規則左ノ通相定ム

臺灣總督府稅關監吏任用規則

第一條　左ニ掲クル者ハ稅關監吏銓衡委員ノ銓衡ヲ經テ稅關監吏ニ任用スルコトヲ得

一　中學校四年以上又ハ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル實業學校四年以上ノ課程ヲ修業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

二　滿三年以上雇員トシテ引續キ關稅事務ニ從事シタル者

三　滿二年以上甲種勤務巡査又ハ看守タリシ者

四　陸海軍服役滿期ノ下士、憲兵科上等兵又ハ下士適任證書ヲ有スル歩騎砲工輜重兵科ノ上等兵

五　公立小學校ノ正教員又ハ公學校教諭ノ免許狀ヲ有スル者

第二條　稅關ニ稅關監吏銓衡委員ヲ置ク

委員長ハ稅關長ヲ以テ之ニ充テ委員ハ稅關所屬ノ職員中ヨリ稅關長之ヲ命ス

第三條　本令施行ノ爲必要ナル細則ハ稅關長之ヲ定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●公立ノ中學校及高等女學校ニ於ケル教員免許狀ヲ有セサル教員採用規則

大正十二年七月二十九日
臺灣總督府令第六十六號

改正　昭和二年府令第二六號

公立ノ中學校及高等女學校ニ於ケル教員免許狀ヲ有セサル教員採用規則左ノ通相定ム

公立ノ中學校及高等女學校ニ於ケル教員免許狀ヲ有セサル教員採用規則

第一條　中學校又ハ高等女學校ニ於テ相當ノ教員免許狀ヲ有スル者ヲ得難キトキハ本令ニ依リ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得

本令ニ於テ教員ト稱スルハ教諭及生徒ノ教育ヲ擔任スル者ヲ謂フ

第二條　中學校ノ擊劍又ハ柔術ノ教授ヲ擔任セシムル爲當分ノ内左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得

一　文部大臣ニ於テ明治三十三年文部省令第十五號第一條ノ二第一號ニ依リ指定シタル專門學校ノ卒業者

二　明治四十一年文部省令第三十二號教員檢定ニ關スル規程第五條第一號又ハ第三號乃至第六號ノ一ニ該當スル者ニシテ主トシテ擊劍又ハ柔術ヲ教授スル學校ニ於テ三年以上修業シ臺灣總督ニ於テ特ニ其ノ成績優良ナリト認定シタル者

第三條　高等女學校ニハ第二學年以下ノ教授ヲ擔任セシムル爲臺灣教員免許令ニ依リ授與セラレタル小學校本科正教員免許狀若ハ公學校甲種本科正教員免許狀ヲ有スル者又ハ小學校令ニ依リ授與セラレタル小學校本科正教員免許狀ヲ有スル者ヲ採用スルコトヲ得

第四條　中學校又ハ高等女學校ニ於テ相當ノ教員免許狀ヲ有スル者又ハ前二條ニ該當スル者ヲ得難キトキハ其ノ他ノ者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ教員ヲ採用セムトスルトキハ州知事又ハ廳長ニ於テ本人ノ履歷書竝擔任ノ學科目及每週教授時數ヲ具シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ但シ教務囑託ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ採用シタル教員ノ擔任學科目ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　中學校又ハ高等女學校ニ於テ前三條ニ依リ採用シタル專任敎諭ノ數ハ臺灣公立學校官制第十三條第一項ニ依リ規定シタル專任敎諭定員ノ三分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第六條　中學校又ハ高等女學校ニ於テ新ニ採用セムトスル者ヲ加算シ第二條乃至第四條ニ依リ採用シタル者ノ數ハ相當ノ敎員免許狀ヲ有スル者ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

特別ノ事情ニ因リ前項ノ規定ニ依リ難キトキハ州知事又ハ廳長ニ於テ新ニ採用セムトスル者及現在敎員ノ官職氏名、學科目擔任時數、學歷及免許資格表ヲ添附シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ中學校又ハ高等女學校ノ敎諭ノ職ニ在ル者ニシテ相當ノ敎員免許狀ヲ有セサル者ハ其ノ學校在職中ニ限リ第四條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行ノ際現ニ第五條又ハ第六條第一項ノ規定ニ牴觸スル中學校又ハ高等女學校ニ付テハ本令施行ノ日ヨリ三十日內ニ知事ニ於テ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ當分ノ內其ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

●臺灣ニ於ケル官立公立ノ小學校又ハ公學校ノ訓導ノ任用ニ關スル件

大正十二年七月十一日
勅令第三百四十一號

〔臺轄〕

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ臺灣ニ於ケル官立公立ノ小學校又ハ公學校ノ訓導ノ任用ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　臺灣ニ於ケル官立又ハ公立ノ小學校訓導ハ臺灣敎員免許令又ハ小學校令ニ依リ授與セラレタル小學校本科正敎員免許狀、尋常小學校本科正敎員免許狀又ハ小學校專科正敎員免許狀ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

第二條　臺灣ニ於ケル官立又ハ公立ノ公學校訓導ハ臺灣敎員免許令ニ依リ授與セラレタル公學校甲種本科正敎員免許狀、公學校乙種本科正敎員免許狀又ハ公學校專科正敎員免許狀ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年勅令第百十九號ハ之ヲ廢止ス

當分ノ內臺灣敎員免許令ニ依リ授與セラレタル公學校丙種本科正敎員免許狀ヲ有スル者ヲ公學校訓導ニ任用スルコトヲ得

●臺灣公立小學校又ハ臺灣公立公學校准訓導任用ノ件

大正十二年七月二十九日
臺灣總督府令第六十五號

臺灣公立小學校准訓導又ハ臺灣公立公學校准訓導ハ臺灣敎員免許令ニ依リ授與セラレタル各小學校ノ准敎員免許狀又ハ公學校ノ准敎員免許狀ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

附　則

〔臺轄〕

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年府令第百四十六號臺灣公學校訓導任用ノ件ハ之ヲ廢止ス

●臺灣公立公學校訓導在職者ノ任用ニ關スル件

大正十一年四月一日
臺灣總督府訓令第七十四號

州廳

大正十一年勅令第百五十八號臺灣公立學校官制施行ノ際現ニ臺灣公立公學校訓導ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令書ヲ用ヰス臺灣公立公學校ノ准訓導ニ同俸給ヲ以テ任セラレタル者トス

●官國幣社及神宮神部署神職任用令

明治三十五年二月十日
勅令第二十八號

改正　明治三六年勅令第八六號、四二年第一八二號、四四年第一七五號、四五年第八八號、大正三年第一九四號、一〇年第五八號、一三年第二九五號、一五年第二六七號

朕官國幣社及神宮神部署神職任用令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

官國幣社及神宮神部署神職任用令

第一條　奏任待遇ノ神職ハ神職高等試驗合格ノ者、判任待遇ノ神職ハ神職尋常試驗又ハ神職高等試驗合格ノ者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

第二條　年齡二十年以上ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ハ神職試驗ヲ受クルコトヲ得

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
二　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
三　禁治產者、準禁治產者
四　懲戒免官及免職ノ處分ヲ受ケタル後二年ヲ經過セサル者

第三條　神職高等試驗ハ神職高等試驗委員之ヲ施行シ神職尋常試驗ハ神職尋常試驗委員之ヲ施行ス

神職高等試驗委員ハ主務大臣之ヲ選任シ神職尋常試驗委員ハ主務省ニ於テ行フ試驗ニ付テハ主務大臣其ノ他ニ付テハ地方長官之ヲ選任ス

第四條　試驗合格者ニハ合格證書ヲ付與ス

第五條　試驗期日及場所ハ豫メ官報、公報又ハ新聞紙其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第六條　試驗ハ左ノ科目ニ依リ之ヲ行フ

一　祭式
二　倫理
三　國文（作文ハ神職高等試驗ニ在リテハ宣命體公文體神職尋常試驗ニ在リテハ祝詞體公文體）
四　歷史
五　法制（神職高等試驗ニ在リテハ現行神社法令及憲法神職尋常試驗ニ在リテハ現行神社法令）
六　算術

第六條ノ二　試驗ヲ受ケントスル者ハ手數料トシテ神職高等試驗ニ在リテハ十圓ヲ、神職尋常試驗ニ在リテハ二圓ヲ納付スヘシ

第七條　試驗ニ關スル細則ハ試驗委員ニ於テ之ヲ定メ主務大臣ニ報告スヘシ但シ地方廳ニ於テ行フ神職尋常試驗ニ關スル細則ハ地方長官ヲ經

由スヘシ

第八條 左ニ揭クル者ハ試驗ヲ要セス神職高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ奏任待遇ノ神職ニ任用スルコトヲ得

一 其ノ神社祭神ノ一族臣下ノ內祭神在世中ニ於テ之ヲ補佐シ功績顯著ナル者若ハ其ノ相續人ニシテ祭式及國典ヲ修メタルモノ

二 高等官又ハ五年以上官務ニ從事シ判任官二等以上ノ職ニ在リタル者ニシテ祭式及國典ヲ修メタルモノ

三 十年以上神職（府縣社以下神社神職ヲ除ク）ト爲リ現ニ官國幣社禰宜又ハ神宮神部署ノ神部補若ハ主事補ノ職ニ在ル者

四 師範學校、中學校又ハ高等女學校ノ國史又ハ國文科ノ敎員免許狀ヲ有シ祭式ヲ修メタル者

五 神宮皇學館本科卒業ノ者

六 皇典講究所ニ於テ內務大臣ノ認可ヲ得テ定メタル規則ニ依リ學階學正ヲ付與シタル者

第九條 左ニ揭クル者ハ試驗ヲ要セス神職尋常試驗委員ノ銓衡ヲ經テ判任待遇ノ神職ニ任用スルコトヲ得

一 五年以上官務ニ從事シ判任官以上ノ職ニ在リタル者ニシテ祭式及國典ヲ修メタルモノ

二 現ニ神宮宮掌以上ノ職ニ在ル者

三 前條第四號若ハ第五號ニ揭ケタル者又ハ神宮皇學館專科卒業ノ者

四 皇典講究所ニ於テ內務大臣ノ認可ヲ得テ定メタル規則ニ依リ學階學正又ハ一等司業ヲ付與シタル者

【参輯】

五 中學校又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認メタル學校ノ卒業證書ヲ有スル者ニシテ祭式ヲ修メタルモノ

六 五年以上神職ト爲リ現ニ社司ノ職ニ在ル者

七 內務大臣ノ委託ニ依リ開設セル皇典講究所神職養成部神職敎習科卒業ノ者

第十條 三年以上官國幣社又ハ神宮神部署ニ於テ本令ニ依リ任用セラルヘキ神職ヲ勤メ退職シタル者ハ試驗ヲ要セス前職同等若ハ其ノ以下ノ神職ニ任用スルコトヲ得

奏任待遇ノ神職ニ在リテハ各職同等ト看做シ判任待遇ノ神職ニ在リテハ禰宜神部補及主事補ヲ以テ同等ト看做ス

第十一條 五年以上雇員トシテ神宮神部署ニ奉職シタル者ハ試驗ヲ要セス神職尋常試驗委員ノ銓衡ヲ經テ神部補又ハ主事補ニ任用スルコトヲ得

五年以上雇員トシテ官國幣社ニ奉職シタル者ハ試驗ヲ要セス神職尋常試驗委員ノ銓衡ヲ經テ主典又ハ宮掌ニ任用スルコトヲ得

前項ニ依リ主典又ハ宮掌ニ任用セラレ三年以上奉職シタル者ハ神職尋常試驗委員ノ銓衡ヲ經テ禰宜ニ任用スルコトヲ得

第十二條 神職試驗ヲ受クル資格ナキ者ニハ前四條ノ規定ヲ適用セス

第十三條 本令中主務大臣ニ屬スル職權ハ別格官幣社靖國神社ノ神職ニ關シテハ陸軍大臣及海軍大臣其ノ他ニ關シテハ內務大臣之ヲ行フ

第十三條ノ二 本令中地方長官ニ屬スル職權ハ臺灣ニ於テハ臺灣總督、樺太ニ於テハ樺太廳長官之ヲ行フ

附則

第十四條 本令ハ明治三十五年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

【参輯】

附則（明治四十五年勅令第八十八號）

本令ハ明治四十五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

神宮大麻及曆頒布ノ事務ニ從事シタル者ハ本令施行ノ際ニ限リ主事ニ在リテハ高等試驗委員、主事補ニ在リテハ尋常試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ主事主事補ニ任用スルコトヲ得

第十條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ任用セラレタル者ニ之ヲ適用セス

神部署ノ在職年數ハ第十條及第十一條ノ適用ニ付テハ之ヲ神宮神部署ノ在職年數ニ通算ス

●縣社以下神社神職任用規則

明治三十七年二月十三日
臺灣總督府令第十二號

改正 明治四二年府令第七〇號、大正元年府令第五九號

縣社以下神社神職任用規則左ノ通相定ム

縣社以下神社神職任用規則

第一條 此ノ規則ニ定ムル社司社掌試驗ニ及第シタル者ニシテ年齡滿二十歲以上ノ男子又ハ明治三十五年內務省令第四號府社縣社以下神社神職任用規則ニ依ル社司社掌試驗ニ及第シタル者ニシテ年齡滿二十歲以上ノ男子ニアラサレハ社司若ハ社掌ニ補スルコトヲ得ス

官國幣社神職試驗ニ合格シタル者又ハ官國幣社神職タル者及神職タリシ者ハ試驗ヲ要セス社司若ハ社掌ニ補スルコトヲ得

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ハ社司社掌ノ試驗ヲ受クルコトヲ得

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

三 禁治產者、準禁治產者

四 懲戒免官及免職ノ處分ヲ受ケタル後二年ヲ經過セサル者

第三條 社司社掌試驗ハ社司社掌試驗委員之ヲ施行ス

社司社掌試驗委員ハ臺灣總督之ヲ選任ス

第四條 社司社掌試驗ノ合格者ニハ合格證書ヲ付與ス

第五條 社司社掌試驗ノ期日及場所ハ豫メ官報又ハ新聞紙其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第六條 社司社掌試驗ハ左ノ科目ニ依リ之ヲ行フ

一 祭式
二 倫理
三 國文　作文ハ祝詞體公文體
四 國史
五 法制　現行神社法令
六 算術

第七條 試驗ニ關スル細則ハ社司社掌試驗委員ニ於テ之ヲ定メ臺灣總督ニ報告スヘシ

第八條 左ニ揭クル者ハ試驗ヲ要セス社司社掌試驗委員ノ銓衡ヲ經テ社司若ハ社掌ニ補スルコトヲ得

一 官國幣社及神部署任用令第九條第一號第二號第三號及第五號ニ揭

ケタル者

二　皇典講究所ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ得テ定メタル規則ニ依リ學階司業（社司ニ在リテハ六等以上社掌ニ在リテハ八等以上）ヲ付與シタル者ニシテ祭式ヲ修メタルモノ

三　判任官待遇以上ノ職ニ在リシ者ニシテ祝詞、作文、祭式ヲ修メタルモノ

四　内務大臣ノ委託ニ依リ開設セル皇典講究所神職養成部神職教習科卒業ノ者

第九條　神社ニ神職ノ闕員アルトキハ氏子總代若ハ崇敬者總代ハ三十日内ニ其ノ候補者ノ履歴書及資格證明書ヲ具シ管轄廳ヲ經テ臺灣總督ニ推薦スヘシ但シ本島内神社在職者ニ在リテハ履歴書及資格證明書ヲ省クコトヲ得

臺灣總督ハ候補者其ノ任ニ適セスト認ムルトキハ更ニ候補者ノ推薦ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ氏子總代若ハ崇敬者總代ハ前項ノ例ニ依リ之カ推薦ヲ爲スヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●陸軍准士官下士ヲ判任文官ニ任用ノ件

大正十一年十月十二日
勅令第四百三十一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ陸軍准士官下士ヲ判任文官　任用ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

【臺轄】

陸軍准士官ニシテ現役ヲ退キタルモノ及陸軍下士トシテ在職中事務ニ從事シ又ハ事務取扱適任ノ證明書ヲ付與セラレ現役ヲ退キタル者ハ普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ各官廳ノ判任文官ニ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍准士官下士文官採用規則ハ之ヲ廢止ス

從前ノ規定ニ依リ判任文官タルノ資格ヲ有スル者ハ仍其ノ資格ヲ有ス

●臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生採用規則

明治四十年七月
臺灣總督府訓令第百二十八號

改正　大正九年訓令第二一二號、一三年第七五號、昭和三年第一五號

警察官及司獄官練習所

臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生採用規則左ノ通相定ム

臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生採用規則

第一條　臺灣總督府警察官及司獄官練習生ハ此ノ規則ニ依リ採用スヘシ

第二條　練習生ヲ志願セムトスル者ニハ別記書式ニ依リ志願書、履歴書及誓約書ニ戸籍謄本（臺灣人ニ在リテハ戸口抄本）ヲ添ヘ差出サシムヘシ

現官現職者ヨリ採用スル甲科練習生及特種科練習生ハ前項ノ願書ヲ要セス知事、廳長又ハ監獄長ノ推薦ニ依ルモノトス

第三條　練習生ハ品行方正年齡滿二十歳以上滿三十五歳以下ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セス體格檢査及學術試驗ニ合格シタル者ヨリ之ヲ採用スヘシ但シ警察官又ハ司獄官ノ經歴アリテ其ノ經歴アル職ニ志願シ適當ト認ムル者ハ四十歳迄採用スルコトヲ得

一　罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル後五年ヲ經過セル者及行政諸規則竝刑法中國交ニ關スル罪、公務ノ執行ヲ妨害スル罪、騷擾ノ罪、失火ノ罪、溢水及水利ニ關スル罪、過失ニ由ル往來妨害ノ罪、飮料水ニ關スル罪、傷害ノ罪、過失傷害ノ罪、名譽ニ對スル罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレ二年ヲ經過セル者ハ此ノ限ニ在ラス

二　懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケ執行猶豫期間經過後二年ヲ經過セサル者

三　巡査及判任待遇監獄職員懲戒規程又ハ文官懲戒令ニ依リ免職セラレ若ハ懲罰處分ニ依リ警察官及司獄官練習所ヨリ退所ヲ命セラレ滿二年ヲ經過セサル者但シ退所ヲ命セラルルモ巡査ヲ免セラルルニ至ラサル者ニシテ改悛ノ狀特ニ顯著ナル者ハ此ノ限ニ在ラス

四　身分不相應ノ負債アル者又ハ家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者

五　精神上缺如アル者又ハ酒癖若ハ暴行ノ癖アル者

第四條　臺灣總督府警部、警部補及監獄看守長ニ任用セラルル資格ヲ有スル者ハ試驗ヲ要セス之ヲ甲科練習生ニ採用スルコトヲ得

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試驗ヲ要セス之ヲ乙科練習生又ハ特種科練習生ニ採用スルコトヲ得但シ警察又ハ監獄ノ經歴ニ因ル者ハ各其ノ經歴アル職ニ志願スル場合ニ限ル

一　前項ニ依ル甲科練習生ニ採用スルコトヲ得ル者

【臺轄】

二　滿一年以上判任文官又ハ巡査若ハ看守ノ職ニ在リ退職後滿五年以内ノ者及乙科又ハ特種科ノ課程ヲ修了シ退職後滿二年以内ノ者

三　巡査又ハ看守ノ經歴アリテ精勤證書ヲ有スル者

四　内地ニ於テ現ニ巡査ノ職ニ在ル者ニシテ廳府縣警務部長又ハ警察部長ノ推薦ニ依ル者但シ奉職滿二年以内ノ者ニ限ル

五　陸海軍現役滿期ノ下士以上又ハ下士適任證書ヲ有スル者

六　現役滿期後滿二年ヲ經過セサル陸軍上等兵又ハ現役滿期後滿五年ヲ經過セサル憲兵上等兵ニシテ聯隊區司令官又ハ所屬隊長ヨリ巡査、看守ニ適スルノ證明アル者

第五條　體格檢査ハ左ノ各號ニ適合スル者ヲ合格トス

一　姿勢容貌醜惡ナラス、四肢完備シ、全身諸機關ノ機能健全ナル者

二　身幹五尺一寸以上ニシテ胸圍大約身長ノ半ニ等シク呼吸縮張ノ差一寸以上ノ者

三　普通視力、聽力ヲ有スル者

四　言語應答明瞭ニシテ充分ナル發聲ニ堪フル者

五　職務上ニ障害ヲ及ホス疾患其ノ他傳染性疾患ナキ者

第六條　甲科ノ試驗ハ中學校ノ學科及程度ニ依リ臺灣語ヲ加ヘ之ヲ行フヘシ

乙科及特種科ノ試驗ハ左ノ科目ニ依ルヘシ但シ必要ト認ムル場合ハ之ヲ増減スルコトヲ得

一　普通國文ノ講讀、釋義、書取

二　作文、筆跡

三　算術、四則應用

四　本邦地理、歷史ノ大要

五　刑法、刑事訴訟法ノ解釋

第七條　試驗ニ合格シタルトキハ之ヲ本人ニ通知スヘシ

合格者所要ノ人員ニ超過シタルトキハ次回募集ノ際更ニ體格檢査ノミヲ行ヒ採用スルコトヲ得

附　則

明治三十一年七月訓令第百八十九號臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生採用試驗規則ハ之ヲ廢止ス

（別記書式）

志願書

本籍（本居地）住所身分職業
勳位記　氏　名
年月日生

私儀警部（看守長）（巡査）（看守）練習生志願ニ付御試驗ノ上御採用相成度別紙履歷書誓約書ニ戸籍謄本（戸口抄本）相添此段奉願候也

年　月　日
右　氏　名㊞

臺灣總督府警察官及司獄官練習所長宛

履歷書

本籍（本居地）住所身分職業
（舊何藩士）
戸主又ハ某ノ子弟
勳位記　氏　名
年月日某地ニテ出生

年　月　日	任免賞罰學業事故	官衙又ハ學校名

右之通相違無之候也

年　月　日
右　氏　名

【臺報】

誓約書

某儀

今般警部（看守長）（巡査）（看守）練習生ニ御採用相成候ニ付テハ左記各號ヲ堅ク遵守可致候依テ誓約如件

一　臺灣總督府警察官及司獄官練習所ノ諸規則及指揮命令ヲ誠實ニ遵守シ專心課程ヲ練習可致コト

二　平素紀律ヲ恪守シ行狀ヲ愼ミ廉恥ヲ重シ品性ノ修養ヲ心掛可申コト

三　練習中ハ自己ノ便宜ニ因リ退所ヲ出願セス又課程修了ノ上ハ三箇年奉職ノ誓約ヲ爲シ警察官吏（司獄官吏）ニ就職可致コト

四　懲罰處分ニ依リ又ハ課程ヲ修了スルコト能ハスシテ退所ヲ命セラレ若ハ就職ノ後三箇年ニ滿タスシテ懲罰處分ニ依リ免職ニ相成候節ハ練習ノ爲支給セラレタル旅費及手當金ハ直ニ返納可致事

右確實ニ履行スルコトヲ誓フ

年　月　日
本籍（本居地）
現住所
志願人　何　某㊞

右誓約書ノ事項ハ本人ヲシテ堅ク遵守セシメ可申ノミナラス旅費並手當金返納ヲ命セラレタル場合ハ本人ト連帶責任ヲ以テ返納可致候

本籍（本居地）
現住所職業
保證人　何　某㊞

【臺報】

●臺灣總督府刑務所看守採用規程

大正十一年四月十二日
臺灣總督府訓令第七十八號

臺灣總督府　刑務所　警察官及司獄官練習所

改正　大正一二年府令第八七號

臺灣總督府刑務所看守採用規程左ノ通相定ム

臺灣總督府刑務所看守採用規程

第一條　看守ハ警察官及司獄官練習所司獄官部乙科練習生ヨリ採用スヘシ

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ規定ニ拘ラス之ヲ採用スルコトヲ得

一　文官タル資格ヲ有スル者又ハ文官ノ職ニ在リタル者

二　臺灣ニ於テ二年以上看守又ハ巡査（乙種勤務巡査ヲ除ク）ノ職ニ在リ退職後二年以內ノ者

三　臺灣ニ於テ看守又ハ巡査（乙種勤務巡査ヲ除ク）ノ職ニ在リ精勤證書ヲ有シ退職後五年以內ノ者

四　內地ニ於テ看守ノ職ニ在リ精勤證書ヲ有シ退職後二年以內ノ者

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニシテ學術試驗ニ合格シタルモノハ第一條ノ規定ニ拘ラス之ヲ採用スルコトヲ得

一　陸海軍下士官以上ニシテ現役滿期後二年以內ノ者

二　二年以上看守又ハ巡査ノ職ニ在リタル者

三　二年以上刑務所雇（授業手ヲ除ク）ノ職ニ在ル者

四　六月以上刑務所押丁ノ職ニ在リ實務ノ成績優秀ナル者

前項ノ學術試驗ハ刑務所長之ヲ行フ此ノ場合ニハ明治四十年訓令第百二十八號第六條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四條　前二條ノ規定ニ依リ採用スル看守ノ年齡ハ二十年以上五十年以下トス

明治四十年訓令第百二十八號第三條及第五條ノ規定ハ年齡及學術試驗ニ關スルモノヲ除クノ外前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　看守練習生ノ採用及異動ハ其ノ日附、人員及事由ヲ具シ警察官及司獄官練習所長ヨリ之ヲ總務長官ニ報告スヘシ

第六條　第一條ニ依リ看守ヲ採用セムトスルトキハ刑務所長ヨリ之ヲ總務長官ニ請求スヘシ

第七條　看守ヲ採用スルトキハ別記樣式ノ誓約書ヲ徴スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年訓令第三十五號ハ之ヲ廢止ス

（別記）

誓約書

某儀

今般何々刑務所看守ニ御採用ノ上ハ官吏服務紀律ヲ恪守スヘキハ勿論總テノ命令ヲ遵奉シ忠實ニ任務ヲ踐行シ嚴正ニ素行ヲ保持シ苟モ司獄官吏タルノ職責體面ヲ汚辱スルコトナク又奉職三年以内ニ於テハ決シテ自己ノ便宜ニ依リ退職相願間敷仍テ誓文如件

年　月　日

氏　名㊞

●臺灣總督府刑務所女監取締採用規程

明治三十九年二月
臺灣總督府訓令第十五號

改正　大正一二年府令第八七號

臺灣總督府刑務所女監取締採用規程左ノ通相定ム

臺灣總督府刑務所女監取締採用規程

第一條　女監取締ハ體格檢査及學術試驗ヲ行ヒ之ヲ採用ス

第二條　體格檢査ハ左ノ各號ニ適合シタル者ヲ以テ合格トス

一　體格健全ニシテ姿勢端正ナル者

二　身長四尺七寸以上ノ者

【臺鮮】

三　充分ナル發聲ニ堪フル者

四　嫌惡スヘキ病患ナキ者

第三條　學術試驗ハ左ノ各號ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

一　普通往復文及申告書ヲ作リ得ル者

二　簡易ナル加減乘除ヲ爲シ得ル者

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ女監取締ニ採用スルコトヲ得ス

一　年齡二十歲未滿四十五歲以上ノ者

二　品行方正ナラサル者

三　罰金以上ノ刑ニ處セラレタルコトアル者

四　身分不相應ノ負債アル者

第五條　學術試驗ハ看守長之ヲ施行ス

第六條　試驗合格ノ有效期間ハ合格後女監取締ニ採用セラレタル者ヲ除ク外ハ一箇年トス但シ體格檢査ハ採用ノ都度之ヲ行フモノトス

第七條　前ニ女監取締ノ職ニ在リタル者ニシテ退職後滿二箇年ヲ經過セサル者ハ學術試驗ヲ爲サスシテ之ヲ採用スルコトヲ得

第八條　女監取締ヲ志願スル者ニハ別記志願書ニ誓約書及戸籍謄本ヲ添ヘテ刑務所長ニ願出シムヘシ

附　則

本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ女監取締ノ職ニ從事スル者ハ誓約書ヲ徴スルノ外本令ノ規定ニ依ラスシテ之ヲ女監取締ニ採用スルコトヲ得

（別記）

【臺鮮】

志願書

原籍、現住所

誰妻（娵、姉、妹）

氏　名

何年何月生

右ハ女監取締志願ニ付試驗ノ上採用相成度此段奉願候也

年　月　日

本人　氏　名印

現住所　身分

保證人　氏　名印

同

同　氏　名印

何々刑務所長

典獄　殿

誓約書

今般女監取締志願候ニ付御採用ヲ被ムルニ於テハ官吏服務規律ヲ恪守致スヘキハ勿論職任上百般ノ實務ハ嚴正忠實ニ踐行仕ルヘク又就職後滿二箇年間ハ一身上ノ故ヲ以テ自ラ職務御免相願候樣ノ儀ハ決シテ致ス間敷候右保證人連署ノ上誓約候也

年　月　日

本人　氏　名印

保證人　氏　名印

同　氏　名印

●臺灣總督府刑務所押丁採用規則

明治三十九年十月
臺灣總督府訓令第百八十一號

刑務所

改正　大正一二年府令第八七號

臺灣總督府刑務所押丁採用規則左ノ通相定ム

臺灣總督府刑務所押丁採用規則

第一條　押丁ハ體格檢査及學術試驗ヲ行ヒ其ノ合格シタル者ヨリ之ヲ採用ス

第二條　體格檢査ハ左ノ各號ニ適合シタル者ヲ以テ合格トス

一　體格健全ニシテ姿勢端正ナル者

二　身長五尺以上ノ者

三　充分ナル發聲ニ堪ユル者

四　嫌惡スヘキ病患ナキ者

第三條　學術試驗ハ普通往復文ヲ作リ楷行書ヲ書キ得ル者ヲ以テ合格トス

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ押丁ニ採用スルコトヲ得ス

一　年齡十八歲未滿四十五歲以上ノ者

二　品行方正ナラサル者

三　罰金以上ノ刑ニ處セラレタルコトアル者

四　身分不相應ノ負債アル者

五　阿片煙ヲ吸食スル者

六　懲戒ニ依リ押丁ヲ免セラレ二箇年ヲ經過セサル者

第五條　體格檢査ハ保健技師、保險技手、學術試驗ハ看守長ヲシテ之ヲ施行セシムヘシ

第六條　押丁ヲ志願スル者ニハ別記書式ノ志願書ニ誓約書及戸籍謄本（本島人ニ在リテハ戸口調査簿抄本）ヲ添ヘ刑務所長ニ出願セシムヘシ

附　則

本令ハ明治三十九年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別記書式）

押丁志願書

何府、縣、市、町、村、何番地戸主
（某男、弟）
又ハ何廳、堡、街、庄、社、番戸
氏　名
何年何月生

右押丁志願ニ付試驗ノ上採用相成度此段奉願候也

年　月　日　本人　氏　名印
現住所身分
保證人　氏　名印
現住所身分
保證人　氏　名印

何刑務所長典獄某殿

【臺轄】

誓約書

今般押丁志願候ニ付御採用ヲ被ムルニ於テハ官吏服務規律ヲ恪守致スヘキハ勿論職務上百般ノ實務ハ嚴正忠實ニ踐行仕ルヘク又就職後滿二箇年間ハ一身上ノ故ヲ以テ自ラ職務御免相願候樣ノ儀ハ決シテ致ス間敷候右保證人連署ノ上誓約候也

年　月　日　本人　氏　名印
保證人　氏　名印
保證人　氏　名印

●刑務所押丁ヲ看守練習生ニ採用ノ件

明治三十六年十月
臺灣總督府訓令第百八十三號
（警察官及司獄官練習所　刑務所）

改正　大正一二年府令第八七號

刑務所押丁ニシテ勤續六箇月以上ニ及ヒ職務ニ熟達シ行狀方正且身體壯健ナル者ハ當分ノ内其ノ所屬刑務所長ノ推薦ニ基キ警察官及司獄官練習所長ノ銓衡ヲ經テ警察官及司獄官練習所看守練習生ニ採用スルコトヲ得

●臺灣總督府、其ノ所屬官署、法院、檢察局、州、廳及其ノ所屬官署、官公立學校及地方公共團體ニ於ケル囑託員、雇員ノ採用竝職務ニ關スル件

昭和二年三月三日
臺灣總督府令第十四號

【臺轄】

臺灣總督府、其ノ所屬官署、法院、檢察局、州—廳及其ノ所屬官署、官公立學校及地方公共團體ニ於ケル囑託員、雇員ノ採用竝職務ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條　臺灣總督府、其ノ所屬官署、法院、檢察局、州—廳及其ノ所屬官署、官公立學校及地方公共團體ニ囑託員、雇員ヲ置クコトヲ得

囑託員及雇員ハ有給又ハ無給トス

第二條　囑託員及雇員ハ上司ノ命ヲ承ケ各其ノ職務ヲ擔任ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府郵便局雇員規程

大正六年一月
臺灣總督府訓令第一號

【民政部】各郵便局

臺灣總督府郵便局雇員規程左ノ通相定ム

臺灣總督府郵便局雇員規程

第一條　臺灣總督府郵便局ニ左ノ雇員ヲ置ク

通信事務員
船長
機關長

第二條　一、二等郵便局雇員ノ進退及三等郵便局雇員ノ解免ハ當該局長之ヲ專決施行スヘシ

三等郵便局ニ於テ雇員ヲ採用セムトスルトキハ第五條各號ノ書類寫及前職アル者ハ奉職中不都合ノ行爲ナキコトヲ證スルニ足ルヘキ前官廳又ハ公署ノ證明書類寫ヲ添附シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ但シ臺灣總督府通信事務練習規程ニ依ル甲科修了者ヲ初メテ採用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ認可ヲ受クル遑ナキトキ又ハ實務ノ練習ヲ必要トスル場合ハ二月内ヲ限リ臨時雇トシテ採用スルコトヲ得

第三條　雇員ハ左ノ各號ニ適合スル者ヨリ之ヲ採用スヘシ

一　年齡
（一）通信事務員ハ滿十五年以上ノ男子又ハ女子但シ電話交換機ニ依ル通話ノ媒介ニ從事セシムヘキ通信事務員ハ滿十三年以上ノ男子又ハ女子
（二）船長及機關長ハ滿二十五年以上ノ男子

二　學力、技能
（一）電信機ニ依ル電報送受ニ從事セシムヘキ通信事務員ハ臺灣總督府若ハ遞信省ニ於テ定メタル規定ニ依ル電氣通信技術修得ノ證書ヲ有スル者又ハ【通信局】長ニ於テ之ト同等以上ノ技能アリト認定シタル者
（二）電話交換機ニ依ル通話ノ媒介ニ從事セシムヘキ通信事務員ハ當該局長ニ於テ尋常小學校又ハ臺灣公學校（修業年限六年以下之ニ同シ）ヲ卒業シ若ハ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者ニシテ實務ノ練習ヲ了リタル者又ハ相當ノ技能經歷ヲ有シ實務ノ練習ヲ要セサル者

(三) 前二號以外ノ事務ニ從事セシムヘキ通信事務員ハ當該局長ニ於テ高等小學校又ハ臺灣公學校ヲ卒業シタル者若ハ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者

(四) 船長及機關長ハ汽船職員タル資格ヲ具備シ相當ノ技能及經歷アル者

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ雇員ニ採用スルコトヲ得ス

一 健康及官能ノ不具ニ因リ執務上支障アリト認ムル者
二 操行不良ナル者
三 確實ナル身元保證人ヲ有セサル者
四 故意ヲ以テ通信ニ關スル罪ヲ犯シタル者
五 前號以外ノ犯罪ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
六 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者及家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者
七 懲戒ニ依リ免官又ハ免職セラレ滿二年ヲ經過セサル者
八 女子ニ在リテハ前各號ノ外家事ニ繫累アル者

第五條 雇員ヲ採用セムトスルトキハ志願者ヨリ左ノ書類ヲ提出セシムヘシ但シ第三號及第四號ノ書類ハ當該局長ニ於テ調査上必要ト認メタル場合ノ外ハ之ヲ提出セシメサルコトヲ得

一 自筆ノ履歷書
二 身元保證書（別記第一號書式ニ依ル）
三 本人及身元保證人ノ戶籍謄本又ハ抄本
四 當該局長ノ指定シタル醫師ノ診斷書又ハ體格檢査書

身元保證人ヲ變更シタルトキハ更ニ前項第二號及第三號（身元保證人ノ分）ノ書類ヲ徵スヘシ

第六條 身元保證人ハ臺灣總督府所屬官吏又ハ現ニ臺灣ニ居住シ土地若ハ家屋ヲ有スル能力者ニシテ第四條第四號乃至第六號ノ一ニ該當セサル者ニ限ル

身元保證人死亡、所在不明若ハ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ身元保證人ヲ選定セシムヘシ

第七條 臨時ニ採用スル雇員ハ當該局長ニ於テ適當ト認メタルトキハ身元保證人ヲ有セサル者ト雖特ニ之ヲ採用スルコトヲ得

第八條 雇員ノ職務ハ左ノ區別ニ依ル

一 通信事務員
　(一) 電信機ニ依ル電報ノ送受
　(二) 電話交換機ニ依ル通話ノ媒介
　(三) 前二號以外ノ通信ニ關スル諸般ノ事務
二 船長及機關長
　(一) 船長ハ海員ノ指揮、船舶ノ運航及船內ニ於ケル諸般事務ノ監督
　(二) 機關長ハ機關ノ運轉、機關部一切ノ監督及船內取締ニ關スル船長ノ補佐

第九條 雇員ノ服務心得服務時間及休養ノ方法ハ當該局長適宜之ヲ定ムヘシ

第十條 臺灣總督府通信事務練習規程第八條ノ義務年限內ニ在ル者ヲ解免セムトスルトキハ事由ヲ具シ通信局長ノ承認ヲ受クヘシ

第十一條 三等郵便局長ニ於テ臺灣總督府通信事務練習規程ニ依ル甲科修了者ヲ初メテ採用スルトキハ第五條第一號及第二號ノ書類寫ヲ又臨時雇ヲ採用シタルトキハ同條第一號ノ書類寫ヲ採用報告ニ添附スヘシ

第十二條 三等郵便局ニ於テ他局勤務ノ雇員ヲ繼續採用セムトスルトキハ其ノ所屬局長ノ承諾書ヲ添附シ通信局長ノ承認ヲ受クヘシ

第十三條 雇員ノ命免ハ別記第二號書式及第三號書式ニ依リ辭令書ヲ用ウヘシ

附則

本令ハ大正六年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年九月訓令第二百四十六號臺灣總督府郵便局雇員採用規則明治三十八年三月訓令第五十一號電話交換手規則ハ之ヲ廢止ス

別記

（第一號書式）

身元保證書

原籍 何々
現住所 何々
何 某
生年月日

收入印紙

右ノ者御局雇員ニ御採用相成候上ハ本人身上ニ關スル義ハ拙者ニ於テ引受可申候仍テ保證仕候也

年 月 日

現住所 何々
身元保證人 何 某㊞

何局宛

（第二號書式）

氏名

通信事務員（又ハ何丸船長、何丸機關長）ヲ命ス
月給（又ハ日給）何程ヲ給ス

年 月 日

局名

（第三號書式）

職氏名

依願（御用濟）何（職名）ヲ免ス

年 月 日

局名

●臺灣總督府地方廳稅務吏採用規程

明治四十三年五月
臺灣總督府訓令第九十六號

改正 大正九年訓令第一七〇號、第二四八號

州廳

臺灣總督府地方廳稅務吏採用規程左ノ通相定ム

臺灣總督府地方廳稅務吏採用規程

臺灣總督府地方廳稅務吏ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヨリ之ヲ採用ス

一 判任文官タルノ資格ヲ有スル者

二 臺灣總督府地方廳稅務吏試驗規則ニ依リ受驗合格シタル者

三 【民政部】財務局稅務課ニ於テ養成ヲ受ケ一定ノ科目修了證書ヲ有スル者但シ土地測量ニ關スル科目專修者ヲ除ク

四 【民政部】財務局稅務課又ハ地方廳稅務課又ハ稅務出張所ノ雇員ニシテ現ニ三箇年以上勤續ノ者

●臺灣總督府地方廳森林主事採用規程

大正八年五月十六日
臺灣總督府訓令第六十六號

改正 大正九年訓令第一九六號

州廳

臺灣總督府地方廳森林主事採用規程左ノ通相定ム

臺灣總督府地方廳森林主事採用規程

臺灣總督府地方廳森林主事ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヨリ之ヲ採用ス

一 判任文官タルノ資格ヲ有スル者

二 臺灣總督府地方廳森林主事試驗規則ニ依リ合格證書ヲ有スル者

三 臺灣總督府林業講習規程ニ依リ修業證書ヲ有スル者

四 官衙ノ雇員ニシテ三年以上林務ニ從事シタル者

●州、廳巡査採用規程

大正九年九月一日
臺灣總督府訓令第百八十七號

【臺轄】

改正 大正一三年訓令第七六號

州、廳巡査採用規程左ノ通相定ム

州、廳巡査採用規程

第一條 甲種勤務巡査ハ警察官及司獄官練習所警察官部練習生（特務練習生ヲ除ク）ヨリ之ヲ採用スヘシ

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ規定ニ拘ラス年齡滿四十歲迄之ヲ採用スルコトヲ得

一 警部、警部補タリシ者及文官タル資格ヲ有スル者

二 臺灣ニ於テ滿二年以上巡査（乙種勤務巡査ヲ除ク）ノ職ニ在リ退職後二年以內ノ者「但シ前ニ本條第六號該當者トシテ採用セラレ第五條ノ學術試驗ヲ經サル者ヲ除ク」

三 滿二年以上臺灣ニ在勤シタル憲兵下士又ハ上等兵ニシテ隊長ノ保證書ヲ有シ現役滿期後二年以內ノ者

四 臺灣ニ於テ巡査（乙種勤務巡査ヲ除ク）ノ職ニ在リ精勤證書ヲ有シ退職後五年以內ノ者

五 內地ニ於テ巡査ノ職ニ在リ精勤證書ヲ有シ退職後二年以內ノ者

六 刑事、通譯其ノ他特別ノ技能ヲ有スル者

第三條 乙種勤務巡査ハ警察官及司獄官練習所ニ於テ乙種勤務巡査タラシムル目的ヲ以テ養成スル特種練習生又ハ巡査教習所教習生ヨリ之ヲ採用スヘシ

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ規定ニ拘ラス之ヲ採用スルコトヲ得

【臺轄】

一 第二條第一號乃至第五號ノ一ニ該當スルモ甲種勤務巡査ニ適セスト認ムル者

二 軍事教育ヲ受ケタル者又ハ三年以上警手（隘勇ヲ含ム）ノ職ニ在リ成績優良ナル者ニシテ蕃地警備ニ從事セシムル者

三 特別ノ技能ヲ有スル者

第五條 第二條第六號及前條第二號、第三號ニ依リ採用シタル者ハ滿一年以上勤續シ實務ノ成績優良ニシテ學術試驗ヲ經タル後ニ非サレハ普通ノ勤務ニ從事セシムルコトヲ得ス

第六條 練習生又ハ教習生以外ノ者ヨリ巡査ニ採用セムトスルトキハ身元調査及體格檢査ヲ行フヘシ

第七條 巡査ヲ採用セムトスルトキハ別記樣式ノ誓書ヲ徵スヘシ

第八條 知事又ハ廳長ハ月末巡査補充要員數ヲ甲種勤務、乙種勤務ニ區別シ翌月五日迄ニ之ヲ警務局長ニ通報スヘシ

第九條 本令施行ノ爲必要ナル規定ハ知事又ハ廳長之ヲ定ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年八月三十一日現在ノ巡査ニシテ引續キ其ノ職ニ在ル者（巡査部長及練習生タル巡査ヲ除ク）ハ別ニ辭令書ヲ用ヰス各其ノ勤務地所屬ノ州又ハ廳ノ甲種勤務巡査ヲ、大正九年九月一日ニ於テ巡査補又ハ警手ヨリ採用セラレタル巡査ハ同乙種勤務巡査ヲ命セラレタルモノトス

明治三十五年七月訓令第三十五號臺灣總督府巡査看守採用規則中巡査ノ採用ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

（別記樣式）

誓文

某儀

今般臺灣總督府州（廳）巡査ニ御採用ノ上ハ官吏服務規律ヲ格守スヘキハ勿論總テノ命令ヲ遵奉シ忠實ニ任務ヲ踐行シ嚴正ニ素行ヲ保持シ苟モ警察官吏タルノ體面ヲ汚辱スルコトナク又奉職三箇年以內ニ於テ決シテ自己ノ便宜ニ依リ退職相願間敷仍テ誓文如件

年 月 日　　氏 名㊞

●區長及區書記任用規則

大正九年十月一日
臺灣總督府令第百三十八號

區長及區書記任用規則左ノ通相定ム

區長及區書記任用規則

第一條 區長ハ所轄廳內ニ住居シ年齡滿三十歲以上ノ學識資望アル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

第二條 區書記ハ年齡滿十六歲以上ニシテ小學校又ハ修業年限六箇年ノ臺灣公學校卒業以上ノ學力ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

第三條 區長及區書記ハ當分ノ內第一條及第二條ノ規定ニ拘ラス區長ハ年齡滿三十歲以上、區書記ハ年齡滿十六歲以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

一 臺灣公學校第四學年以上ノ課程ヲ修了シタル者

二 廳長ニ於テ適任ト認メタル者

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年十月府令第六十九號區長及區書記任用規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●官幣社出仕以下命免方

大正十四年十月三十一日
臺灣總督府訓令第九十九號

官幣社

官幣社出仕以下ハ宮司ニ於テ命免スヘシ

附則

明治三十四年訓令第百十號ハ之ヲ廢止ス

第二節 試驗 銓衡

●高等試驗令

大正七年一月十八日
勅令第七號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ高等試驗令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

高等試驗令

第一條 奏任文官ノ任用資格試驗、外交官及領事官ノ任用資格試驗竝裁判所構成法第五十八條ノ試驗ハ高等試驗ト稱シ本令ニ依リ之ヲ行フ但シ特別ノ規程アルモノハ此ノ限ニ在ラス

【[illegible]】

第二條 高等試驗ハ毎年一回東京ニ於テ之ヲ行フ其ノ期日及場所ハ豫メ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

本試驗各科ノ試驗ハ各別ノ期日ニ之ヲ行フ

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等試驗ヲ受クルコトヲ得ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四條 高等試驗ヲ分チテ豫備試驗及本試驗トス豫備試驗ニ合格シタル者ニ非サレハ本試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第五條 豫備試驗ハ受驗者本試驗ヲ受クルニ相當ナル學識ヲ有スル者ト認ムヘキヤ否ヲ考試スルヲ以テ目的トス

第六條 豫備試驗ハ論文及外國語ニ就キ之ヲ行フ

外國語試驗ハ英語、佛語及獨語ノ中ニ就キ受驗者ヲシテ豫メ一種ヲ選擇セシメ之ヲ行フ但シ受驗者ノ願ニ依リ他ノ外國語ヲ以テ之ニ代フルコトアルヘシ

第七條 豫備試驗ヲ受ケムトスル者ハ中學校ヲ卒業シタル者、文部大臣ニ於テ普通教育ニ關シ之ト同等以上ノ學歷ヲ有スト定メタル者及高等試驗委員ニ於テ普通教育ニ關シ中學校ト同等以上ト認ムル外國ノ學校ヲ卒業シタル者ヲ除クノ外文部大臣ノ定ムル所ニ依リ國語、漢文、歷史、地理、數學、物理及化學ノ七科目ニ就キ中學校卒業ノ程度ニ於テ行フ試驗ニ合格シタル者ナルコトヲ要ス

第八條 高等學校大學豫科又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認ムル學校ヲ卒業シタル者ハ豫備試驗ヲ免ス

豫備試驗ニ合格シタル者ハ爾後豫備試驗ヲ免ス

第九條 本試驗ハ受驗者學理上ノ原則及現行法令ニ通曉シ且之ヲ實務ニ應用スルノ能力アルヤ否ヲ考試スルヲ以テ目的トス

第十條 本試驗ヲ分チテ行政科、外交科及司法科ノ三科トス

受驗者ハ二科以上ノ試驗ヲ併セ受クルコトヲ得

第十一條 本試驗ハ筆記及口述トス筆記試驗ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十二條 民法、商法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法其ノ他高等試驗委員ニ於テ必要ト認ムル科目ノ筆記試驗及口述試驗ハ受驗者ニ法文ヲ示シテ之ヲ行フ

第十三條 行政科試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

一 憲法
二 行政法
三 民法
四 刑法
五 國際公法
六 經濟學

以上ノ科目ハ必須トス

一 商法
二 民事訴訟法
三 刑事訴訟法

【[illegible]】

四 財政學

以上ノ科目ハ受驗者ヲシテ豫メ其ノ一ヲ選擇セシム

第十四條 外交科試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

一 憲法
二 國際公法
三 國際私法
四 經濟學
五 外交史
六 外國語

以上ノ科目ハ必須トス

外國語ハ英語、佛語及獨語ノ中ニ就キ受驗者ヲシテ豫メ一種ヲ選擇セシム

受驗者ノ願ニ依リ其ノ選擇シタル外國語ノ外他ノ外國語ヲ併セ試驗スルコトアルヘシ

一 行政法
二 民法
三 商法
四 刑法
五 財政學
六 商業學
七 商業史

以上ノ科目ハ受驗者ヲシテ豫メ其ノ一ヲ選擇セシム

第十五條 司法科試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

一 憲法
二 民法
三 商法
四 刑法
五 民事訴訟法
六 刑事訴訟法
七 國際私法

以上ノ科目ハ必須トス

一 行政法
二 國際公法
三 經濟學

以上ノ科目ハ受驗者ヲシテ豫メ其ノ一ヲ選擇セシム

第十六條 一ノ科ノ筆記試驗ニ合格シタル者ハ翌年ニ限リ其ノ科ノ筆記試驗ヲ免ス

第十七條 一ノ科ノ本試驗ニ合格シタル者ニシテ他ノ科ノ本試驗ヲ受ケムトスル者ニ付テハ必須科目ノ試驗ニ在リテハ受驗セサリシ科目ニ就キテノミ之ヲ行ヒ選擇科目ノ試驗ニ在リテハ其ノ科目中ニ受驗シタル科目ナキトキニ於テノミ之ヲ行フ

第十八條 試驗ノ合格者ヲ定ムル方法ハ高等試驗委員ノ議定スル所ニ依ル

第十九條 高等試驗ノ合格者ニハ合格證書ヲ付與ス

第二十條 不正ノ方法ニ依リ試驗ヲ受ケムトシタル者又ハ試驗ニ關スル規程ニ違反シタル者ハ其ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス試驗合格決定後發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無效トス

【[illegible]】

第二十一條 高等試驗ヲ受ケムトスル者ハ手數料トシテ本試驗ノ一科ニ付十圓ヲ納ムヘシ

第二十二條 高等試驗ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本令ハ大正七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

文官試驗規則竝外交官及領事官試驗規則ハ之ヲ廢止ス

大正三年法律第三十九號中第五十七條乃至第五十九條、第六十二條及第六十五條ノ改正規定、大正三年法律第四十號竝本令中司法科試驗ニ關スル規定ハ大正十二年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

●高等試驗令施行細則

大正七年二月二十八日
閣令第一號

改正 大正一二年閣令第三號、一三年第一號、昭和二年第一號

高等試驗令施行細則左ノ通定ム

高等試驗令施行細則

第一條 高等試驗ヲ受ケムトスル者ハ受驗願書ニ履歷書及高等試驗令第七條又ハ第八條ノ規定ニ該當スル者ナルコトヲ證スル書類竝出願前一年內ニ帽ヲ著ケスシテ撮影シタル手札形寫眞（裏面ニ撮影年月日及氏名ヲ自署スヘシ）ヲ添ヘ高等試驗委員長ニ提出スヘシ

高等試驗司法科試驗ヲ受ケムトスル者ニシテ大正十二年勅令第百九十七號ニ依リ豫備試驗ノ免除ヲ申請セムトスルモノハ受驗願書ニ履歷書、豫備試驗免除申請書及明治二十四年司法省令第三號判事檢事登用試驗規則ニ依ル試驗ノ受驗ヲ出願シタル者ナルコトヲ證スル書類竝出願前一年內ニ帽ヲ著ケスシテ撮影シタル手札形寫眞（裏面ニ撮影年月日及氏名ヲ自署スヘシ）ヲ添ヘ高等試驗委員長ニ提出スヘシ

受驗ノ出願ハ豫備試驗ヲ受クル者ニ在リテハ每年四月一日ヨリ同月二十五日迄ニ、其ノ他ノ者ニ在リテハ每年五月一日ヨリ同月二十五日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第二條 受驗願書ニハ本試驗ノ分科及選擇科目ヲ記載スヘシ

第三條 豫備試驗又ハ外交科試驗ヲ受クル者ニ在リテハ受驗願書ニ其ノ受驗セムトスル外國語ノ種類ヲ記載スヘシ

第四條 高等試驗令第十六條ノ規定ニ依リ筆記試驗ノ免除ヲ受クル者ハ受驗願書ニ前年筆記試驗ニ合格シタル旨ヲ記載スヘシ

一ノ科ノ本試驗ニ合格シタル者ニシテ他ノ科ノ本試驗ヲ受ケムトスルモノハ受驗願書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第五條 受驗手數料ハ收入印紙ヲ用ヰ受驗願書ニ貼附スヘシ

第六條 受驗手數料ハ試驗ヲ受ケサルコトアルモ之ヲ還付セス

受驗願書及添附書類ハ之ヲ還付セス但シ證書又ハ證明書ハ請求ニ因リ之ヲ還付ス

第七條 受驗者試驗當日開試ノ時間迄ニ出席セス又ハ試驗半途ニテ休止シタルトキハ其ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 受驗者ハ試驗委員長ノ告示其ノ他試驗委員ノ指示ヲ遵守スヘシ

第九條 高等試驗ノ合格者ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

【[illegible]】

第十條 高等試驗ニ關シ本令ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ高等試驗委員長之ヲ定ム

附則

本令ハ大正七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

●高等試驗令第七條及第八條ニ關スル件

大正七年二月二十八日
文部省令第三號

改正 大正九年文部省令第一七號、一一年第三四號、一三年第四號、第二三號、一四年第三七號、一五年第六號

高等試驗令第七條及第八條ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等試驗令第七條ニ依リ普通教育ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學歷ヲ有スル者トス

一 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者、專門學校入學者檢定規程ニ依リ國語、漢文、歷史、地理、數學、物理及化學ノ七科目ニ付試驗檢定ニ合格シ若ハ試驗ヲ免除セラレタル者又ハ朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官若ハ關東長官ノ定ムル專門學校入學者檢定ニ關スル規程ニ依リ國語、漢文、歷史、地理、數學、物理及化學ノ七科目ニ付試驗檢定ニ合格シ若ハ試驗ヲ免除セラレタル者

二 專門學校入學者檢定規程ニ依リ一般ノ專門學校入學ニ關シ無試驗檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者

三 專門學校入學者檢定規程ニ依リ特定ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校ノ卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定セラレタル者ニ

シテ普通教育ニ關スル試驗ヲ受ケ若ハ成績優秀ナルノ故ヲ以テ無試驗檢定ニ依リ中學校卒業以上ノ學力ヲ以テ入學程度トスル大學豫科又ハ專門學校ニ入學シタル者

四　高等學校高等科第二學年以上又ハ修業年限三年ノ大學豫科第二學年以上ニ入學シタル者

五　前各號ノ外中學校卒業以上ノ學力ヲ以テ入學程度トシ且文部大臣ノ指定ヲ受ケタル學校ニ入學シタル者

第二條　左ノ學校ハ高等試驗令第八條ニ依リ高等學校大學豫科ト同等以上ト認ム

一　高等學校高等科
二　大學學部
三　大學豫科
四　前各號ノ外文部大臣ニ於テ高等學校大學豫科ト同等以上ト指定シタル學校

第三條　高等試驗令第七條ノ試驗ハ毎年少クトモ一回之ヲ行フ

試驗ノ出願期限、試驗施行ノ期日及場所ハ豫メ官報ヲ以テ之ヲ告示ス

第四條　試驗ヲ受ケントスル者ハ受驗願書（第一號書式）ニ左ノ書類ヲ添ヘ受驗地ノ地方廳ヲ經由シ文部大臣ニ出願スヘシ

一　履歷書（第二號書式）
二　戸籍抄本
三　寫眞（手札形トシ出願前三月以內ニ脫帽ニテ撮影シタルモノニシテ裏面ニ撮影年月日、本籍氏名ヲ記載スヘシ）
四　第六條第二項ニ依ル證明書ノ寫、專門學校入學者檢定規程第七條第二項ニ依ル證明書ノ寫又ハ同規程第八條ノ資格ヲ證明スル書面

〔臺鮮〕

第五條　試驗ヲ受ケントスル者ハ手數料トシテ金五圓ヲ納付スヘシ

第六條　試驗ニ合格シタル者ニハ合格證書（第三號書式）ヲ交付ス

試驗ヲ受ケタル者ニシテ之ニ合格セサルモ受驗學科目中合格點ヲ得タルモノアルトキハ其ノ證明書（第四號書式）ヲ交付ス

前項ノ證明書ヲ有スル者ニシテ試驗ヲ出願シタルトキハ當該學科目ノ試驗ヲ免除ス

專門學校入學者檢定規程第七條第二項又ハ第八條ニ依リ試驗ヲ免除セラルル者ニ付亦同シ

第七條　合格證書ヲ有スル者其ノ氏名、本籍ヲ變更シ又ハ合格證書ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ書換若ハ再交付ヲ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ合格證書ノ書換若ハ再交付ヲ出願スル者ハ手數料トシテ金一圓ヲ納付スヘシ

第八條　試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ニ對シテハ其ノ試驗ヲ停止シ尙期間ヲ定メテ試驗ヲ受ケシメサルコトアルヘシ

專門學校入學者檢定規程第十條ニ依リ試驗ヲ停止セラレタル者ハ其ノ停止セラレタル期間本令ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタルコト後日發覺シタルトキハ既ニ交付シタル合格證書又ハ證明書ハ其ノ效力ヲ失フ

第九條　本令ニ依リ納付スヘキ手數料ハ收入印紙ヲ用ヰ之ヲ願書ニ貼付スヘシ

其ノ既ニ納メタル後ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

附則

本令ハ大正七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔臺鮮〕

第一號書式（用紙半紙）

受驗願書

收入
印紙

本籍
現住所

免除學科目

氏名
年月日生

私儀高等試驗令第七條ニ依ル試驗相受度候ニ付書類ヲ具シ此段相願候也

年月日

右　氏名印

文部大臣宛

（記載注意）
一　免除學科目アリタル場合ハ其ノ學科目名ヲ記載スヘシ
二　出願者氏名ノ漢字ニハ振假名ヲ付スヘシ

第二號書式（用紙半紙）

履歷書

本籍
氏名
年月日生

學業
一　年　月　何學校何科第何學年ニ入學、年月卒業（目下在學中）
一　年　月　何年度施行高等試驗令第七條ノ試驗ニ於テ何學科目證明書受領

業務
一　年　月　何官職拜命若ハ何業ニ從事、年月何事由ニ依リ退官若ハ廢業

賞罰
一　年　月　何事由ニ依リ何賞若ハ何罰ヲ受ク

身上ニ關スル事項
一　年　月　何事由ニ依リ何ト改氏名等

（記載注意）
一　業務ハ現在若ハ最近ノ經歷ニ限リ記載スヘシ
二　賞罰ハ經歷上特ニ重要ナル事項ニ限リ記載スヘシ
三　身上ニ關スル事項ハ族稱氏名ノ變更等身上ノ異動ヲ詳記スヘシ

第三號書式

大正　年第　號

合格證書

本籍
氏名
年月日生

右ハ高等試驗令第七條ニ依ル試驗ニ合格シタルコトヲ證ス

年月日

第四號書式

文部省印

證明書

本籍

氏名

年月日生

右ハ高等試驗令第七條ニ依ル試驗ニ於テ左記學科目ニ就キ合格點ヲ得タルコトヲ證ス

年月日

文部省印

試驗施行年月	合格點ヲ得タル學科目

●普通試驗令

大正七年一月十八日
勅令第八號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ普通試驗令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

普通試驗令

第一條 特別ノ規程アルモノヲ除クノ外判任文官ノ任用資格試驗ハ普通試驗ト稱シ本令ニ依リ之ヲ行フ

第二條 普通試驗ハ各官廳ノ須要ニ應シ其ノ廳ノ普通試驗委員之ヲ行フ

其ノ期日及場所ハ豫メ官報ヲ以テ之ヲ公告シ東京以外ノ地ニ於テ行フ試驗ニ在リテハ尙其ノ地方ノ新聞紙ニ公告ス

第三條 普通試驗ヲ受ケムトスル者ハ手數料トシテ二圓ヲ納ムヘシ

第四條 普通試驗ハ中學校ノ學科目中五科目以上ニ就キ中學校卒業ノ程度ニ於テ之ヲ行フ

前項ノ外各官廳所掌ノ事務ヲ斟酌シ別ニ科目ヲ加フルコトヲ得

前二項ノ科目ハ普通試驗委員之ヲ定メ高等試驗委員ノ承認ヲ經ヘシ

第五條 高等試驗令第三條及第十八條乃至第二十條ノ規定ハ普通試驗ニ之ヲ準用ス

第六條 普通試驗ニ關スル細則ハ普通試驗委員之ヲ定メ高等試驗委員ニ報告スヘシ

附則

本令ハ大正七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前文官普通試驗ノ期日及場所ヲ公告シタルモノニ付テハ其ノ試驗ハ仍從前ノ例ニ依ル

●臺灣總督府普通試驗令施行細則

大正七年十二月八日
府報

改正 大正一三年九月四日府報

普通試驗令施行細則ヲ左ノ通定メタリ

臺灣總督府普通試驗令施行細則

第一條 普通試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

一 國語及漢文

二 作文

三 歷史及地理

四 數學

五 法制

六 經濟

以上ノ科目ハ必須トス

七 民法大意

八 刑法大意

九 行政法大意

一〇 外國語

一一 臺灣語

以上ノ科目ハ受驗者ヲシテ豫メ其ノ一科目ヲ選擇セシメ之ヲ試驗ス但シ臺灣人ハ臺灣語ヲ選擇スルコトヲ得ス

第二條 試驗ノ科目、期日、場所等ハ試驗期日三十日前迄ニ普通試驗委員長之ヲ公示ス

第三條 試驗ヲ受ケムトスル者ハ別記書式ニ依リ願書ニ履歷書ヲ添ヘ所定ノ期日迄ニ普通試驗委員長ニ提出スヘシ

第四條 試驗手數料ハ收入印紙ヲ用井試驗願書ニ貼附スヘシ

受驗手數料ハ試驗ヲ受ケサルコトアルモ之ヲ還付セス

第五條 受驗願書及添附書類ハ之ヲ還付セス但シ證書ノ類ハ試驗終了後三十日內ニ請求アルトキハ之ヲ還付ス

第六條 試驗ハ筆記及口述トス筆記試驗ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試驗ヲ受クルコトヲ得ス

口述試驗ハ第一條第五號及第六號ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

第七條 受驗者試驗當日開試ノ時間迄ニ出席セス又ハ試驗半途ニテ休止シタルトキハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 受驗者ハ普通試驗委員長ノ公示其ノ他試驗係員ノ指示ヲ遵守スヘシ

第九條 試驗點數ハ百點ヲ以テ滿點トシ其ノ得點各科目平均六十點未滿又ハ一科目四十點未滿ノ者ハ不合格トス

第十條 普通試驗合格者ノ氏名ハ官報及臺灣總督府報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十一條 普通試驗ニ關シ本細目ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ普通試驗委員長之ヲ定ム

附則

本細則ハ大正八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督府文官普通試驗細則ハ之ヲ廢止ス

別記書式（用紙美濃紙）

試驗願

本籍

氏名

現住所

生年月日

普通試驗相受度別紙履歷書相添此段奉願候也

年月日

氏名印

臺灣總督府普通試驗委員長宛

（本籍又ハ現住所ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度屆出ヘシ）

履歷書

族籍 氏 名

生年月日

本籍

何府縣何市町村何番地（戶）戶主

又ハ何々

現住所

何府縣何市町村（又ハ何【廳何堡

何街庄社】何番地（戶）

學事

一何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ官立（私立）何學校ニ於テ何學ヲ修ム

一何年何月ヨリ何地官立（私立）何學校ニ依リ何學科ヲ修業シ何年何月卒業ス

職業

一何年何月何官廳ニ於テ何々拜命何々歷任等

賞罰

一何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ニ依リ何賞（罰）ヲ受ク

年 月 日

氏 名印

【臺灣】

●臺灣總督府、州及廳警部、警部補特別任用考試規程

大正十四年三月六日
臺灣總督府令第十四號

改正 昭和三年府令第五號

臺灣總督府、州及廳警部、警部補特別任用考試規程左ノ通相定ム

臺灣總督府、州及廳警部、警部補特別任用考試規程

第一條 判任官特別任用令ニ依ル警部及警部補特別任用ニ關スル學術試驗及實務考査ヲ行フ爲臺灣總督府ニ考試委員ヲ置ク

考試委員長ハ警務局長ヲ以テ之ニ充テ委員ハ若干名トシ臺灣總督府內高等官中ヨリ臺灣總督之ヲ命ス但シ必要アルトキハ學術試驗ニ限リ臺灣總督府部內判任官中ヨリ之ヲ命スルコトヲ得

考試ニ關スル庶務ニ從事セシムル爲書記若干名ヲ置ク書記ハ臺灣總督府內判任官中ヨリ考試委員長之ヲ命ス

第二條 學術試驗ハ筆記及口述ノ二種トシ筆記試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

一 憲法及行政法

二 刑法、刑事訴訟法、臺灣總督府法院條例

三 警察法規

四 作 文

五 算 術

六 語 學（內地人ニ在リテハ臺灣語本島人ニ在リテハ國語）

口述試驗ハ筆記試驗ニ合格シタル者ニ對シテ之ヲ行ヒ其ノ科目ハ筆記試驗ノ科目ニ就キ委員長之ヲ選擇ス

第三條 學術試驗ノ點數ハ百點ヲ以テ滿點トシ平均六十點以上ヲ得タル者ヲ合格トス但シ三十點未滿ノモノ一科目又ハ四十點未滿ノモノ二科目以上ニ涉ル場合ハ不合格トス

第四條 實務考査ハ左記各號ニ就キ之ヲ行フ

一 品性、素行、體格、常識ニ關スル事項

二 職務執行ノ當否

三 勤務ノ勉否

四 書類報告ノ整否

五 紀律、點檢、禮式、操練ノ良否

六 語學ノ熟否

七 其ノ他考査上必要ト認ムル事項

第五條 前條ノ考査ハ別ニ定ムル所ニ從ヒ知事又ハ廳長ノ作製シタル考査表ニ依リ其ノ優劣ヲ判定ス

第六條 學術試驗施行ニ關スル手續ハ考試委員長之ヲ定ム

第七條 學術試驗及實務考査ノ合格者ニハ別記樣式ノ合格證書ヲ付與ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記樣式）

第 號

考試合格證書

官（職） 氏 名

年月日生

右判任文官特別任用令ニ依ル警部及警部補特別任用ノ學術試驗及實務考査ニ合格シタルコトヲ證ス

年 月 日

考試委員長官位勳氏名印

【臺灣】

●臺灣總督府、州及廳警部、警部補特別任用考試規程施行細則

大正十四年三月六日
臺灣總督府訓令第二十號

州 廳

臺灣總督府、州及廳警部、警部補特別任用考試規程施行細則左ノ通相定ム

第一條 臺灣總督府、州及廳警部、警部補特別任用考試規程第五條ニ依ル考査表ハ別記第一號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 知事又ハ廳長ハ考査資料トシテ每年六月、十二月ノ二回巡査ノ實務成績ヲ考査シ考査表ニ記入スヘシ

第三條 知事又ハ廳長ハ考試委員長ヨリ學術試驗施行ノ通知ヲ受ケタルトキハ受驗候補者ヲ選拔シ最近二年間ノ考査表ニ履歷書及別記第二號樣式ノ受驗候補者名簿ヲ添附シ考試委員長ニ之ヲ提出スヘシ

第四條 巡査他ノ州又ハ廳ヘ轉勤シタルトキハ其ノ考査表ハ之ヲ當該知事又ハ廳長ヘ送付スヘシ

第一號様式

巡査考査表		氏名
拜命年月日	年　月　日	
精勤證書授與年月日	年　月　日	年月日生

區別	品性	素行	常識	職務執行	勤務	書類	規律	點禮	操練	武術	語學	體格	計		
													甲	乙	丙
年上半期															
年下半期															
記事															

一 品性素行

一 常識

一 長所特技

一 短所癖習

一 其ノ他參考事項

記載例

一 考査表ノ評點ハ甲乙丙ヲ以テ表示スルモノトス

二 甲乙丙ノ區別ハ大體ニ於テ巡査トシテ普通ノ成績ヲ有スル者ヲ乙トシ優等ナル者ヲ甲トシ普通以下ナル者ヲ丙トス其ノ乙ニ指定スヘキモノノ一例ヲ擧クレハ左ノ如シ

品性、素行、常識一般觀察ニ於テ個人トシテ普通ト認メラルル者

職務執行　諸般ノ執行務時ニ當ヲ失スルコトアルモ執行務ノ全般ニ渉リテ效果ヲ收メ得ル者

勤務　勤務普通ニシテ缺勤無キ者又ハ熱心勤務ニ從事スルモ缺勤七日以上ニ渉ル者

書類　完全ナラサルモ報告、復命書ニシテ事實ノ大要ヲ失ハス且書類編冊ノ整理ニ甚タシキ缺陷ナキ者

規律　嚴正ナラスト雖粗慢ナラサル者

點檢　活潑ナラサルモ動作ヲ誤ラス諸般整頓シ、保存手入完カラサルモ著シキ缺點ナク、禮儀[illegible]缺クモ普通ノ節度ヲ失ハサル者

操練　活潑ナラサルモ動作ヲ誤ラサル者

武道　三級乃至五級又ハ之ト同等ノ技倆アリト認メラルル者

語學　語學試驗十等ニ合格シ又ハ之ト同等ノ力アリト認メラルル者

三　記事ハ適切平易ニ事實ヲ誤ラサル樣記載スヘシ

第二號樣式

受驗候補者名簿　州（廳）

推薦順序	巡査勤續年數	分擔事務	氏名

記載例

一　推薦順序ハ一、二、三ヲ以テ表示スヘシ

二　勤續年數欄ニハ前ニ巡査在職年數アルトキハ之ヲ朱書併記スヘシ

三　分擔事務ハ現ニ本人ノ擔當スル事務ノ種類ヲ掲記スヘシ

【臺灣】

【臺灣】

●特別採用巡査學術試驗手續

明治三十七年三月
臺灣總督府訓令第百二十號

【廢】

特別採用巡査學術試驗手續左ノ通相定ム

特別採用巡査學術試驗手續

第一條　臺灣總督府巡査看守採用規則第三條ノ學術試驗ハ本手續ニ依リ施行スヘシ

第二條　學術試驗ハ必要ニ應シ之ヲ行フ

第三條　學術試驗ハ筆記又ハ口述トシ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

一　普通國文講讀
二　作　文　普通往復文及公用文
三　算　術　四則應用
四　本邦地理、歷史ノ大要
五　警察法規
六　刑法、刑事訴訟法、法院條例
七　土　語

第四條　學術試驗ハ各科目百點ヲ滿點トシ平均點數六十點以上ノ者ヲ合格トス但シ一科目三十點以下ノモノアルトキハ他ノ科目ニ於テ優等ナリト雖合格者ト爲スコトヲ得ス

第五條　學術試驗ニ合格シタル者ニハ別記樣式ノ合格證書ヲ付與スヘシ

第六條　學術試驗ヲ施行シタルトキハ其ノ成績ヲ臺灣總督ニ報告スヘシ

（別記樣式）　用紙鳥ノ子罫紙

第何號
何廳巡査　何　某
右者臺灣總督府巡査看守採用規則第三條ニ依ル學術試驗ニ合格シタルコトヲ證ス
明治　年　月　日
廳印
何　廳

●臺灣總督府看守長任用考試規程

大正八年十一月十六日
臺灣總督府訓令第百九十九號

監獄

臺灣總督府看守長任用考試規程左ノ通相定ム

臺灣總督府看守長任用考試規程

第一條　臺灣總督府看守長ノ任用ニ關スル考査及試驗ハ現ニ臺灣總督府看守ノ職ニ在ル者ニ對シ之ヲ行フ

第二條　考査ハ考査表ニ基キ本人ノ成績ヲ審査シ且監獄官會議ノ意見ヲ聽キ監獄長之ヲ爲スヘシ

第三條　試驗ハ考査ノ結果合格ノ判定ヲ受ケタル者ニ對シ之ヲ行フ

第四條　試驗委員ハ三名以上トシ臺灣總督府高等官中ヨリ臺灣總督試驗

ノ都度之ヲ命ス但シ時宜ニ依リ委員中一名ヲ限リ臺灣總督府判任官中ヨリ之ヲ命スルコトアルヘシ

試驗委員長ハ試驗委員中官等最高キ者ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 監獄長ハ考査ニ合格シタル看守ノ履歷書及最近ノ考査表謄本ヲ取纏メ試驗委員長ニ送付スヘシ

第六條 試驗ノ日時及場所ハ試驗委員長之ヲ定ム

第七條 試驗ハ筆記及口述トシ筆記試驗ニ合格セサル者ニ對シテハ口述試驗ヲ行ハス

第八條 筆記試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

一 監獄法及監獄令施行規則
二 刑法及刑事訴訟法ノ大要
三 會計法規ノ大要
四 其ノ他監獄行政上必要ナル諸法規
五 土語
六 算術

口述試驗ハ前項第一號乃至第五號記載ノ科目中二科目以上ニ就キ之ヲ行フ

第九條 試驗ノ評點ハ各科目トモ百點ヲ滿點トシ平均點六十點以上ヲ以テ合格トス但シ前條第一項第一號ノ科目六十點未滿ナルトキ又ハ其ノ他ノ科目三十點未滿ナルトキハ平均點六十點以上ニ達スルモ不合格トス

第十條 考査及試驗ニ合格シタル者ニハ別記樣式ノ考試合格證書ヲ授與シ府報ヲ以テ之ヲ公示ス

〔臺報〕

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年十月訓令第三百號臺灣總督府看守考試規程ハ之ヲ廢止ス

（別記）

考試合格證書

氏　　名

臺灣總督府看守長ノ任用ニ關スル考査及試驗ニ合格シタルコトヲ證ス

年　月　日

試驗委員長
官職位記勳等　氏　　名㊞

紙質　鳥ノ子
寸法　竪曲尺八寸五分
　　　横同　一尺二寸

●臺灣總督府地方廳稅務吏試驗規則

明治四十三年五月八日
臺灣總督府令第四十六號

改正　明治四三年府令第九〇號、大正九年第九五號

〔臺報〕

臺灣總督府地方廳稅務吏試驗規則左ノ通相定ム

臺灣總督府地方廳稅務吏試驗規則

第一條 本令ニ規定シタル試驗ニ合格シタル者ハ臺灣總督府地方廳稅務吏タルノ資格ヲ有ス

第二條 年齡滿二十年以上四十年以下ニシテ身體健全且ツ左ノ各號ニ該當セサル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
二 破産者ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第三條 試驗志願者ハ別記書式ニ依リ願書ニ履歷書ヲ添ヘ試驗期日十日前迄ニ之ヲ試驗委員長ニ差出スヘシ

試驗ヲ行フヘキ場所及期日等ハ府報及臺灣ニ於テ發行スル新聞紙ニ之ヲ公告ス

第四條 試驗ヲ受ケムトスル者ハ手數料トシテ收入印紙金額一圓ヲ願書ニ貼附スヘシ

既納ノ手數料ハ之ヲ還付セス

第五條 不正ノ方法ニ因リ試驗ヲ受ケムトシタル者及試驗ニ關スル規定ニ違背シタル者ハ其ノ期ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス若事後其ノ事實ヲ發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無效トス

第六條 試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

一 讀書
二 作文　書牘、記事又ハ論說
三 筆寫
四 數學　筆算珠算
五 土語
六 臺灣ノ稅務ニ關スル法令ノ大要

以上ノ科目ハ悉ク之ヲ課ス

一 經濟學ノ大意
二 簿記　官用
三 內地及本島地理歷史

以上ノ科目ハ受驗者ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシム

第七條 試驗ヲ分チテ筆記試驗及口述試驗トス

筆記試驗ハ前條ノ各科目ニ就キ之ヲ行フ

口述試驗ハ前條第一項第六號ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

筆記試驗ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 試驗合格者ニハ合格證書ヲ付與ス

合格證書ノ有效期間ハ其ノ日附ヨリ滿二箇年トス

第九條 試驗合格者ノ氏名ハ府報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十條 試驗委員長ハ財務局長ヲ以テ之ニ充テ試驗委員ハ若干人トシ臺灣總督之ヲ命ス

第十一條 受驗者ノ體格檢査ハ試驗執行地ノ醫師ニ囑託シテ之ヲ行フ

第十二條 試驗ニ關シ必要ナル手續ハ試驗委員長之ヲ定ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

書式ノ一（用紙美濃紙）

印紙一圓

税務吏受驗願

族籍 氏 名

年月日生

臺灣總督府地方廳税務吏試驗相受度別紙履歷書相添ヘ此段相願候也

年 月 日

右受驗人 氏 名㊞

臺灣總督府地方廳税務吏試驗委員長氏名殿

選擇科目 何々

書式ノ二（用紙美濃紙）

履歷書

本籍 何（府縣）何（市郡）何（町村）何番地

族籍職業戶主（又ハ其續柄）

現住所 何【廳何（堡里）何庄何番戶】

（何某方）

氏 名

年月日生

學事

一何年何月何學校卒業

一何年何月何學校何學年修業

一何年何月ヨリ何年何月マテ何々ニ就キ何々ヲ修ム等

〔臺輯〕

職業

一何年何月何々拜命 官廳名

一何年何月御用濟解何々 官廳名

一何年何月ヨリ何年何月マテ何所ニ於テ何々ニ從事ス等

賞罰

一何年何月何々ニ付キ何々ノ賞ヲ受ク

一何年何月何々ノ罰ヲ受ク

一何年何月破產ノ宣告ヲ受ケ何年何月復權等

右ノ通相違無之候也

年 月 日

右 氏 名㊞

●臺灣總督府地方廳森林主事試驗規則

大正八年五月十六日
臺灣總督府令第七十一號

改正 大正八年府令第九四號、九年第八九號

臺灣總督府地方廳森林主事試驗規則左ノ通相定ム

臺灣總督府地方廳森林主事試驗規則

第一條 本令ニ規定シタル試驗ニ合格シタル者ハ臺灣總督府地方廳森林主事タルノ資格ヲ有ス

第二條 年齡滿二十一年以上四十年以下ニシテ身體健全且左ノ各號ニ該當セサル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 破產若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第三條 試驗志願者ハ別記書式ニ依リ願書ニ履歷書ヲ添ヘ試驗委員長ニ差出スヘシ

試驗ヲ行フヘキ期日及場所等ハ豫メ府報及臺灣ニ於テ發行スル新聞紙ニ之ヲ公告ス

第四條 試驗ヲ受ケムトスル者ハ手數料トシテ一圓ヲ納ムヘシ但シ手數料ハ收入印紙ヲ用ヰ之ヲ願書ニ貼附スヘシ

既納ノ手數料ハ之ヲ還付セス

第五條 不正ノ方法ニ因リ試驗ヲ受ケムトシタル者及試驗ニ關スル規定ニ違背シタル者ハ其ノ期ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス若事後其ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無效トス

第六條 試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

一 讀書
二 作文
三 數學、筆算、珠算
四 林業大意
五 測量及製圖
六 測樹及森林經理
七 土語
八 林野法規
九 民法大意、刑法大意及豫審手續

第七條 試驗ヲ分チテ筆記試驗及口述試驗トス

〔臺輯〕

筆記試驗ハ前條ノ各科目ニ就キ之ヲ行フ

口述試驗ハ前條第四號、第七號及第九號ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

筆記試驗ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 試驗合格者ニハ合格證書ヲ付與ス

第九條 試驗合格者ノ氏名ハ府報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十條 試驗委員長ハ臺灣總督府【營林局】長ヲ以テ之ニ充テ試驗委員ハ若干人トシ臺灣總督之ヲ命ス

第十一條 受驗者ノ體格檢查ハ試驗執行地ノ醫師ニ囑託シテ之ヲ行フ

第十二條 試驗ニ關シ必要ナル手續ハ試驗委員長之ヲ定ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記書式）

一圓收入印紙

森林主事受驗願

私儀森林主事志願ニ付御試驗被成下度別紙履歷書相添身元保證人連署ヲ以テ此段奉願候也

年 月 日

本籍
現住所
本人 氏 名㊞

本籍
現住所
身元保證人 氏 名㊞

試驗委員長宛

履歷書

本籍

現住所

氏名

年齡

學事

一、、、、、、

一、、、、、、

職業

一、、、、、、

一、、、、、、

賞罰

一、、、、、、

一、、、、、、

右ノ通相違無之候也

年月日

右　氏名印

●臺灣總督府判任文官通譯兼掌者銓衡規程

明治三十四年六月
臺灣總督府訓令第二百四號

注意　大正九年八月訓令第百四十號ヲ以テ巡査補ニ關スル規定廢止

【臺灣】

【民政部】法院、縣廳【所屬民政各官署】

臺灣總督府判任文官及【巡査看守巡査補】通譯兼掌者銓衡規程左ノ通相定ム

臺灣總督府判任文官及【巡査看守巡査補】通譯兼掌者銓衡規程

第一條　臺灣總督府、臺灣總督府法院同檢察局【臨時臺灣土地調査局】臺灣總督府鐵道部、臺灣總督府專賣局、【臨時臺灣基隆築港局】【縣】及【廳】ニ通譯兼掌者銓衡委員ヲ置ク

通譯兼掌者銓衡委員ハ臺灣總督府ニ在テハ總督其ノ他ノ官衙ニ在テハ各其長官之ヲ命ス

第二條　判任文官及【巡査看守巡査補】ニ通譯ノ事ヲ兼掌セシメントスルトキハ臺灣總督府及其所屬官衙（【臨時臺灣土地調査局】臺灣總督府鐵道部【臨時臺灣基隆築港局】臺灣總督府專賣局ヲ除ク）ニ在テハ總督其ノ他ノ官衙ニ在テハ各其ノ長官ニ其ノ直屬上官ヨリ具申スヘシ

第三條　通譯兼掌者銓衡委員ハ必要アルトキハ當該直屬上官ニ對シ本人ノ經歷ニ就キ質問スルコトヲ得

附則

第五條　明治三十一年五月訓令第百六號ハ廢止ス

●臺灣總督府警察及刑務所職員語學試驗規程

大正十一年十一月十五日
臺灣總督府訓令第二百五號

改正　大正一四年訓令第一〇四號、昭和三年第一六號

臺灣總督府　州　廳　刑務所

【臺灣】

臺灣總督府警察及刑務所職員語學試驗規程左ノ通相定ム

臺灣總督府警察及刑務所職員語學試驗規程

第一條　本令ニ於テ警察及刑務所職員ト稱スルハ警察又ハ刑務所事務ニ從事スル判任官及同待遇者ヲ謂フ

第二條　總督府ニ甲種試驗委員長、州、廳及刑務所ニ乙種試驗委員長各一人及試驗委員若干人ヲ置ク

甲種試驗委員長ハ刑務局長、乙種試驗委員長ハ知事、廳長又ハ刑務所長ヲ以テ之ニ充ツ

試驗委員ハ總督、知事、廳長又ハ刑務所長ニ於テ其ノ部下職員中ヨリ之ヲ命ス但シ特ニ必要アリト認ムルトキハ其ノ他ノ者ニ試驗委員ヲ囑託スルコトヲ得

試驗ニ關スル庶務ニ從事セシムル爲書記若干名ヲ置ク

書記ハ臺灣總督府、州、廳又ハ刑務所內判任官中ヨリ委員長之ヲ命ス

第三條　試驗ヲ分チテ甲種及乙種ノ二トス

甲種試驗ハ甲種合格證書ヲ有スル者及乙種第八等ノ合格證書ヲ有シ且所屬長官ノ推薦セル者ニ就キ甲種試驗委員長之ヲ行フ

乙種試驗ハ乙種合格證書ヲ有スル者及各官署ノ長又ハ之ニ準スヘキ者ニ於テ推薦セル者ニ就キ乙種試驗委員長之ヲ行フ

第四條　試驗ハ各每年一囘之ヲ行フ但シ時宜ニ依リ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五條　試驗ヲ分チテ筆記及口述ノ二種トス

口述試驗ハ筆記試驗ニ合格シタル者ニ就キ之ヲ行フ但シ蕃語ニ付テハ履歷及實務ノ成績ヲ審査スルノ外口述試驗ノミヲ行ヒ又ハ之ヲ省略スルコトヲ得

筆記試驗ハ國語ヲ臺灣語又ハ外國語ニ、臺灣語又ハ外國語ヲ國語ニ翻譯セシムルモノトス

口述試驗ハ對話其ノ他適宜ノ方法ニ依リ之ヲ行フモノトス

第六條　試驗點數ハ筆記及口述各百點ヲ以テ滿點トシ其ノ得點數平均六十點以上ヲ以テ合格トス但シ口述試驗ノ成績七十點未滿ノ者ハ筆記試驗ノ成績優等ナリト雖合格ト爲スコトヲ得ス

前條第二項但書ノ場合ニ於テハ履歷及實務ノ成績ヲ審査シ前項ニ準シ之ヲ決定スルモノトス

第七條　試驗ニ合格シタル者及前條第二項ニ依リ其ノ學力ヲ認定セラレタル者ニハ種別等級ヲ附シタル別記ノ合格證書ヲ付與ス

種別等級ハ甲種、乙種トシ甲種ハ一等乃至七等、乙種ハ八等乃至十等ニ區別ス

各種ノ語學試驗ニ合格シタル者ニハ其ノ種類每ニ前項ノ合格證書ヲ付與ス

第八條　合格證書ノ效力ハ次回ノ試驗成績發表時迄トス但シ公務其ノ他ノ事故ニ因リ受驗スルコト能ハサル者ニ付テハ特ニ臨時試驗ヲ行ヒ又ハ試驗ヲ用ヰス之ヲ銓衡シ其ノ成績ヲ定ムルコトヲ得

第九條　試驗委員長試驗ヲ施行シタルトキハ其ノ結果ヲ報告スヘシ

第十條　本令施行ニ關スル細則ハ試驗委員長之ヲ定ム

附則

明治四十四年訓令第二百十八號警察及監獄職員通譯兼掌者銓衡規程ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ甲種又ハ乙種銓衡ヲ受ケ通譯ノ事ヲ兼掌スル者ハ現ニ其ノ受クル手當額ニ從ヒ本令及之カ手當支給ニ關スル規程ニ依リ別ニ其ノ種類等級ヲ定ム

本令第六條乃至第九條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ銓衡ヲ受ケ其ノ成績未タ發表セラレサル者ニ付テモ之ヲ適用ス

（別記）

合格證書

官（職）氏　　名

右臺灣總督府警察及刑務所職員語學試驗規程ニ依リ　語甲（乙）種　等ニ合格シタルコトヲ證ス

年　月　日

臺灣總督府警察及刑務所職員語學試驗甲種（乙種）試驗委員長　位勳　氏　　名印

第三節　教習

●州、廳巡査教習規程

大正九年九月二十一日
臺灣總督府訓令第二百十四號

【臺轄】

州　廳　警察官及司獄官練習所

州、廳巡査教習規程左ノ通相定ム

州、廳巡査教習規程

第一條　初任巡査ニ乙種勤務トシテ職務上必要ナル學科及實務ヲ教習セシムル爲各州、廳ニ巡査教習所ヲ置ク

第二條　巡査教習所長ハ州又ハ廳警務課長ヲ以テ之ニ充テ教官ハ警視、警部若ハ警部補中ヨリ知事又ハ廳長之ヲ命ス

前項ノ外必要ト認ムルトキハ巡査教習所ニ囑託ノ講師又ハ通譯ヲ置クコトヲ得

第三條　教習生ニ充ツヘキ巡査ハ學術試驗ノ上採用スヘシ但シ警察官タル經歷ヲ有シ又ハ學術ノ素養アル者ニ對シテハ試驗ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ外教習生タル巡査ノ採用ニ關シテハ臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生採用規則第三條及第五條ノ規定ヲ準用ス

第四條　教習生ノ教習期間ハ二箇月以上トス

知事又ハ廳長ハ必要ト認ムルトキハ警務局長ト協議シ教習期間內ニ於テ教習生ヲ臨時出向セシムルコトヲ得

第五條　實務ノ教習ハ先任巡査ノ部伍ニ加ヘテ之ヲ行フコトヲ得

第六條　教習ノ成績ハ臨時又ハ教習期限ノ終末ニ於テ試驗スヘシ

教習生ハ前項ノ試驗ニ合格スルニ非サレハ實務ニ服セシムルコトヲ得ス但シ警戒、警備其ノ他臨時必要アル場合ハ實務ヲ補助セシムルコトヲ得

第七條　廳長又ハ警務部長ハ教習ノ方法ヲ監督スヘシ

第八條　教習科目及時數ハ知事又ハ廳長之ヲ定メ報告スヘシ其ノ之ヲ變更シタル場合亦同シ

前項ニ依リ教習科目及數時ヲ定メタルトキ又ハ之ヲ變更シタルトキハ警察官及司獄官練習所長ニ通報スヘシ

第九條　教習人員其ノ他事務ノ都合ニ依リ教習ヲ開始セサル州又ハ廳ニ在リテハ便宜他ノ州又ハ廳ニ巡査ノ教習ヲ委託スルコトヲ得

第十條　教習生ノ上衣及外套ニハ其ノ左肩ニ別記圖式ノ徽章ヲ附セシムヘシ

第十一條　知事又ハ廳長ハ巡査教習生ニ充ツル爲巡査定員ノ百分ノ五以內ニ限リ認可ヲ經テ定員外ニ巡査ヲ採用スルコトヲ得

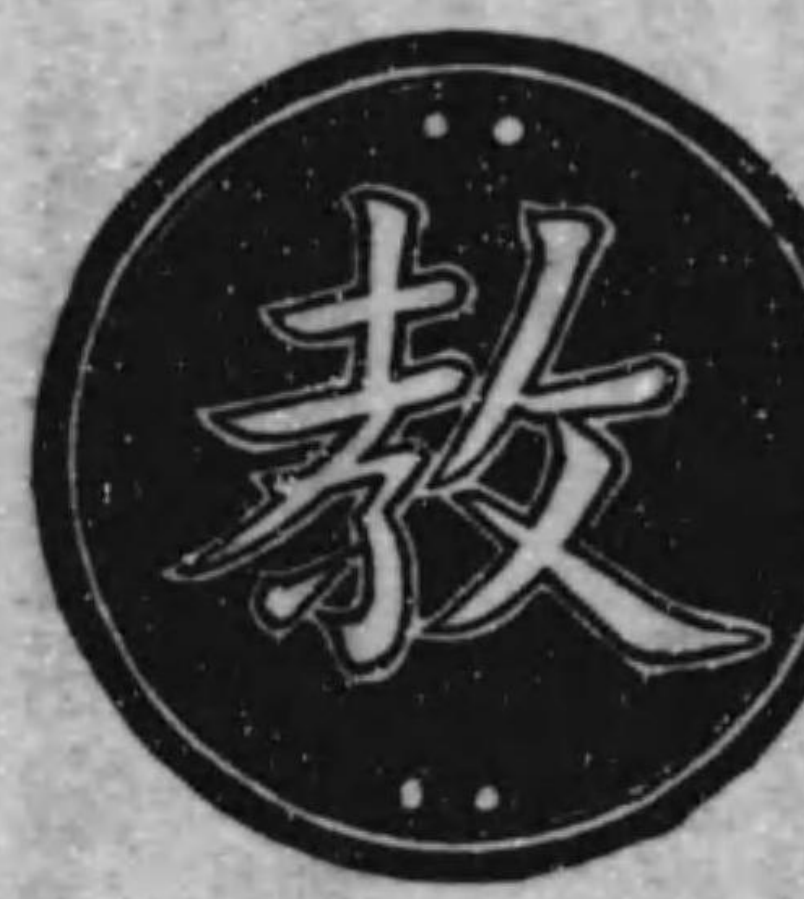
第十二條　本令施行ノ爲メ必要ナル規定ハ知事又ハ廳長之ヲ定メ報告スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記圖式）

厚サ六厘徑一寸



眞鍮製

【臺轄】

●看守及女監取締教習規程

大正十三年三月三十日
臺灣總督府訓令第三十二號

刑務所

看守及女監取締教習規程左ノ通相定ム

看守及女監取締教習規程

第一條　看守及女監取締ニハ左ノ各號ノ科目ヲ通シ一月ニ十時間以上教習ヲ爲スヘシ

一　服務上心得
二　刑務ニ關スル法令ノ要旨
三　職務執行方法
四　臺灣語（臺灣人ニハ國語）
五　劍道又ハ柔道（看守ニ限ル）
六　前各號ノ外必要ト認ムル事項

第二條　教習ハ典獄補、看守長又ハ通譯ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ但シ特ニ必要アルトキハ其ノ他ノ職員ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第三條　四月一日ヨリ九月三十日ニ至ルノ間ハ時宜ニ依リ教習時間ヲ短縮シ又ハ教習ヲ休止スルコトヲ得

第四條　教習ヲ受ケタル者ニ對シテハ臨時試驗ヲ行フヘシ

附　則

明治三十九年訓令第百八十二號臺灣總督府監獄看守教習規程ハ之ヲ廢止ス

●臺灣總督府交通局鐵道現業員教習所規程

大正六年八月
臺灣總督府訓令第百十一號
【鐵道部】交通局

改正 昭和二年訓令第五二號

臺灣總督府交通局鐵道現業員教習所規程左ノ通相定ム

臺灣總督府交通局鐵道現業員教習所規程

第一條 臺灣總督府【鐵道部】ニ鐵道現業員教習所ヲ置キ鐵道ノ現業ニ關スル事務ニ從事スル者ヲ教育スルヲ以テ目的トス

第二條 鐵道現業員教習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
科長
講師
生徒監
書記

所長及科長ハ交通局總長、講師、生徒監及書記ハ所長之ヲ命ス

第三條 所長ハ【鐵道部長】ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條 科長ハ所長ヲ補佐シ所長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第五條 講師ハ所長ノ命ヲ承ケ授業ヲ分擔ス

第五條ノ二 生徒監ハ所長ノ命ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌リ科長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第六條 書記ハ所長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條 教習期間ハ一年トス

教科ヲ分チテ運輸科、運轉科ノ二トシ其ノ授業科目左ノ如シ

運輸科	運轉科
帳表簿記	機關車
運輸法規	客貨車
旅客貨物	運轉用品
列車運轉	列車運轉
保安裝置	保安裝置
線路構造	線路構造
車輛構造	製圖
電氣通信	

前項ノ外必要ト認ムルトキハ數學、法制、電氣工學、臺灣語、英語等ヲ教習シ又ハ實務ヲ見習ハシムルコトアルヘシ

第八條 【鐵道部長】ハ簡易速成ヲ旨トシテ現業員ヲ教育スル爲別科ヲ設クルコトヲ得

別科ニ關シテハ本令ノ規定ヲ準用ス但シ教習期間ハ六箇月以內トス

第九條 教習生ハ交通局鐵道從業員中ヨリ之ヲ採用ス但シ教習期間中現役ニ關係アル者ハ之ヲ採用セス

第十條 教習生ハ卒業試驗ニ合格シタルト否トヲ問ハス授業終了ノ翌日ヨリ起算シ滿二年間臺灣總督府交通局ニ於ケル鐵道ニ關スル業務ニ從事スル義務アルモノトス

第十一條 所長ハ教習生ニシテ不都合ノ所爲アリタル者又ハ成業ノ見込ナキ者ニハ退所ヲ命スヘシ

第十二條 教習中ハ現ニ受クル給料ヲ支給ス但シ交通局總長ハ其ノ定額ヲ減シ又ハ給料ノ支給ヲ停止シ其ノ停止シタル給料額ノ範圍內ニ於テ一定ノ手當ヲ支給スルコトヲ得

第十三條 教習中自己ノ都合ニ因リ退所シ又ハ第十條ノ義務年限中自己ノ都合若ハ懲戒ニ因リ退職シタルトキハ給料ヲ除クノ外ノ教習中ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ賠償セシムルコトアルヘシ

第十四條 本令施行ニ關スル細則ハ【鐵道部長】之ヲ定ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年二月訓令第二十五號鐵道運輸事務傳習生養成規程ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ教習中ノ者ニ對シテハ從前ノ規定ニ依ル

●臺灣總督府林業講習規程

大正八年二月十六日
臺灣總督府訓令第十三號
【民政部】

改正 大正八年訓令第九八號

明治四十二年一月訓令第二號臺灣總督府林業講習規程左ノ通改正ス

臺灣總督府林業講習規程

第一條 講習生ハ林務ニ從事セシムル目的ヲ以テ養成スルモノトス

第二條 講習生養成ニ關スル事務ハ臺灣總督府【營林局】長ノ管理ニ屬シ同局員ヲ以テ之ヲ掌ラシム

第三條 講習課目ハ左ノ如シ

一 林業大意
二 造林及保護
三 測量及製圖
四 測樹及森林經理
五 森林利用
六 林野法規
七 民法大意、刑法大意及豫審手續
八 土語
九 實習

第四條 講習期間ハ六箇月トス但シ時宜ニ依リ伸縮スルコトアルヘシ

第五條 講習生ハ左ノ各號ニ該當シ且入學試驗ニ合格シタル者ヨリ之ヲ採用ス

一 年齡滿二十一年以上四十年以下タルコト
二 品行方正身體强壯ナル者

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ講習生ニ採用スルコトヲ得ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
二 破產若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第七條 講習生ヲ志願スル者アルトキハ別記書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ差出サシムヘシ但シ保證人ハ成年以上ノ男子ニシテ獨立ノ生計ヲ爲シ本島ニ在住スル者ニ限ル

第八條　講習生ノ定員ハ三十人以內トス但シ時宜ニ依リ增減スルコトアルヘシ

第九條　講習生ニハ手當トシテ日額三十錢以內ヲ每翌月五日迄ニ支給ス

第十條　講習生實習ノ爲旅行スルトキハ汽車、汽船ノ實費竝宿泊料一夜ニ付六十錢以內ヲ支給ス

第十一條　講習生ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ退學セシムヘシ

一　命令ニ違反シ訓誨ヲ加フルモ改悛ノ見込ナキ者
二　素行修マラサル者
三　成業ノ見込ナキ者

第十二條　修業滿期ニ至リ科程ヲ卒ヘタル者ニハ修業證書ヲ授與ス

第十三條　講習生ハ修業後滿三年間臺灣總督府所管內ニ於テ指定ノ任地ニ奉職スルノ義務アルモノトス

第十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ身元保證人ヲシテ在學中ノ手當金ノ全部又ハ一部ヲ辨償セシムヘシ

一　第十一條ノ規定ニ依リ退學ヲ命セラレタルトキ但シ傷痍疾病ニ罹リ退學ヲ命セラレタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
二　私事ノ故障ニ因リ退學シタルトキ
三　前條ノ義務年限中疾病其ノ他已ムヲ得サル事由アルニ非スシテ辭職シ又ハ免職セラレタルトキ

(別記書式)

林業講習生志願書

私儀林業講習生志願ニ付入學御許可成被下度御許可ノ上ハ諸般ノ御規則ハ堅ク遵守可致仍テ別紙履歷書相添身元保證人連署ヲ以テ此段奉願候也

年　月　日

本籍
現住所
本人　氏　名印
生年月日

右御許可ノ上ハ本人ヲシテ堅ク御規則ヲ遵守セシメ可申ノミナラス手當金ノ辨償ヲ命セラレタル場合ハ本人ト連帶責任ヲ以テ返納可致候

現住所
族籍職業
身元保證人　氏　名印
同
同
身元保證人　氏　名印

臺灣總督府【營林局】長宛

●臺灣總督府統計講習規程

明治三十六年九月
臺灣總督府訓令第百七十三號

官房【民政部】法院　檢察局
廳【所屬民政各官廳】

臺灣總督府統計講習規程左ノ通相定ム

統計講習規程

第一條　各官衙ノ吏員ニ統計ノ學術及實務ヲ講習セシムル爲必要ニ應シ臺灣總督府ニ隨時統計講習會ヲ開設ス

第二條　講習會ノ事務ハ官房【統計課】ニ於テ之ヲ取扱フ

第三條　講習科目左ノ如シ但シ講習科目ハ時ニ增減スルコトアルヘシ

一　內外統計略史
二　理論統計
三　方法統計
四　人口統計
五　經濟統計
六　倫理統計
七　行政統計
八　國勢調査法
九　統計實習

第四條　講習期ノ終ニ於テ修業試驗ヲ行ヒ合格者ニハ別紙書式ノ講習證書ヲ授與ス

第五條　修業試驗ノ成績ハ會長ヨリ總督ニ報告スヘシ

第六條　講習期間及授業時間講習員ノ定員竝資格其ノ他講習ニ關スル心得ハ別ニ之ヲ定ム

(別紙書式)

講習證書

何　號

廳官(職)　氏　名

第(何)回臺灣總督府統計講習會ノ講習科程ヲ修業シタルコトヲ證ス

年　月　日

臺灣總督府印

臺灣總督府統計講習會長官氏　名印

●マラリヤ防遏事務講習規程

大正八年八月二十一日
臺灣總督府訓令第百六十四號

【民政部】廳

マラリヤ防遏事務講習規程左ノ通相定ム

マラリヤ防遏事務講習規程

第一條　マラリア防遏事務講習ハ必要ニ應シ隨時之ヲ開始シマラリア防遏事務助手トシテ緊要ナル事項ヲ講習セシムルモノトス

第二條　講習員ハ警務局若ハ【廳】所屬雇員及傭員又ハ公共衛生費事務員トス

第三條　講習ニ關スル事務ハ警務局ニ於テ之ヲ取扱フ

第四條　講習科目ハ左ノ如シ但シ時宜ニ依リ增減スルコトヲ得

一　マラリヤ防遏ニ關スル學術
二　マラリア防遏ニ關スル例規
三　マラリア防遏ニ關スル統計

第五條　講師及講師補助ハ警務局職員中ヨリ警務局長之ヲ命ス

第六條　講習中隨時試驗ヲ行フコトアルヘシ

第七條　講習員講習ニ關スル心得ハ警務局長之ヲ定ム